3 iStorage NSの共有領域を管理する

- ユーザが使用できる容量を制限する
- ファイルの拡張子で書き込みを制限する
- ファイルやサブフォルダを検索する
- ディスクの使用状況をレポートする
- 複数サーバの共有フォルダを統合する
- ディスクスペースを有効活用する

3.1 ユーザが使用できる容量を制限する

3.1.1 クォータの管理

クォータの管理は、設定以上のファイルが iStorage NS に保存されないよう抑止することや、現在のフォルダの使用率等を確認するための機能です。

iStorage NS 上の選択したディレクトリ、パーティションに対する領域を制限することができます。

クォータ管理で設定できる項目には、次の機能があります。

機　　能
ディレクトリ上での領域の制限機能
任意の閾値による警告通知機能
電子メールによるメッセージ通知機能
イベントログへのメッセージ通知機能
通知がアクティブなときのレポート通知機能
通知がアクティブなときのカスタム スクリプトの実行機能

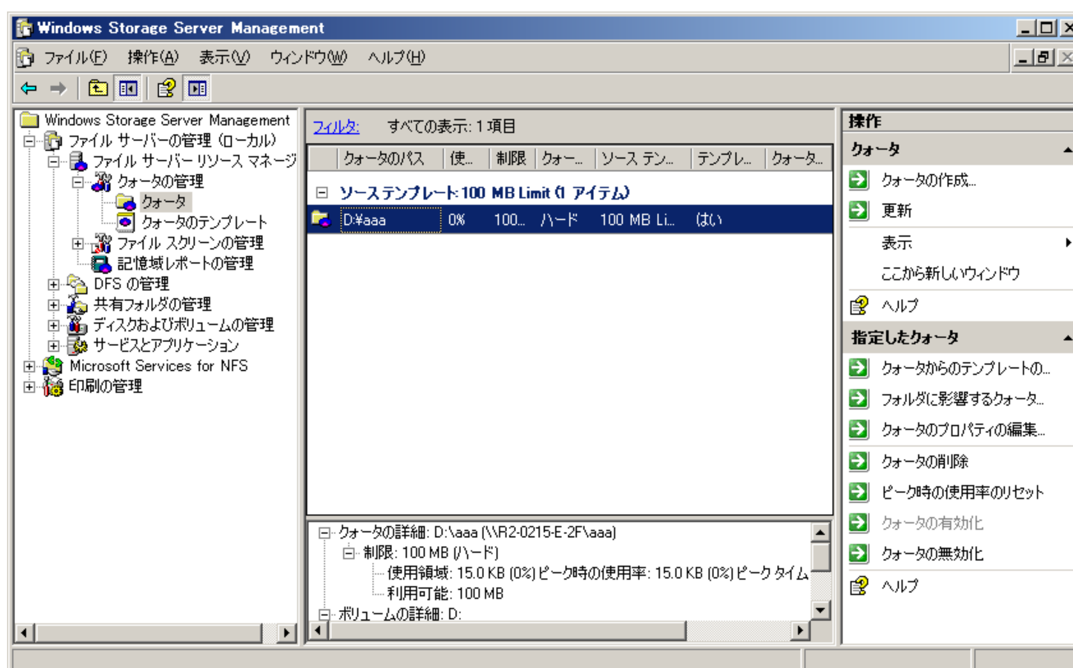

エクスプローラで確認可能なディスク使用サイズと、クォータ画面で確認可能な使用領域サイズが異なる場合があります。これはエクスプローラが表示するファイルサイズは実データのファイルサイズを表示しますが、クォータが表示するサイズにはファイルのメタ情報(ファイル名やセキュリティ情報等)も含まれるため、エクスプローラとフォルダ単位のクォータが表示するサイズには違いがあります。なお、ファイルのメタ情報 には 最低 1KB の領域を使用します。また、データが約 700Bytes 以下のファイルは、上記の 1KB の領域にデータが含まれる場合があります。


システム パーティションにフォルダ単位のクォータを設定する場合、”ドライブ直下”及び”WINDOWS フォルダ配下”へはファイル 監視のみを行うパッシブ スクリーン の設定のみ可能です。


ファイル セキュリティの代わりにフォルダ単位のクォータを使用することはできません。フォルダ単位のクォータは、ディスク領域の使用を管理するためだけに使用し、ユーザがパーティションやディレクトリに書き込むことを防止するために使用しないでください。ユーザがディレクトリに書き込めないようにする場合は、そのディレクトリに適切な保護を設定してください。

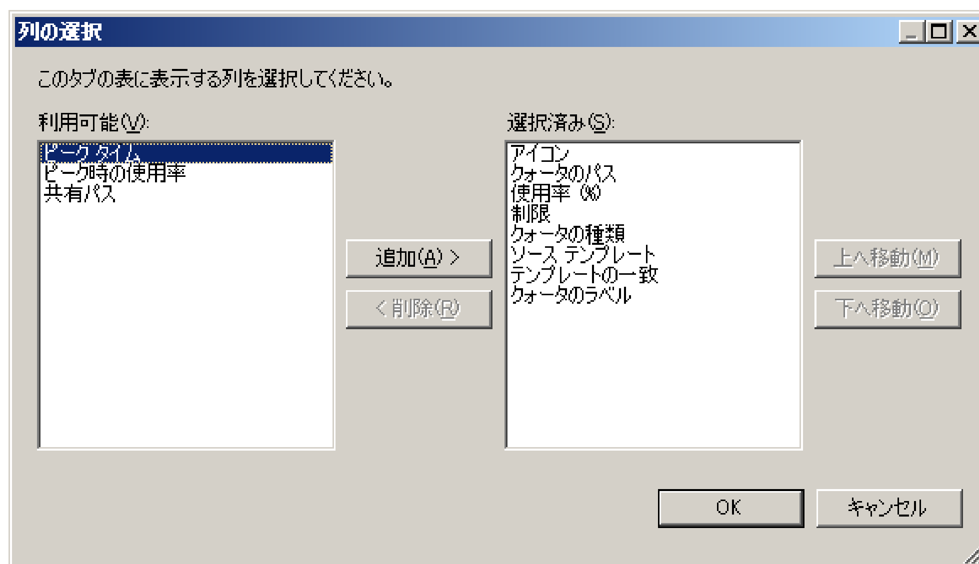
3.1.1.1　クォータ

クォータにより、iStorage NS 上の選択したディレクトリ、またはパーティションに対する領域を実際に制限、監視します。



クォータ画面で表示される項目一覧は次の通りです。

なお、項目一覧は一覧を右クリックし、表示される画面より [列の追加と削除] で表示される画面にて追加 / 削除が可能です。



項　　目	説　　　　明
アイコン	アイコンが表示されます。指定したフォルダのみを対象とする場合とサブフォルダを含め対象とする場合で異なります。
クォータのパス	クォータを設定しているフォルダのパスが表示されます。
使用率	使用されている領域の容量がパーセント形式で表示されます。
制限	設定されているディレクトリ領域の制限値が表示されます。
クォータの種類	領域を超える設定は不可能なハードクォータ・領域を超える設定が可能なソフトクォータのどちらが選択されているかが表示されます。
ソーステンプレート	クォータのテンプレートを使用している場合、テンプレート名が表示されます。
テンプレートの一致	クォータのテンプレートをカスタマイズせず使用しているかが表示されます。
クォータのラベル	クォータに設定しているラベルが表示されます。
ピークタイム	このディレクトリで使用された領域の最大容量の日時が表示されます。
ピーク時の使用率	このディレクトリで使用された領域の最大容量が表示されます。
共有パス	クォータのパスに設定された共有フォルダ名が表示されます。

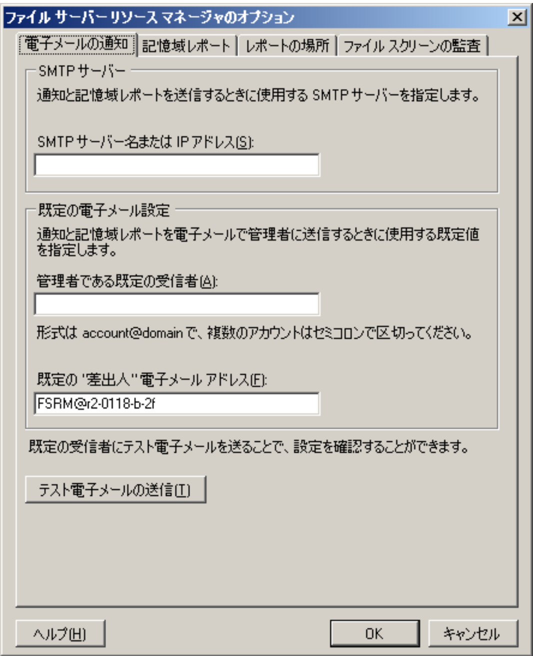
また、任意の列（項目）をクリックすることで、ソートすることも可能です。

3.1.1.1.1　電子メールの通知

設定内容が動作した場合に管理者または操作者に電子メールにて通知を行なう場合に利用します。

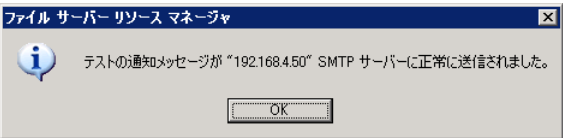
設定には、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] をクリックします。
2. 操作の一覧で [オプションの構成] をクリックし、[ファイルサーバーリソースマネージャのオプション] 画面を表示します。



項　　目	説　　　　明
SMTPサーバー名またはIPアドレス	電子メール サーバーのアドレスを名前またはIP アドレスで指定します。
管理者である既定の受信者	既定となる受信者を指定します。
既定の”差出人”電子メールアドレス	電子メール送信時の送信者となる電子メールアドレスを指定します。
テスト電子メールの送信	設定が正しく行なわれているか、テストを実施します。

3. [電子メールの通知] - [テスト電子メールの送信]ボタンで設定した宛先にテスト電子メールを送信します。問題なく送信出来た場合、以下の画面が表示されます。

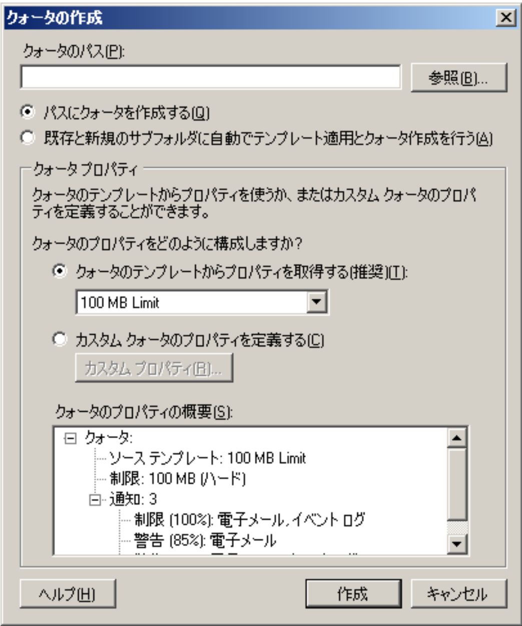


3.1.1.1.2　クォータの作成

指定するフォルダやその配下のサブフォルダに対しクォータを作成するには、次の操作を行ないます。

1　Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [クォータの管理] → [クォータ] をクリックします。

2　操作の一覧で [クォータの作成] をクリックします。

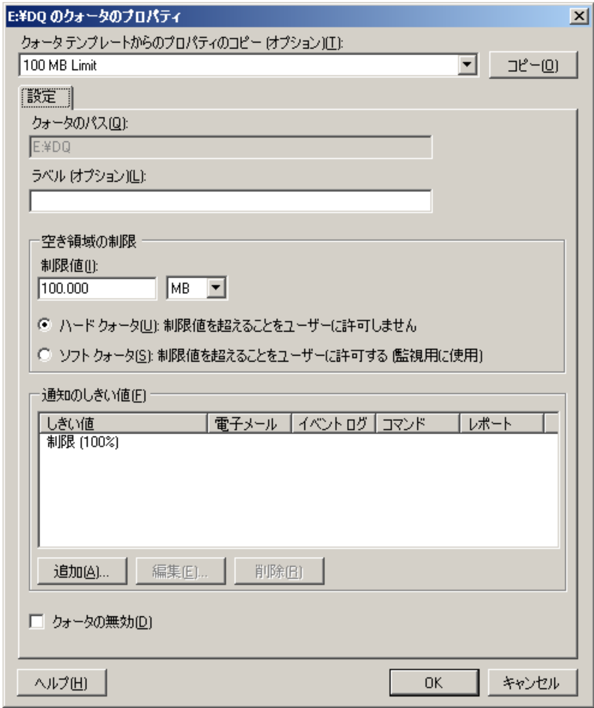


項　　目	説　　　　明
クォータのパス	クォータを設定するフォルダのフルパスを設定します。
パスにクォータを作成する	[クォータのパス] 項目で指定したフォルダに対し、クォータを設定します。
既存と新規のサブフォルダに自動でテンプレート適用とクォータ作成を行なう	[クォータのパス] 項目で指定したフォルダのサブフォルダに対し、クォータを設定します。
クォータのプロパティをどのように構成しますか?	[クォータのテンプレートからプロパティを取得する] および [カスタムクォータのプロパティを定義する] から選択します。
クォータのテンプレートからプロパティを取得する	配下の一覧より項目を選択します。
カスタムクォータのプロパティを定義する	[カスタムプロパティ] ボタンをクリックし、設定を行ないます。
クォータのプロパティの概要	設定されたプロパティが表示されます。
[作成] ボタン	上記項目にて設定した条件でクォータを作成します。

3 [クォータプロパティ] 項目で [クォータのテンプレートからプロパティを取得する] もしくは [カスタムクォータのプロパティを定義する] を選択します。

3-1. [クォータのテンプレートからプロパティを取得する] を選択する場合、リストに表示されるテンプレート一覧から選択し、[作成] ボタンをクリックするとクォータを作成します。

3-2. [カスタムクォータのプロパティを定義する] を選択する場合、[カスタムプロパティ] ボタンをクリックし、[クォータのプロパティ] 画面を表示します。



項　　目	説　　　　明
クォータテンプレートからのプロパティのコピー	テンプレート一覧より選択し、[コピー] ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が [設定] タブの設定内容にコピーされます。
ラベル	ラベルを設定します。
制限値	制限値を設定します。
ハードクォータ	設定値を超えてファイルを書き込むことは不可能と設定します。
ソフトクォータ	設定値を超えてもファイル書き込みが可能と設定します。
通知のしきい値	しきい値の設定内容が表示されます。既定では制限 [100%] のみが設定されています。
[追加] ボタン	しきい値を追加します。
[編集] ボタン	選択した既存のしきい値を編集します。
[削除] ボタン	選択したしきい値を削除します。
クォータの無効	クォータを無効とする場合、チェックボックスを有効にします。

3-2-1. しきい値を新規に作成する場合、[追加] ボタンを、既に作成済みのしきい値を編集する場合は [編集] ボタンをクリックし、画面を表示します。

3-2-1-1. [電子メールメッセージ] タブで警告メッセージを電子メールで送信するかを設定します。

項　　目	説　　　　明
使用率(%)が次に達したら、通知を生成する	しきい値をパーセントで設定します。 **既定で存在するしきい値（[制限[100%]]）を編集する際、本項目の設定を変更することはできません。**
次の管理者に電子メールを送信する	管理者に電子メールを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。
しきい値を超えたユーザーに電子メールを送信する	ドメイン環境でご利用の場合、Active Directoryへ登録している電子メールアドレスへ電子メールを送信する際に設定します。
件名	電子メールのタイトルを設定します。
メッセージ本文	電子メールの本文を設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を [変数の挿入] ボタンで [管理者の電子メールアドレス] 入力フィールド、[件名] 、[メッセージ本文] の項目に設定します。
追加電子メールヘッダー	電子メールのヘッダーを変更する場合、設定します。

3-2-1-1-1. [電子メールメッセージ] タブの [追加電子メールヘッダー] ボタンで [追加電子メールヘッダー] 画面を表示します。

追加電子メール ヘッダー

account@server の形式でアカウント名を入力するかアカウントに挿入する変数を選択してください。複数のアカウントを指定する場合はセミコロンで区切ってください。

差出人(F):

FSRM@domain.nec.co.jp

Cc(C):

Bcc(B):

返信先(R):

テキストに挿入する変数を選択してください(V):

[Source File Owner Email]

変数の挿入(I)

通知の原因となるファイルの所有者の電子メール アドレスを挿入します。

OK

キャンセル

項　　目	説　　　　明
差出人	差出人の電子メールアドレスを設定します。
Cc	Ccで送信する電子メールアドレスを設定します。
Bcc	Bccで送信する電子メールアドレスを設定します。
返信先	返信先の電子メールアドレスを設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を [変数の挿入] ボタンで上記の設定項目に設定します。

3-2-1-2. [イベントログ] タブの [イベントログへ警告を送信] 項目で警告メッセージをイベントログ (アプリケーション) へ警告メッセージを表示するかを設定します。

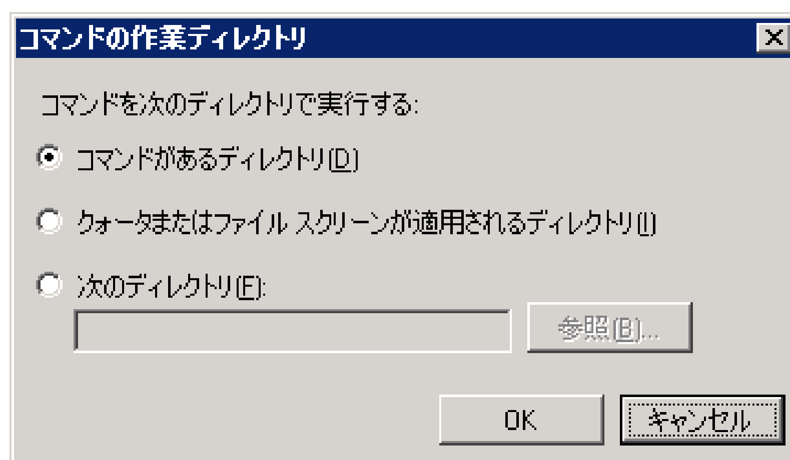
しきい値の追加
使用率 (%) が次に達したら、通知を生成する(G):
85
電子メール メッセージ | イベント ログ | コマンド | レポート
イベント ログへ警告を送信(W)
警告メッセージ
ログ エントリへ使用するテキストを入力します。
現在のしきい値についてのクォータ、リミット、使用率、その他の情報を識別するには、[変数の挿入] を使用してテキストに変数を挿入してください。
ログ エントリ(L):
ユーザー [Source Io Owner] は、サーバー [Server] 上の [Quota Path] のクォータの [Quota Threshold]% のクォータのしきい値を超えました。クォータの制限は [Quota Limit MB] MB で、現在 [Quota Used MB] MB 使用しています。(制限の [Quota Used Percent]%)
テキストに挿入する変数を選択してください(V):
[Admin Email]
変数の挿入(I)
電子メールを受け取った管理者の電子メール アドレスを挿入します。
ヘルプ(H)
OK
キャンセル

項　　目	説　　　　明
イベントログへ警告を送信	イベントログへ警告メッセージを送信する場合に設定します。
ログエントリ	警告メッセージで表示する内容を設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を [変数の挿入] ボタンで上記の設定項目に設定します。

3-2-1-3. [コマンド] タブの [コマンドまたはスクリプトの実行] 項目でクォータが動作した際、コマンドを実行するかを設定します。実行する場合、コマンドへのフルパスを設定します。

項　　目	説　　　　明
コマンドまたはスクリプトの実行	実行するコマンド、スクリプトを設定します。
コマンド引数	コマンドに引数がある場合、設定します。
[作業ディレクトリ] ボタン	作業ディレクトリを指定する画面を表示します。
コマンドの実行	セキュリティレベルを設定します。 Local Service,Network Service,Local Systemから選択します。

3-2-1-3-1. [コマンド] タブの [作業ディレクトリ] ボタンをクリックし表示される [コマンドの作業ディレクトリ] 画面で作業フォルダを設定します。



[コマンドがあるディレクトリ] 以外を選択し、コマンドを実行する場合は環境変数で予め対象フォルダへのパスを設定する必要があります。

3-2-1-3-2. [コマンド] タブの [コマンドのセキュリティ] では実行コマンドのセキュリティレベルを以下の 3 点より選択し設定します。

- Local Service
- Network Service
- Local System

[Local Service] 及び [Network Service] を選択する場合、対象フォルダのアクセス権に Users グループ [ファイルの作成 / データの書き込み] 権限が設定されているとセキュリティ上、動作しません。また、[書き込み] 以上の権限を設定した場合も同様です。
それぞれに対応する [Local Service] アカウント、[Network Service] アカウントをご利用することを推奨します。

3-2-1-4. [レポート] タブの [レポートの生成] 項目でクォータが動作した際、レポートを作成するかを設定します。作成する場合、生成するレポートを設定します。

しきい値の追加
使用率 (%) が次に達したら、通知を生成する(G):
85
電子メール メッセージ | イベント ログ | コマンド | レポート
レポートの生成(R)
生成するレポートの選択(S):
クォータの使用率
ファイル グループごとのファイル
ファイル スクリーン処理の監査
大きいサイズのファイル
所有者ごとのファイル
最近アクセスされていないファイル
最近アクセスしたファイル
選択したレポートの表示(V)
クォータまたはファイル スクリーン処理イベントがインシデント レポート生成するとき、既定のレポート設定が使用されます。既定の設定を変更するためには、オプションの構成タスクの [記憶域レポート] タブを使用してください。
次の管理者にレポートを送信する(A):
umeno@localhost
形式は account@domain で、複数のアカウントはセミコロンで区切ってください。
しきい値を超えたユーザーにレポートを送信する(U)
レポートは %systemdrive%¥StorageReports¥Incident に保存されます。
レポートが保存される場所を変更するには、オプションの構成タスクの [レポートの場所] タブを使用してください。
ヘルプ(H)　OK　キャンセル

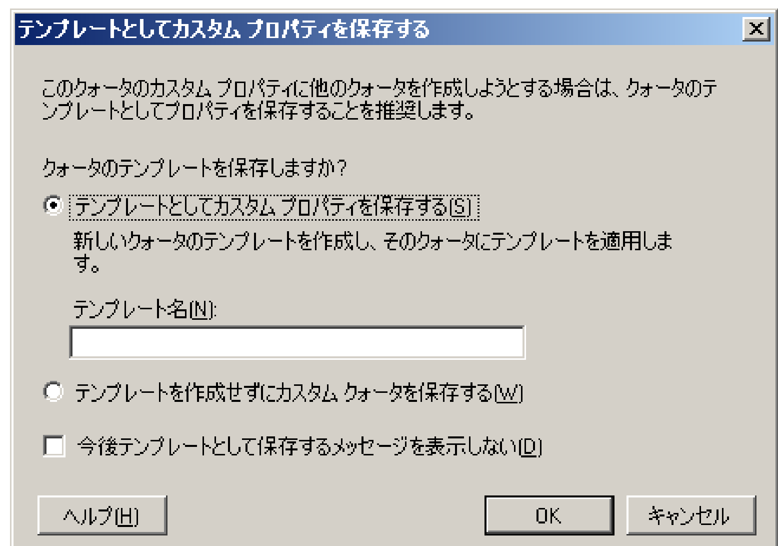
項　　目	説　　　　明
レポートの生成	レポートを生成する場合に設定します。その場合、配下の [生成するレポートの選択] 項目で生成するレポートを選択します。
[選択したレポートの表示] ボタン	[生成するレポートの選択] 項目で選択したレポートを表示します。
次の管理者にレポートを送信する	管理者に電子メールでレポートを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。
しきい値を超えたユーザーにレポートを送信する	ドメイン環境でご利用の場合、Active Directoryへ登録している電子メールアドレスへ電子メールを送信する際に設定します。

3-2-1-5. 設定が全て完了したら [OK] ボタンをクリックし、[クォータのプロパティ] 画面に戻ります。

3-2-2. 既存のしきい値を削除する場合、[通知のしきい値] から削除するしきい値を選択して [削除] ボタンをクリックします。

3-2-3. 作成したクォータを無効として登録する場合、[設定] タブの [クォータの無効] のチェックボックスを有効にします。

3-2-4. 設定が全て完了し、[作成] ボタンをクリックするとクォータを作成します。[テンプレートとしてカスタムプロパティを保存する] 画面が表示され、テンプレートとして保存するか選択します。



項　　目	説　　　　明
テンプレートとしてカスタムプロパティを保存する	設定した内容をテンプレートとして登録する場合、テンプレート名と共に設定します。
テンプレートを作成せずにカスタムクォータを保存する	設定した内容はテンプレートとして登録されず、今回作成したクォータにのみ設定されます。
今後テンプレートとして保存するメッセージを表示しない	本画面を今後、表示しない場合、設定します。

3.1.1.1.3　更新

作成したクォータ一覧表示の情報を更新し最新の状態へするには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [クォータの管理] → [クォータ] をクリックします。
2. 操作の一覧で [更新] をクリックします。

3.1.1.1.4　クォータからのテンプレートの作成

クォータからテンプレートを作成するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [クォータの管理] → [クォータ] をクリックします。
2. テンプレートを作成するクォータを選択します。
3. 操作の一覧で [クォータからのテンプレートの作成] をクリックし、[クォータテンプレートの作成] 画面を表示します。

項　　目	説　　　　　明
クォータテンプレートからのプロパティのコピー	テンプレート一覧より選択し、[コピー] ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が [設定] タブの設定内容にコピーされます。
テンプレート名	テンプレート名を設定します。
ラベル	ラベルを設定します。
制限値	制限値を設定します。
ハードクォータ	設定値を超えてファイルを書き込むことは不可能と設定します。
ソフトクォータ	設定値を超えてもファイル書き込みが可能と設定します。
通知のしきい値	しきい値の設定内容が表示されます。
[追加] ボタン	しきい値を追加します。
[編集] ボタン	選択した既存のしきい値を編集します。
[削除] ボタン	選択したしきい値を削除します。

4. [設定] タブの [テンプレート名] 項目で作成するテンプレートを設定し、[OK] ボタンをクリックします。なお、選択したクォータテンプレートに変更を加えてテンプレートを作成する事も可能です。

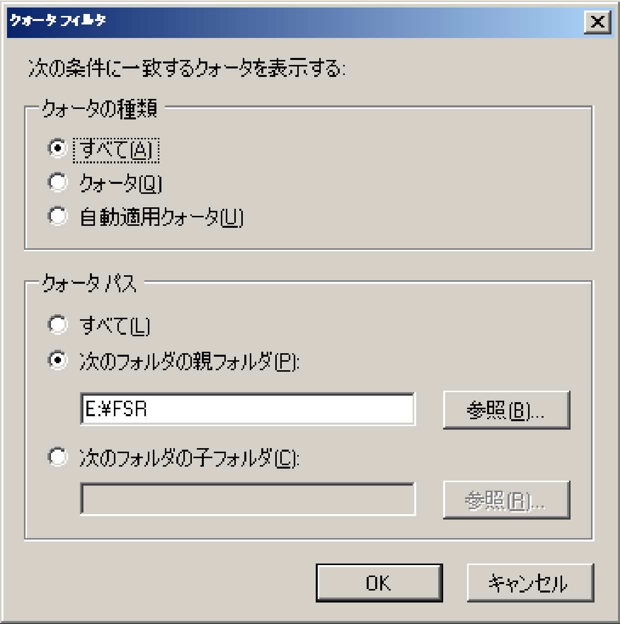
 クォータの作成にて"既存と新規のサブフォルダに自動でテンプレート適用とクォータ作成を行なう"を選択してクォータを作成した場合、本項目は使用できません。

3.1.1.1.5　フォルダに影響するクォータの表示

クォータのフォルダに影響するクォーター覧を表示するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [クォータの管理] → [クォータ] をクリックします。
2. フォルダに影響するクォーター覧を表示するクォータを選択します。
3. 操作の一覧で [フォルダに影響するクォータの表示] をクリックします。

4. 全てのクォーター一覧表示へ戻す場合、クォーター一覧画面の上部にある [フィルタ] 項目をクリックして、[クォータフィルタ] 画面を表示し、[クォータパス] 項目で [すべて] を選択します。



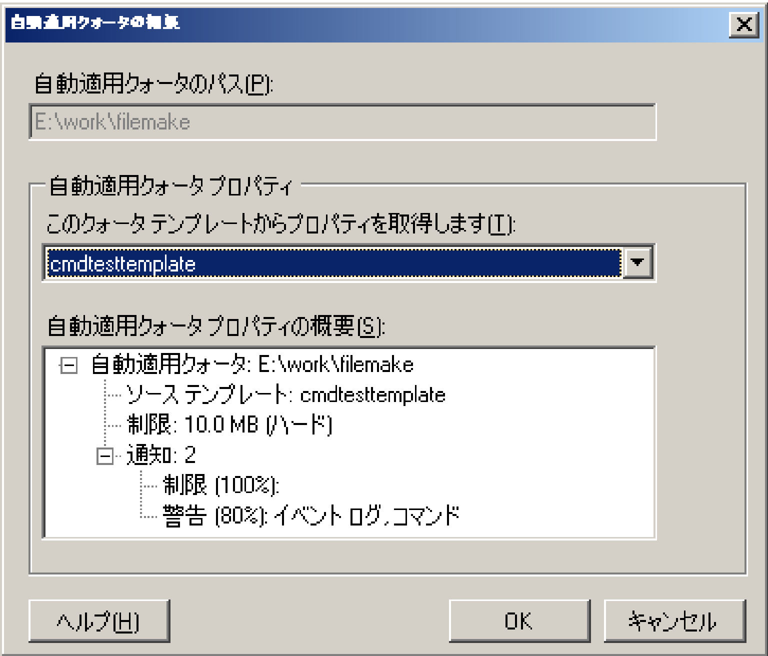
項　目	説　明
クォータの種類	一覧へ表示するクォータの種類を指定します。 [すべて] 、[クォータ] 、[自動適用クォータ] から選択します。
クォータパス	一覧へ表示するクォータのパスを指定します。 [すべて] 、[次のフォルダの親フォルダ] 、[次のフォルダの子フォルダ] から選択します。

3.1.1.1.6 クォータのプロパティの編集

クォータのプロパティを編集するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [クォータの管理] → [クォータ] をクリックします。
2. プロパティを編集するクォータを選択します。
3. 操作の一覧で [クォータのプロパティの編集] をクリックします。

3-1. クォータの作成にて [既存と新規のサブフォルダに自動でテンプレート適用とクォータ作成を行なう] を選択してクォータを作成した場合、以下の画面が表示されますので設定後、[OK] ボタンをクリックすると編集が反映されます。



項　目	説　明
自動適用クォータプロパティ	テンプレート一覧より選択し、[OK] ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が反映されます。

3-2. クォータの作成等にて [パスにクォータを作成する] を選択し、クォータを作成した場合、以下の画面が表示されます。以下の画面が表示されますので設定後、[OK] ボタンをクリックすると編集が反映されます。

3.1.1.1.7　クォータの削除

クォータを削除するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [クォータの管理] → [クォータ] をクリックします。
2. 削除するクォータを選択します。
3. 操作の一覧で [クォータの削除] をクリックします。

3.1.1.1.8　ピーク時の使用率のリセット

クォータの [ピーク時の使用率] をリセットして現在の値に戻すには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [クォータの管理] → [クォータ] をクリックします。
2. [ピーク時の使用率] をリセットして現在の値に戻すクォータを選択します。
3. 操作の一覧で [ピーク時の使用率のリセット] をクリックします。

 クォータの作成にて [既存と新規のサブフォルダに自動でテンプレート適用とクォータ作成を行なう] を選択してクォータを作成した場合、本項目は使用できません。

3.1.1.1.9　クォータの有効化

無効化しているクォータを有効化するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [クォータの管理] → [クォータ] をクリックします。
2. 有効化するクォータを選択します。
3. 操作の一覧で [有効化] をクリックします。

 クォータの作成にて [既存と新規のサブフォルダに自動でテンプレート適用とクォータ作成を行なう] を選択してクォータを作成した場合、本項目は使用できません。

3.1.1.1.10　クォータの無効化

有効化しているクォータを無効化するには、次の操作を行ないます。

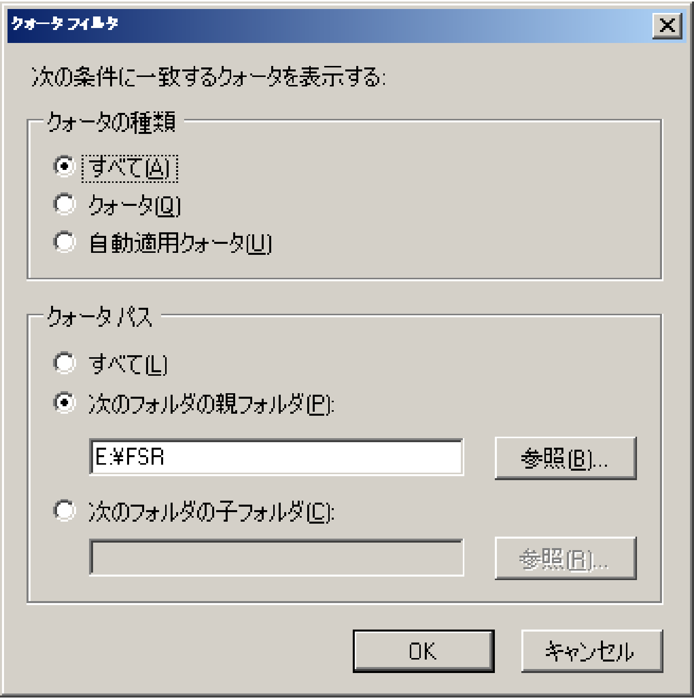
1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [クォータの管理] → [クォータ] をクリックします。
2. 無効化するクォータを選択します。
3. 操作の一覧で [無効化] をクリックします。

 クォータの作成にて [既存と新規のサブフォルダに自動でテンプレート適用とクォータ作成を行なう] を選択してクォータを作成した場合、本項目は使用できません。

3.1.1.1.11　フィルタ

クォーター覧画面に表示する内容を変更するには、次の操作を行ないます。

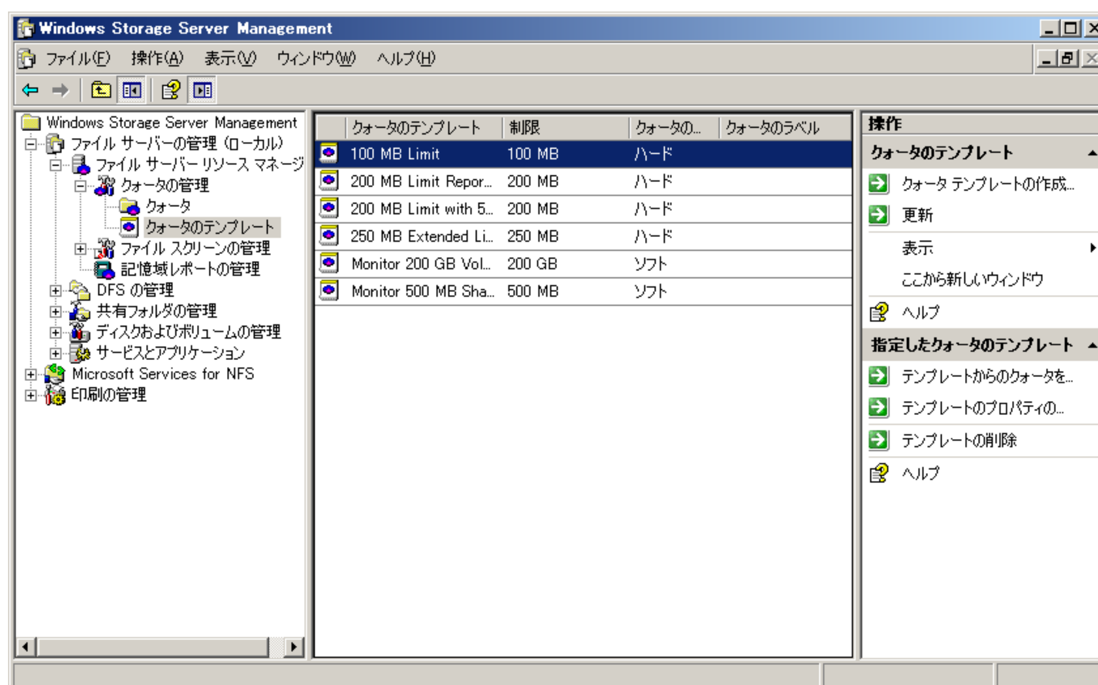
1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [クォータの管理] → [クォータ] をクリックします。
2. クォーター覧画面の上部にある [フィルタ] 項目をクリックし、[クォータフィルタ] 画面を表示します。



項　目	説　明
クォータの種類	一覧へ表示するクォータの種類を指定します。 [すべて] 、[クォータ] 、[自動適用クォータ] から選択します。
クォータパス	一覧へ表示するクォータのパスを指定します。 [すべて] 、[次のフォルダの親フォルダ] 、[次のフォルダの子フォルダ] から選択します。

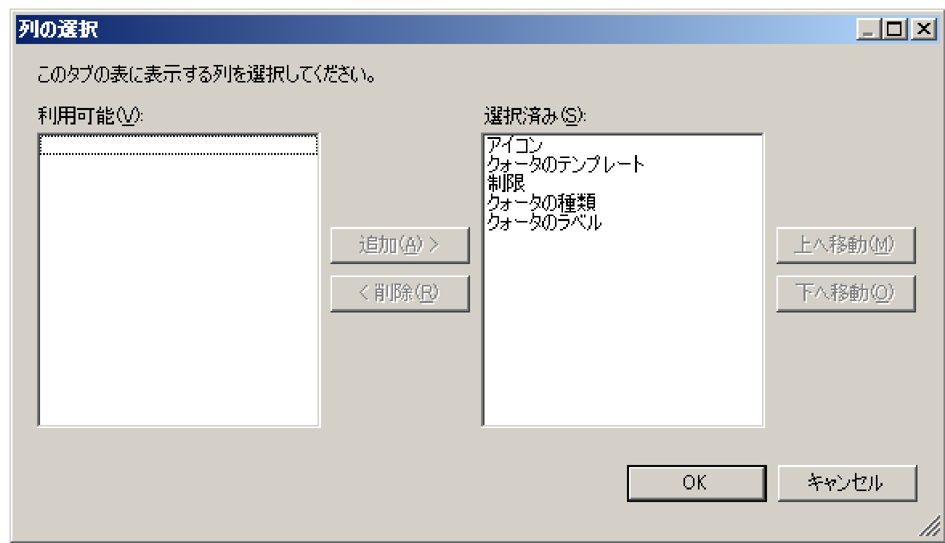
3.1.1.2　クォータのテンプレート

クォータのテンプレートは、再使用可能なクォータ定義のセットを作成します。クォータの既存のセットにテンプレートを適用することや、新しいクォータを作成する際、テンプレートを使用することができます。



初めにクォータのテンプレート画面で表示される項目一覧は次の通りです。

なお、項目一覧は一覧を右クリックし、表示される画面より [列の追加と削除] で表示される画面にて追加 / 削除が可能です。



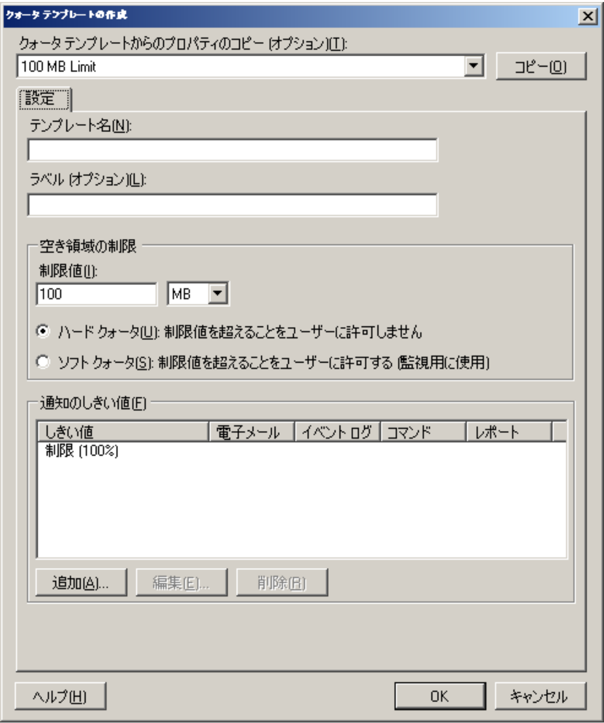
項　　目	説　　　　明
アイコン	アイコンが表示されます。
クォータのテンプレート	クォータのテンプレート名が表示されます。
制限	設定されているディレクトリ領域の制限値が表示されます。
クォータの種類	領域を超える設定は不可能なハードクォータ・領域を超える設定が可能なソフトクォータのどちらが選択されているかが表示されます。
クォータのラベル	クォータに設定しているラベルが表示されます。

また、任意の列（項目）をクリックすることで、ソートすることも可能です。

3.1.1.2.1 クォータテンプレートの作成

指定するフォルダやその配下のサブフォルダに対しクォータを作成するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [クォータの管理] → [クォータのテンプレート] をクリックします。
2. 操作の一覧で [クォータテンプレートの作成] をクリックします。



項　　目	説　　明
クォータテンプレートからのプロパティのコピー	テンプレート一覧より選択し、[コピー] ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が [設定] タブの設定内容にコピーされます。
テンプレート名	テンプレート名を設定します。
ラベル	ラベルを設定します。
制限値	制限値を設定します。
ハードクォータ	設定値を超えてファイルを書き込むことは不可能と設定します。
ソフトクォータ	設定値を超えてもファイル書き込みが可能と設定します。
通知のしきい値	しきい値の設定内容が表示されます。
[追加] ボタン	しきい値を追加します。
[編集] ボタン	選択した既存のしきい値を編集します。
[削除] ボタン	選択したしきい値を削除します。

3. しきい値を新規に作成する場合、[追加] ボタンを、既に作成済みのしきい値を編集する場合は [編集] ボタンをクリックし、画面を表示します。

3-1. [電子メールメッセージ] タブで警告メッセージを電子メールで送信するかを設定します。

項　　目	説　　　　明
使用率(%)が次に達したら、通知を生成する	しきい値をパーセントで設定します。 **既定で存在するしきい値（[制限[100%]]）を編集する際、本項目の設定を変更することはできません。**
次の管理者に電子メールを送信する	管理者に電子メールを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。
しきい値を超えたユーザーに電子メールを送信する	ドメイン環境でご利用の場合、Active Directoryへ登録している電子メールアドレスへ電子メールを送信する際に設定します。
件名	電子メールのタイトルを設定します。
メッセージ本文	電子メールの本文を設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を [変数の挿入] ボタンで [管理者の電子メールアドレス] 入力フィールド、[件名] 、[メッセージ本文] の項目に設定します。
追加電子メールヘッダー	電子メールのヘッダーを変更する場合、設定します。

3-1-1. [電子メールメッセージ] タブの [追加電子メールヘッダー] ボタンで [追加電子メールヘッダー] 画面を表示します。

追加電子メール ヘッダー

account@server の形式でアカウント名を入力するかアカウントに挿入する変数を選択してください。複数のアカウントを指定する場合はセミコロンで区切ってください。

差出人(F):
FSRM@domain.nec.co.jp
Cc(C):
Bcc(B):
返信先(R):
テキストに挿入する変数を選択してください(V):
[Source File Owner Email]
変数の挿入(I)
通知の原因となるファイルの所有者の電子メール アドレスを挿入します。
OK
キャンセル

項　目	説　明
差出人	差出人の電子メールアドレスを設定します。
Cc	Ccで送信する電子メールアドレスを設定します。
Bcc	Bccで送信する電子メールアドレスを設定します。
返信先	返信先の電子メールアドレスを設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を [変数の挿入] ボタンで上記の設定項目に設定します。

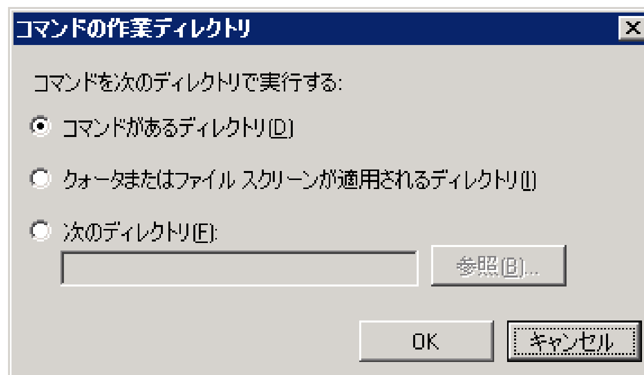
3-2. [イベントログ] タブで警告メッセージをイベントログ (アプリケーション) へ警告メッセージを表示するかを設定します。

項　　目	説　　　　明
イベントログへ警告を送信	イベントログへ警告メッセージを送信する場合に設定します。
ログエントリ	警告メッセージで表示する内容を設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を [変数の挿入] ボタンで上記の設定項目に設定します。

3-3. [コマンド] タブでクォータが動作した際、コマンドを実行するかを設定します。実行する場合、コマンドへのフルパスを設定します。

項　　目	説　　　　明
コマンドまたはスクリプトの実行	実行するコマンド、スクリプトを設定します。
コマンド引数	コマンドに引数がある場合、設定します。
[作業ディレクトリ] ボタン	作業ディレクトリを指定する画面を表示します。
コマンドの実行	セキュリティレベルを設定します。 Local Service,Network Service,Local Systemから選択します。

3-3-1. [コマンド] タブの [作業ディレクトリ] ボタンをクリックし、表示される [コマンドの作業ディレクトリ] 画面で作業フォルダを設定します。



[コマンドがあるディレクトリ] 以外を選択しコマンドを実行する場合は環境変数で予め対象フォルダへのパスを設定する必要があります。

3-3-2. [コマンド] タブの [コマンドのセキュリティ] では実行コマンドのセキュリティレベルを以下の 3 点より選択し設定します。

- Local Service
- Network Service
- Local System

[Local Service] 及び [Network Service] を選択する場合、対象フォルダのアクセス権に Users グループ [ファイルの作成/データの書き込み] 権限が設定されているとセキュリティ上、動作しません。また [書き込み] 以上の権限を設定した場合も同様です。
それぞれに対応する [Local Service] アカウント、[Network Service] アカウントをご利用することを推奨します。

3-4. [レポート] タブでクォータが動作した際、レポートを作成するかを設定します。作成する場合、生成するレポートを設定します。

しきい値の追加
使用率 (%) が次に達したら、通知を生成する(G):
85
電子メール メッセージ | イベント ログ | コマンド | レポート
レポートの生成(R)
生成するレポートの選択(S):
クォータの使用率
ファイル グループごとのファイル
ファイル スクリーン処理の監査
大きいサイズのファイル
所有者ごとのファイル
最近アクセスされていないファイル
最近アクセスしたファイル
選択したレポートの表示(V)
クォータまたはファイル スクリーン処理イベントがインシデント レポート生成するとき、既定のレポート設定が使用されます。既定の設定を変更するためには、オプションの構成タスクの [記憶域レポート] タブを使用してください。
次の管理者にレポートを送信する(A):
umeno@localhost
形式は account@domain で、複数のアカウントはセミコロンで区切ってください。
しきい値を超えたユーザーにレポートを送信する(U)
レポートは %systemdrive%¥StorageReports¥Incident に保存されます。
レポートが保存される場所を変更するには、オプションの構成タスクの [レポートの場所] タブを使用してください。
ヘルプ(H) OK キャンセル

項　　目	説　　明
レポートの生成	レポートを生成する場合に設定します。その場合、配下の [生成するレポートの選択] 項目で生成するレポートを選択します。
[選択したレポートの表示] ボタン	[生成するレポートの選択] 項目で選択したレポートを表示します。
次の管理者にレポートを送信する	管理者に電子メールでレポートを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。
しきい値を超えたユーザーにレポートを送信する	ドメイン環境でご利用の場合、Active Directory へ登録している電子メールアドレスへ電子メールを送信する際に設定します。

3-5. 設定が全て完了したら [OK] ボタンをクリックし、 [クォータのプロパティ] 画面に戻ります。

4. 既存のしきい値を削除する場合、[通知のしきい値] から削除するしきい値を選択して [削除] ボタンをクリックします。
5. 設定が全て完了し、[OK] ボタンをクリックするとクォータが作成します。

3.1.1.2.2　更新

作成したクォータテンプレート一覧表示の情報を更新し、最新の状態にするには、次の操作を行ないます。

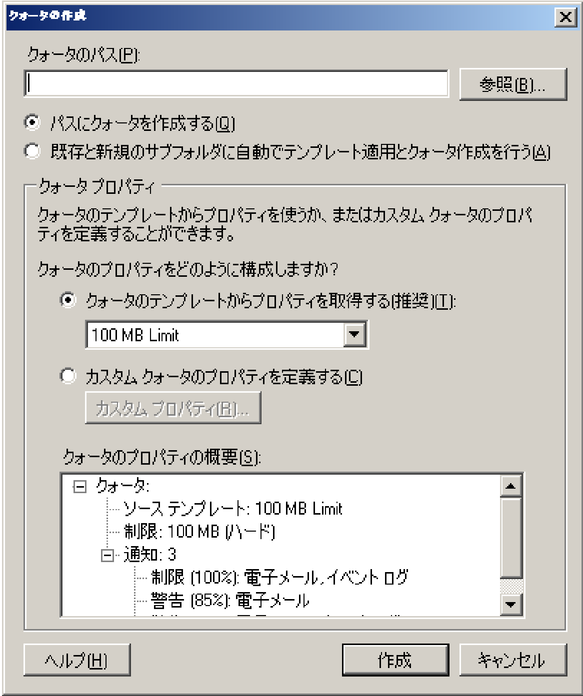
1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [クォータの管理] → [クォータのテンプレート] をクリックします。
2. 操作の一覧で [更新] をクリックします。

3.1.1.2.3　テンプレートからクォータを作成

クォータからテンプレートを作成するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [クォータの管理] → [クォータのテンプレート] をクリックします。
2. テンプレートを作成するクォータを選択します。

3. 操作の一覧で [テンプレートからクォータを作成] をクリックし、[クォータテンプレートの作成] 画面を表示します。



項　　目	説　　　　明
クォータのパス	クォータを設定するフォルダのフルパスを設定します。
パスにクォータを作成する	[クォータのパス] 項目で指定したフォルダに対し、クォータを設定します。
既存と新規のサブフォルダに自動でテンプレート適用とクォータ作成を行なう	[クォータのパス] 項目で指定したフォルダ及びそのサブフォルダに対し、クォータを設定します。
クォータのプロパティをどのように構成しますか？	[クォータのテンプレートからプロパティを取得する] および [カスタムクォータのプロパティを定義する] から選択します。
クォータのテンプレートからプロパティを取得する	配下の一覧より項目を選択します。
カスタムクォータのプロパティを定義する	[カスタムプロパティ] ボタンをクリックし、設定を行ないます。
クォータのプロパティの概要	設定されたプロパティが表示されます。
[作成] ボタン	上記項目にて設定した条件でクォータを作成します。

4. [クォータのパス] 項目で作成するフォルダを設定し、[作成] ボタンをクリックします。なお、クォータテンプレートに変更を加えてクォータを作成する事も可能です。

3.1.1.2.4 テンプレートのプロパティの編集

クォータのプロパティを編集するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [クォータの管理] → [クォータのテンプレート] をクリックします。
2. プロパティを編集するクォータを選択します。
3. 操作の一覧で [テンプレートのプロパティの編集] をクリックします。以下の画面が表示されますので設定後、[OK] ボタンをクリックすると編集が反映されます。

3.1.1.2.5　テンプレートの削除

クォータを削除するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [クォータの管理] → [クォータのテンプレート] をクリックします。
2. テンプレートを削除するクォータを選択します。
3. 操作の一覧で [テンプレートの削除] をクリックします。

3.1.1.2.6 定義済み情報

あらかじめ定義されている、クォータテンプレート、メッセージ マクロについての情報を示します。

定義済みテンプレート

テンプレート名	制限	クォータの種類	しきい値
100 MB Limit	100 MB	ハード	100% 電子メール通知 ： オン イベント ログ ： オン コマンド ： オフ レポート ： オフ 95% 電子メール通知 ： オン イベント ログ ： オン コマンド ： オフ レポート ： オフ 85% 電子メール通知 ： オン イベント ログ ： オフ コマンド ： オフ レポート ： オフ
200 MB Limit Reports to User	200 MB	ハード	100% 電子メール通知 ： オン イベント ログ ： オン コマンド ： オフ レポート ： オン 95% 電子メール通知 ： オン イベント ログ ： オン コマンド ： オフ レポート ： オフ 85% 電子メール通知 ： オン イベント ログ ： オフ コマンド ： オフ レポート ： オフ

テンプレート名	制限	クォータの種類	しきい値
200MB Limit With 50MB Extension	200 MB	ハード	100% 電子メール通知 ： オン イベント ログ ： オン コマンド ： オン レポート ： オフ 95% 電子メール通知 ： オン イベント ログ ： オン コマンド ： オフ レポート ： オフ 85% 電子メール通知 ： オン イベント ログ ： オフ コマンド ： オフ レポート ： オフ
250MB Extension Limit	250 MB	ハード	100% 電子メール通知 ： オン イベント ログ ： オン コマンド ： オフ レポート ： オフ 95% 電子メール通知 ： オン イベント ログ ： オン コマンド ： オフ レポート ： オフ 85% 電子メール通知 ： オン イベント ログ ： オフ コマンド ： オフ レポート ： オフ

テンプレート名	制限	クォータの種類	しきい値
Monitor 200 GB Volume Usage	200GB	ソフト	100% 電子メール通知 : オン イベント ログ : オン コマンド : オフ レポート : オフ 90% 電子メール通知 : オン イベント ログ : オン コマンド : オフ レポート : オフ 80% 電子メール通知 : オン イベント ログ : オフ コマンド : オフ レポート : オフ 70% 電子メール通知 : オン イベント ログ : オフ コマンド : オフ レポート : オフ
Monitor 500MB Share	500MB	ソフト	100% 電子メール通知 : オン イベント ログ : オン コマンド : オフ レポート : オフ 120% 電子メール通知 : オン イベント ログ : オン コマンド : オフ レポート : オフ 80% 電子メール通知 : オン イベント ログ : オフ コマンド : オフ レポート : オフ

メッセージ マクロ

メッセージ マクロとは、電子メールメッセージやイベントログへメッセージを出力する際、システムで得られる情報を含めるために使用します。

メッセージ マクロを挿入するには、挿入したい場所にカーソルを合わせ、挿入マクロからプルダウンボックスで表示されるメッセージ マクロを選択することで挿入します。

内容は通知メッセージが通知される際に、システムで得られる情報に置換されます。

挿入して使用可能なメッセージ マクロの設定内容一覧は以下の通りです。

なお、メッセージ マクロは予め定義されたものであり設定を変更することはできません。

マクロ名	説　　明
[Admin Email]	電子メールを受け取った管理者の電子メールアドレス
[Quota Free KB]	クォータの下に残っている空き領域 KB単位
[Quota Free MB]	クォータの下に残っている空き領域 MB単位
[Quota Free Percent]	クォータの下に残っている空き領域 パーセント単位
[Quota Free]	クォータの下に残っている空き領域 バイト単位
[Quota High Water Mark KB]	クォータのピーク時の使用率 KB単位
[Quota High Water Mark MB]	クォータのピーク時の使用率 MB単位
[Quota High Water Mark Percent]	クォータのピーク時の使用率 パーセント単位
[Quota High Water Mark]	クォータのピーク時の使用率 バイト単位
[Quota High Water Time]	ピーク時の使用率が記録された時間
[Quota Limit KB]	クォータの制限値 KB単位
[Quota Limit MB]	クォータの制限値 MB単位
[Quota Limit]	クォータの制限値 バイト単位
[Quota Path]	クォータのパス
[Quota Remote Paths]	クォータのリモートパス UNC形式(¥¥server¥share¥)
[Quota System Path]	クォータのパス 標準形式(¥¥?¥VolumeGUID¥)
[Quota Threshold]	通知の原因となるクォータのしきい値
[Quota Used KB]	クォータの使用率 KB単位
[Quota Used MB]	クォータの使用率 MB単位
[Quota Used Percent]	クォータの使用率 パーセント単位
[Quota Used]	クォータの使用率 バイト単位
[Server Domain]	通知の発生したサーバのドメイン
[Server]	通知の発生したサーバ
[Source File Owner Email]	通知の原因となるファイルの所有者の電子メールアドレス
[Source File Owner]	通知の原因となるファイルの所有者のユーザ名

マクロ名	説　　明
[Source File Path]	通知の原因となるファイルのパス
[Source File Remote Paths]	通知の原因となるファイルのリモートパス UNC形式
[Source Io Owner Email]	通知をトリガしたユーザの電子メールアドレス
[Source Io Owner]	通知をトリガしたファイル I/O の所有者
[Source Process Id]	通知をトリガしたプロセスのPID
[Source Process Image]	通知をトリガしたプロセスの実行可能ファイル

 ネットワーク共有作成直後、メッセージ マクロ [Quota Remote Paths] 及び [Source File Remote Paths] を使用しメッセージを出力すると、パス名が正常に表示されずマクロ名がそのまま表示されることがあります。

このような場合は一時間程度、時間を経過させることにより正常に表示可能となります。

3.1.1.2.7 コマンド情報

コマンドラインを使用してクォータの設定を行なう場合は、dirquota コマンドを使用します。

詳細は、dirquota /?を実行しヘルプを参照してください。

3.1.2 ディスククォータを設定する

管理者はディスククォータの設定し、各ユーザが iStorage NS 内の各ボリュームで使用するディスク容量を制限することができます。ディスク容量を制限することで、限られたユーザが資源のほとんどを使用してしまい、他のユーザが使用できなくなるという問題を避けることができます。ユーザが制限値を超えてファイルをコピーしようとした場合に、警告を出すだけの設定もできますし、また制限値以上の領域を使用できないようファイルの保存をブロックすることもできます。
ディスククォータの管理はボリューム単位、ユーザ単位です。グループに対してディスククォータの設定を行なうことはできません。

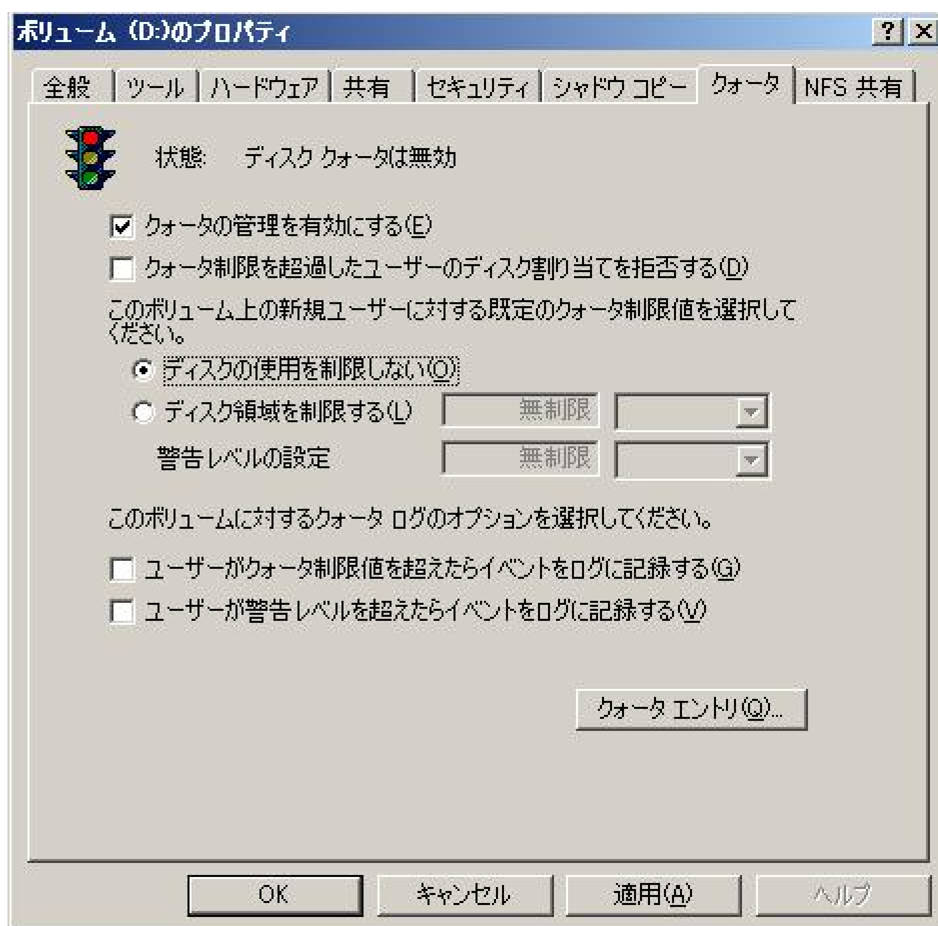
3.1.2.1 ディスククォータの設定方法

エクスプローラまたはマイコンピュータを開き、設定したいボリュームのプロパティを開いて行ないます。最初に、そのボリュームを使用するすべてのユーザに適用される既定のクォータ設定を行ない、必要であれば、個々のユーザに対するクォータ設定を行ないます。

3.1.2.2 既定のクォータ設定を行なう

1. 管理 PC でリモートデスクトップを起動し、iStorage NS に接続します。
2. 管理者権限を持つユーザでログオンします。
3. マイコンピュータまたはエクスプローラを起動します。
4. 設定するボリュームを右クリックし、[プロパティ] を選択します。
5. [クォータ] タブをクリックします。

6. 以下の画面で設定を行ないます。



- [クォータの管理を有効にする] のチェックボックスを有効にします。
- クォータ制限値を超えてデータを保存させない場合には、[クォータ制限を超過したユーザーのディスク割り当てを拒否する] のチェックボックスを有効にします。
- 既定の設定として、[ディスク領域を制限する] のチェックボックスを有効にし、制限値と警告レベルの値を入力します。
- 必要に応じて、[ユーザーがクォータ制限値を超えたらイベントをログに記録する] と [ユーザーが警告レベルを超えたらイベントをログに記録する] のチェックボックスを有効にします。

7. 個々のユーザに対してディスククォータを設定する場合は、[個々のユーザーにクォータ設定を行なう] に進んでください。終了する場合は、[OK] ボタンをクリックして終了します。

個々のユーザにクォータ制限を適用する場合は、以下の手順で設定します。

3.1.2.3 個々のユーザにクォータ設定を行なう

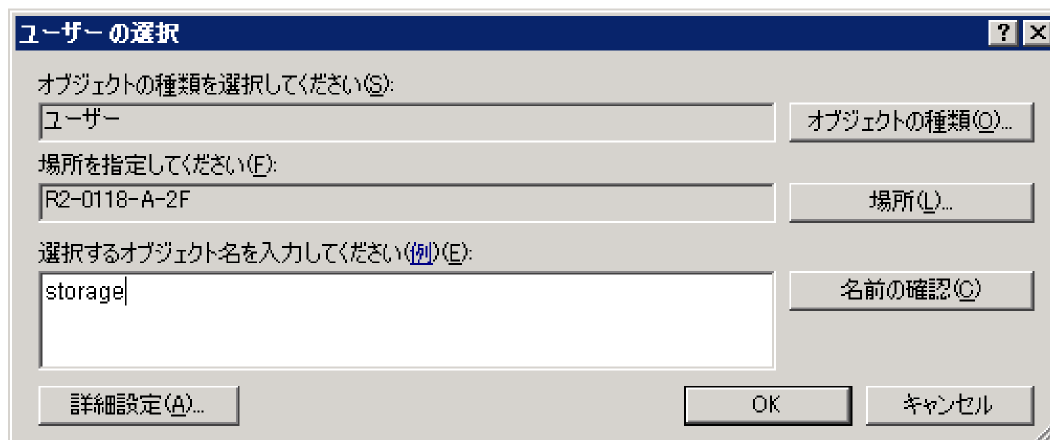
1. ボリュームのプロパティを開き、[クォータエントリ] タブをクリックします。



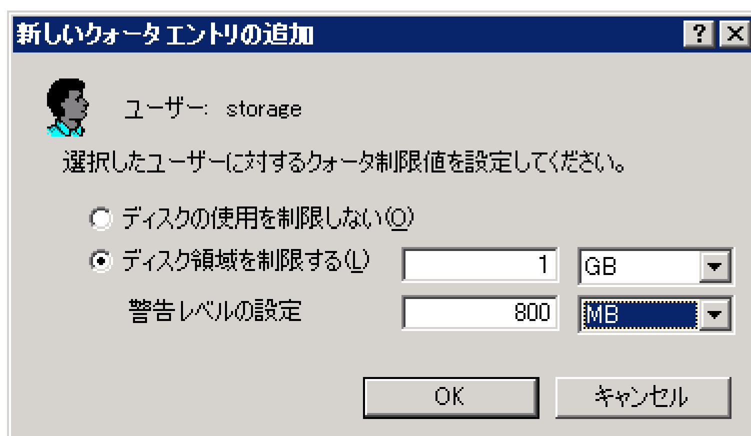
2. [クォータ] メニューの [新規クォータエントリ] をクリックします。



3. クォータエントリに追加するユーザを指定して [OK] ボタンをクリックします。



4. 必要に応じて警告レベルと制限値を設定し、[OK] ボタンをクリックします。ディスク使用量を確認するだけで、制限をしない場合は、[ディスクの使用を制限しない] を選択してください。



3.2. ファイルの拡張子で書き込みを制限する

ファイル スクリーンは、望ましくないファイルが iStorage NS に保存されないようにするための機能です。ファイル スクリーン機能を使用することよって好ましくない画像や、ゲーム、動画ファイル等が iStorage NS に格納されることを防止することができます。

スクリーニングするためには制限、監視したい対象のディレクトリに対し、ファイル スクリーン テンプレートを設定します。ファイル スクリーン テンプレートは、ファイル グループで構成されており、あらかじめ 5 つ定義されています。ファイル グループでは、含めるファイル、除外するファイルの種類を定義しており、あらかじめ 11 のファイル グループが定義されています。

また、ファイル スクリーン テンプレートやファイル グループは新たに作成することや、定義済みの設定をカスタマイズすることができます。

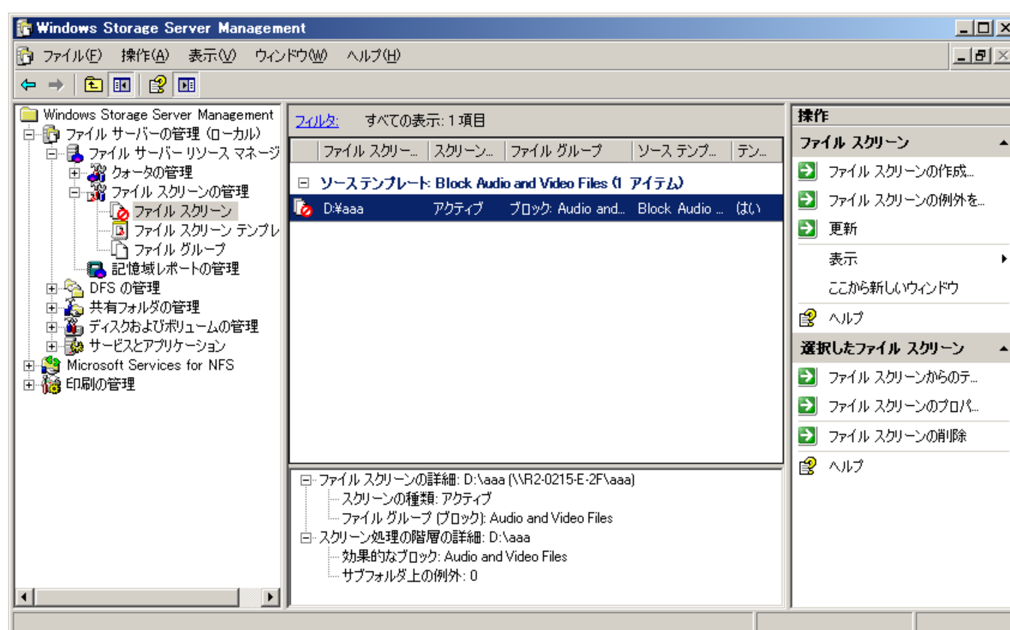
ファイル スクリーンには、次の機能があります。

機　　　　能
ディレクトリ上でのアクティブおよびパッシブ ファイル スクリーン
電子メールによるメッセージ通知機能
イベントログへのメッセージ通知機能
通知がアクティブなときのレポート通知機能
通知がアクティブなときのカスタム スクリプトの実行機能


システム パーティションにファイル スクリーンを設定する場合、[ドライブ直下] 及び [WINDOWS フォルダ配下] へはファイル 監視のみを行うパッシブ スクリーン の設定のみ可能となります。

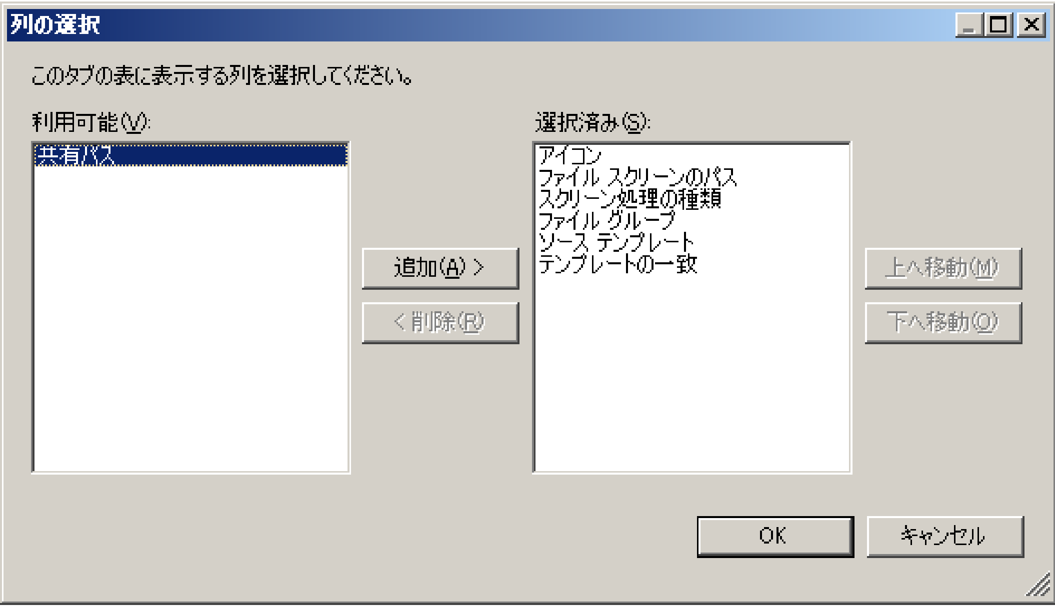
3.2.1 ファイルスクリーン

ファイルスクリーンにより、iStorage NS 上の選択したディレクトリ、またはパーティションに対する領域を実際に制限、監視します。



ファイルスクリーン画面で表示される項目一覧は次の通りです。

なお、項目一覧は一覧を右クリックし、表示される以下の画面より [列の追加と削除] で表示される画面にて追加/削除が可能です。



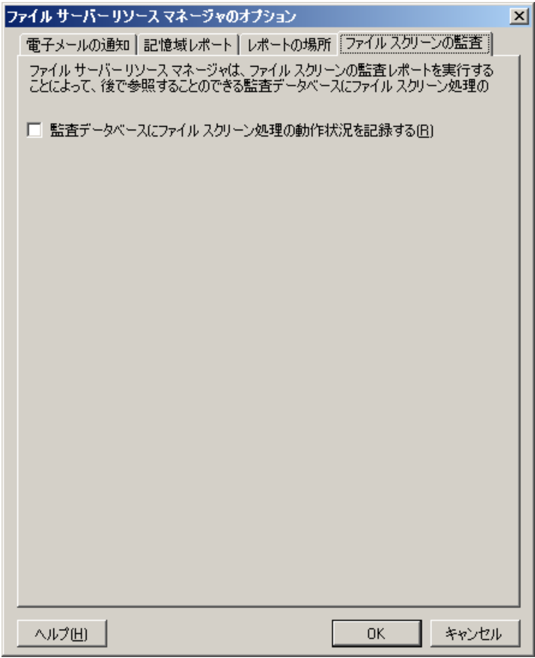
項　　目	説　　　　明
アイコン	アイコンが表示されます。
ファイルスクリーンのパス	ファイルスクリーンを設定しているフォルダのパスが表示されます。
ファイルスクリーン処理の種類	承認されていないファイルの書き込みが不可能なアクティブスクリーン処理・承認されていないファイルの書き込みも可能なパッシブスクリーン処理のどちらが選択されているかが表示されます。
ファイルグループ	選択されているファイルのグループが表示されます。
ソーステンプレート	ファイルスクリーンテンプレートを使用している場合、テンプレート名が表示されます。
テンプレートの一致	ファイルスクリーンテンプレートをカスタマイズせず使用しているかが表示されます。
共有パス	ファイルスクリーンのパスに設定された共有フォルダ名が表示されます。

また、任意の列（項目）をクリックすることで、ソートすることも可能です。

3.2.1.1 ファイルスクリーンの監査

監査データベースにスクリーン処理の動作状況を設定する場合に利用します。設定には、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] をクリックします。
2. 操作の一覧で [オプションの構成] をクリックして [ファイルサーバーリソースマネージャのオプション] 画面を表示します。

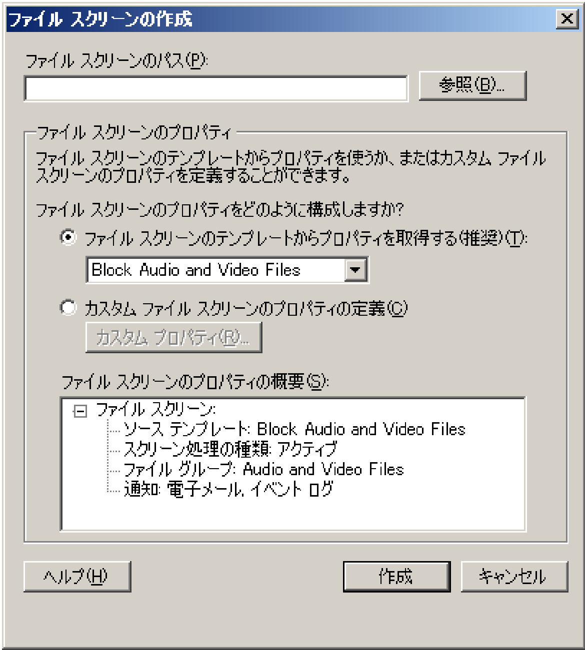


項　　目	説　　　　明
監査データベースにファイルスクリーン処理の動作状況を記録する	監査データベースにファイルスクリーン処理の動作を記録します。ファイルスクリーンにて [ファイルスクリーン処理の監査] レポートを表示するためには、監査データベースにファイルスクリーン処理の動作状況を記録する必要があります。

3.2.1.2 ファイルスクリーンの作成

指定するフォルダに対しファイルスクリーンを作成するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [ファイルスクリーンの管理] → [ファイルスクリーン] をクリックします。
2. 操作の一覧で [ファイルスクリーンの作成] をクリックし、[ファイルスクリーンの作成] 画面を表示します。



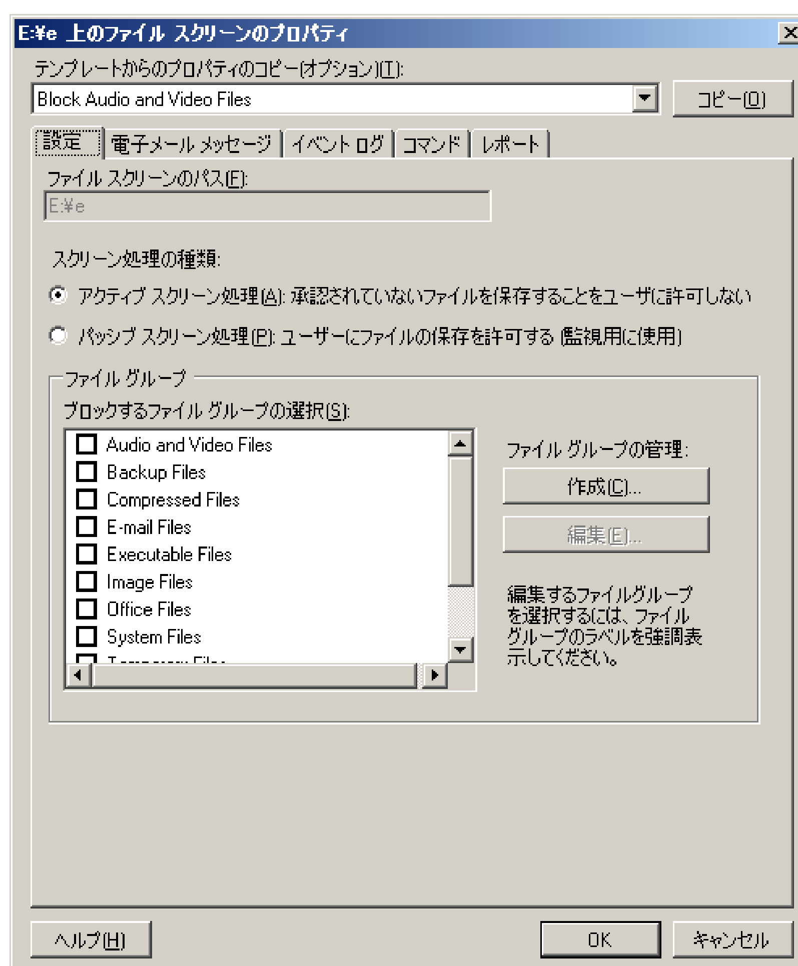
項　　目	説　　　　明
ファイルスクリーンのパス	ファイルスクリーンを設定するフォルダのフルパスを設定します。
クォータのプロパティをどのように構成しますか?	[ファイルスクリーンのテンプレートからプロパティを取得する] および [カスタムファイルスクリーンのプロパティの定義] から選択します。
ファイルスクリーンのテンプレートからプロパティを取得する	配下の一覧より項目を選択します。
カスタムファイルスクリーンのプロパティの定義	[カスタムプロパティ] ボタンをクリックし、設定を行ないます。
ファイルスクリーンのプロパティの概要	設定されたプロパティが表示されます。
[作成] ボタン	上記項目にて設定した条件でクォータを作成します。

3. [ファイルスクリーンのプロパティ] 項目で [ファイルスクリーンのテンプレートからプロパティを取得する] もしくは [カスタムファイルスクリーンのプロパティの定義] を選択します。

3-1 [ファイルスクリーンのテンプレートからプロパティを取得する] を選択する場合、リストに表示されるテンプレート一覧から選択し、[作成] ボタンでファイルスクリーンを作成します。

3-2 [カスタムファイルスクリーンのプロパティの定義] を選択する場合、[カスタムプロパティ] ボタンをクリックし、[スクリーンのプロパティ] 画面を表示します。

3-2-1 [設定] 項目で作成するファイルスクリーンを設定します。



項　　目	説　　　　明
テンプレートからのプロパティのコピー	テンプレート一覧より選択し、[コピー] ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が [設定] タブの設定内容にコピーされます。
アクティブスクリーン処理	許可していないファイルを保存することは不可能と設定します。
パッシブスクリーン処理	許可していないファイルも保存することを可能と設定します。
[作成] ボタン	ファイルグループを追加します。
[編集] ボタン	選択したファイルグループを編集します。

3-2-1-1 [ブロックするファイルグループの選択] 項目を選択します。また、ファイルグループを新規に作成する場合は [作成] ボタンを、既に作成済みのファイルグループを編集する場合は[編集] ボタンをクリックし、以下の画面を表示します。

項　　目	説　　　　明
ファイルグループ名	ファイルグループ名を設定します。
含めるファイル	書き込みさせないファイルを指定します。 ファイル指定は、名前、または拡張子、あるいはその両方でスクリーニングできます。例えば拡張子 *.mp3 を指定すると、すべての mp3 ファイルがスクリーニングされ、書き込みできないようにブロックされます。 グループに含めるファイルを入力し、[追加] ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除] ボタンをクリックします。
除外するファイル	[含めるファイル] にて設定しているファイルに対し、その一部を許可したい場合に指定します。 例えば、許可しないファイルで、*.mp3 と指定し、許可するファイルで、test.mp3 と指定した場合、test.mp3 だけは書き込み等が許可されます。 グループから除外するファイルを入力し、[追加] ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除] ボタンをクリックします。

3-2-2　[電子メールメッセージ] 項目で警告メッセージを電子メールで送信するかを設定します。

E:¥e 上のファイル スクリーンのプロパティ
テンプレートからのプロパティのコピー(オプション)(T):
Block Audio and Video Files
コピー(O)
設定 | 電子メール メッセージ | イベント ログ | コマンド | レポート
次の管理者に電子メールを送信する(A):
[Admin Email]
形式は account@domain で、複数のアカウントはセミコロンで区切ってください。
承認されていないファイルを保存しようとしたユーザーに電子メールを送信する(U)
電子メール メッセージ
件名とメッセージに使用するテキストを入力してください。
通知アイコンに関連付けられたファイル スクリーン、ファイル グループ、ユーザーまたはイベントを識別するには、[変数の挿入] を使用してテキストに変数を挿入してください。
件名(S):
[Violated File Group] ファイル グループから承認されていない
メッセージ本文(M):
ユーザー [Source Io Owner] が [Server] サーバー上の [File Screen Path] に [Source File Path] を保存しようとしました。このファイルは [Violated File Group] のファイル グループ内に存在し、このサーバー上では許可されていません。
テキストに挿入する変数を選択してください(V):
[Admin Email]
変数の挿入(I)
電子メールを受け取った管理者の電子メール アドレスを挿入します。
追加電子メールヘッダー(E)...
ヘルプ(H)
OK
キャンセル

項　　目	説　　　　明
次の管理者に電子メールを送信する	管理者に電子メールを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。
承認されていないファイルを保存しようとしたユーザーに電子メールを送信する	対象ユーザへ電子メールを送信する場合に設定します。
件名	電子メールのタイトルを設定します。
メッセージ本文	電子メールの本文を設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を [変数の挿入] ボタンで [管理者の電子メールアドレス] 入力フィールド、[件名] 、[メッセージ本文] の項目に設定します。
追加電子メールヘッダー	電子メールのヘッダーを変更する場合、設定します。

3-2-2-1 [追加電子メールヘッダー] ボタンで [追加電子メールヘッダー] 画面を表示します。

追加電子メール ヘッダー

account@server の形式でアカウント名を入力するかアカウントに挿入する変数を選択してください。複数のアカウントを指定する場合はセミコロンで区切ってください。

差出人(F):

FSRM@domain.nec.co.jp

Cc(C):

Bcc(B):

返信先(R):

テキストに挿入する変数を選択してください(V):

[Source File Owner Email]

変数の挿入(I)

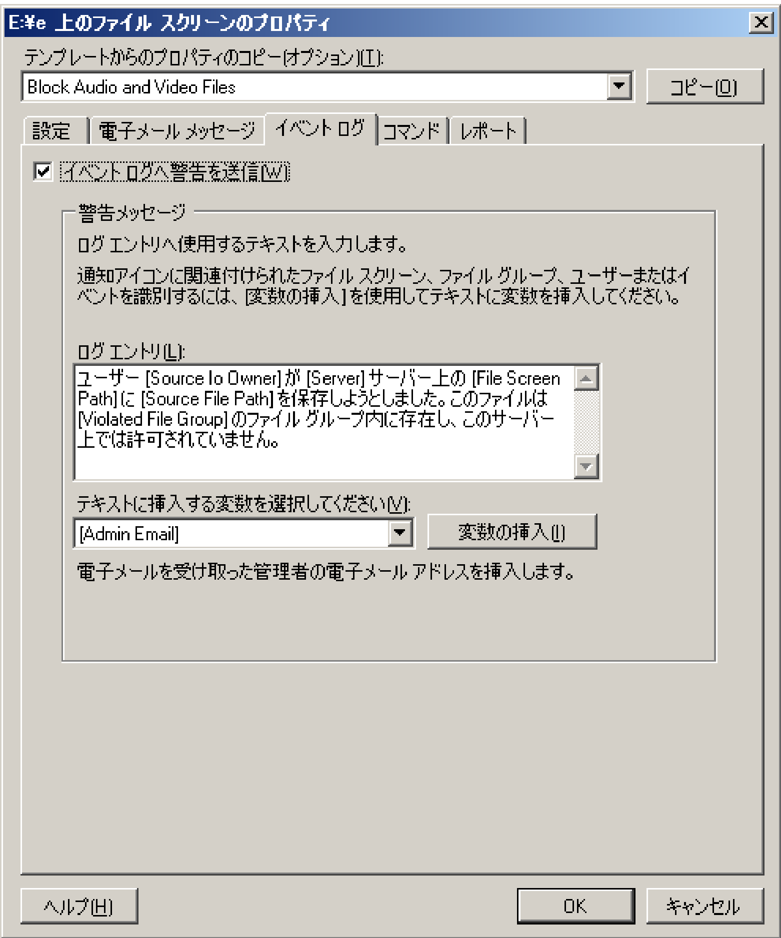
通知の原因となるファイルの所有者の電子メール アドレスを挿入します。

OK

キャンセル

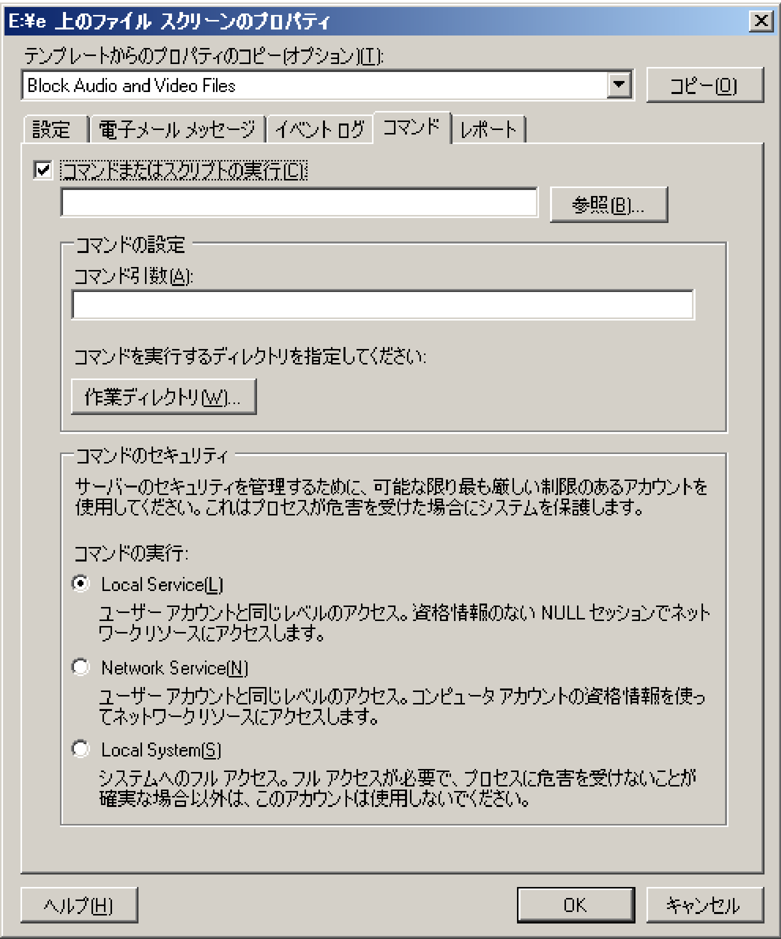
項　　目	説　　　　明
差出人	差出人の電子メールアドレスを設定します。
Cc	Ccで送信する電子メールアドレスを設定します。
Bcc	Bccで送信する電子メールアドレスを設定します。
返信先	返信先の電子メールアドレスを設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を [変数の挿入] ボタンで上記の設定項目に設定します。

3-2-3　[イベントログ] 項目で警告メッセージをイベントログ (アプリケーション) へ警告メッセージを表示するかを設定します。



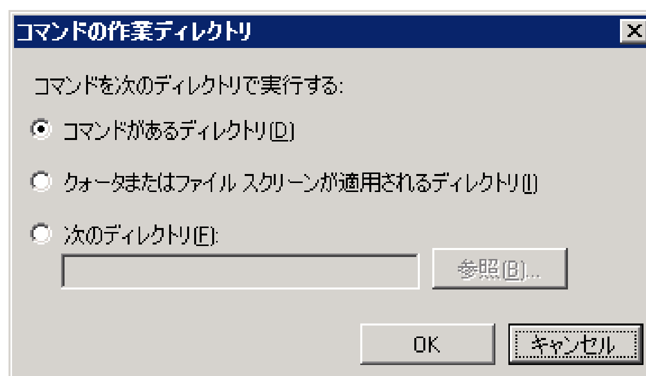
項　　目	説　　　　明
イベントログへ警告を送信	イベントログへ警告メッセージを送信する場合に設定します。
ログエントリ	警告メッセージで表示する内容を設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を [変数の挿入] ボタンで上記の設定項目に設定します。

3-2-4　[コマンド] 項目でファイルスクリーンが動作した際、コマンドを実行するかを設定します。実行する場合、コマンドへのフルパスを設定します。



項　目	説　明
コマンドまたはスクリプトの実行	実行するコマンド、スクリプトを設定します。
コマンド引数	コマンドに引数がある場合、設定します。
[作業ディレクトリ] ボタン	作業ディレクトリを指定する画面を表示します。
コマンドの実行	セキュリティレベルを設定します。 Local Service, Network Service, Local System から選択します。

3-2-4-1. [作業ディレクトリ] ボタンをクリックし、表示される [コマンドの作業ディレクトリ] 画面で作業フォルダを設定します。



3-2-4-2. [コマンドのセキュリティ] では実行コマンドのセキュリティレベルを以下の 3 点より選択し、設定します。

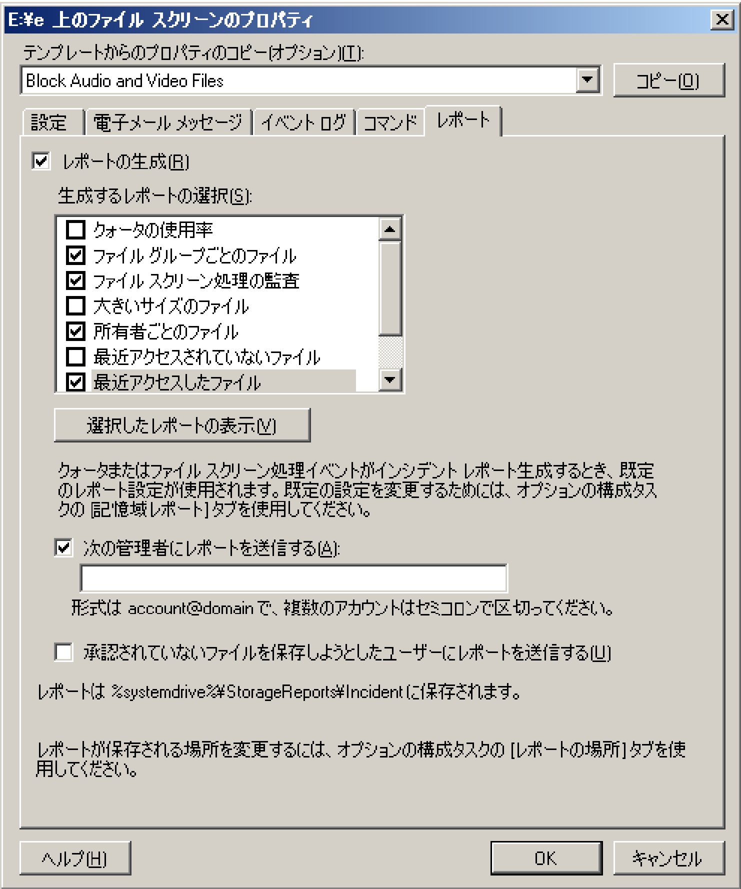
・Local Service

・Network Service

・Local System

 [Local Service] 及び [Network Service] を選択する場合、対象フォルダのアクセス権に Users グループ [ファイルの作成 / データの書き込み] 権限が設定されているとセキュリティ上、動作しません。また、[書き込み] 以上の権限を設定した場合も同様です。
それぞれに対応する [Local Service] アカウント、[Network Service] アカウントをご利用することを推奨します。

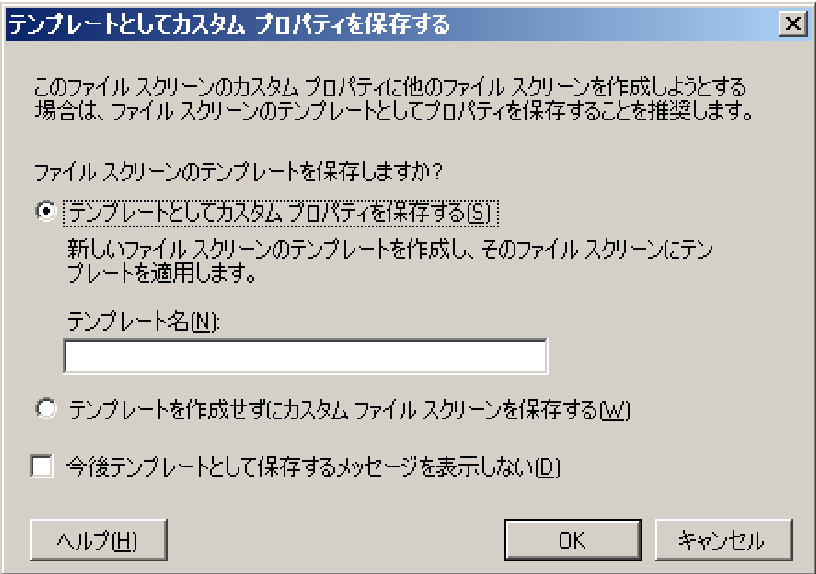
3-2-5　[レポート] 項目でファイルスクリーンが動作した際、レポートを作成するかを設定します。作成する場合、生成するレポートを設定します。



項　目	説　明
レポートの生成	レポートを生成する場合に設定します。その場合、配下の [生成するレポートの選択] 項目で生成するレポートを選択します。
[選択したレポートの表示] ボタン	[生成するレポートの選択] 項目で選択したレポートを表示します。
次の管理者にレポートを送信する	管理者に電子メールでレポートを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。
承認されていないファイルを保存しようとしたユーザーにレポートを送信する	対象ユーザへ電子メールでレポートを送信する場合に設定します。

3-2-6 設定が全て完了したら [OK] ボタンをクリックし、[ファイルスクリーンの作成] 画面に戻ります。

3-2-7 [作成] ボタンをクリックし、ファイルスクリーンを設定します。[テンプレートとしてカスタムプロパティを保存する] 画面が表示され、テンプレートとして保存するか選択します。



項　　目	説　　　　明
テンプレートとしてカスタムプロパティを保存する	設定した内容をテンプレートとして登録する場合、テンプレート名と共に設定します。
テンプレートを作成せずにカスタムファイルスクリーンを保存する	設定した内容はテンプレートとして登録されず、今回作成したファイルスクリーンにのみ設定されます。
今後テンプレートとして保存するメッセージを表示しない	本画面を今後、表示しない場合、設定します。

3.2.1.3 ファイルスクリーンの例外を作成

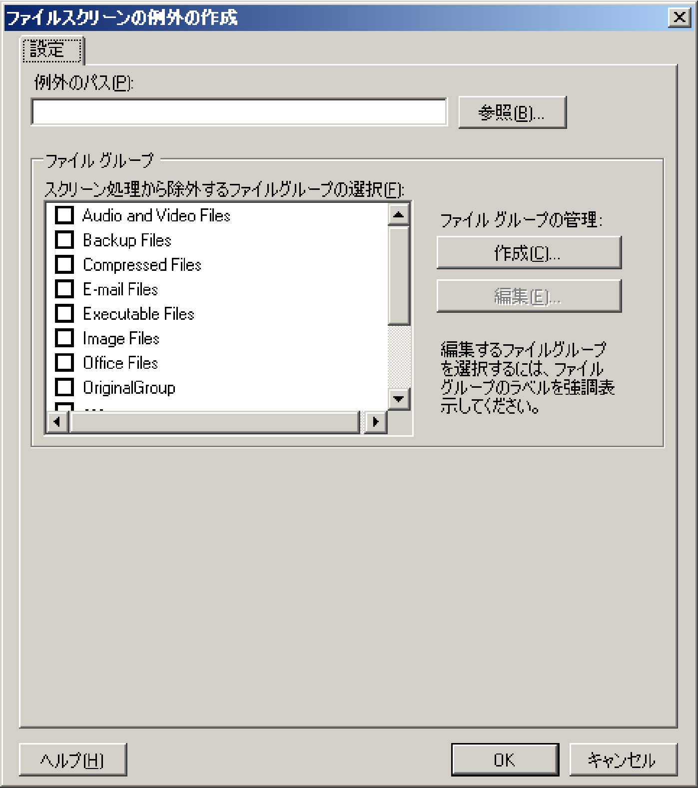
他のファイルスクリーンがブロックしているファイルを許可するには、ファイルスクリーンの例外を作成します。

ファイルスクリーンの例外を作成するには、次の操作を行ないます。

 ファイルスクリーンの例外は、特定のファイルスクリーンには適用されないことに注意してください。また、設定内容は関係するすべてのファイルスクリーン処理に優先します。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [ファイルスクリーンの管理] → [ファイルスクリーン] をクリックします。

2. 操作の一覧で [ファイルスクリーンの例外の作成] をクリックし、[ファイルスクリーンの例外の作成] 画面を表示します。



項　　目	説　　　　明
例外のパス	ファイルスクリーンの例外とするパスを設定します。
[作成] ボタン	ファイルグループを追加します。
[編集] ボタン	選択したファイルグループを編集します。

3. [スクリーン処理から除外するファイルグループの選択] 項目を選択します。また、ファイルグループを新規に作成する場合は [作成] ボタンを、既に作成済みのファイルグループを編集する場合は [編集] ボタンをクリックし、画面を表示します。

ファイル グループのプロパティの作成
設定
ファイル グループ名(F):
FileGroupName
ファイルの設定を選択するには、ファイル名パターンを入力し [追加] をクリックしてください。(例: *.exe または Q4FY2002*.*)
含めるファイル(I):
追加(A) 削除(R)
*.doc
*.txt
除外するファイル(X):
readme.txt
追加(D) 削除(E)
readme.doc
ヘルプ(H) OK キャンセル

項　　目	説　　　　明
ファイルグループ名	ファイルグループ名を設定します。
含めるファイル	書き込みさせないファイルを指定します。 ファイル指定は、名前、または拡張子、あるいはその両方でスクリーニングできます。例えば拡張子 *.mp3 を指定すると、すべての mp3 ファイルがスクリーニングされ、書き込みできないようにブロックされます。 グループに含めるファイルを入力し、[追加] ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。
除外するファイル	[含めるファイル] にて設定しているファイルに対し、その一部を許可したい場合に指定します。 例えば、許可しないファイルで、*.mp3 と指定し、許可するファイルで、test.mp3 と指定した場合、test.mp3 だけは書き込み等が許可されます。 グループから除外するファイルを入力し、[追加] ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除] ボタンをクリックします。

3.2.1.4 更新

作成したファイルスクリーン一覧表示の情報を更新し最新の状態へするには、次の操作を行ないます。

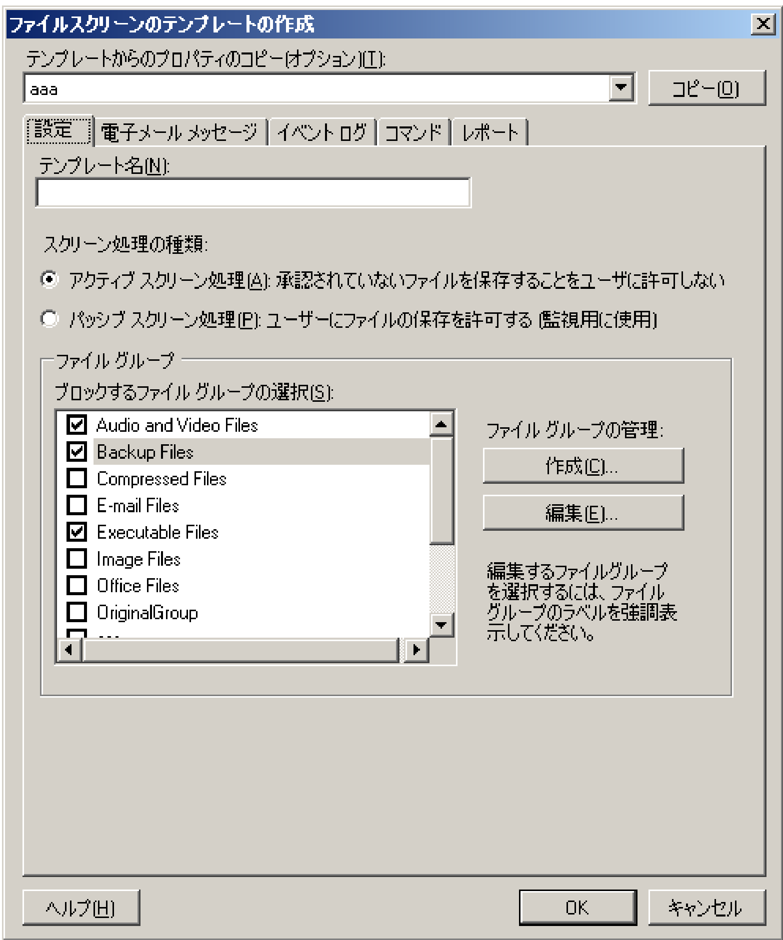
1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [ファイルスクリーンの管理] → [ファイルスクリーン] をクリックします。
2. 操作の一覧で [更新] をクリックします。

3.2.1.5 ファイルスクリーンからのテンプレートを作成

選択中のファイルスクリーンからファイルスクリーンテンプレートを作成するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [ファイルスクリーンの管理] → [ファイルスクリーン] をクリックします。

2. 操作の一覧で [ファイルスクリーンからテンプレートを作成] をクリックします。



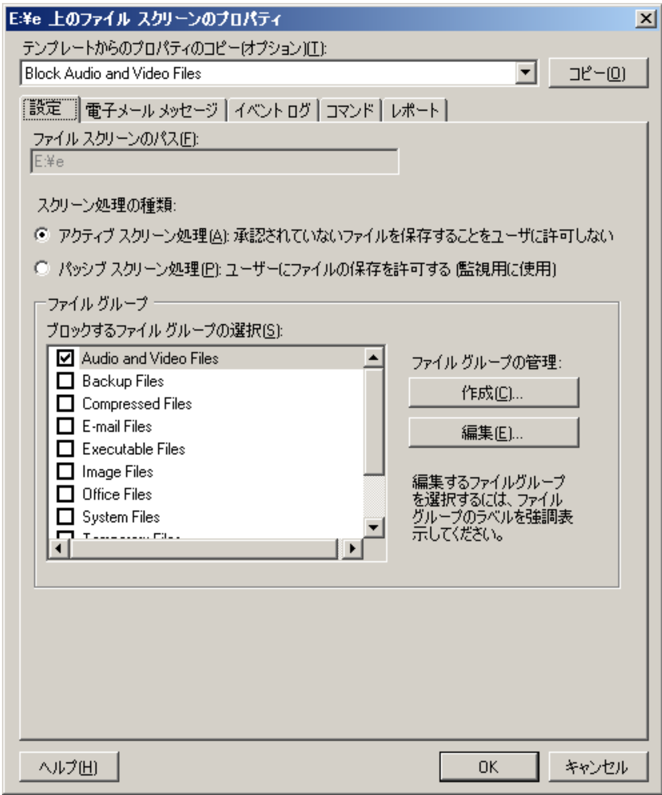
項　　目	説　　　明
テンプレートからのプロパティのコピー	テンプレート一覧より選択し、[コピー] ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が [設定] タブの設定内容にコピーされます。
テンプレート名	テンプレート名を設定します。
アクティブスクリーン処理	許可していないファイルを保存することは不可能と設定します。
パッシブスクリーン処理	許可していないファイルも保存することを可能と設定します。
[作成] ボタン	ファイルグループを追加します。
[編集] ボタン	選択したファイルグループを編集します。

3. [設定] → [テンプレート名] 項目で作成するテンプレート名を設定し、[OK] ボタンをクリックします。なお、選択したファイルスクリーンテンプレートに変更を加えてテンプレートを作成する事も可能です。

3.2.1.6 ファイルスクリーンのプロパティの編集

ファイルスクリーンのプロパティを編集するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [ファイルスクリーンの管理] → [ファイルスクリーン] をクリックします。
2. 編集するファイルスクリーンを選択します。
3. 操作の一覧で [ファイルスクリーンのプロパティの編集] をクリックします。



項　目	説　明
テンプレートからのプロパティのコピー	テンプレート一覧より選択し、[コピー] ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が [設定] タブの設定内容にコピーされます。
アクティブスクリーン処理	許可していないファイルを保存することは不可能と設定します。
パッシブスクリーン処理	許可していないファイルも保存することを可能と設定します。
[作成] ボタン	ファイルグループを追加します。
[編集] ボタン	選択したファイルグループを編集します。

4. 選択したファイルスクリーンテンプレートの設定内容を変更し、[OK] ボタンをクリックします。

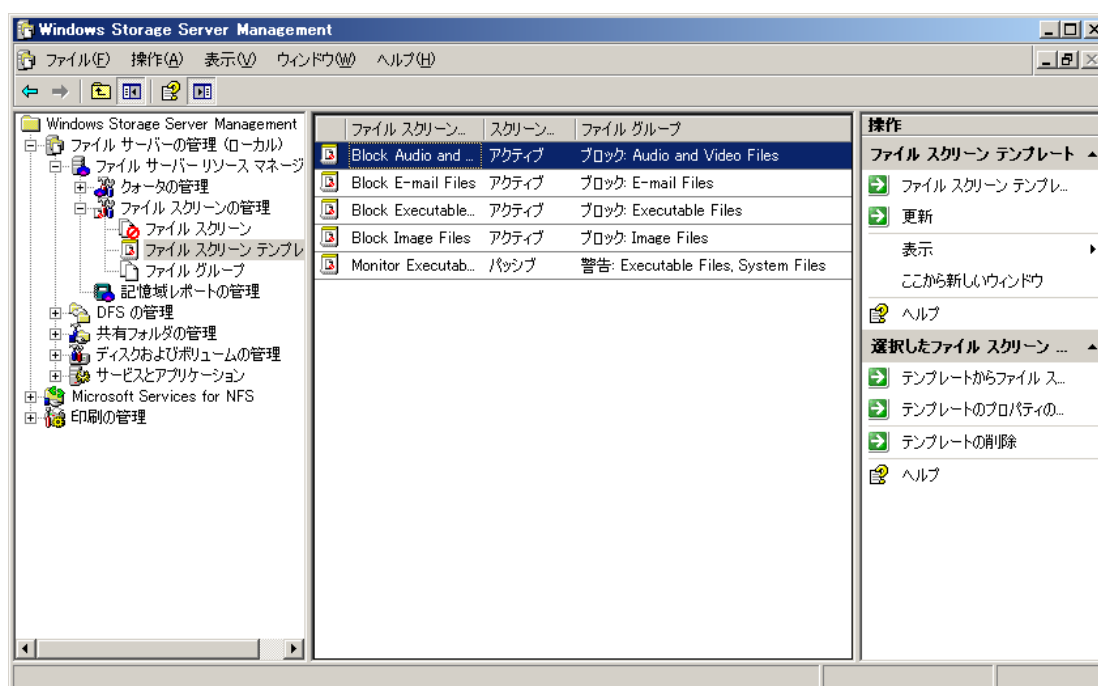
3.2.1.7　ファイルスクリーンの削除

ファイルスクリーンを削除するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [ファイルスクリーンの管理] → [ファイルスクリーン] をクリックします。
2. 削除するファイルスクリーンを選択します。
3. 操作の一覧で [削除] をクリックします。

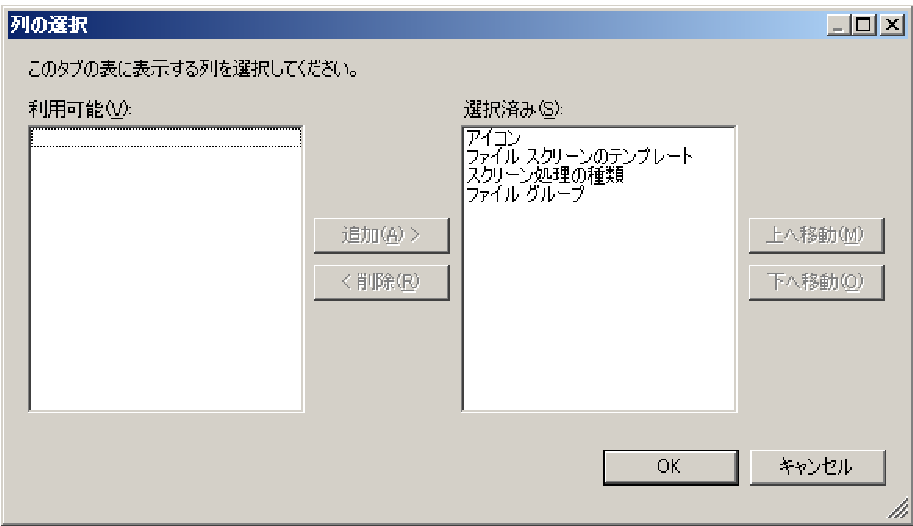
3.2.2　ファイルスクリーンテンプレート

ファイルスクリーン テンプレートは、ファイルスクリーンで使用するためのテンプレートを作成します。ファイルスクリーン テンプレートは、あらかじめ 5 つ定義されていますが、新規にカスタマイズしたものを作成することができます。定義済みのファイルスクリーン テンプレートの詳細については、 [3.2.4定義済み情報] の項目を参照してください。



ファイルスクリーンテンプレート画面で表示される項目一覧は次の通りです。

なお、項目一覧は一覧を右クリックし表示されるポップアップメニューより [列の追加と削除] で表示される画面にて追加/削除が可能です。



項　　目	説　　　　明
アイコン	アイコンが表示されます。
ファイルスクリーンのテンプレート	ファイルスクリーンのテンプレート名が表示されます。
ファイルスクリーン処理の種類	承認されていないファイルの書き込みが不可能な**アクティブ**スクリーン処理・**承認**されていないファイルの書き込み**も**可能なパッシブスクリーン処理のどちらが選択されているかが表示されます。
ファイルグループ	選択されているファイルのグループが表示されます。

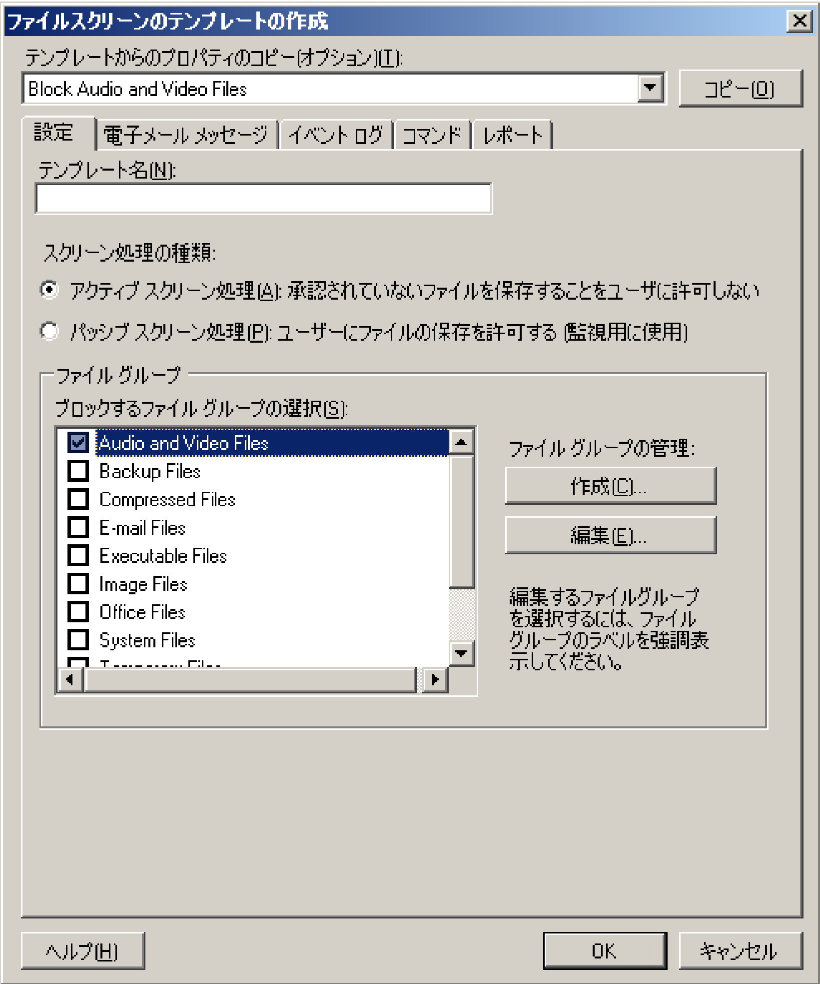
また、任意の列（項目）をクリックすることで、ソートすることも可能です。

3.2.2.1 ファイルスクリーン テンプレートを作成

新規にファイルスクリーンテンプレートを作成するには、次の操作を行ないます。

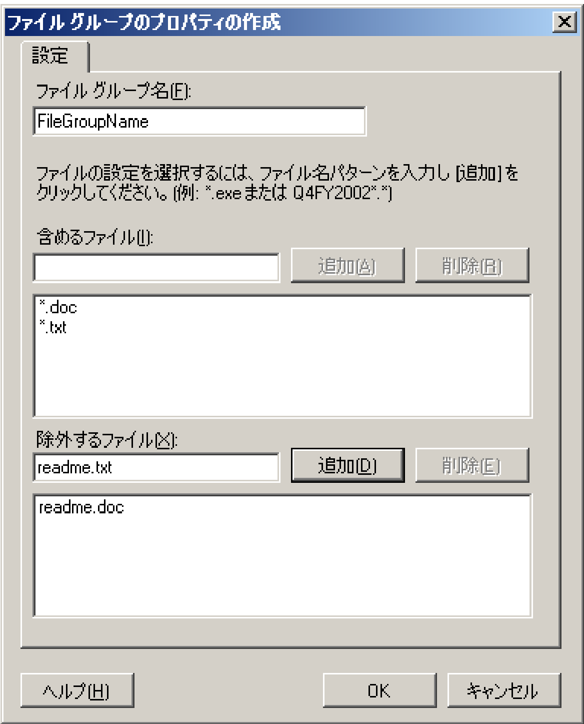
1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [ファイルスクリーンの管理] → [ファイルスクリーンテンプレート] をクリックします。
2. 操作の一覧で [ファイルスクリーンテンプレートを作成] をクリックします。

2-1. [設定] 項目で作成するファイルスクリーンテンプレートを設定します。



項　　目	説　　　　明
テンプレートからのプロパティのコピー	テンプレート一覧より選択し、[コピー] ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が [設定] タブの設定内容にコピーされます。
テンプレート名	テンプレート名を設定します。
アクティブスクリーン処理	許可していないファイルを保存することは不可能と設定します。
パッシブスクリーン処理	許可していないファイルも保存することを可能と設定します。
[作成] ボタン	ファイルグループを追加します。
[編集] ボタン	選択したファイルグループを編集します。

2-1-1. [ブロックするファイルグループの選択] 項目を選択します。また、ファイルグループを新規に作成する場合は [作成] ボタンを、既に作成済みのファイルグループを編集する場合は [編集] ボタンをクリックし、画面を表示します。



項　　目	説　　　　明
ファイルグループ名	作成するファイルグループ名を設定します。
含めるファイル	書き込みさせないファイルを指定します。 ファイル指定は、名前、または拡張子、あるいはその両方でスクリーニングできます。例えば拡張子 *.mp3 を指定すると、すべての mp3 ファイルがスクリーニングされ、書き込みできないようにブロックされます。 グループに含めるファイルを入力し、[追加] ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除] ボタンをクリックします。

項　　目	説　　　　明
除外するファイル	[含めるファイル] にて設定しているファイルに対し、その一部を許可したい場合に指定します。 例えば、許可しないファイルで、*.mp3 と指定し、許可するファイルで、test.mp3 と指定した場合、test.mp3 だけは、書き込み等が許可されます。 グループから除外するファイルを入力し、[追加] ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除] ボタンをクリックします。

2-2. [電子メールメッセージ] 項目でファイルスクリーンが動作した際、管理者宛に電子メールを送信するかを設定します。送信する場合、メールアドレスを設定します。

ファイルスクリーンのテンプレートの作成
テンプレートからのプロパティのコピー(オプション)(T):
Block Audio and Video Files
コピー(O)
設定
電子メール メッセージ
イベント ログ
コマンド
レポート
次の管理者に電子メールを送信する(A):
aaa@localhost
形式は account@domain で、複数のアカウントはセミコロンで区切ってください。
承認されていないファイルを保存しようとしたユーザーに電子メールを送信する(U)
電子メール メッセージ
件名とメッセージに使用するテキストを入力してください。
通知アイコンに関連付けられたファイル スクリーン、ファイル グループ、ユーザーまたはイベントを識別するには、[変数の挿入] を使用してテキストに変数を挿入してください。
件名(S):
[Violated File Group] ファイル グループから承認されていない
メッセージ本文(M):
ユーザー [Source Io Owner] が [Server] サーバー上の [File Screen Path] に [Source File Path] を保存しようとしました。このファイルは [Violated File Group] のファイル グループ内に存在し、このサーバー上では許可されていません。
テキストに挿入する変数を選択してください(V):
[Admin Email]
変数の挿入(I)
電子メールを受け取った管理者の電子メール アドレスを挿入します。
追加電子メールヘッダー(E)...
ヘルプ(H)
OK
キャンセル

項　　目	説　　　　明
次の管理者に電子メールを送信する	管理者に電子メールを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。
承認されていないファイルを保存しようとしたユーザーに電子メールを送信する	対象ユーザへ電子メールを送信する場合に設定します。

項　　目	説　　　　明
件名	電子メールのタイトルを設定します。
メッセージ本文	電子メールの本文を設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を [変数の挿入] ボタンで [管理者の電子メールアドレス] 入力フィールド、[件名] 、[メッセージ本文] の項目に設定します。
追加電子メールヘッダー	電子メールのヘッダーを変更する場合、設定します。

2-2-1. [追加電子メールヘッダー] ボタンで [追加電子メールヘッダー] 画面を表示します。

追加電子メール ヘッダー

account@server の形式でアカウント名を入力するかアカウントに挿入する変数を選択してください。複数のアカウントを指定する場合はセミコロンで区切ってください。

差出人(F):

FSRM@domain.nec.co.jp

Cc(C):

Bcc(B):

返信先(R):

テキストに挿入する変数を選択してください(V):

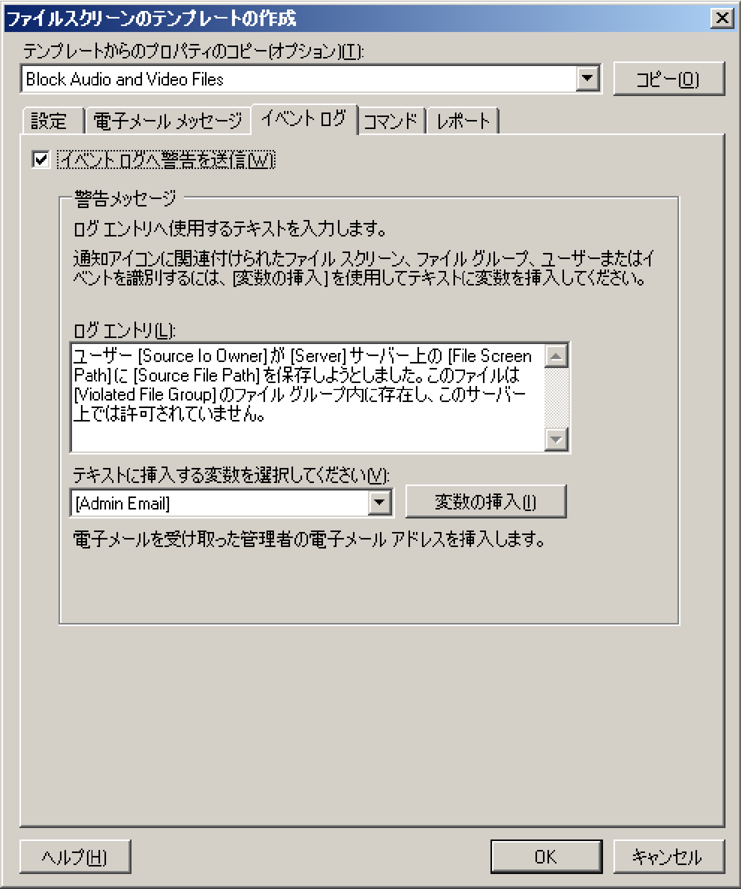
[Source File Owner Email]　変数の挿入(I)

通知の原因となるファイルの所有者の電子メール アドレスを挿入します。

OK　キャンセル

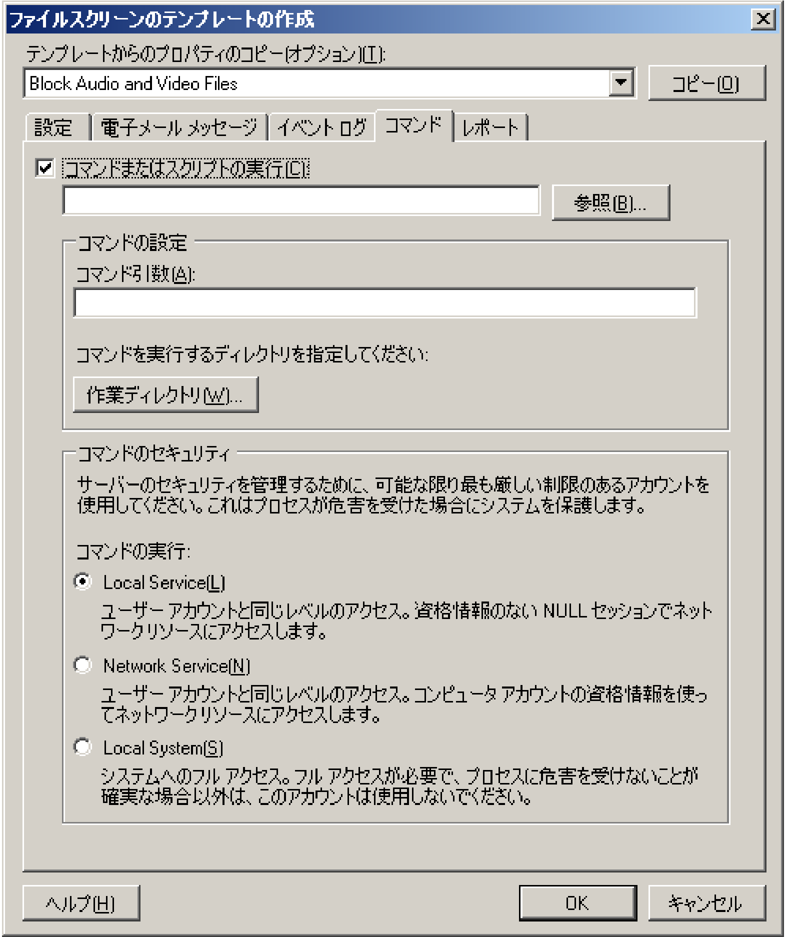
項　　目	説　　　　明
差出人	差出人の電子メールアドレスを設定します。
Cc	Ccで送信する電子メールアドレスを設定します。
Bcc	Bccで送信する電子メールアドレスを設定します。
返信先	返信先の電子メールアドレスを設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を [変数の挿入] ボタンで上記の設定項目に設定します。

2-3. [イベントログ] 項目で警告メッセージをイベントログ (アプリケーション) へ警告メッセージを表示するかを設定します。



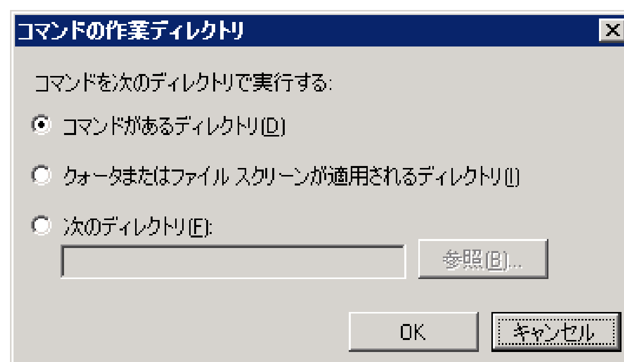
項　　目	説　　　　明
イベントログへ警告を送信	イベントログへ警告メッセージを送信する場合に設定します。
ログエントリ	警告メッセージで表示する内容を設定します。
テキストに挿入する変数を選択してください	リストに表示される変数を [変数の挿入] ボタンで上記の設定項目に設定します。

2-4. [コマンド] 項目でファイルスクリーンが動作した際、コマンドを実行するかを設定します。実行する場合、コマンドへのフルパスを設定します。



項　　目	説　　　　明
コマンドまたはスクリプトの実行	実行するコマンド、スクリプトを設定します。
コマンド引数	コマンドに引数がある場合、設定します。
[作業ディレクトリ] ボタン	作業ディレクトリを指定する画面を表示します。
コマンドの実行	セキュリティレベルを設定します。 Local Service, Network Service, Local Systemから選択します。

2-4-1. [作業ディレクトリ] ボタンをクリックし表示される [コマンドの作業ディレクトリ] 画面で作業フォルダを設定します。



2-4-2. [コマンドのセキュリティ] では実行コマンドのセキュリティレベルを以下の 3 点より選択し、設定します。

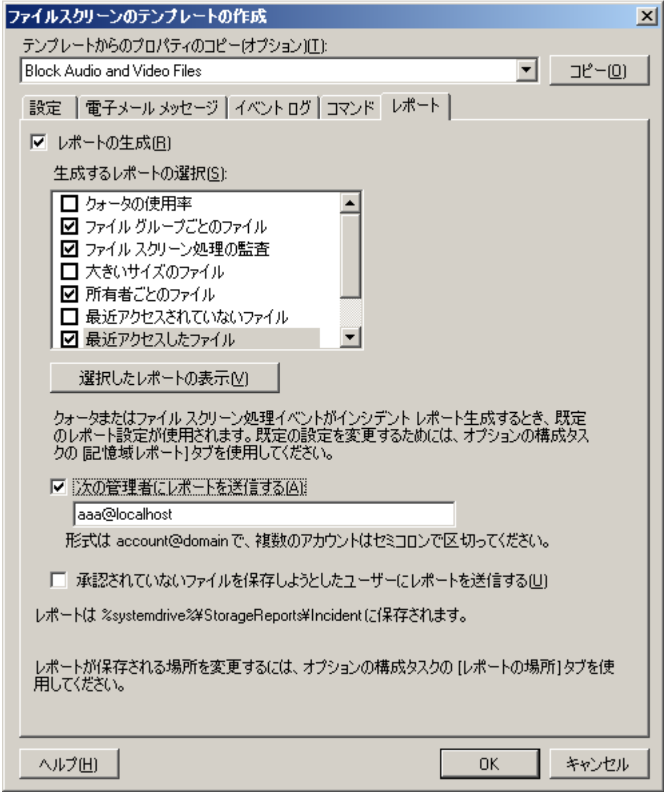
・Local Service

・Network Service

・Local System

 [Local Service] 及び [Network Service] を選択する場合、対象フォルダのアクセス権に Users グループ [ファイルの作成 / データの書き込み] 権限が設定されているとセキュリティ上、動作しません。また [書き込み] 以上の権限を設定した場合も同様です。
それぞれに対応する [Local Service] アカウント、[Network Service] アカウントをご利用することを推奨します。

2-5. [レポート] 項目でファイルスクリーンが動作した際、レポートを作成するかを設定します。作成する場合、生成するレポートを設定します。



項　　目	説　　　　明
レポートの生成	レポートを生成する場合に設定します。その場合、配下の [生成するレポートの選択] 項目で生成するレポートを選択します。
[選択したレポートの表示] ボタン	[生成するレポートの選択] 項目で選択したレポートを表示します。
次の管理者にレポートを送信する	管理者に電子メールでレポートを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。
承認されていないファイルを保存しようとしたユーザーにレポートを送信する	対象ユーザへ電子メールでレポートを送信する場合に設定します。

2-5-1. [レポート] - [生成するレポートの選択] 項目でレポートを選択します。また、[選択したレポートの表示] ボタンをクリックすると現在選択中のレポート内容が表示されます。

2-6. 設定が全て完了したら [OK] ボタンをクリックします。

3.2.2.2 更新

ファイルスクリーンテンプレート一覧表示の情報を更新し、最新の状態へするには次の操作を行ないます。

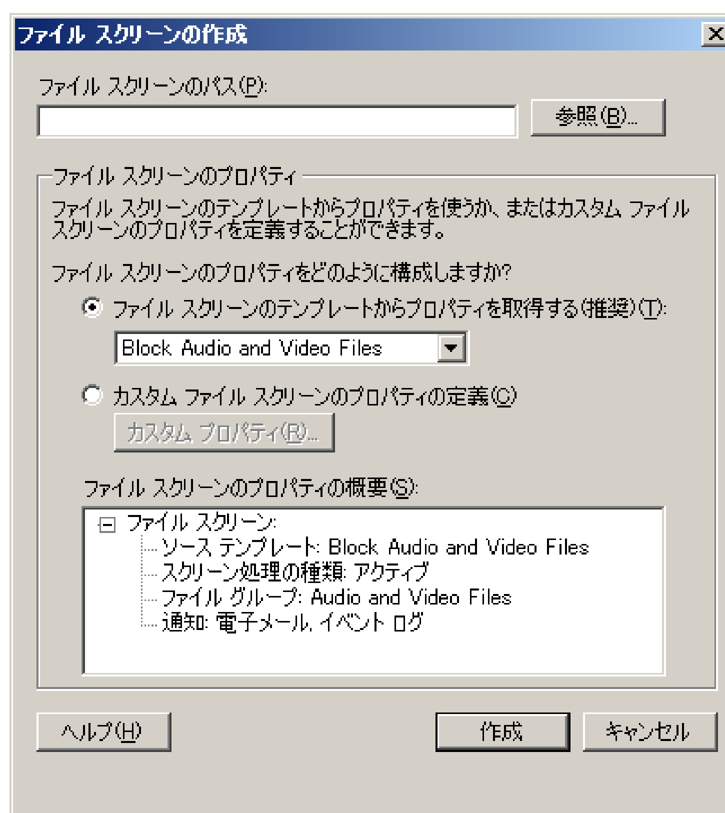
1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [ファイルスクリーンの管理] → [ファイルスクリーンテンプレート] をクリックします。
2. 操作の一覧で [更新] をクリックします。

3.2.2.3 テンプレートからファイルスクリーンを作成

指定するフォルダに対しテンプレートからファイルスクリーンを作成するには、次の操作を行います。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [ファイルスクリーンの管理] → [ファイルスクリーン] をクリックします。
2. 操作の一覧で [ファイルスクリーンの作成] をクリックし、[ファイルスクリーンの作成] 画面を表示します。

3. [ファイルスクリーンのパス] 項目で作成するフォルダを設定し、[作成] ボタンをクリックします。なお、ファイルスクリーンテンプレートに変更を加えてファイルスクリーンを作成する事も可能です。



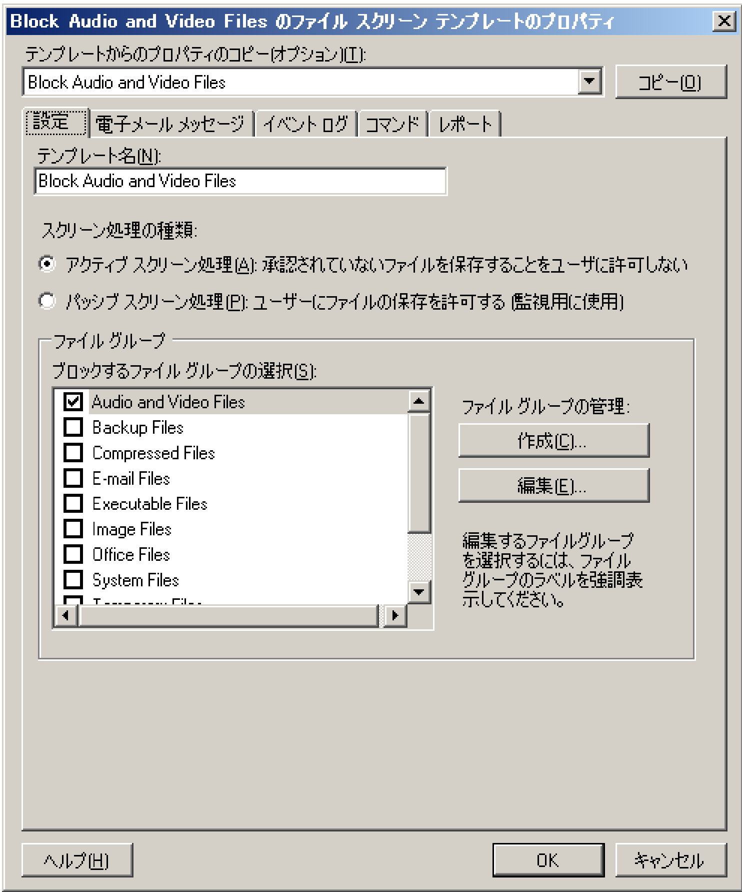
項　　目	説　　　　明
ファイルスクリーンのパス	ファイルスクリーンを設定するフォルダのフルパスを設定します。
クォータのプロパティをどのように構成しますか?	[ファイルスクリーンのテンプレートからプロパティを取得する] および [カスタムファイルスクリーンのプロパティの定義] から選択します。
ファイルスクリーンのテンプレートからプロパティを取得する	配下の一覧より項目を選択します。
カスタムファイルスクリーンのプロパティの定義	[カスタムプロパティ] ボタンをクリックし、設定を行ないます。
ファイルスクリーンのプロパティの概要	設定されたプロパティが表示されます。
[作成] ボタン	上記項目にて設定した条件でクォータを作成します。

3.2.2.4 テンプレートのプロパティの編集

ファイルスクリーンテンプレートのプロパティを編集するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [ファイルスクリーンの管理] → [ファイルスクリーン] をクリックします。
2. 編集するファイルスクリーンテンプレートを選択します。
3. 操作の一覧で [ファイルスクリーンのプロパティの編集] をクリックします。

4. 選択したファイルスクリーンテンプレートの設定内容を変更し、[OK] ボタンをクリックします。



項　　目	説　　　　明
テンプレートからのプロパティのコピー	テンプレート一覧より選択し、[コピー] ボタンをクリックすると選択したテンプレートの設定が [設定] タブの設定内容にコピーされます。
テンプレート名	テンプレート名を設定します。
アクティブスクリーン処理	許可していないファイルを保存することは不可能と設定します。
パッシブスクリーン処理	許可していないファイルも保存することを可能と設定します。
[作成] ボタン	ファイルグループを追加します。
[編集] ボタン	選択したファイルグループを編集します。

3.2.2.5 テンプレートの削除

選択中のファイルスクリーンテンプレートを削除するには、次の操作を行ないます。

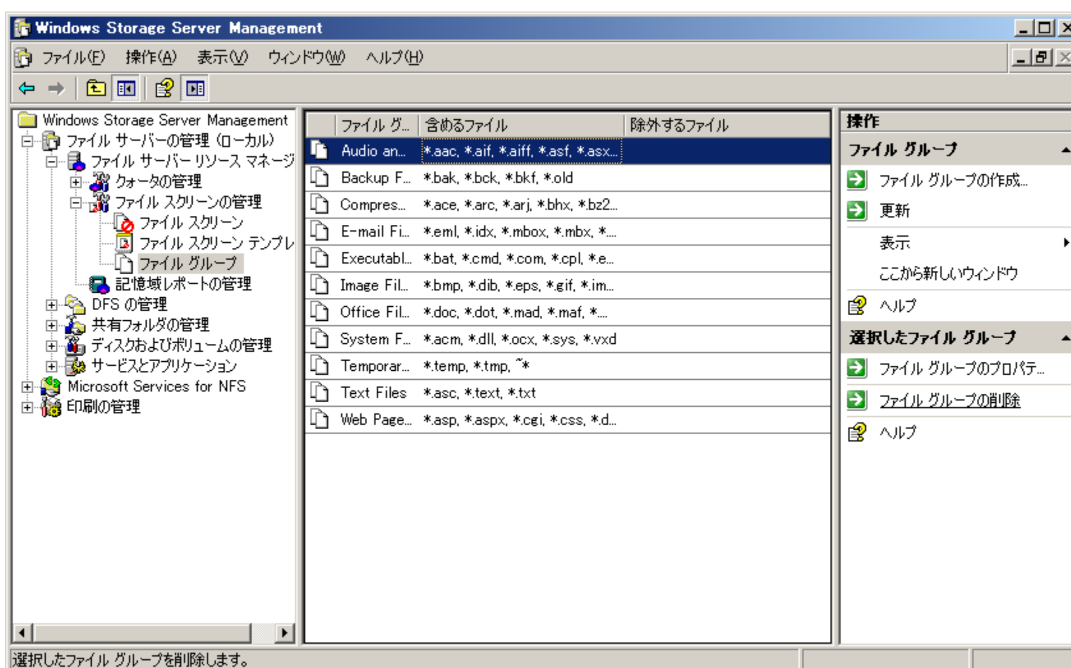
1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [ファイルスクリーンの管理] → [ファイルスクリーンテンプレート] をクリックします。
2. 削除するファイルスクリーンテンプレートを選択します。
3. 操作の一覧で [削除] をクリックします。

3.2.3 ファイルグループ

ファイルグループは、含めるファイルおよび除外するファイル のセットで構成されています。たとえば、グラフィック ファイルというグループに、*.jpg *.bmp を含め、ファイル important.jpg を除外することで important.jpg 以外のファイルを抽出することが可能です。なお、ファイルグループには予め定義済みのグループのセットが含まれていますが、定義済みファイルグループの編集や新たにファイルグループを作成することが可能です。

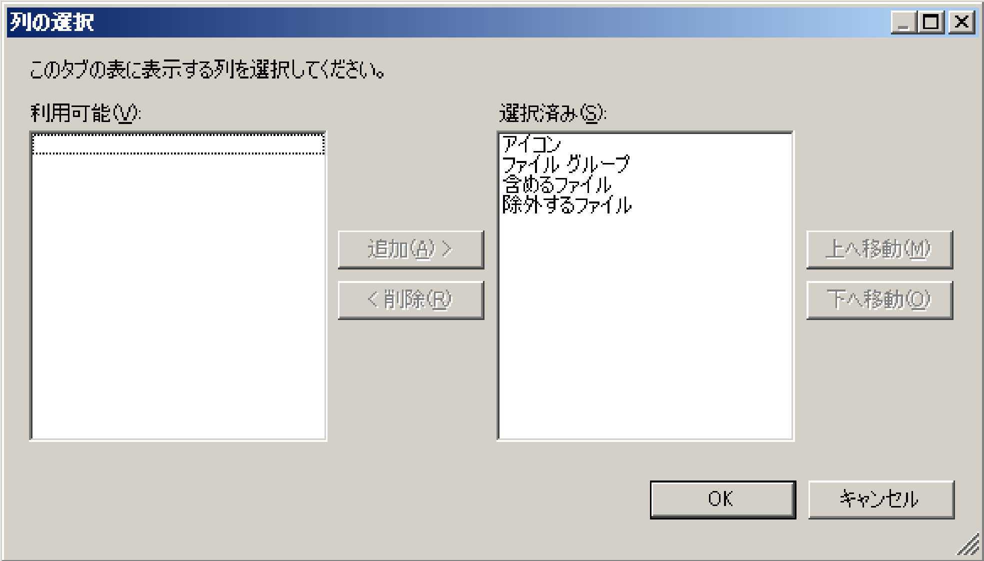
ファイルグループは、含めるファイルの種類および除外するファイルの種類を定義するファイルスクリーン テンプレート内で使用されます。

ファイルグループは、あらかじめ 11 のグループが定義されていますが、新規にカスタマイズしたものを作成することができます。定義済みのファイルグループの詳細については、[3.2.4 定義済み情報] の項目を参照してください。



ファイルグループ画面で表示される項目一覧は次の通りです。

なお、項目一覧は一覧を右クリックし表示されるポップアップメニューより [列の追加と削除] で表示される画面にて追加/削除が可能です。



項　目	説　明
アイコン	アイコンが表示されます。
ファイルグループ	選択されているファイルのグループが表示されます。
含めるファイル	含めるファイルに設定した内容が表示されます。
除外するファイル	除外するファイルに設定した内容が表示されます。

また、任意の列（項目）をクリックすることで、ソートすることも可能です。

3.2.3.1 ファイルグループの作成

ファイルグループを作成するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [ファイルスクリーンの管理] → [ファイルグループ] をクリックします。

2.　操作の一覧で [ファイルグループの作成] をクリックします。

項　　目	説　　　明
ファイルグループ名	作成するファイルグループ名を設定します。
含めるファイル	書き込みさせないファイルを指定します。 ファイル指定は、名前、または拡張子、あるいはその両方でスクリーニングできます。例えば拡張子 *.mp3 を指定すると、すべての mp3 ファイルがスクリーニングされ、書き込みできないようにブロックされます。 グループに含めるファイルを入力し、[追加] ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除] ボタンをクリックします。
除外するファイル	[含めるファイル] にて設定しているファイルに対し、その一部を許可したい場合に指定します。 例えば、許可しないファイルで、*.mp3 と指定し、許可するファイルで、test.mp3 と指定した場合、test.mp3 だけは書き込み等が許可されます。 グループから除外するファイルを入力し、[追加] ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除] ボタンをクリックします。

3.2.3.2 更新

作成したファイルグループの情報を更新し最新の状態へするには、次の操作を行ないます。

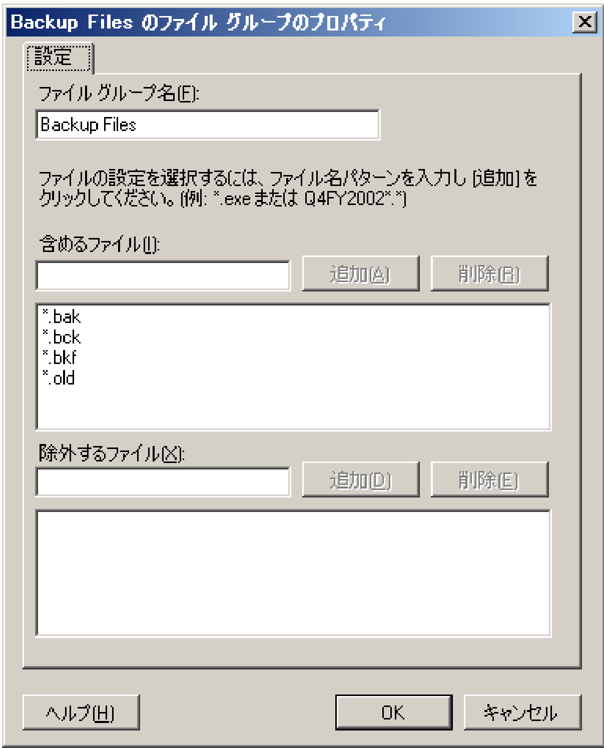
1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [ファイルスクリーンの管理] → [ファイルグループ] をクリックします。
2. 操作の一覧で [更新] をクリックします。

3.2.3.3 ファイルグループのプロパティの編集

ファイルグループを変更するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [ファイルスクリーンの管理] → [ファイルグループ] をクリックします。
2. 編集するファイルグループを選択します。
3. 操作の一覧で [ファイルグループのプロパティの編集] をクリックします。

4. 選択したファイルスクリーンテンプレートの設定内容を変更し、[OK] ボタンをクリックします。



項　　目	説　　　　明
ファイルグループ名	作成するファイルグループ名を設定します。
含めるファイル	書き込みさせないファイルを指定します。 ファイル指定は、名前、または拡張子、あるいはその両方でスクリーニングできます。例えば拡張子 *.mp3 を指定すると、すべての mp3 ファイルがスクリーニングされ、書き込みできないようにブロックされます。 グループに含めるファイルを入力し、[追加] ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除] ボタンをクリックします。
除外するファイル	[含めるファイル] にて設定しているファイルに対し、その一部を許可したい場合に指定します。 例えば、許可しないファイルで、*.mp3 と指定し、許可するファイルで、test.mp3 と指定した場合、test.mp3 だけは書き込み等が許可されます。 グループから除外するファイルを入力し、[追加] ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除] ボタンをクリックします。

3.2.3.4 ファイルグループの削除

ファイルグループを削除するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [ファイルスクリーンの管理] → [ファイルグループ] をクリックします。
2. 削除するファイルグループを選択します。
3. 操作の一覧で [ファイルグループの削除] をクリックします。

3.2.4 定義済み情報

予め定義されているファイルスクリーンテンプレート、ファイルグループ、メッセージ マクロについての情報を示します。

<u>ファイルスクリーンテンプレート</u>

定義済みファイルスクリーンテンプレート名と、設定内容一覧は以下の通りです。

ファイルスクリーンテンプレート名	スクリーン処理の種類	ファイルグループ	その他設定
Block Audio and Video Files	アクティブ	Audio and Video Files	管理者への電子メール：オフ ユーザーへの電子メール：オン 　タイトル ： オフ 　メッセージ本文 ： イベントログへ送信 ： 　ログエントリ ： コマンド ： オフ レポート ： オフ
Block E-mail Files	アクティブ	E-mail Files	管理者への電子メール：オフ ユーザーへの電子メール：オン 　タイトル ： オフ 　メッセージ本文 ： イベントログへ送信 ： 　ログエントリ ： コマンド ： オフ レポート ： オフ

ファイルスクリーンテンプレート名	スクリーン処理の種類	ファイルグループ	その他設定
Block Executable Files	アクティブ	Executable Files	管理者への電子メール：オフ ユーザーへの電子メール：オン タイトル ： オフ メッセージ本文 ： イベントログへ送信 ： ログエントリ ： コマンド ： オフ レポート ： オフ
Block Image Files	アクティブ	Image Files	管理者への電子メール：オフ ユーザーへの電子メール：オン タイトル ： オフ メッセージ本文 ： イベントログへ送信 ： ログエントリ ： コマンド ： オフ レポート ： オフ
Monitor Executable and System Files	パッシブ	Executable Files System Files	管理者への電子メール：オフ ユーザーへの電子メール：オン タイトル ： オフ メッセージ本文 ： イベントログへ送信 ： ログエントリ ： コマンド ： オフ レポート ： オフ

ファイルグループ

定義済みファイルグループと、設定内容一覧は以下の通りです。

ファイルグループ名	含めるファイル	除外するファイル
Audio and Video Files	*.aac , *.aif , *.aiff , *.asf , *.asx , *.au , *.avi , *.flac , *.m3u , *.mid , *.midi , *.mov , *.mp1 , *.mp2 , *.mp3 , *.mp4 , *.mpa , *.mpe , *.mpeg , *.mpeg2 , *.mpeg3 , *.mpg , *.ogg , *.qt , *.qtw , *.ram , *.rm , *.rmi , *.rmvb , *.snd , *.swf , *.vob , *.wav , *.wax , *.wma ,	なし

ファイルグループ名	含めるファイル	除外するファイル
	*.wmv , *.wvx	
Backup Files	*.bak , *.bck , *.bkf , *.old	なし
Compressed Files	*.ace , *.arc , *.arj , *.bhx , *.bz2 , *.cab , *.gz , *.gzip , *.hpk , *.hqx , *.jar , *.lha , *.lzh , *.lzx , *.pak , *.pit , *.rar , *.sea , *.sit , *.sqz ,*.tgz , *.uu , *.uue , *.z , *.zip , *.zoo	なし
E-mail Files	*.eml , *.idx , *.mbox , *.mbx , *.msg , *.ost , *.otf , *.pab , *.pst	なし
Executable Files	*.bat , *.cmd , *.com , *.cpl , *.exe , *.inf , *.js , *.jse , *.msh , *.msi , *.msp , *.ocx , *.pif , *.pl , *.scr , *.vb , *.vbs , *.wsf , *.wsh	なし
Image Files	*.bmp , *.dib , *.eps , *.gif , *.img , *.jfif , *.jpe , *.jpeg , *.jpg , *.pcx , *.png , *.ps , *.psd , *.raw , *.rif , *.spiff , *.tif , *.tiff	なし
Office Files	*.doc , *.dot , *.mad , *.maf , *.mda , *.mdb , *.mdm , *.mdt , *.mdw , *.mdz , *.mpd , *.mpp , *.mpt , *.pot , *.ppa , *.pps , *.ppt , *.pwz , *.rqy , *.rtf , *.rwz , *.slk , *.vdx , *.vsd , *.vsl , *.vss , *.vst , *.vsu , *.vsw , *.vtx , *.wbk , *.wri , *.xla , *.xlb , *.xlc , *.xld , *.xlk , *.xll , *.xlm , *.xls , *.xlt , *.xlv , *.xlw	なし
System Files	*.acm , *.dll , *.ocx , *.sys , *.vxd	なし
Temporary Files	*.temp , *.tmp , ~*	なし
Text Files	*.asc , *.text , *.txt	なし
Web Page Files	*.asp , *.aspx , *.cgi , *.css , *.dhtml , *.hta , *.htm , *.html , *,mht , *.php , *.php3 , *.shtml , *.url	なし

メッセージ マクロ

メッセージ マクロとは、電子メールメッセージやイベントログへメッセージを出力する際、システムで得られる情報を含めるために使用します。

メッセージ マクロを挿入するには、挿入したい場所にカーソルを合わせ、挿入マクロからプルダウンボックスで表示されるメッセージ マクロを選択することで挿入します。

内容は通知メッセージが通知される際に、システムで得られる情報に置換されます。

挿入して使用可能なメッセージ マクロの設定内容一覧は以下の通りです。

なお、メッセージ マクロは予め定義されたものであり設定を変更することはできません。

マクロ名	説　明
[Admin Email]	電子メールを受け取った管理者の電子メールアドレス
[File Screen Path]	ファイルスクリーンのパス
[File Screen Remote Paths]	ファイルスクリーンのリモートパス UNC形式(¥¥server¥share¥)
[File Screen System Path]	ファイルスクリーンのパス 標準形式(¥¥?¥VolumeGUID¥)

[Server Domain]	通知の発生したサーバーのドメイン
[Server]	この通知の発生したサーバー
[Source File Owner Email]	承認されていないファイルの所有者の電子メールアドレス
[Source File Owner]	承認されていないファイルの所有者のユーザー名
[Source File Path]	通知の原因となる承認されていないファイルのパス
[Source File Remote Paths]	通知の原因となるファイルのリモートパス UNC形式
[Source Io Owner Email]	通知の原因となるユーザーの電子メールアドレス
[Source Io Owner]	通知の原因となるファイル I/O の所有者
[Source Process Id]	通知の原因となるプロセスのPID
[Source Process Image]	通知の原因となるプロセスの実行可能ファイル
[Violated File Group]	通知の原因となる承認されていないファイルを含んだファイルグループ

3.2.5 コマンド情報

コマンドラインを使用してファイルスクリーンの設定を行なう場合は、FileScrn コマンドを使用します。詳細は、FileScrn /? を実行してヘルプを参照してください。

3.3 ファイルやサブフォルダを検索する

インデックスサービスはコンテンツやプロパティのインデックス作成および検索を行なうサービスです。インデックスサービスはドキュメントから情報を取り出し、簡単に、しかも高速に検索する機能を提供します。

3.3.1 インデックスサービスとは

インデックスサービスはコンテンツやプロパティのインデックス作成および検索を行なうサービスです。インデックスサービス はドキュメントから情報を取り出し、Window2003 の「検索」コマンド、インデックスサービスのクエリフォーム、Internet Explorer のような Web ブラウザで簡単に、しかも高速に検索する機能を提供します。インデックスサービスは高度なクエリ機能をもち、ユーザは強力な検索機能を使うことができます。

インデックスサービスは検索サービスを公開する機能ももっています。検索ページを作成することでインターネットやイントラネットに公開することができます。

インデックスサービスは継続して実行され、ほとんど保守が必要ないように設計されています。セットアップした後の動作は全て自動的に行なわれます。

3.3.2 インデックスサービスの設定

インデックスサービスは使いやすく、また面倒な保守の必要がないように設計されています。

この章ではインデックスサービスの基本操作を説明します。

3.3.3 カタログ作成

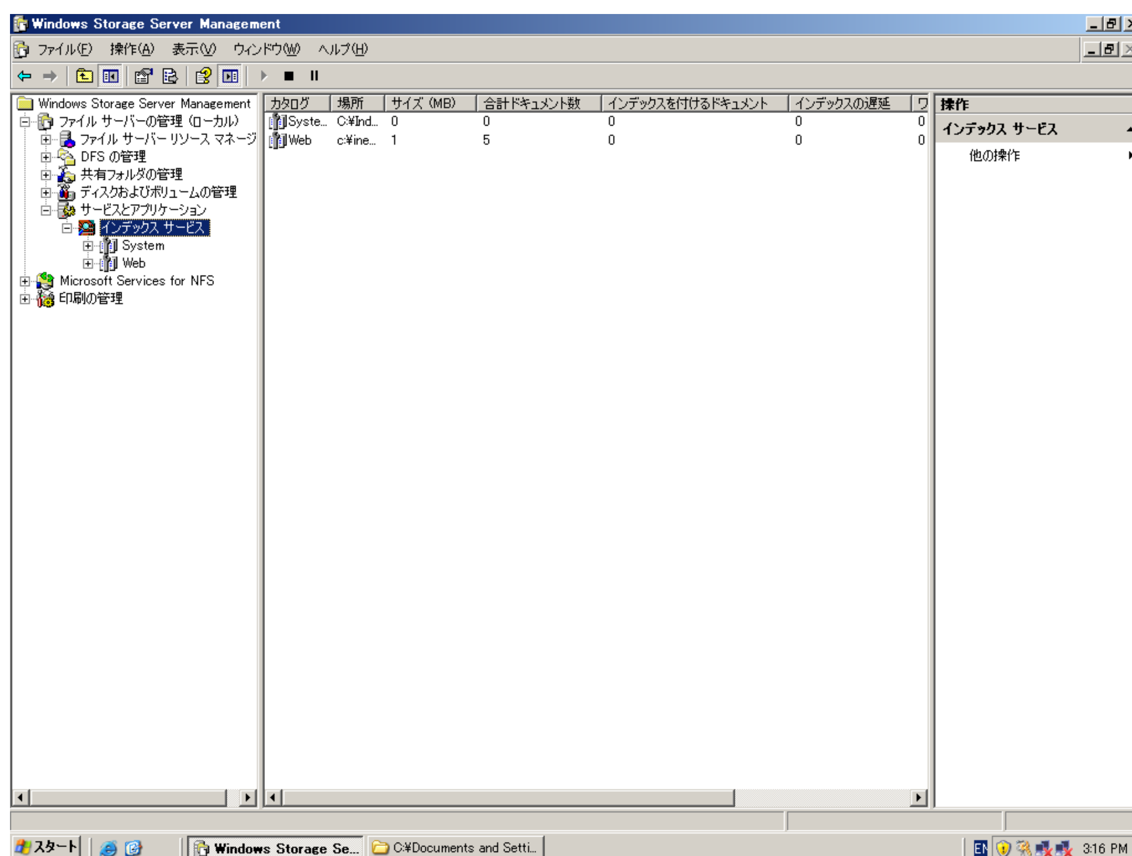
ドキュメントのインデックスはインデックスサービスが自動的に作成します。しかしながら、作成されたインデックスをハードディスクのどのディレクトリに保存するのかはユーザが指定する必要があります。インデックスが保存されるディレクトリのことをカタログといいます。ユーザはカタログの内容を気にする必要はありません。ただ、場所を指定するだけでいいのです。

インストール時に、インデックスサービスは"System"という既定のカタログを作成します。インターネットインフォメーションサービスが検出された場合は、"Web"というカタログも作成されます。

カタログを作成する場合は Windows Storage Server Management を利用します。

1. Windows Storage Server Management から [サービスとアプリケーション] をクリックすると [インデックスサービス] が表示されます。

2. [インデックスサービス] を開くと作成済みのカタログが表示されます。



3. [インデックスサービス] をクリックし、[操作] メニューから [新規作成] → [カタログ] をクリックします。
もしくは [インデックスサービス] を選択し、右クリックするとメニューが表示されます。[新規作成] → [カタログ] をクリックすると次のような画面が表示されます。

カタログの追加

名前:

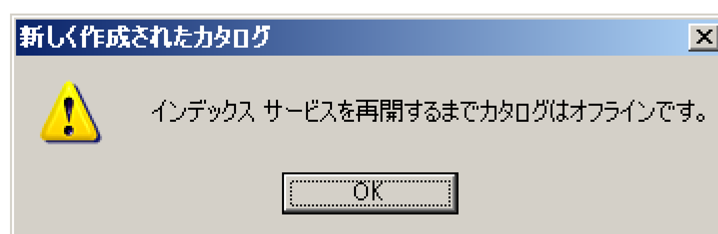
場所:　参照(B)...

OK　キャンセル

4. [名前] には作成するカタログの名前を入力します。 [場所] にはカタログを格納するディレクトリのパスを入力します。[参照] を利用してディレクトリを選択することもできます。

- 後で名前を変更する場合はカタログを作成しなおさなければなりませんので、注意してください。
- 場所にはあらかじめ作成しておいたディレクトリを指定します。

5. [OK] ボタンをクリックすると、次のような警告が表示されることがありますが、今は気にせず進んでください。

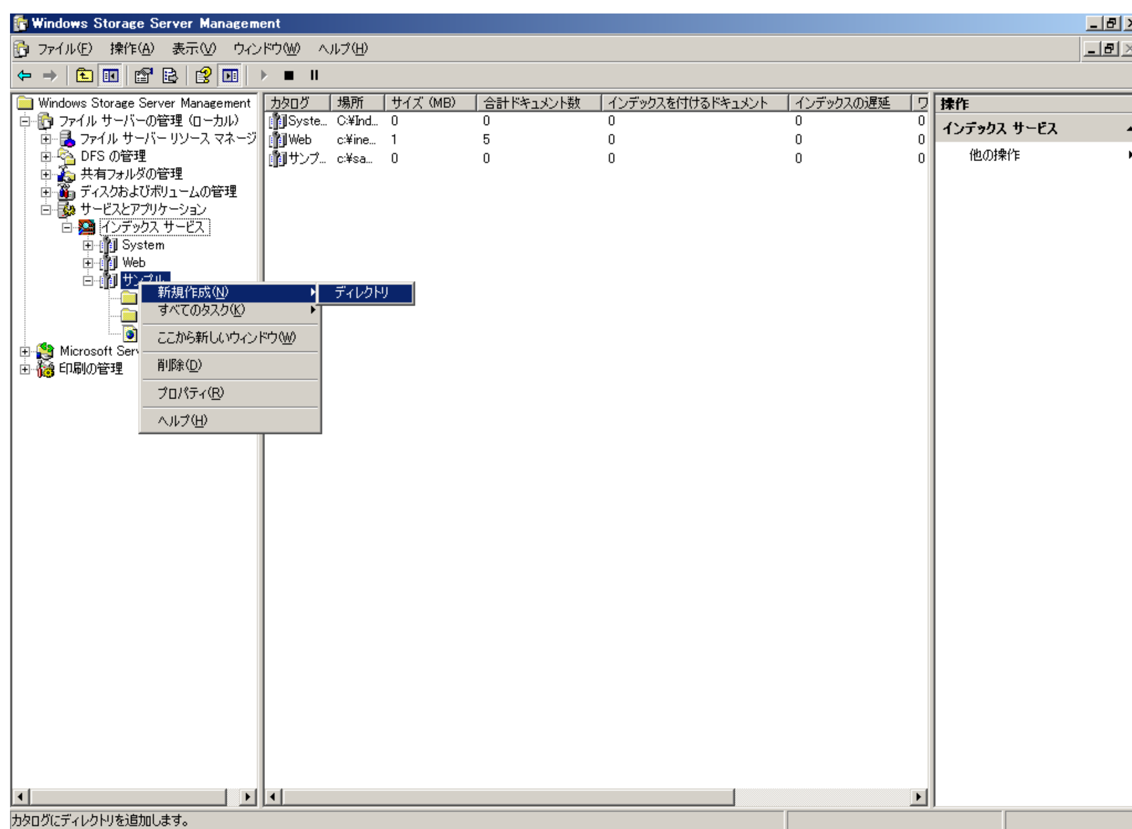


3.3.4　ディレクトリの追加

新しいカタログを作成したら、インデックスを作成するディレクトリを指定します。

インデックスサービスは指定されたディレクトリに格納されているドキュメントファイルのインデックスを作成します。「ディレクトリの追加」とは、インデックスサービスにインデックスを作成させるディレクトリを指定することです。

1. まずは、Windows Storage Server Management を開きます。つづいて、当該カタログのディレクトリを右クリックし、ショートカットメニューの [新規作成] → [ディレクトリ] をクリックします。



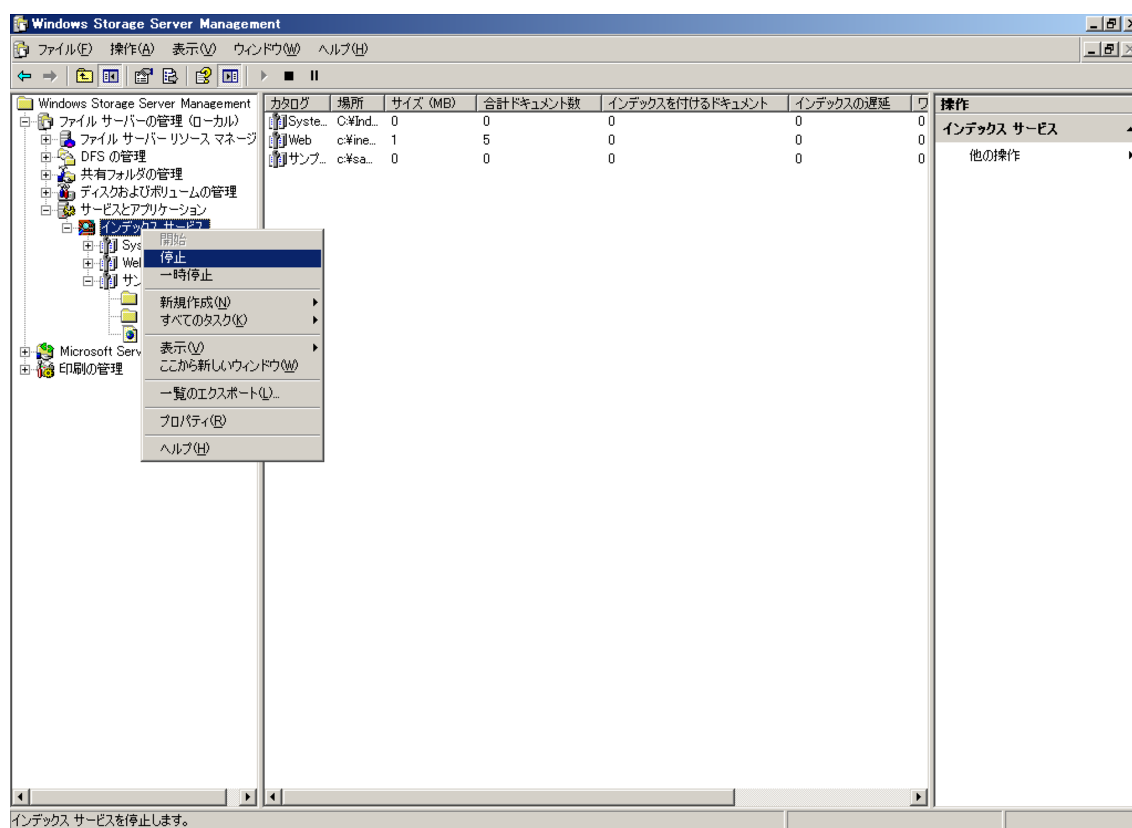
2. 以下のような [ディレクトリの追加] 画面が表示されます。[パス] にはディレクトリへのパスを入力します。[参照] をクリックすると、ディレクトリ一覧が表示されますので、そこから選択しても構いません。エイリアスがある場合は、[エイリアス(UNC)] 欄にディレクトリのエイリアスを入力します。

3. 追加するディレクトリが別のコンピュータにある場合は、[ユーザー名] 欄に、そのコンピュータへのアクセス許可を持つユーザのドメイン名とユーザ名を入力します。ドメイン名とユーザ名は"¥"で区切ります。ディレクトリを追加するにはローカルコンピュータにログオンするアクセス許可が必要です。[パスワード] 欄に、別のコンピュータのユーザ名に関連付けられたパスワードを入力します。

3.3.5　サービスの開始と停止

設定を有効にするためにはインデックスサービスを再起動する必要があります。ここではインデックスサービスの開始と停止の方法を説明します。

1. Windows Storage Server Management を開き、ツリーの [インデックスサービス] を右クリックします。ショートカットメニューに [開始]、[停止] が表示されますので、それぞれにあわせてクリックします。



2. 一旦、インデックスサービスを停止させ、開始させてください。新しく作成したカタログが有効になり、インデックスの作成が始まります。

3.3.6 インデックスサービスの注意事項

- カタログは Web サイトに格納しないでください。カタログファイルが Web のルートまたは仮想ディレクトリの下にある場合、IIS(インターネットインフォメーションサービス)がカタログファイルをロックして、更新を禁止することがあります。この場合、プロセッサの処理能力を占有する無限のインデックス付けループに陥ることもあります。

- 複数のカタログを使う場合は、いずれかのドライブにカタログフォルダを作成し、そのフォルダのサブフォルダに各カタログを格納してください。

- ウイルス対策ソフトウェアのフルスキャンやバックアップソフトウェアを実行する場合は、インデックスサービスを停止してください。これらのソフトウェアはファイルをロックするので、インデックスサービスがそのファイルのインデックス付けを試行するとタイムアウトになります。

3.4 ディスクの使用状況をレポートする

記憶域レポートは、後述の **[レポートについて]** で記載している内容をレポート化し表示します。レポートは、インタラクティブに実行することや、定期的にスケジュールし実行することができます。出力は、既定のディレクトリに保存するほかに、ユーザへ電子メールで送信することもできます。

記憶域レポートには、次の機能があります。

機　　　　能
スケジュールされた記憶域レポート機能
電子メールによるメッセージ通知機能
イベントログへのメッセージ通知機能

[レポートについて]

レポートは、グループとして生成された記憶域レポートの定義済みの一覧です。 記憶域レポートの機能では、次のレポートが用意されています。

レポート	説　　　　明
クォータの使用率	ディスク領域の利用状況が一定のレベルを超えたクォータの一覧を表示します。このレポートを使って、クォータがまもなくレベルを超えるかをすばやく判断し適切な操作をとることができます。
ファイルグループごとのファイル	ファイルグループごとにファイルを一覧表示します。このレポートを使ってファイルグループの使用状況パターンを監視し、大量のディスク領域を占めているファイル グループをすばやく判断することができます。これはサーバでどのようなファイル スクリーン処理ポリシーを構成するかを決定するのに役立ちます。
ファイルスクリーン処理の監査	指定した期間におけるサーバ上のファイル スクリーン処理の監査のイベントを一覧表示します。このレポートを使って、スクリーン処理ポリシーに違反しているアプリケーションやユーザをすばやく判断することができます。
大きいサイズのファイル	指定したサイズ以上のファイルを一覧表示します。このレポートを使ってサーバ上で最も多くのディスク領域を消費しているファイルをすばやく判断することができます。これは、ディスク領域を大量に直ぐに空けるのに役立ちます。
所有者ごとのファイル	ファイルを所有するユーザ順にファイルを一覧表示します。このレポートを使って、サーバのパターンを理解し、大量のディスク領域を使用しているユーザをすばやく判断することができます。
最近アクセスされていないファイル	最近アクセスされていないファイルを一覧表示します。このレポートを使って、古いファイルを削除するかアーカイブするかをすばやく判断することができます。これはあまり使われていないディスク領域を空けるのに役立ちます。
最近アクセスしたファイル	最近アクセスしたファイルを一覧表示します。このレポートを使って、常に利用することが必要な頻繁に使われたデータを判断することができます。
重複しているファイル	重複していると思われる (名前、サイズ、最終更新日時が同じ) ファイルを一覧表示します。このレポートを使って、重複により無駄となっているディスク領域をすばやく判断し、空けることができます。

 ファイルスクリーン処理の監査レポートを表示するためには [オプションの構成] 項目にて予め [監査データベースにファイルスクリーン処理の動作状況を記録する] チェックボックスを有効にする必要があります。設定方法の詳細については、[3.2.1.1 ファイルスクリーンの監査] の項目を参照してください。

[レポート形式について]

レポートの出力ファイル形式として以下の形式が用意されています。

項　　目	説　　　　明
DHTML	ファイルは、Dynamic HTML形式で出力されます。DHTML 形式では要約グラフや詳細情報が表示さます。
HTML	ファイルは、HTML 形式で出力されます。
XML	ファイルは XML 形式で出力されます。
CSV	ファイルは CSV 形式で出力されます。
テキスト	ファイルは テキスト形式で出力されます。

 CSV 形式のファイルは UTF-8 の文字コードを用い出力されます。このため、レポート形式を CSV 形式で作成したファイルを表示する際は UTF-8 に対応するアプリケーションをご利用ください。

[出力されるレポート名について]

出力されるレポートのファイル名の形式は、[レポート名 + 年月日 + 時分秒 + 拡張子] となります。

以下にレポートと対応するレポート名を示します。

レポート	レポート名
クォータの使用率	QuotaUsage**_
ファイルグループごとのファイル	FilesByType**_
ファイルスクリーン処理の監査	FileScreenAudit**_
大きいサイズのファイル	LargeFiles**_
所有者ごとのファイル	FilesbyOwner**_
最近アクセスされていないファイル	LeastRecentlyAccessed**_
最近アクセスしたファイル	MostRecentlyAccessed**_
重複しているファイル	DuplicateFiles**_

※**には数値の番号が自動的に採番されます。

例）概要のレポートセットのファイル名の例

FilesbyOwner22_2006-01-25_17-15-00.htm / FilesbyOwner22_2006-01-25_17-15-00.xml / FilesByType19_2006-01-25_17-15-00.csv / FilesbyOwner22_2006-01-25_17-15-00.txt

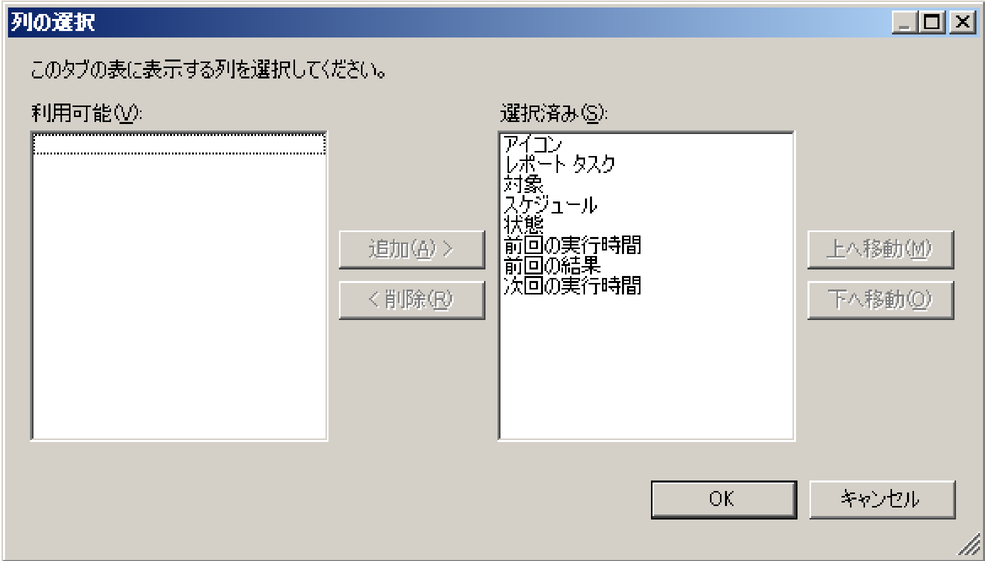
3.4.1　記憶域レポート

記憶域レポートにより、スケジュールやすぐに実行等で実際にレポートの作成を行ないます。



記憶域レポート画面で表示される項目一覧は次の通りです。

なお、項目一覧は一覧を右クリックし、表示される画面より [列の追加と削除] で表示される画面にて追加 / 削除が可能です。



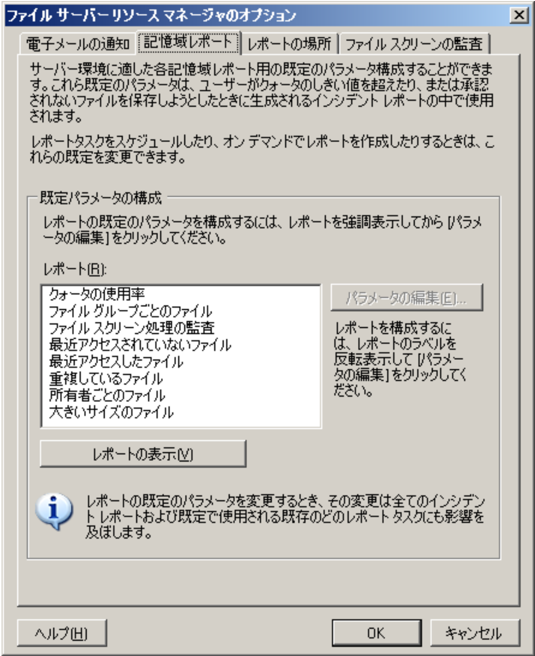
項　目	説　明
アイコン	アイコンが表示されます。指定したフォルダのみを対象とする場合とサブフォルダを含め対象とする場合で異なります。
レポートタスク	選択されたレポートタスクが表示されます。
対象	レポート対象となるフォルダが表示されます。
スケジュール	設定されているスケジュールが表示されます。
状態	現在の実行状態が表示されます。
前回の実行時間	前回実行された日時が表示されます。
前回の結果	前回の実行結果が表示されます。
次回の実行時間	スケジュール済みの次回実行日時が表示されます。

また、任意の列（項目）をクリックすることで、ソートすることも可能です。

3.4.1.1 記憶域レポートのパラメータ

レポートを出力する際に使用する既定のパラメータを設定する場合に利用します。設定には、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] をクリックします。
2. 操作の一覧で [オプションの構成] をクリックし、[ファイルサーバーリソースマネージャのオプション] 画面を表示します。



項　　目	説　　　　　明
レポート	各レポートが表示されます。
パラメータの編集	[レポート] 項目で指定したレポートのパラメータ編集画面が表示されます。
レポートの表示	設定したレポートの内容が表示されます。

3. [記憶域レポート] - [レポート]項目で “クォータの使用率” を選択後、[パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。

項　目	説　明
含まれる最小クォータの使用率	レポート表示対象とするディスク領域の使用率を設定します。

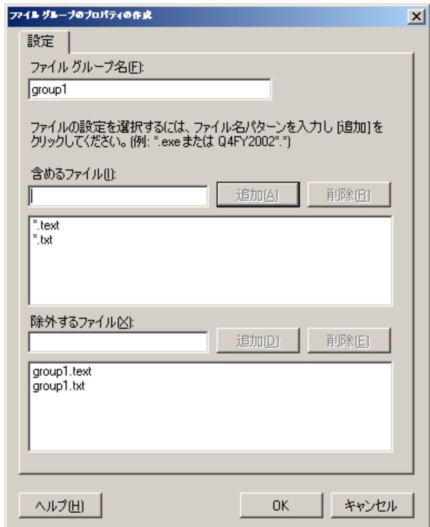
4. [記憶域レポート] - [レポート] 項目で “ファイルグループごとのファイル” を選択後、[パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。

項　目	説　明
次のファイルグループからのファイルを含める	[全てのファイルグループ] もしくは [選択されたファイルグループ] のどちらかを選択
選択されたファイルグループ	配下の一覧より項目を選択

作成ボタン	[選択されたファイルグループ] 項目の一覧へグループを新規作成します。
編集ボタン	[選択されたファイルグループ] 項目の一覧で指定したグループのパラメータ編集画面が表示されます。

4-1. [次のファイルグループからのファイルを含める]項目で対象とするファイルを選択します。

4-1-1. 新しくファイルグループを作成する場合は [作成] ボタンを、既に作成済みのファイルグループを編集する場合は [編集] ボタンをクリックし画面を表示します。



項　　目	説　　　　明
ファイルグループ名	作成するファイルグループ名を設定します。
含めるファイル	書き込みさせないファイルを指定します。 ファイル指定は、名前、または拡張子、あるいはその両方でスクリーニングできます。例えば拡張子 *.mp3 を指定すると、すべてのmp3ファイルがスクリーニングされ、書き込みできないようにブロックされます。 グループに含めるファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。
除外するァイル	“含めるファイル”にて設定しているファイルに対し、その一部を許可したい場合に指定します。 例えば、“許可しないファイル“で、*.mp3と指定し、“許可するファイル”で、test.mp3と指定した場合、test.mp3だけは、書き込み等が許可されます。 グループから除外するファイルを入力し、[追加]ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除]ボタンをクリックします。

5. [記憶域レポート] - [レポート]項目で“ファイルスクリーン処理の監査”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックして [パラメータのレポート] 画面を表示します。

項　　目	説　　　　明
ファイルスクリーン処理イベント発生からの最小日数	ファイルスクリーン処理イベントが発生した日から何日目からを対象とするか設定します。
次のファイルスクリーン処理イベントを含む	[全てのファイルグループ] もしくは [選択されたファイルグループ] のどちらかを選択
選択されたユーザー	[追加] ボタンで対象ユーザーを追加、[削除] ボタンで対象ユーザを削除します。

6. [記憶域レポート] - [レポート]項目で“最近アクセスされていないファイル”を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックして [パラメータのレポート] 画面を表示します。

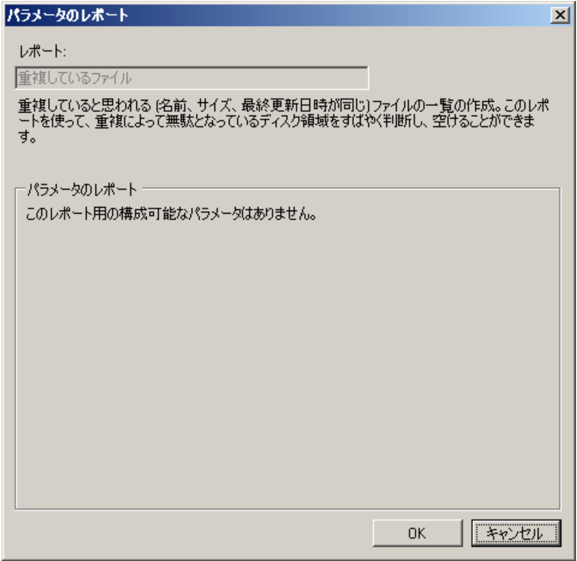
項　　目	説　　　　　明
ファイルの最終アクセスから最小日数	レポートに含める､ファイルの最終アクセス日からの最小日数を指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

7. [記憶域レポート] - [レポート]項目で“最近アクセスしたファイル”を選択後､[パラメータの編集]ボタンをクリックして [パラメータのレポート] 画面を表示します。

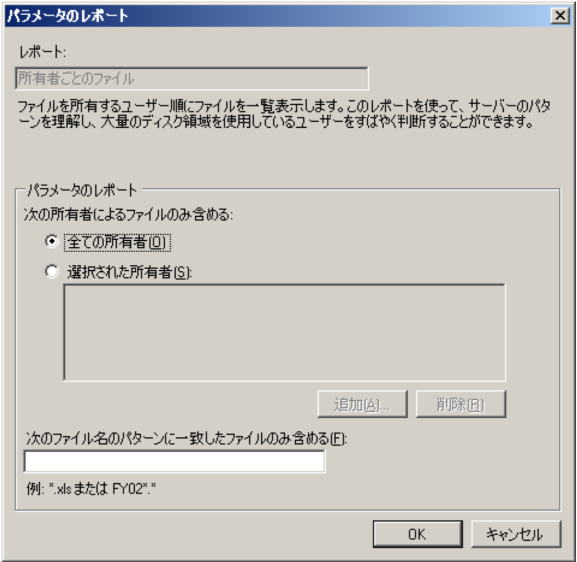
パラメータのレポート
レポート:
最近アクセスしたファイル
最近アクセスしたファイルを一覧表示します。このレポートを使って、常に利用することが必要な頻繁に使われたデータを判断することができます。
パラメータのレポート
ファイルの最終アクセスから最大日数(M):
7
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める(F):
例: *.xls または FY02*.*
OK　キャンセル

項　　目	説　　　　　明
ファイルの最終アクセスから最大日数	レポートに含める、ファイルの最終アクセス日からの最大日数を指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

8. [記憶域レポート] - [レポート] 項目で“重複しているファイル”を選択後、 [パラメータの編集] ボタンをクリックして [パラメータのレポート] 画面を表示します。この項目にパラメータはありません。



9. [記憶域レポート]- [レポート] 項目で“所有者ごとのファイル”を選択後、 [パラメータの編集] ボタンをクリックして [パラメータのレポート] 画面を表示します。



項　　目	説　　　　明
次の所有者によるファイルのみ含める	[全ての所有者]もしくは[選択された所有者] のどちらかを選択します。
選択された所有者	[追加] ボタンで対象ユーザを追加、[削除] ボタンで対象ユーザを削除します。

次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

10. [記憶域レポート] - [レポート]項目で"大きいサイズのファイル"を選択後、[パラメータの編集]ボタンをクリックして [パラメータのレポート] 画面を表示します。

パラメータのレポート

レポート:

大きいサイズのファイル

指定したサイズ以上のファイル一覧を表示します。このレポートを使ってサーバー上で最も多くのディスク領域を消費しているファイルをすばやく判断することができます。これは、ディスク領域を大量に直ぐに空けるのに役立ちます。

パラメータのレポート

最小ファイルサイズ(M):

5.000 MB

次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める(F):

例: *.xls または FY02*.*

OK キャンセル

項　　目	説　　　　　明
最小ファイルサイズ	レポートの対象とする最小のファイルサイズを指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

11. [記憶域レポート] - [レポートの表示]ボタンにて [記憶域レポート] - [レポート] 項目で設定したファイル表示内容を確認します。

選択したレポートの表示

パラメータのレポート(R):

パラメータ	値
クォータの使用率	
クォータ制限の最小割合 (%)	80
ファイル グループごとのファイル	
ファイル グループ	すべて
ファイル スクリーン処理の監査	
イベントからの最小日数 (日)	0
ユーザーごとのイベント	すべて
大きいサイズのファイル	
フィルタ	なし
最小ファイル サイズ	5.00 MB

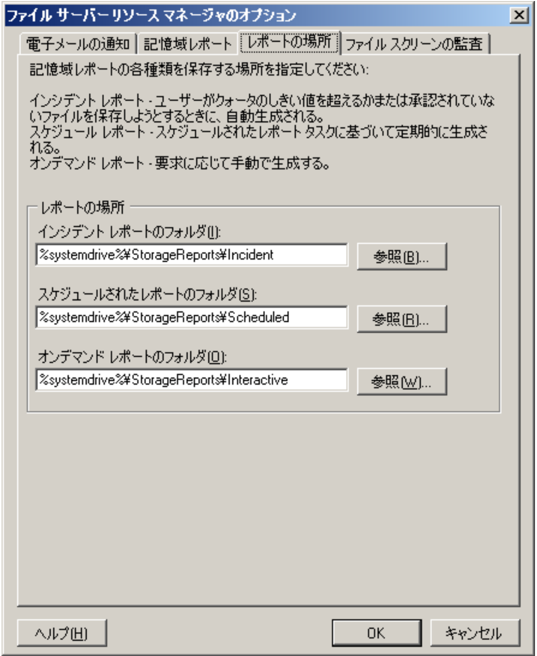
閉じる

3.4.1.2 レポートの場所

記憶域レポートの管理の各レポートを保存するフォルダを設定する場合に利用します。

設定には、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] をクリックします。
2. 操作の一覧で [オプションの構成] をクリックし、[ファイルサーバーリソースマネージャのオプション] 画面を表示します。



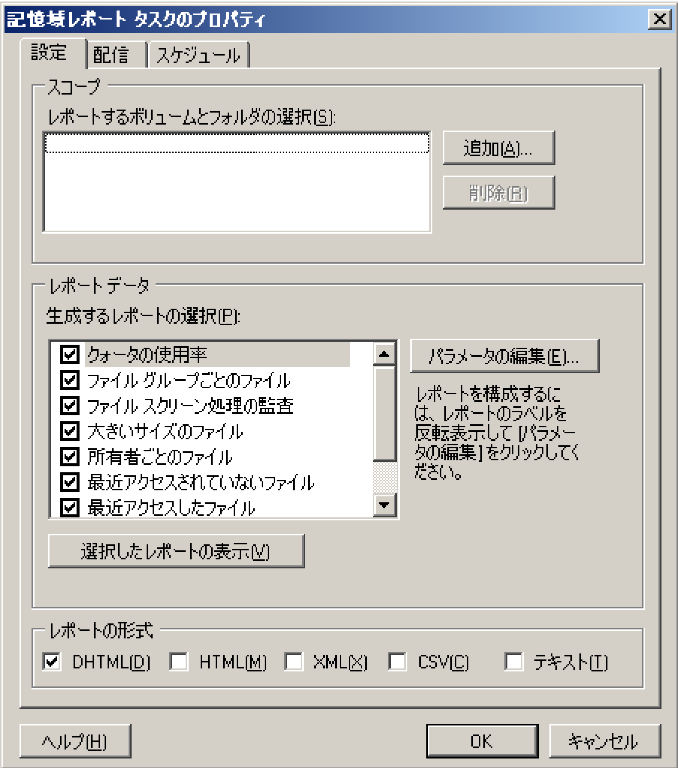
項　　目	説　　　　明
インシデントレポートのフォルダ	クォータのしきい値を超えた場合、または未承認のファイルを保存する場合に生成されるレポートのフォルダを指定します。
スケジュールされたレポートのフォルダ	スケジュールされたレポートタスクに基づいて生成されるレポートのフォルダを指定します。
オンデマンドレポートのフォルダ	手動で生成されるレポートのフォルダを指定します。

3.4.1.3 新しいレポートのタスクのスケジュール

新規に記憶域レポートを作成するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [記憶域レポートの管理] をクリックします。
2. 操作の一覧で [新しいレポートのタスクのスケジュール] をクリックします。

2-1. [設定] タブで作成する記憶域レポートを設定します。



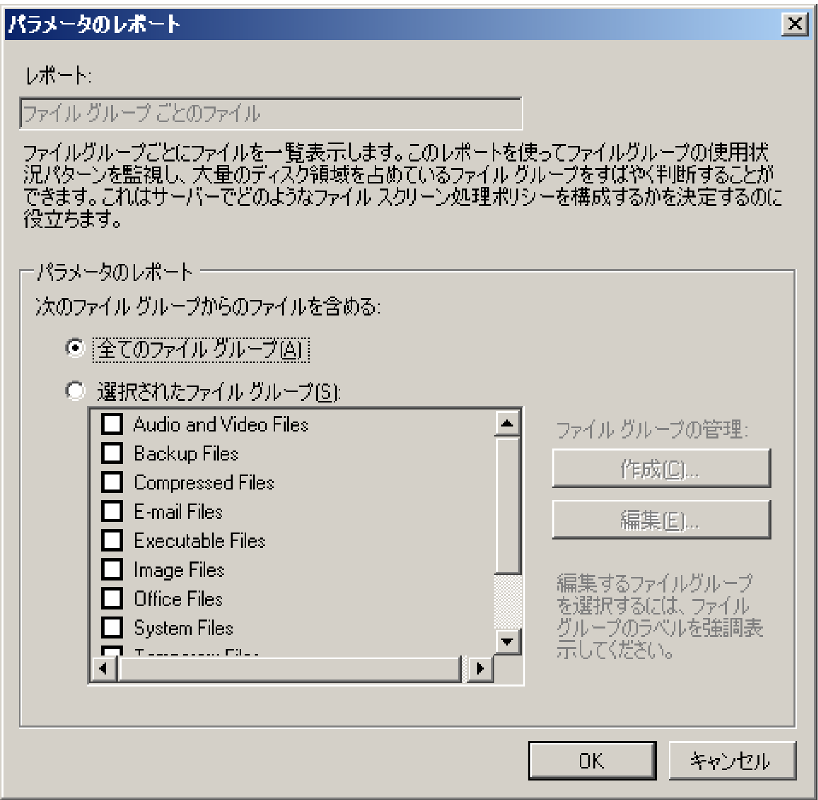
項　　目	説　　　　明
レポートするボリュームとフォルダの選択	[追加] ボタンからレポート対象とするフォルダを設定します。また、[削除] ボタンで選択中の不要なフォルダを削除します。
[生成するレポートの選択] 画面	各レポートが表示されます。
[パラメータの編集] ボタン	[生成するレポートの選択] 画面で指定したレポートのパラメータ編集画面が表示されます。
[選択したレポートの表示] ボタン	設定したレポートの内容が表示されます。
レポートの形式	レポートのファイル形式を指定します。

2-1-1. クォータ使用率の設定パラメータを変更する場合、[クォータの使用率] を選択後、[パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。

パラメータのレポート
レポート:
クォータの使用率
ディスク領域の利用状況が一定のレベルを超えたクォータの一覧を表示します。このレポートを使って、クォータがまもなくレベルを超えるかをすばやく判断し適切な操作をとることができます。
パラメータのレポート
含まれる最小クォータの使用率 (クォータ制限値の割合 (%))(M):
0
OK
キャンセル

項　　目	説　　　　明
含まれる最小クォータの使用率	レポート表示対象とするディスク領域の使用率を設定します。

2-1-2. ファイルグループごとのファイルの設定パラメータを変更する場合、[ファイルグループごとのファイル] を選択後、[パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。



項　　目	説　　　　明
次のファイルグループからのファイルを含める	[全てのファイルグループ] もしくは [選択されたファイルグループ] のどちらかを選択
選択されたファイルグループ	配下の一覧より項目を選択
作成ボタン	[選択されたファイルグループ] 項目の一覧へグループを新規作成します。
編集ボタン	[選択されたファイルグループ] 項目の一覧で指定したグループのパラメータ編集画面が表示されます。

2-1-2-1. [選択されたファイルグループ] 項目を選択した場合、対象とするファイルを設定します。

2-1-2-1-1. 新しくファイルグループを作成する場合は [作成] ボタンを、既に作成済みのファイルグループを編集する場合は [編集] ボタンをクリックし、画面を表示します。

ファイル グループのプロパティの作成
設定
ファイル グループ名(F):
group1
ファイルの設定を選択するには、ファイル名パターンを入力し [追加] をクリックしてください。(例: *.exe または Q4FY2002*.*)
含めるファイル(I):
追加(A) 削除(R)
*.text
*.txt
除外するファイル(X):
追加(D) 削除(E)
group1.text
group1.txt
ヘルプ(H) OK キャンセル

項　　目	説　　　明
ファイルグループ名	作成するファイルグループ名を設定します。
含めるファイル	書き込みさせないファイルを指定します。 ファイル指定は、名前、または拡張子、あるいはその両方でスクリーニングできます。例えば拡張子 *.mp3 を指定すると、すべての mp3 ファイルがスクリーニングされ、書き込みできないようにブロックされます。 グループに含めるファイルを入力し、[追加] ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除] ボタンをクリックします。
除外するファイル	[含めるファイル] にて設定しているファイルに対し、その一部を許可したい場合に指定します。 例えば、許可しないファイルで、*.mp3と指定し、許可するファイルで、test.mp3と指定した場合、test.mp3だけは、書き込み等が許可されます。 グループから除外するファイルを入力し、[追加] ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また、削除する場合は一覧より選択し、[削除] ボタンをクリックします。

2-1-3. ファイルスクリーン処理の監査の設定パラメータを変更する場合、[ファイルスクリーン処理の監査] を選択後、[設定] - [パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。

パラメータのレポート

レポート:

ファイル スクリーン処理の監査

指定した期間におけるサーバー上の監査のファイル スクリーン処理のイベントを一覧表示します。このレポートを使って、スクリーン処理ポリシーに違反しているアプリケーションやユーザーをすばやく判断することができます。

パラメータのレポート

ファイル スクリーン処理イベント発生からの最小日数(M)

0

次のファイル スクリーン処理イベントを含む

全てのユーザー(U)

選択されたユーザー(S):

追加(A)... 削除(R)

OK キャンセル

項　　目	説　　　　明
ファイルスクリーン処理イベント発生からの最小日数	ファイルスクリーン処理イベントが発生した日から何日目からを対象とするか設定します。
次のファイルスクリーン処理イベントを含む	[全てのファイルグループ] もしくは [選択されたファイルグループ] のどちらかを選択
選択されたユーザ	[追加] ボタンで対象ユーザを追加、[削除] ボタンで対象ユーザを削除します。

2-1-4. 最近アクセスされていないファイルの設定パラメータを変更する場合、[最近アクセスされていないファイル] を選択後、[パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。

パラメータのレポート

レポート:

最近アクセスされていないファイル

最近アクセスされていないファイルを一覧表示します。このレポートを使って、古いファイルを削除するかアーカイブするかをすばやく判断することができます。これはディスク領域の使われていない部分を空けるのに役立ちます。

パラメータのレポート

ファイルの最終アクセスから最小日数(M):

90

次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める(F):

例: *.xls または FY02*.*

OK キャンセル

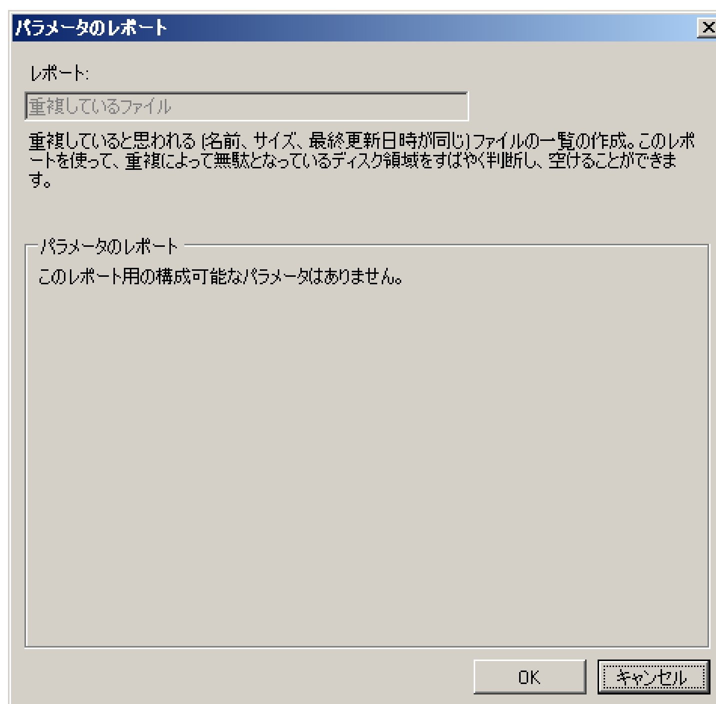
項　　目	説　　　　明
ファイルの最終アクセスから最小日数	レポートに含める、ファイルの最終アクセス日からの最小日数を指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

2-1-5. 最近アクセスしたファイルの設定パラメータを変更する場合、[最近アクセスしたファイル] を選択後、[パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。

パラメータのレポート
レポート:
最近アクセスしたファイル
最近アクセスしたファイルを一覧表示します。このレポートを使って、常に利用することが必要な頻繁に使われたデータを判断することができます。
パラメータのレポート
ファイルの最終アクセスから最大日数(M):
7
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める(F):
例: *.xls または FY02*.*
OK
キャンセル

項　　目	説　　　　明
ファイルの最終アクセスから最大日数	レポートに含める、ファイルの最終アクセス日からの最大日数を指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

2-1-6. 重複しているファイルの設定パラメータを変更する場合、[重複しているファイル] を選択後、[パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。この項目にパラメータはありません。



2-1-7. 所有者ごとのファイルの設定パラメータを変更する場合、[所有者ごとのファイル] を選択後、[パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。

パラメータのレポート
レポート:
所有者ごとのファイル
ファイルを所有するユーザー順にファイルを一覧表示します。このレポートを使って、サーバーのパターンを理解し、大量のディスク領域を使用しているユーザーをすばやく判断することができます。
パラメータのレポート
次の所有者によるファイルのみ含める:
全ての所有者(O)
選択された所有者(S):
追加(A)...
削除(R)
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める(F):
例: *.xls または FY02*.*
OK
キャンセル

項　　目	説　　　　明
次の所有者によるファイルのみ含める	[全ての所有者] もしくは [選択された所有者] のどちらかを選択します。
選択された所有者	[追加] ボタンで対象ユーザを追加、[削除] ボタンで対象ユーザを削除します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

2-1-8. 大きいサイズのファイルの設定パラメータを変更する場合、[大きいサイズのファイル] を選択後、[パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。

パラメータのレポート

レポート:

大きいサイズのファイル

指定したサイズ以上のファイル一覧を表示します。このレポートを使ってサーバー上で最も多くのディスク領域を消費しているファイルをすばやく判断することができます。これは、ディスク領域を大量に直ぐに空けるのに役立ちます。

パラメータのレポート

最小ファイルサイズ(M):

5.000 MB

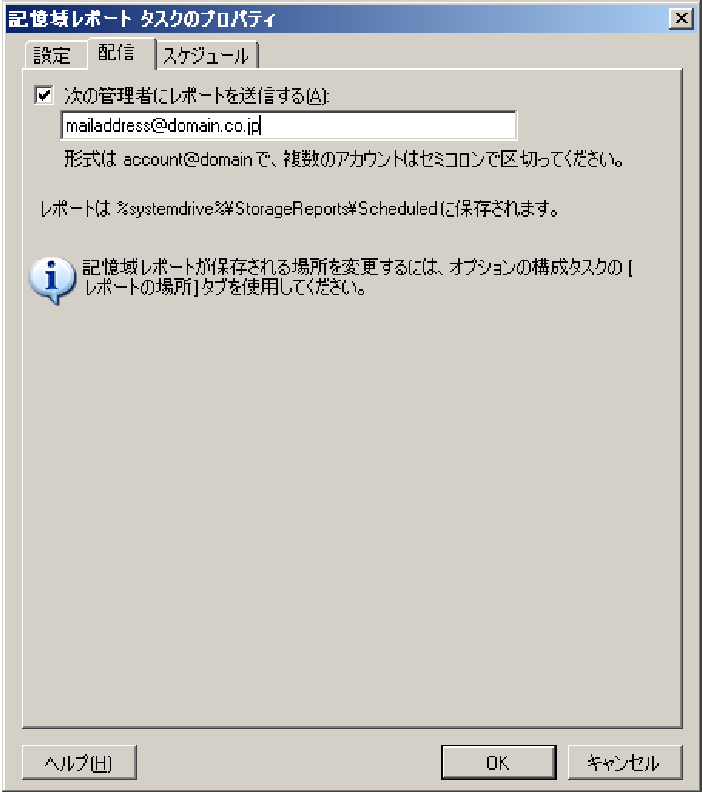
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める(F):

例: *.xls または FY02*.*

OK キャンセル

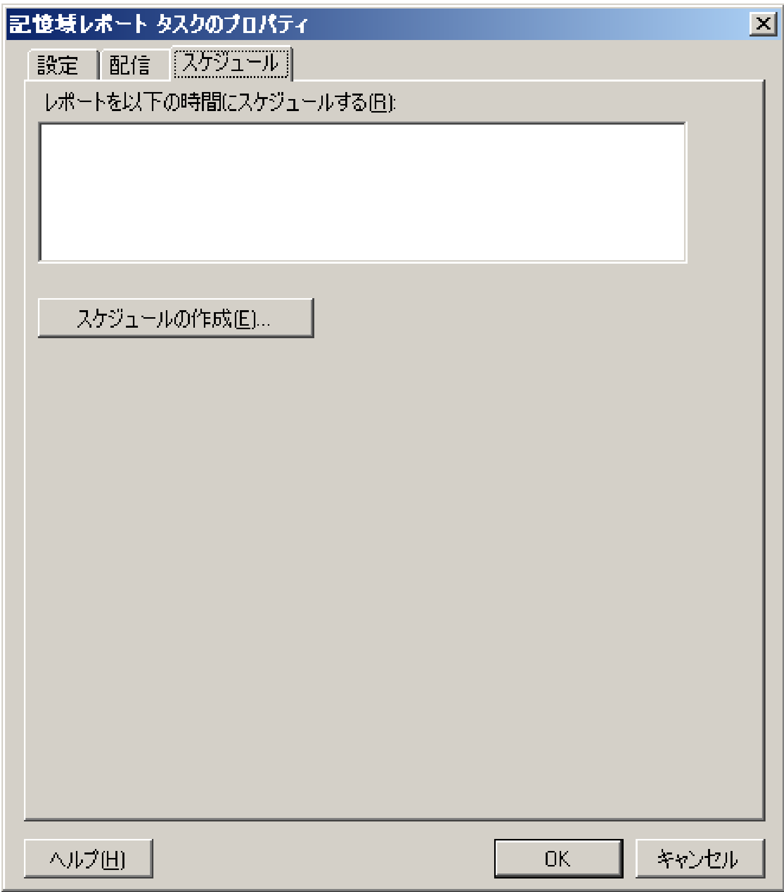
項　　目	説　　　　明
最小ファイルサイズ	レポートの対象とする最小のファイルサイズを指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

2-2. [配信] 項目で電子メールにて管理者へレポートを送信する場合、電子メールアドレスを設定します。



項　　目	説　　　　明
次の管理者にレポートを送信する	管理者に電子メールでレポートを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。

2-3. [スケジュール] 項目で記憶域レポートのスケジュールを設定します。



項　　目	説　　　　明
[スケジュールの作成] ボタン	スケジュール画面を表示します。

2-3-1. [スケジュールの作成] 画面ボタンをクリックすると [スケジュール] 画面が表示されレポートを出力するスケジュールを設定します。

項　　目	説　　　　　明
スケジュールのリスト	設定済みのスケジュールが表示されます。
[新規] ボタン	新規にスケジュールを作成します。複数作成することも可能です。
[削除] ボタン	選択中のスケジュールが削除されます。
タスクのスケジュール	スケジュールの単位を選択します。
開始時刻	スケジュールの開始時刻を設定します。
[詳細設定] ボタン	[スケジュールオプションの詳細設定] 画面を表示します。
間隔	日単位の間隔を設定します。
複数のスケジュールを表示する	[スケジュールのリスト] 項目の表示が一覧表示に変更されます。

2-3-1-1. [詳細設定] ボタンにて [スケジュール オプションの詳細設定] 画面を表示します。

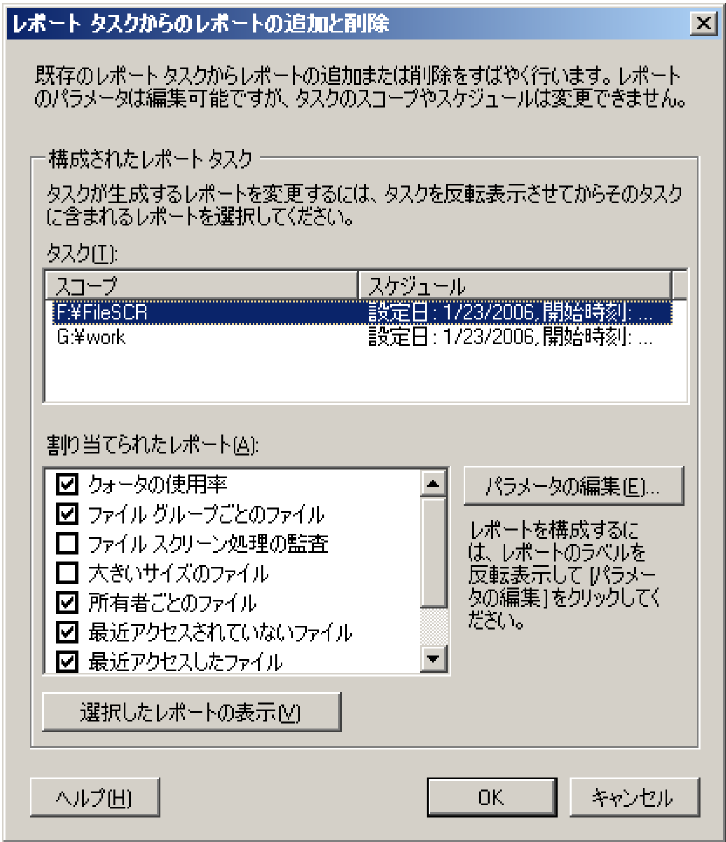
項　　目	説　　　　明
開始日	スケジュール開始日を設定します。
終了日	スケジュール終了日を設定します。
タスクを繰り返し実行	タスクを繰り返し実行する場合、選択し以下の項目で設定します。
間隔	スケジュールを繰り返す間隔を設定します。
終了時間	スケジュールを繰り返す場合の終了時間を [時刻] の指定もしくは [継続時間] の指定により設定します。
タスクが実行中の場合、この時刻で停止する	タスクが実行時は停止する場合、設定します。

2-4. 設定完了後、[OK] ボタンをクリックします。

3.4.1.4 レポートタスク用のレポートの追加と削除

既に作成済みの記憶域レポートタスクへ割り当てられたレポートを追加、削除する事が可能です。変更するには次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [記憶域レポートの管理] をクリックします。
2. 操作の一覧で [レポートタスク用のレポートの追加と削除] をクリックすると [レポートタスクからのレポートの追加と削除] 画面が表示されます。



項　　目	説　　　明
タスク	レポートタスクの一覧から対象とするフォルダを選択します。
[割り当てられたレポート] 画面	各タスクに対するレポートが表示されます。
[パラメータの編集] ボタン	[割り当てられたレポート] 画面で指定したレポートのパラメータ編集画面が表示されます。
[選択したレポートの表示]ボタン	設定したレポートの内容が表示されます。

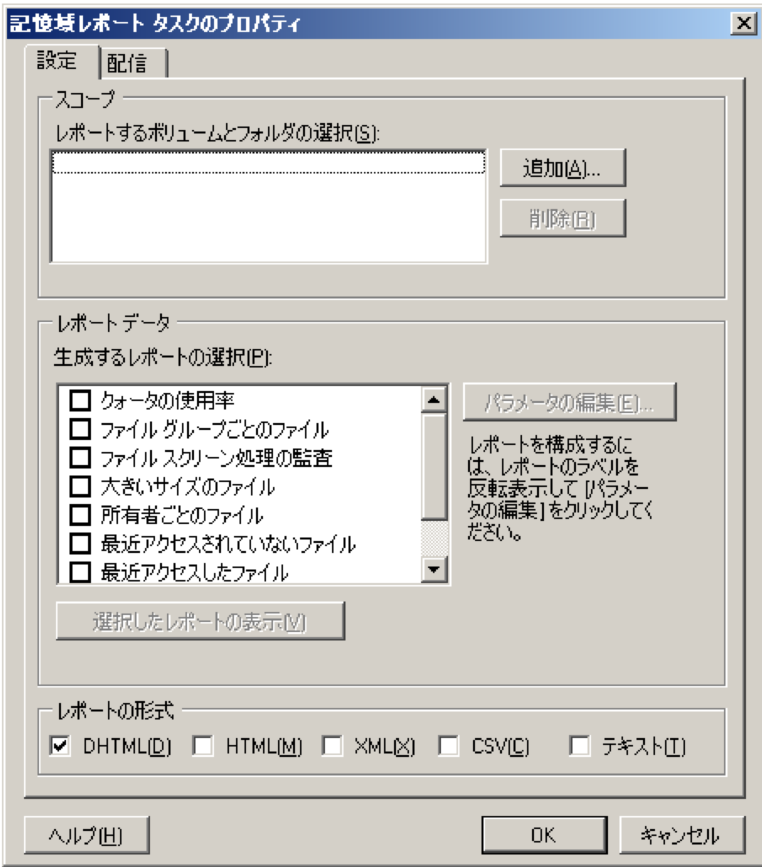
3. [タスク] 項目で設定済みのタスク一覧から対象タスクを選択します。
4. [割り当てられたレポート] 項目で必要なレポートを選択し、[OK] ボタンをクリックします。なお、[パラメータの編集ボタン] をクリックすると選択したレポートを編集することも可能です。

3.4.1.5 レポートを今すぐ生成する

即実行する記憶域レポートを作成するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [記憶域レポートの管理] をクリックします。
2. 操作の一覧で [レポートを今すぐ生成する] をクリックします。

2-1. [設定] タブで作成する記憶域レポートを設定します。



項　　目	説　　　　明
レポートするボリュームとフォルダの選択	レポート対象とするフォルダを設定します。
[生成するレポートの選択] 画面	各レポートが表示されます。
[パラメータの編集] ボタン	[生成するレポートの選択] 画面で指定したレポートのパラメータ編集画面が表示されます。
[選択したレポートの表示]ボタン	設定したレポートの内容が表示されます。
レポートの形式	レポートのファイル形式を指定します。

2-1-1. クォータ使用率の設定パラメータを変更する場合、[クォータの使用率] を選択後、[パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。

パラメータのレポート

レポート:

クォータの使用率

ディスク領域の利用状況が一定のレベルを超えたクォータの一覧を表示します。このレポートを使って、クォータがまもなくレベルを超えるかをすばやく判断し適切な操作をとることができます。

パラメータのレポート

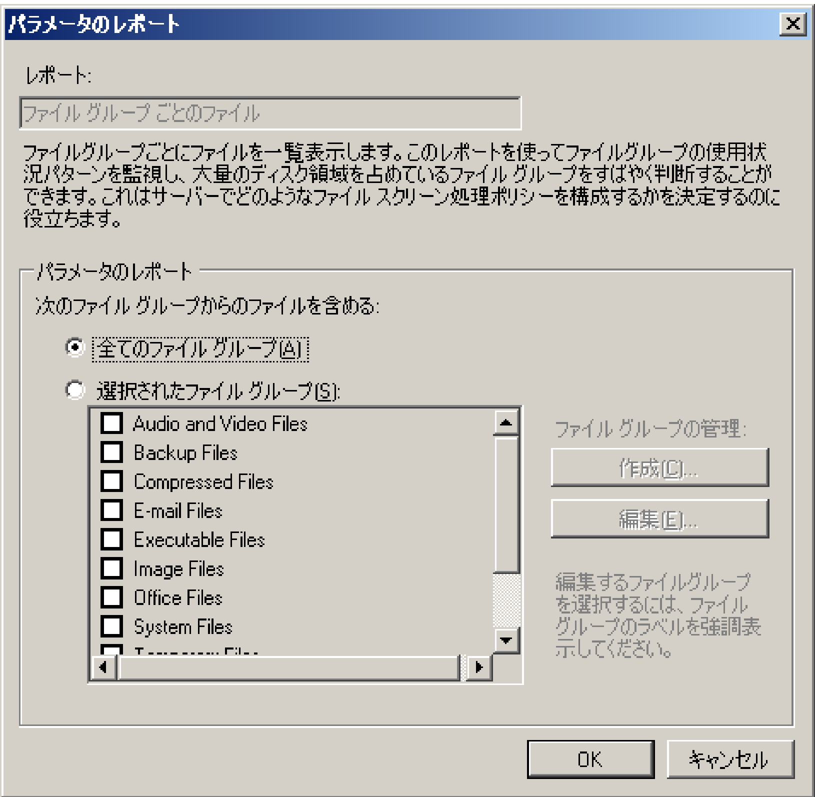
含まれる最小クォータの使用率 (クォータ制限値の割合 [%])(M):

0

OK　キャンセル

項　目	説　明
含まれる最小クォータの使用率	レポート表示対象とするディスク領域の使用率を設定します。

2-1-2. ファイルグループごとのファイルの設定パラメータを変更する場合、[ファイルグループごとのファイル] を選択後、[パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。



項　　目	説　　　　明
次のファイルグループからのファイルを含める	[全てのファイルグループ] もしくは [選択されたファイルグループ] のどちらかを選択
選択されたファイルグループ	配下の一覧より項目を選択
[作成] ボタン	[選択されたファイルグループ] 項目の一覧へグループを新規作成します。
[編集] ボタン	[選択されたファイルグループ] 項目の一覧で指定したグループのパラメータ編集画面が表示されます。

2-1-2-1. [選択されたファイルグループ] 項目を選択した場合、対象とするファイルを設定します。

2-1-2-1-1. 新しくファイルグループを作成する場合は [作成] ボタンを、既に作成済みのファイルグループを編集する場合は [編集] ボタンをクリックし、画面を表示します。

ファイル グループのプロパティの作成

設定

ファイル グループ名(F):

group1

ファイルの設定を選択するには、ファイル名パターンを入力し [追加] をクリックしてください。(例: *.exe または Q4FY2002*.*)

含めるファイル(I):

追加(A) 削除(R)

*.text
*.txt

除外するファイル(X):

追加(D) 削除(E)

group1.text
group1.txt

ヘルプ(H) OK キャンセル

項　　目	説　　　　明
ファイルグループ名	作成するファイルグループ名を設定します。
含めるファイル	書き込みさせないファイルを指定します。 ファイル指定は、名前、または拡張子、あるいはその両方でスクリーニングできます。例えば拡張子 *.mp3 を指定すると、すべてのmp3ファイルがスクリーニングされ、書き込みできないようにブロックされます。 グループに含めるファイルを入力し、[追加] ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除] ボタンをクリックします。
除外するファイル	[含めるファイル] にて設定しているファイルに対し、その一部を許可したい場合に指定します。 例えば、許可しないファイルで、*.mp3と指定し、許可するファイルで、test.mp3と指定した場合、test.mp3だけは、書き込み等が許可されます。 グループから除外するファイルを入力し、[追加] ボタンをクリックすることにより一覧へ追加します。また削除する場合は一覧より選択し、[削除] ボタンをクリックします。

2-1-3. ファイルスクリーン処理の監査の設定パラメータを変更する場合、 [ファイルスクリーン処理の監査] を選択後、[パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。

パラメータのレポート

レポート:

ファイル スクリーン処理の監査

指定した期間におけるサーバー上の監査のファイル スクリーン処理のイベントを一覧表示します。このレポートを使って、スクリーン処理ポリシーに違反しているアプリケーションやユーザーをすばやく判断することができます。

パラメータのレポート

ファイル スクリーン処理イベント発生からの最小日数(M)

0

次のファイル スクリーン処理イベントを含む

全てのユーザー(U)

選択されたユーザー(S):

追加(A)... 削除(R)

OK キャンセル

項　　目	説　　　　明
ファイルスクリーン処理イベント発生からの最小日数	ファイルスクリーン処理イベントが発生した日から何日目からを対象とするか設定します。
次のファイルスクリーン処理イベントを含む	[全てのファイルグループ] もしくは [選択されたファイルグループ] のどちらかを選択
選択されたユーザ	[追加] ボタンで対象ユーザを追加、[削除] ボタンで対象ユーザを削除します。

2-1-4. 最近アクセスされていないファイルの設定パラメータを変更する場合、［最近アクセスされていないファイル］を選択後、[パラメータの編集］ボタンをクリックし、[パラメータのレポート］画面を表示します。

パラメータのレポート

レポート:

最近アクセスされていないファイル

最近アクセスされていないファイルを一覧表示します。このレポートを使って、古いファイルを削除するかアーカイブするかとすばやく判断することができます。これはディスク領域の使われていない部分を空けるのに役立ちます。

パラメータのレポート

ファイルの最終アクセスから最小日数(M):

90

次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める(F):

例: *.xls または FY02*.*

OK　キャンセル

項　　目	説　　　明
ファイルの最終アクセスから最小日数	レポートに含める、ファイルの最終アクセス日からの最小日数を指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

2-1-5. 最近アクセスしたファイルの設定パラメータを変更する場合、 [最近アクセスしたファイル] を選択後、[パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。

パラメータのレポート

レポート:

最近アクセスしたファイル

最近アクセスしたファイルを一覧表示します。このレポートを使って、常に利用することが必要な頻繁に使われたデータを判断することができます。

パラメータのレポート

ファイルの最終アクセスから最大日数(M):

7

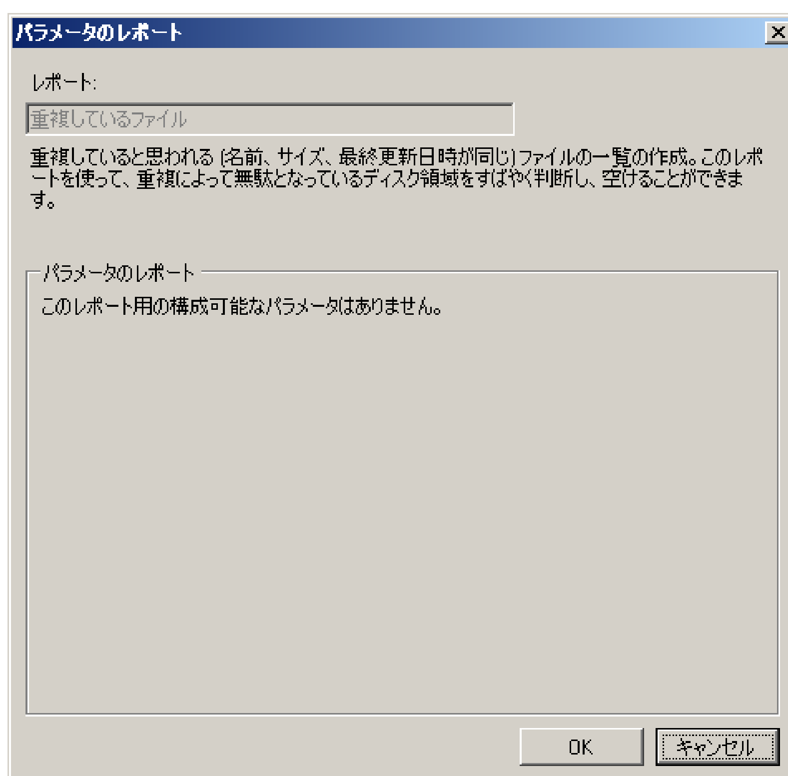
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める(F):

例: *.xls または FY02*.*

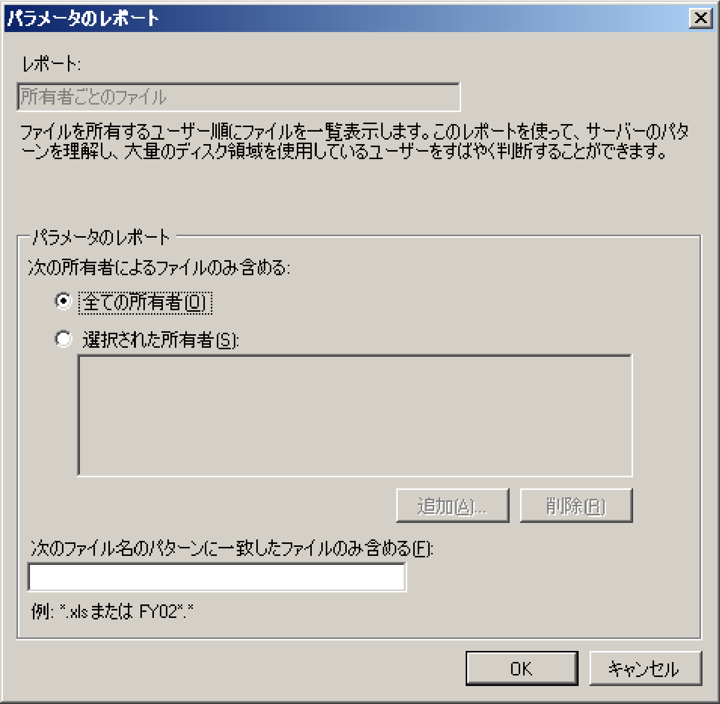
OK　キャンセル

項　　目	説　　　　明
ファイルの最終アクセスから最大日数	レポートに含める、ファイルの最終アクセス日からの最大日数を指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

2-1-6. 重複しているファイルの設定パラメータを変更する場合、[重複しているファイル] を選択後、[パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。この項目にパラメータはありません。



2-1-7. 所有者ごとのファイルの設定パラメータを変更する場合、[所有者ごとのファイル] を選択後、[パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。



項　　目	説　　　　明
次の所有者によるファイルのみ含める	[全ての所有者] もしくは [選択された所有者] のどちらかを選択します。
選択された所有者	[追加] ボタンで対象ユーザを追加、[削除] ボタンで対象ユーザを削除します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

2-1-8. 大きいサイズのファイルの設定パラメータを変更する場合、[大きいサイズのファイル] を選択後、[パラメータの編集] ボタンをクリックし、[パラメータのレポート] 画面を表示します。

パラメータのレポート

レポート:

大きいサイズのファイル

指定したサイズ以上のファイル一覧を表示します。このレポートを使ってサーバー上で最も多くのディスク領域を消費しているファイルをすばやく判断することができます。これは、ディスク領域を大量に直ぐに空けるのに役立ちます。

パラメータのレポート

最小ファイルサイズ(M):

5.000 MB

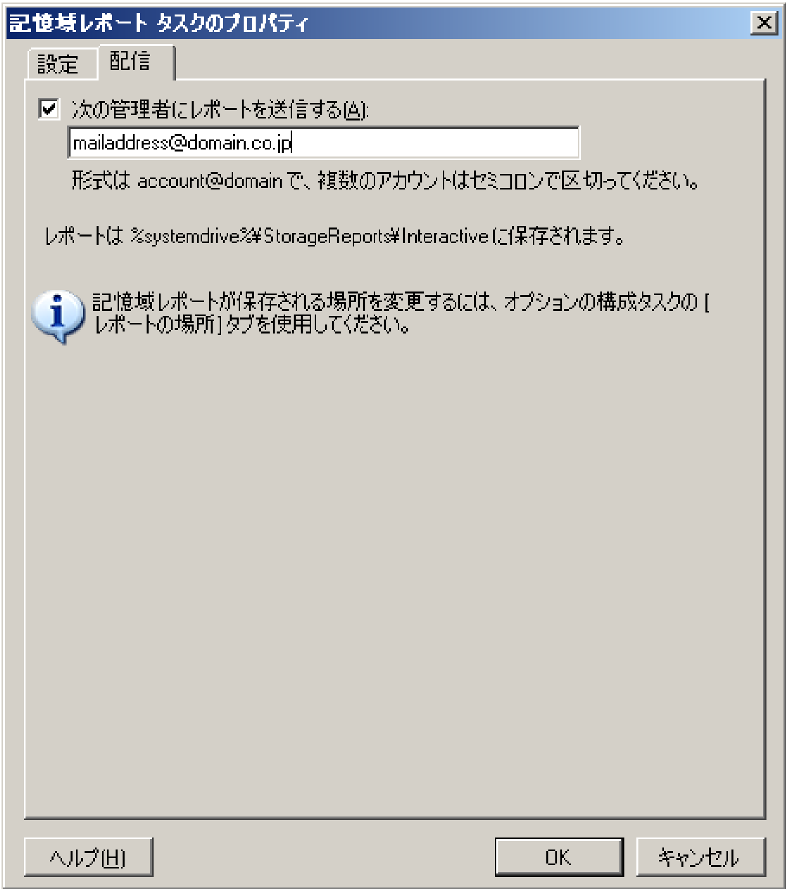
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める(F):

例: *.xls または FY02*.*

OK キャンセル

項　　目	説　　　　明
最小ファイルサイズ	レポートの対象とする最小のファイルサイズを指定します。
次のファイル名のパターンに一致したファイルのみ含める	対象とするファイルのパターンがあれば指定します。

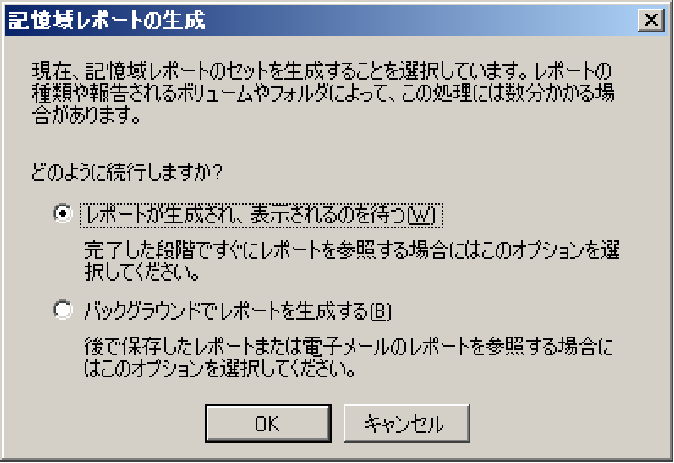
2-2. [配信] タブで電子メールにて管理者へレポートを送信する場合の電子メールアドレスを設定します。



項　　目	説　　　　明
次の管理者にレポートを送信する	管理者に電子メールでレポートを送信する場合に設定します。その場合、配下の入力フィールドにメールアドレスを設定します。

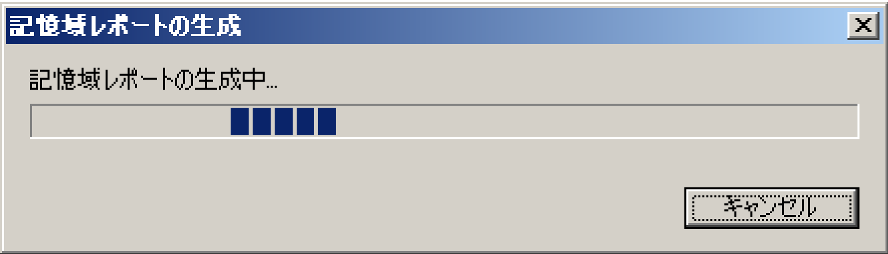
2-3. 設定完了後、[OK] ボタンをクリックします。

2-3-1. [記憶域レポートの生成] 画面を表示されますので、表示方法を [レポートが生成され、表示されるのを待つ] もしくは [バックグラウンドでレポートを生成する] から選択します。



項　　目	説　　　　明
レポートが生成され、表示されるのを待つ	レポートを生成し、表示されます。レポート内容により時間が掛かる場合があります。
バックグラウンドでレポートを生成する	バックグランドでレポートを生成します。レポートは「3.4.1.2 レポートの場所」にて指定したフォルダ内に作成されます。

2-3-2. 設定完了後、[OK] ボタンをクリックすると、表示方法に合わせレポートが作成されます。なお、表示方法を [レポートが生成され、表示されるのを待つ] を選択し、表示に時間を要する場合は、以下のインジケータが表示されます。



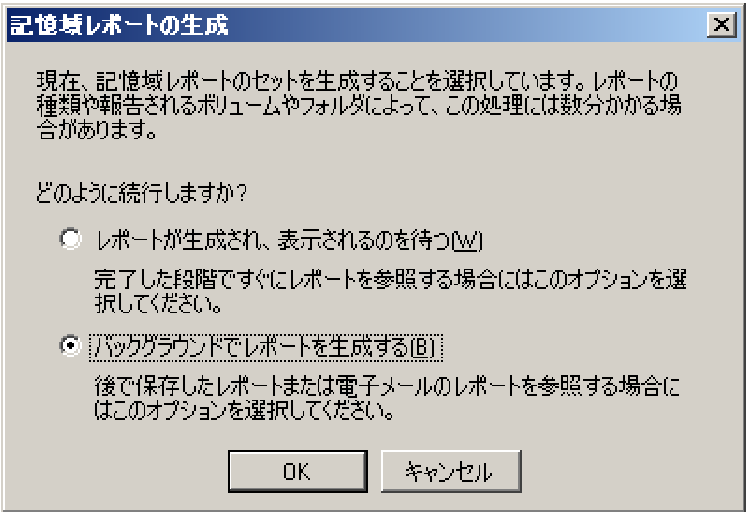
3.4.1.6 更新

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [記憶域レポートの管理] をクリックします。
2. 操作の一覧で [更新] をクリックします。

3.4.1.7 レポートタスクを今すぐ実行

記憶域レポートタスクを即実行するには、次の操作を行ないます。

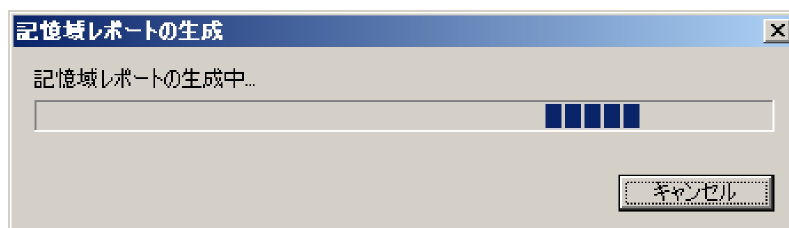
1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [記憶域レポートの管理] をクリックします。
2. 即実行する記憶域レポートタスクを選択します。
3. 操作の一覧で [レポートタスクを今すぐ実行] をクリックし、[記憶域レポートの生成] 画面を表示します。



項　　目	説　　　　明
レポートが生成され、表示されるのを待つ	レポートを生成し、表示されます。レポート内容により時間が掛かる場合があります。
バックグラウンドでレポートを生成する	バックグランドでレポートを生成します。レポートは「3.4.1.2 レポートの場所」にて指定したフォルダ内に作成されます。

4. 表示方法を [レポートが生成され、表示されるのを待つ] もしくは [バックグラウンドでレポートを生成する] から選択します。

5. 設定完了後、[OK] ボタンをクリックすると、表示方法に合わせレポートが作成されます。なお、表示方法を [レポートが生成され、表示されるのを待つ] を選択し、表示に時間を要する場合は、以下のインジケータが表示されます。



3.4.1.8 レポートタスクの取り消し

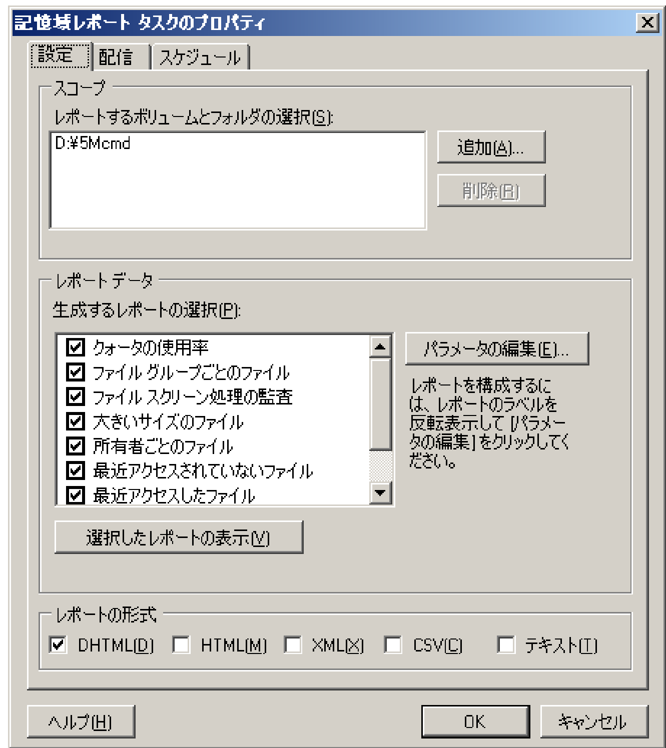
1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [記憶域レポートの管理] をクリックします。
2. 操作の一覧で [レポートタスクの取り消し] をクリックします。

3.4.1.9 レポートタスクのプロパティの表示と変更

記憶域レポートタスクを変更するには、次の操作を行ないます。

1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [記憶域レポートの管理] をクリックします。
2. 変更する記憶域レポートタスクを選択します。

3. 操作の一覧で [レポートタスクのプロパティの表示と変更] をクリックします。



項　　目	説　　　　明
レポートするボリュームとフォルダの選択	レポート対象とするフォルダを設定します。
[生成するレポートの選択]画面	各レポートが表示されます。
[パラメータの編集] ボタン	[生成するレポートの選択] 画面で指定したレポートのパラメータ編集画面が表示されます。
[選択したレポートの表示] ボタン	設定したレポートの内容が表示されます。
レポートの形式	レポートのファイル形式を指定します。

4. 選択した記憶域レポートタスクの設定内容を変更し、[OK] ボタンをクリックします。

3.4.1.10 レポートタスクの削除

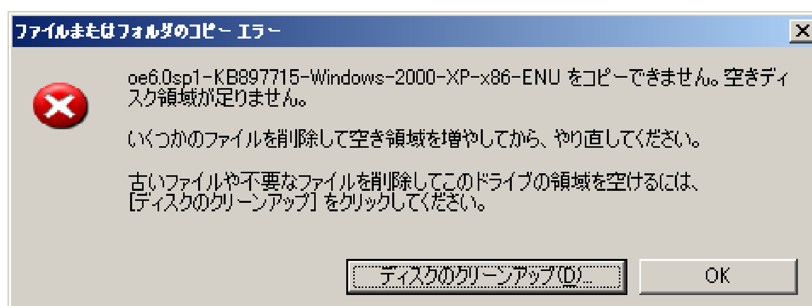
1. Windows Storage Server Management から [ファイルサーバーの管理] → [ファイルサーバーリソースマネージャ] → [記憶域レポートの管理] をクリックします。
2. 操作の一覧で [レポートタスクの削除] をクリックします。

3.4.2　コマンド情報

コマンドラインを使用して記憶域レポートの設定を行なう場合は、StorRept コマンドを使用します。詳細は、StorRept /? を実行してヘルプを参照してください。

3.4.3　ファイルサーバーリソースマネージャに関する注意事項

- クォータのハードクォータで制限以上のデータを書き込んだ際、クライアントでは以下のようなメッセージが表示されます。
  ファイルの削除や、ディスクのクリーンアップを行なう必要はありません。



- ファイルスクリーンのアクティブスクリーンで制限したファイルを書き込んだ際、クライアントでは以下のようなメッセージが表示されます。



- 設定画面のうち、別の画面へフォーカスを移動可能な画面 (モードレスダイアログ) を表示した状態で、[更新] で最新状態への画面更新を行うと、バックグラウンドで同内容の画面が表示されます。この場合、複数表示された画面のうち、不要な画面は [キャンセル] ボタンで画面を閉じてください。

3.5 複数サーバの共有フォルダを統合する

システム管理者が分散ファイルシステム(Distributed File System)を使用すると、ネットワーク上に物理的に分散しているファイルへのアクセスと、それらのファイルの管理を簡単に行える環境をユーザーに提供できます。DFS では、複数のサーバーに分散しているファイルが、ネットワーク上の 1 つの場所に配置されているように見えます。ユーザーは、ファイルの物理的な場所を指定しなくても、目的のファイルにアクセスできます。



操作は、「名前空間」と「レプリケーション」に分かれます。

名前空間は、DFS のルートの作成・管理を行います。

レプリケーションはバックアップ目的で複製物の作成・管理を行います。



画面は、左側のコンソールツリー、右側の操作ウィンドウ、中央部分には、タブ表示などで詳細情報が表示されます。

左側のコンソールツリーに表示される、項目を選択し、右クリックすると、ショートカットメニューが表示されます。この内容は、右側の操作ウィンドウと同じです。

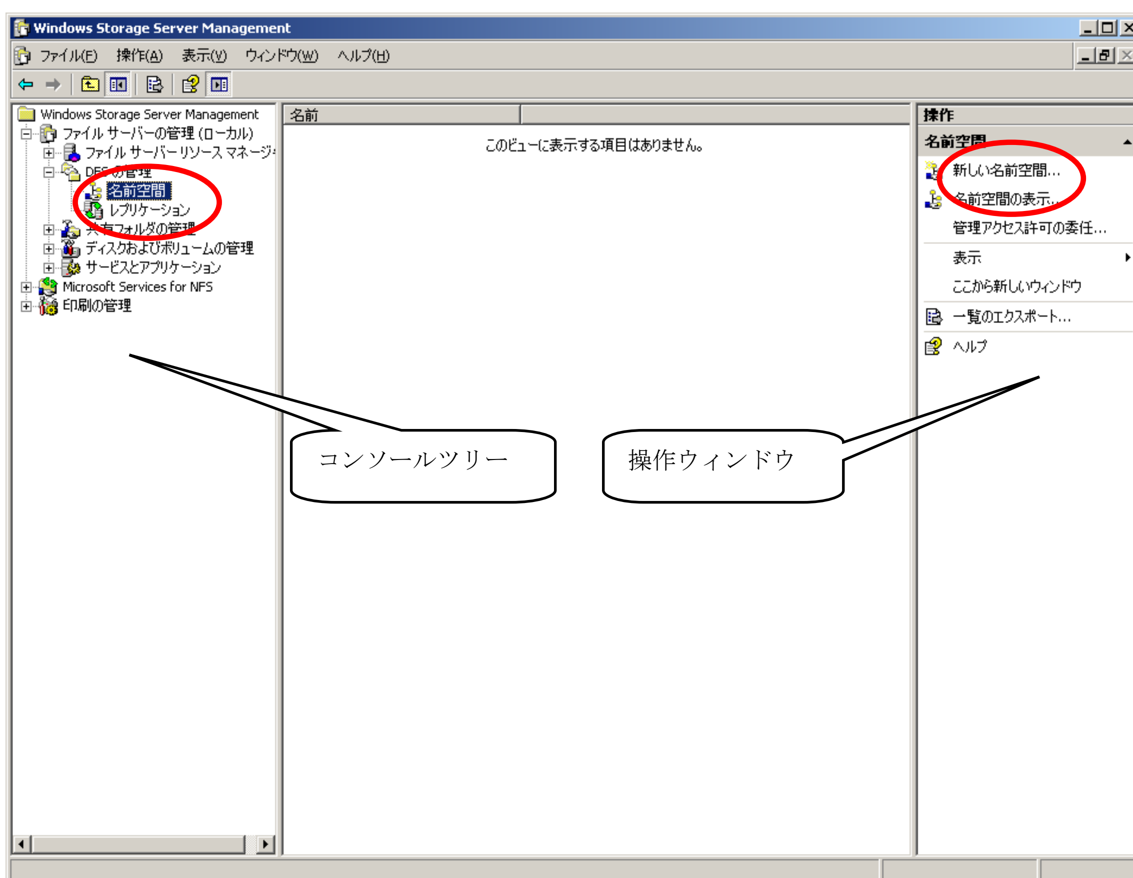
また、メニューバーの[操作]をクリックした場合も同様のメニューが表示されます。

3.5.1 名前空間

3.5.1.1 名前空間の新規作成

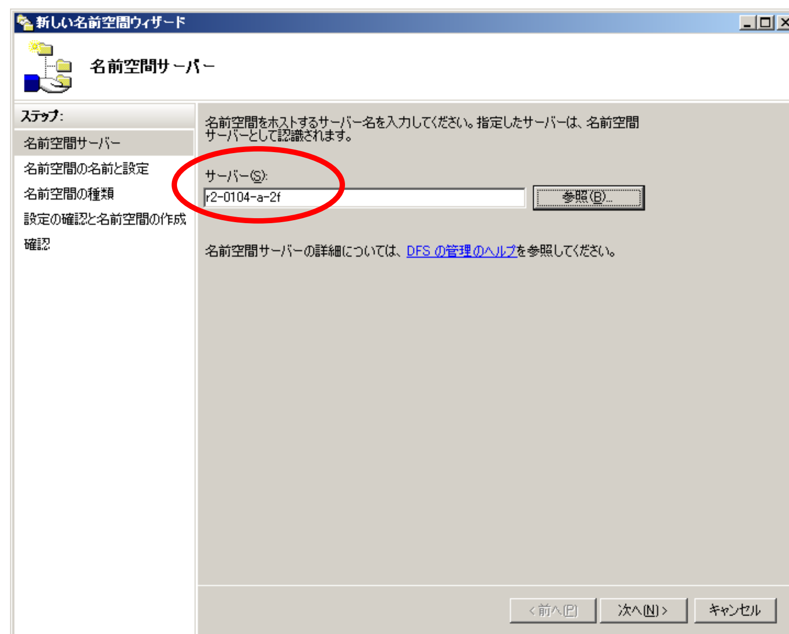
1. 画面左側コンソールツリーの[DFS の管理]をクリックします。

   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[新しい名前空間...]をクリックします。また[DFS の管理]を選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[新しい名前空間...]を選択することもできます。

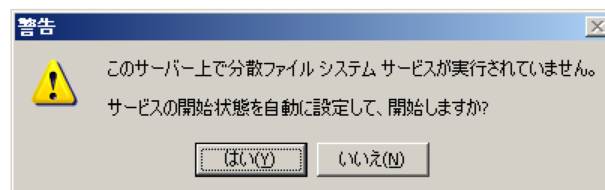


2.　「新しい名前空間ウィザード」が起動します。[サーバー]の項目に名前空間をホストするサーバー名を入力します。サーバー名が分からない場合は、[参照]をクリックしてサーバーを検索して入力することもできます。

入力が完了したら、[次へ]をクリックします。



[次へ]をクリックした後で、「このサーバーで分散ファイルシステムサービスが実行されていません。……」と警告メッセージが表示されることがあります(主に初回作成時に表示されます)。[はい]をクリックして、サービスを開始してください。



3. 「名前空間の名前と設定」の画面に切り替わります。

[名前]の項目に、名前空間の名前を入力してください。ローカルパスやアクセス許可の設定を変更する場合には、[設定の編集]をクリックします。

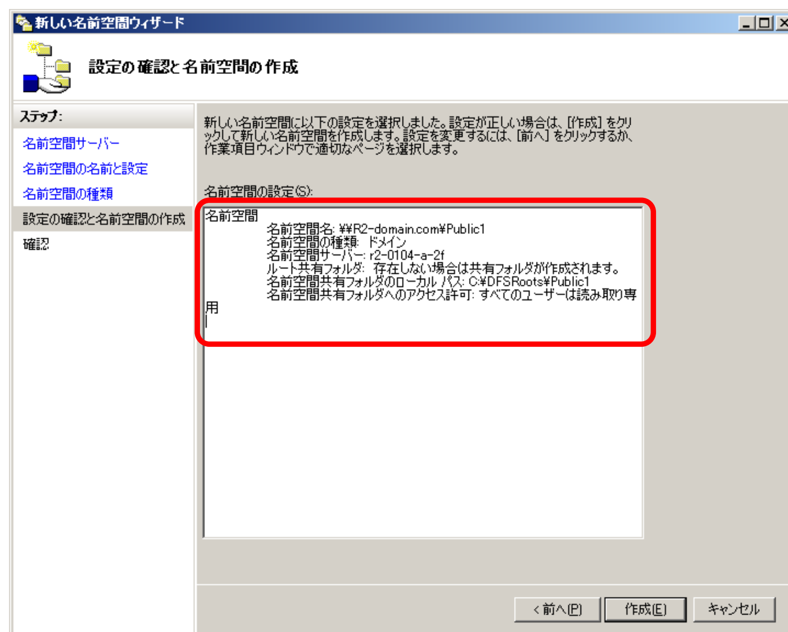
デフォルトでは共有フォルダのローカルパスは、「C:¥DFSRoots¥"名前空間の名前"」となっています。また、共有フォルダのアクセス許可は、「すべてのユーザーが読み取り専用アクセス許可を持つ」となっています。必要に応じて設定を変更してください。

名前と設定が終わったら、[次へ]をクリックします。

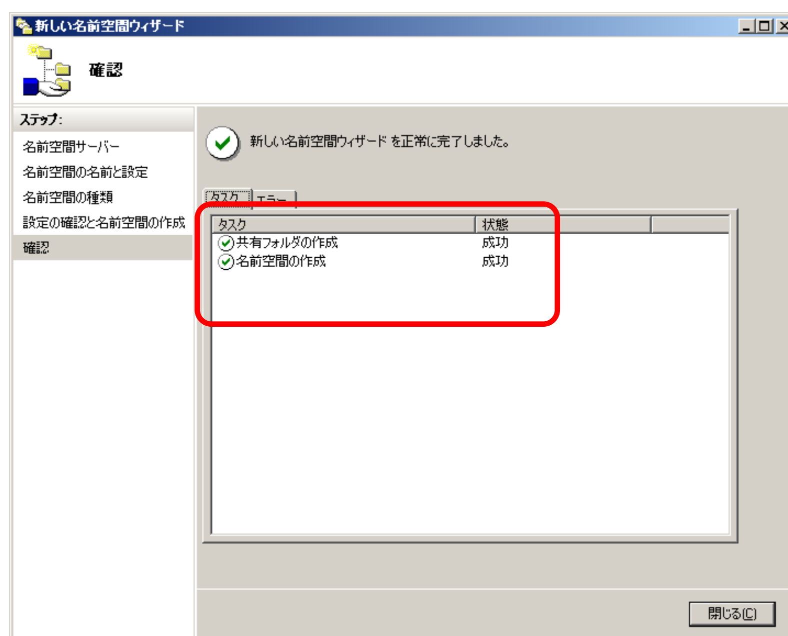
4. 「名前空間の種類」の画面に切り替わります。

作成する名前空間の種類を選択してください。[ドメインベースの名前空間]は、サーバーがドメインに参加していないと選択できません。選択が終わったら、[次へ]をクリックします。

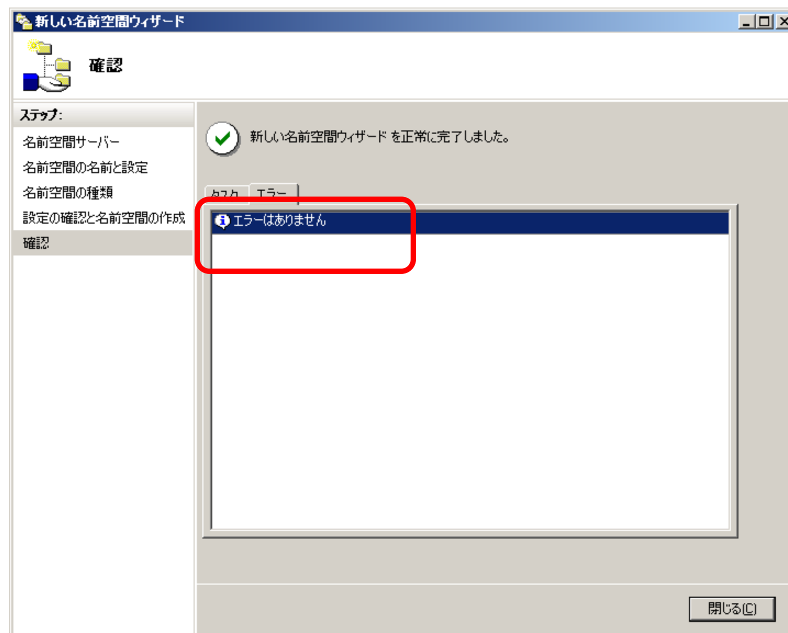
5. 「設定の確認と名前空間の作成」の画面に切り替わります。[名前空間の設定]の欄に設定した内容が表示されます。設定内容を確認してください。設定内容が正しい場合は、[作成]をクリックします。設定を変更する場合は、[前へ]をクリックして、画面を戻して設定を行ってください。



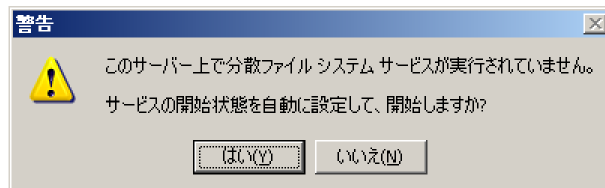
6. [作成]ボタンをクリックすると、「確認」画面に切り替わり、名前空間が作成されます。正常に作成されると、[タスク]タブの画面の項目にチェックマークが表示されます。[エラー]タブの画面には、「エラーはありません」と表示されます。



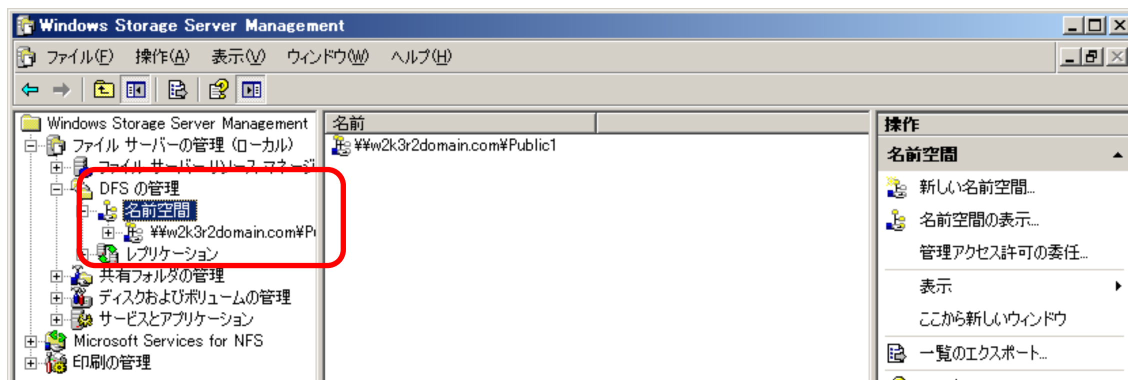
[エラー]タブの画面には、名前空間の作成がエラーになった場合、詳細なエラー内容が表示されます。内容を確認の上、設定を見直し、再度作成してください。



設定完了後、「このサーバー上で分散ファイルシステムサービスが実行されていません。サービスの開始状態を自動に設定して、開始しますか?」と警告メッセージが表示されることがあります。この場合は、[はい]をクリックして、サービスを開始してください。



7. コンソールツリーに名前空間が表示されたことを確認してください。



3.5.1.2　フォルダの新規作成

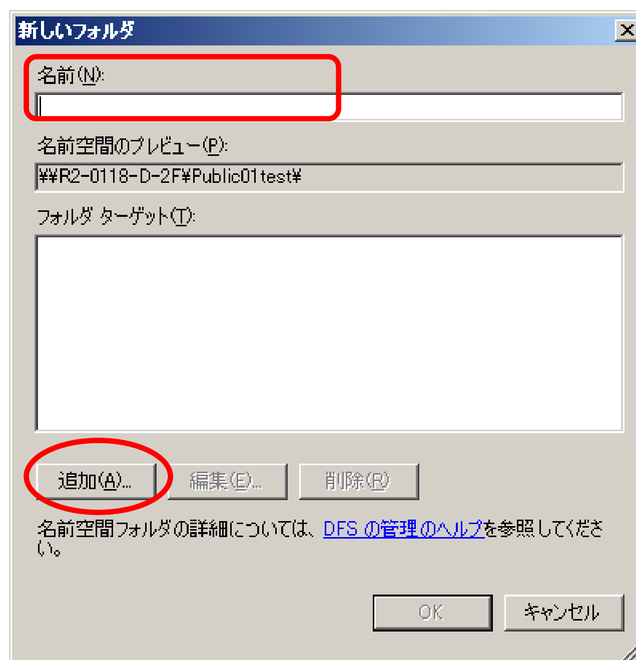
1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、名前空間をクリックします。

   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[新しいフォルダ]をクリックします。

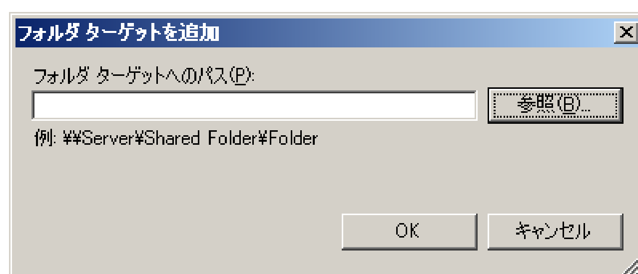
   また名前空間を選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[新しいフォルダ]を選択することもできます。



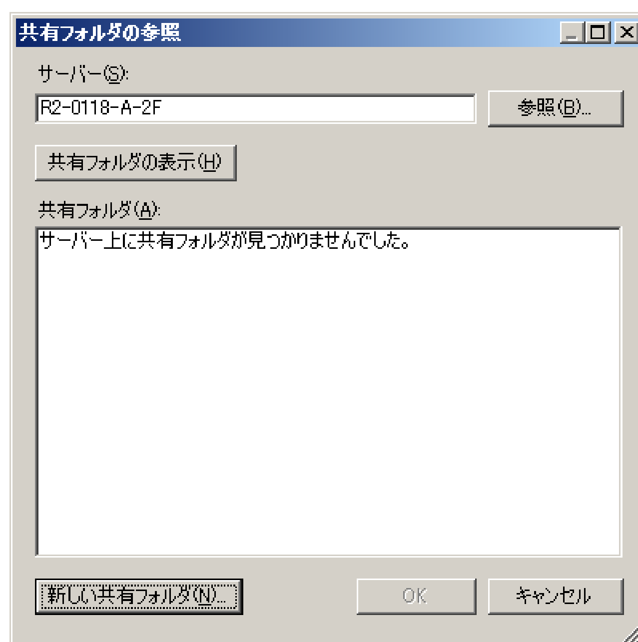
2. 「新しいフォルダ」のウィンドウが表示されますので、フォルダの名前を入力し、フォルダターゲットを追加します。フォルダの名前のみ入力して[OK]をクリックすると、フォルダのみ作成されます。フォルダのみ作成の場合は、手順 9 へ進みます。



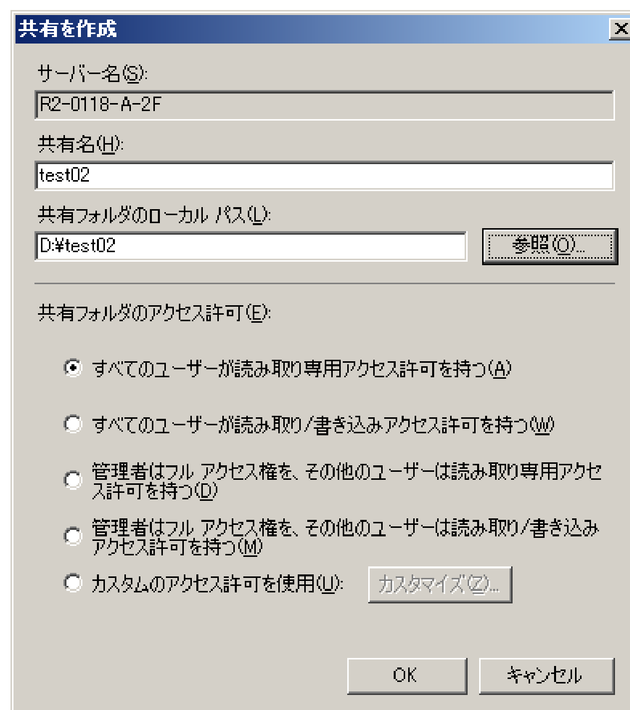
3. [追加]をクリックすると、「フォルダターゲットを追加」ウィンドウが表示されます。[フォルダターゲットへのパス]にパスを入力します。パスがすでに分かっている場合は、パスを入力し[OK]をクリックし、手順 6 へ進んでください。パスが分からない場合は、[参照]をクリックします。



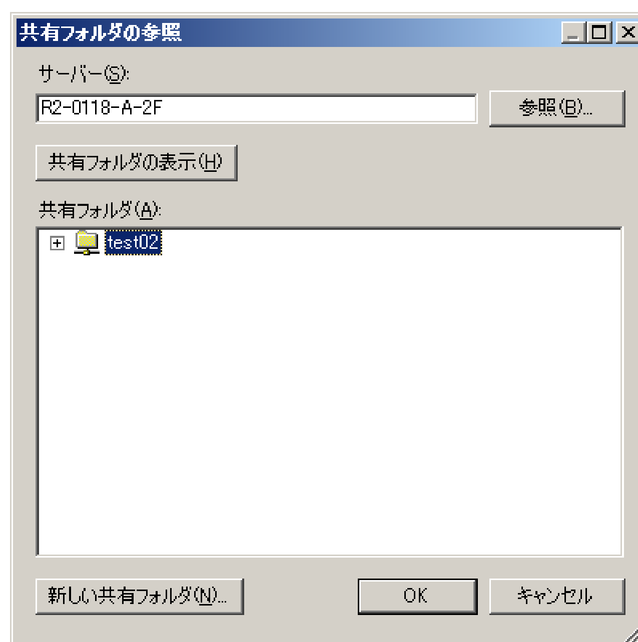
4. [参照]をクリックした場合、「共有フォルダの参照」画面が表示されます。
   [サーバー]の項目にサーバー名が表示されます。表示されているサーバーとは別のサーバーを参照する場合は、サーバー名を入力します。また、[参照]をクリックし、サーバーを検索し、入力することもできます。
   [共有フォルダの表示]をクリックすると、現在共有されているフォルダが表示されます。
   通常、サーバーが選択された状態では、[共有フォルダ]欄に共有フォルダが一覧表示されますが、共有したフォルダが表示されない場合は、[共有フォルダの表示]をクリックし、最新の情報に更新します。
   共有フォルダを選択後、[OK]をクリックします。手順 7 へ進んでください。
   共有フォルダが存在しない場合、従来の共有フォルダとは別に新たに共有フォルダを作成する場合は[新しい共有フォルダ]をクリックします。



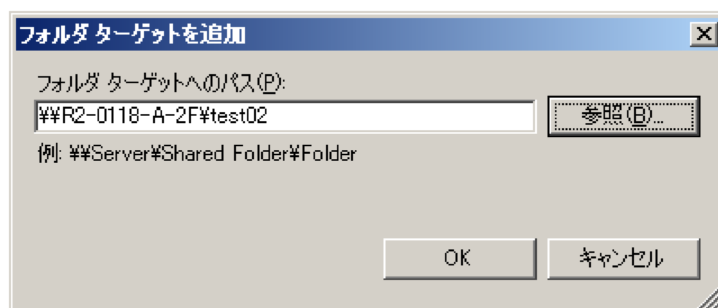
5. [新しい共有フォルダ]をクリックすると、「共有を作成」ウィンドウが表示されます。共有名・共有フォルダのローカルパスを入力します。[参照]をクリックして、ローカルパスを選択することもできます。共有フォルダのアクセス許可を設定し、[OK]をクリックします。



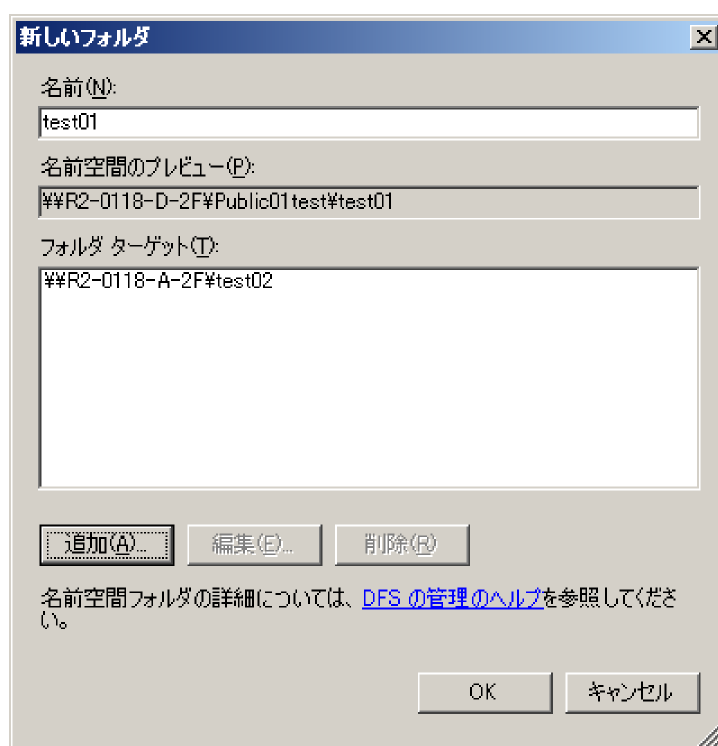
6. 共有フォルダの参照ウィンドウに戻ります。共有フォルダが選択されていることを確認し、[OK]をクリックします。



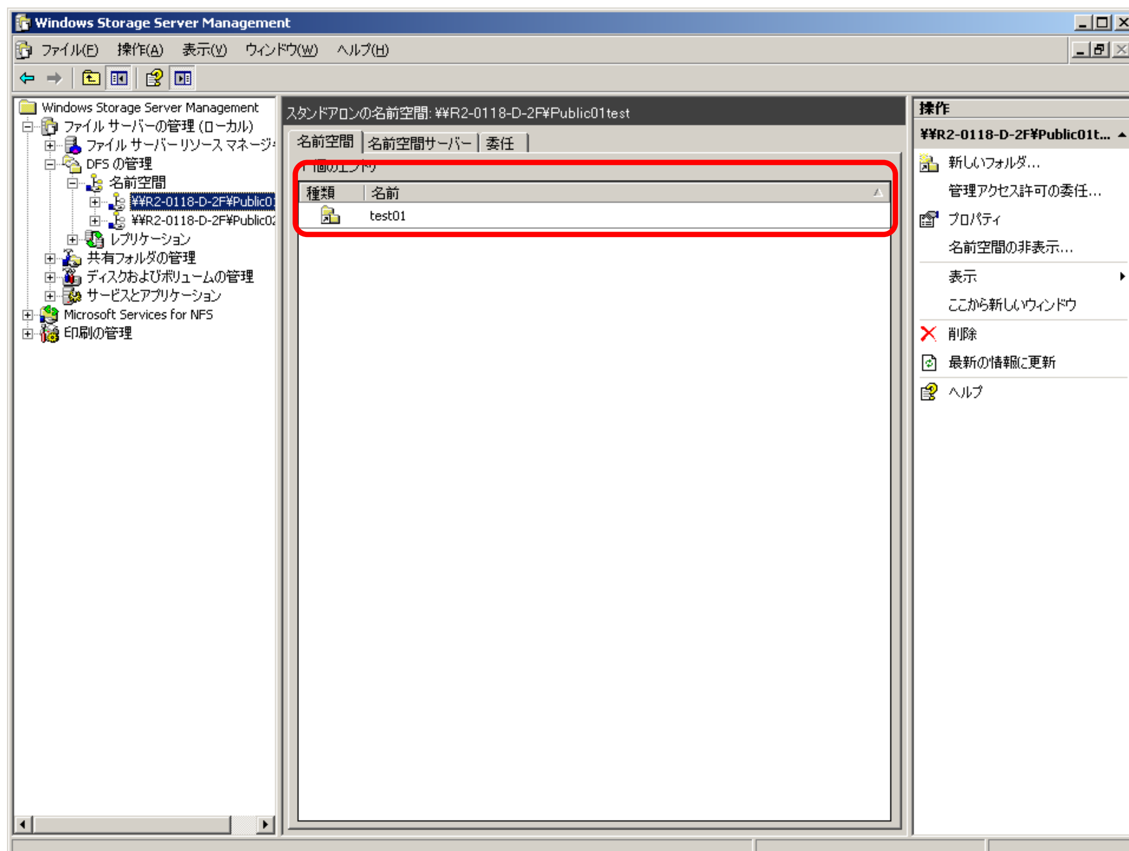
7. 「フォルダターゲットを追加」ウィンドウに戻ります。フォルダターゲットへのパスを確認し、[OK]をクリックします。



8. 「新しいフォルダ」のウィンドウに戻ります。[OK]をクリックします。[追加]をクリックして続けてフォルダターゲットを指定することもできます。



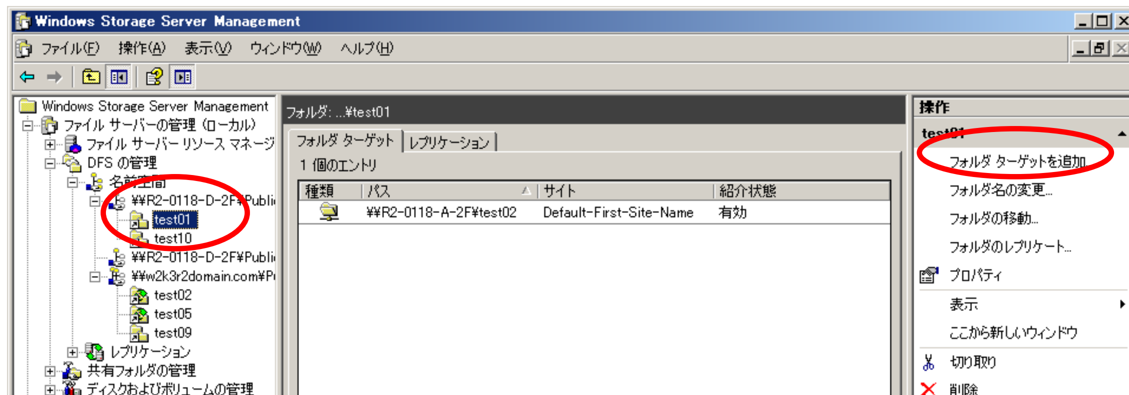
9. コンソールツリー、[名前空間]タブにフォルダが追加されたことを確認します。



3.5.1.3　フォルダターゲットを追加する

1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、追加するフォルダを選択します。

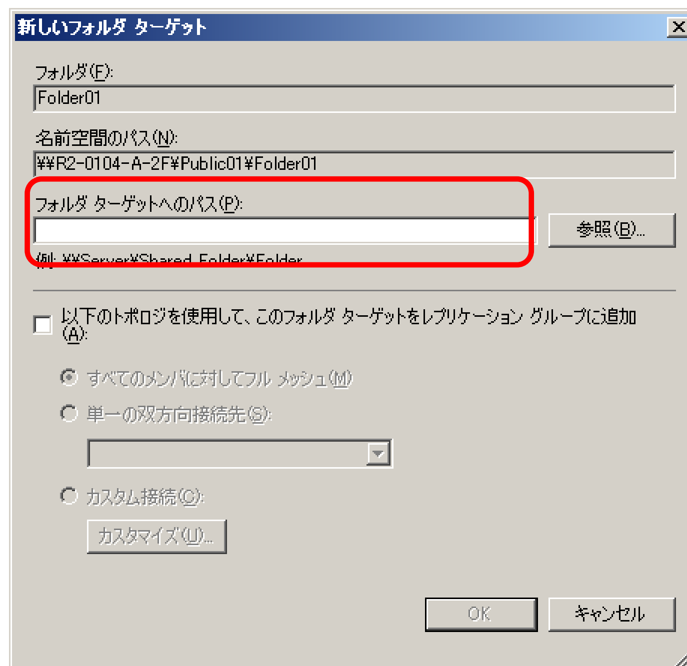
   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[フォルダターゲットを追加]をクリックします。またフォルダを選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[フォルダターゲットを追加]を選択することもできます。



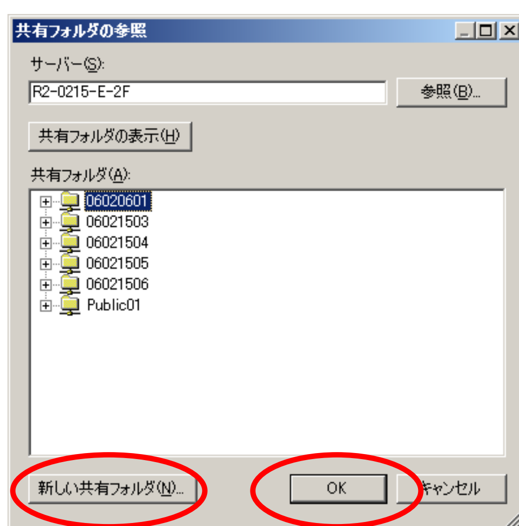
2. 「新しいフォルダターゲット」ウィンドウが表示されます。[フォルダターゲットへのパス]にパスを入力します。

   パスが分からない、もしくは新規作成の場合は、[参照]をクリックします。

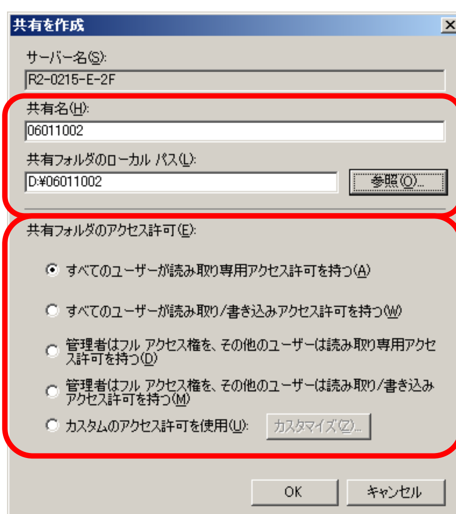
   既に存在するパスを入力した場合は、手順 6 へ進みます。



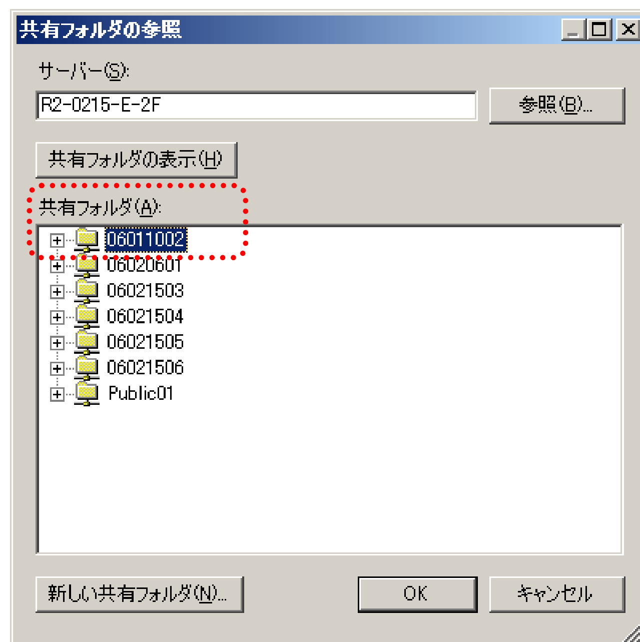
3. 「共有フォルダの参照」ウィンドウが表示されます。[サーバー]の項目にサーバー名が表示されます。表示されているサーバーとは別のサーバーを参照する場合は、サーバー名を入力します。また[参照]をクリックし、サーバーを検索し、入力することもできます。
   [共有フォルダの表示]をクリックすると、現在共有されているフォルダが表示されます。
   通常、サーバーが選択された状態では、[共有フォルダ]欄に共有フォルダが一覧表示されます。共有したフォルダが表示されない場合は、[共有フォルダの表示]をクリックし、最新の情報に更新します。
   共有フォルダを選択後、[OK]をクリックします。手順 6 へ進みます。
   共有フォルダが存在しない場合、または従来の共有フォルダとは別に新たに共有フォルダを作成する場合は[新しい共有フォルダ]をクリックします。



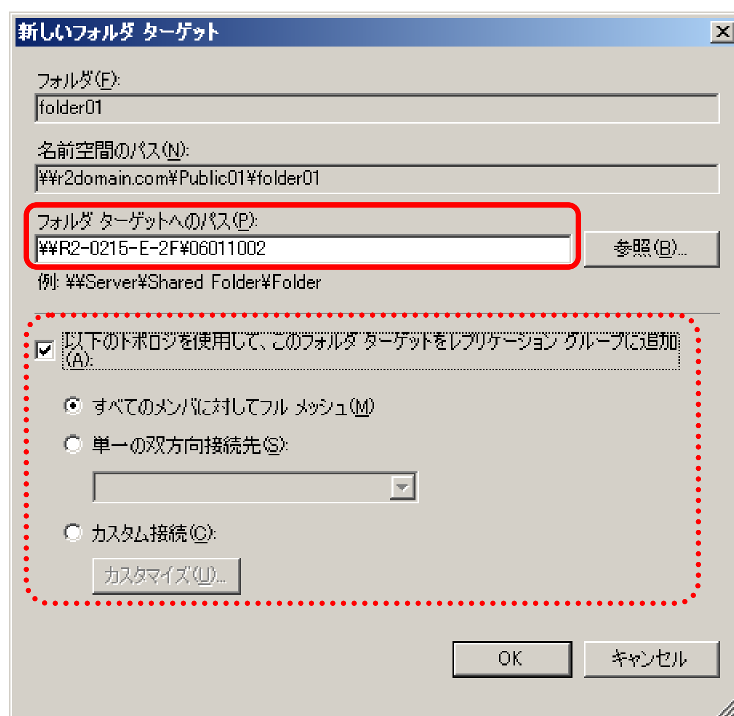
4. [新しい共有フォルダ]をクリックすると、「共有を作成」ウィンドウが表示されます。共有名・共有フォルダのローカルパスを入力します。[参照]をクリックしてローカルパスを選択することもできます。共有フォルダのアクセス許可を設定し、[OK]をクリックします。



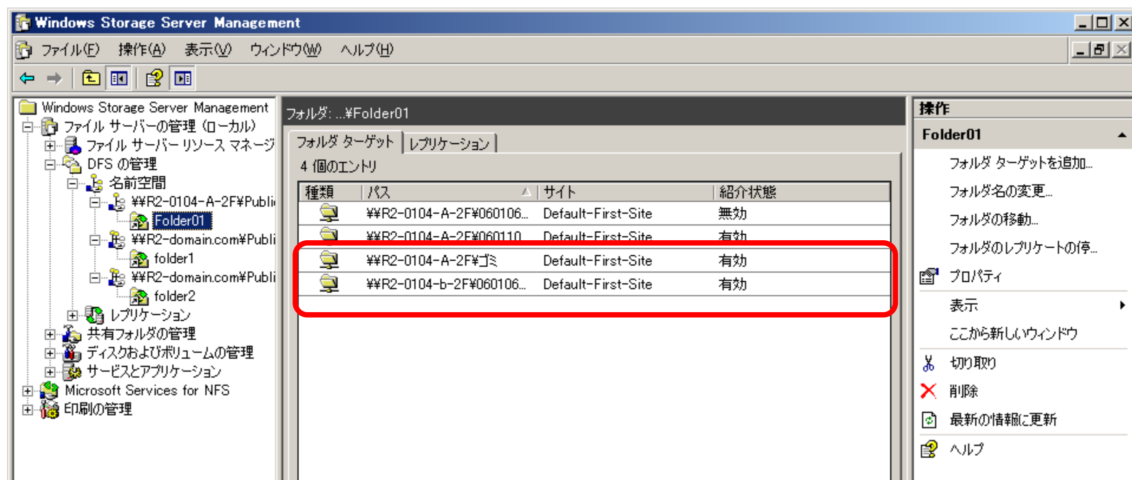
5. 「共有フォルダの参照」ウィンドウに戻ります。共有フォルダが表示され、選択されていることを確認し、[OK]をクリックします。



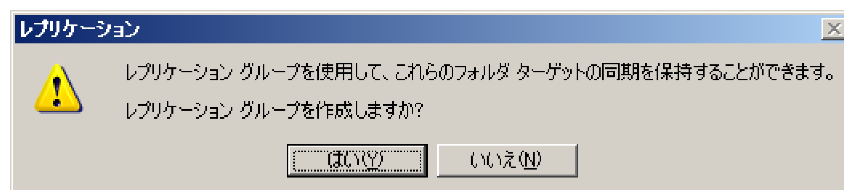
6. 「新しいフォルダターゲット」ウィンドウに戻ります。[フォルダターゲットへのパス]に入力されたパスを確認し、必要に応じて[以下のトポロジを使用して、このフォルダターゲットをレプリケーショングループに追加]にチェックをいれトポロジを選択し、[OK]をクリックします。



7. [フォルダターゲット]タブにエントリ(フォルダターゲット)が追加されたことを確認します。



フォルダターゲットが追加された後、レプリケーションのポップアップウィンドウが表示されることがあります。レプリケーショングループを作成する場合には、[はい]をクリックしてください。レプリケーショングループ作成のウィザードが起動します。操作手順は「3.5.2.4 フォルダターゲットの追加からの作成」を参照してください。[いいえ]を選択すると、Windows Storage Server Management画面に戻ります。

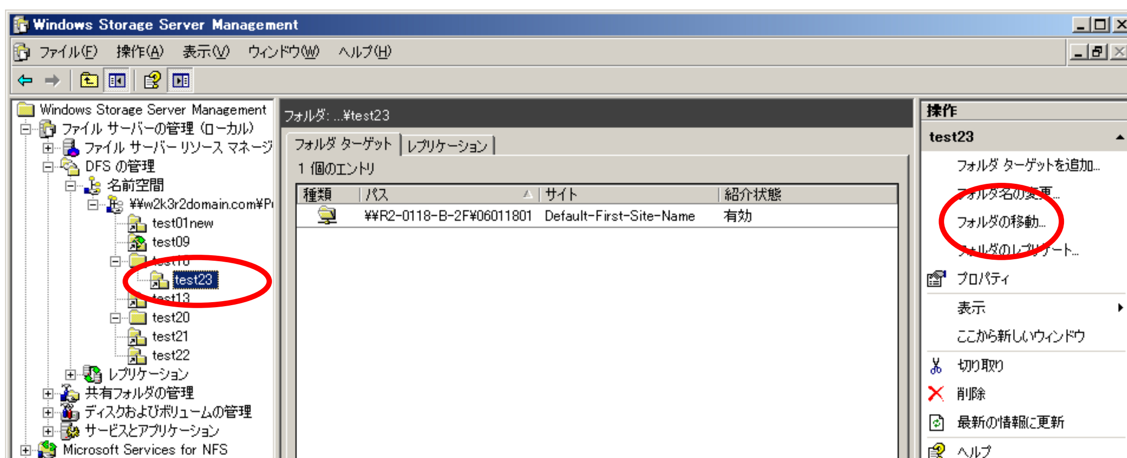


3.5.1.4　フォルダを移動する

1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、移動するフォルダを選択します。

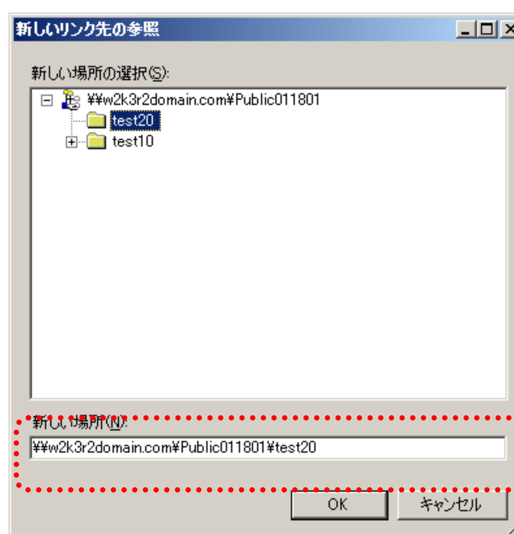
   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[フォルダの移動]をクリックします。

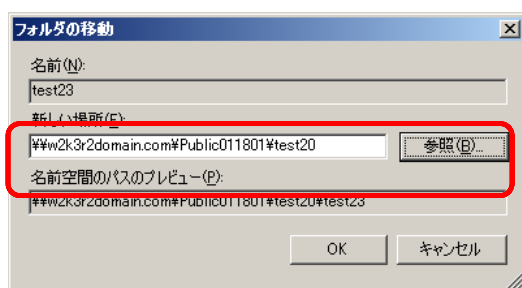
   またフォルダを選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[フォルダの移動..]を選択することもできます。



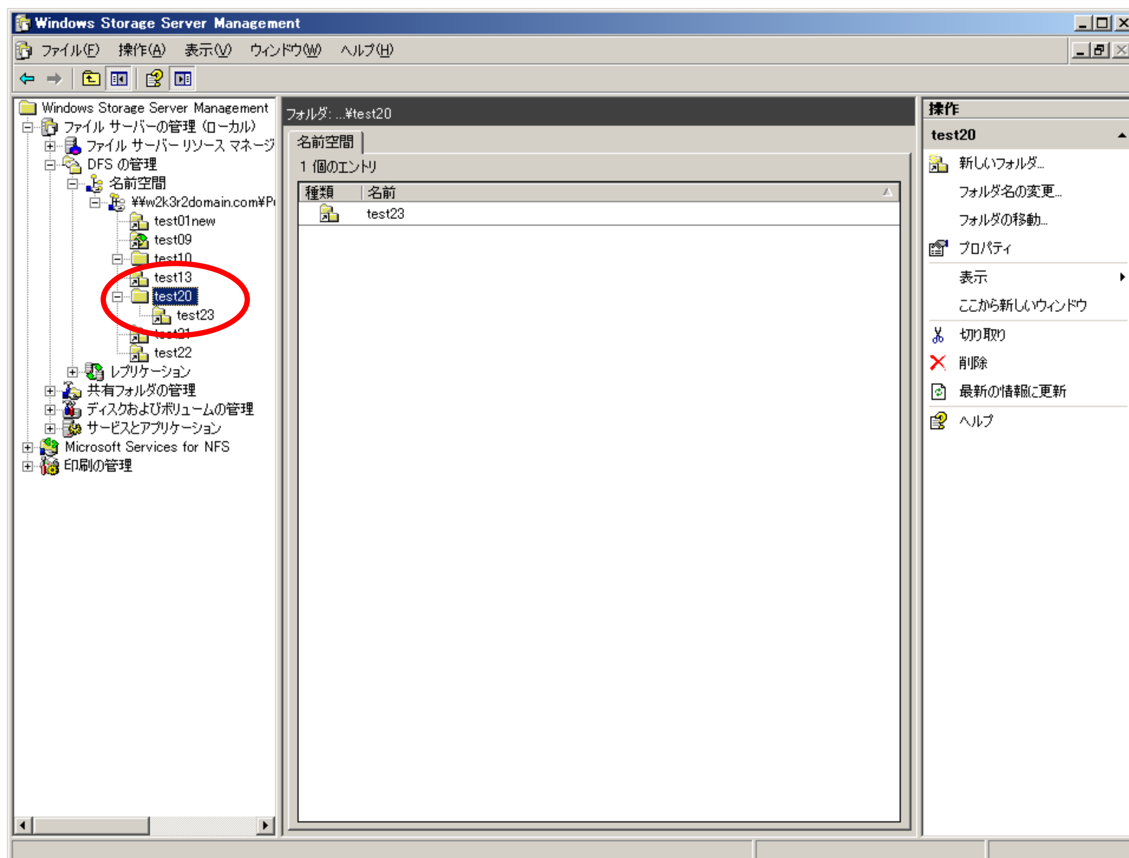
2. 「フォルダの移動」ウィンドウが表示されます。[新しい場所]に移動先のルートを入力します。[参照]をクリックして「新しいリンク先の参照」ウィンドウを表示し、移動先を選択することもできます。

   移動先を入力後、[OK]をクリックします。



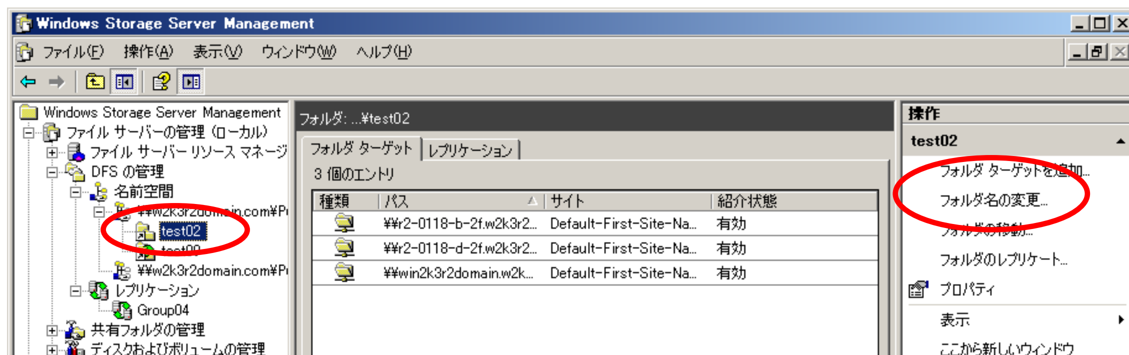


3. フォルダが指定先に移動したことを確認します。

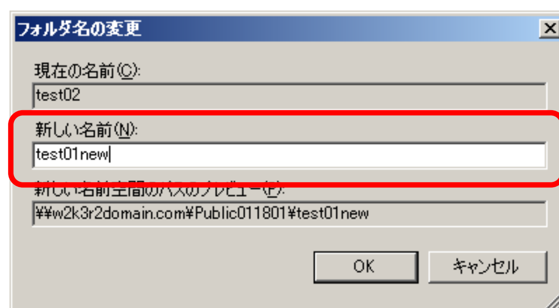


3.5.1.5　フォルダ名を変更する

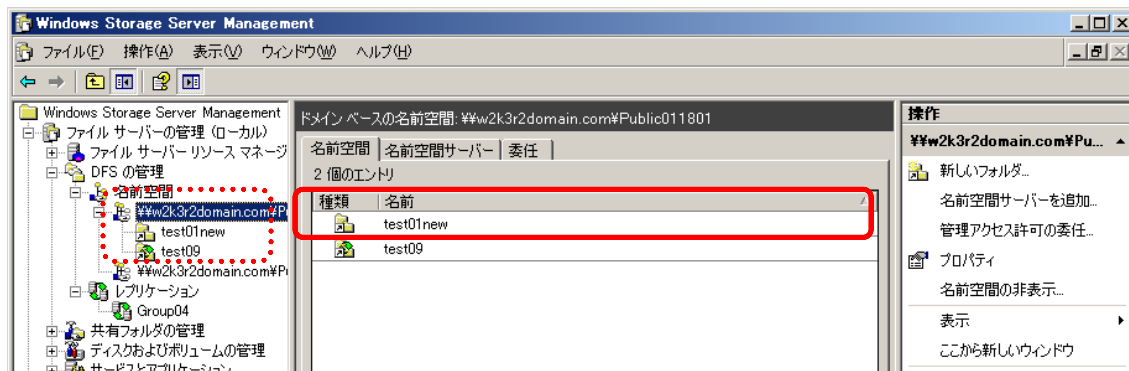
1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、名前を変更するフォルダを選択します。
画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[フォルダ名の変更]をクリックします。またフォルダを選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[フォルダ名の変更..]を選択することもできます。



2. 「フォルダ名の変更」ウィンドウが表示されます。[新しい名前]の項目に新しいフォルダ名を入力して[OK]をクリックします。

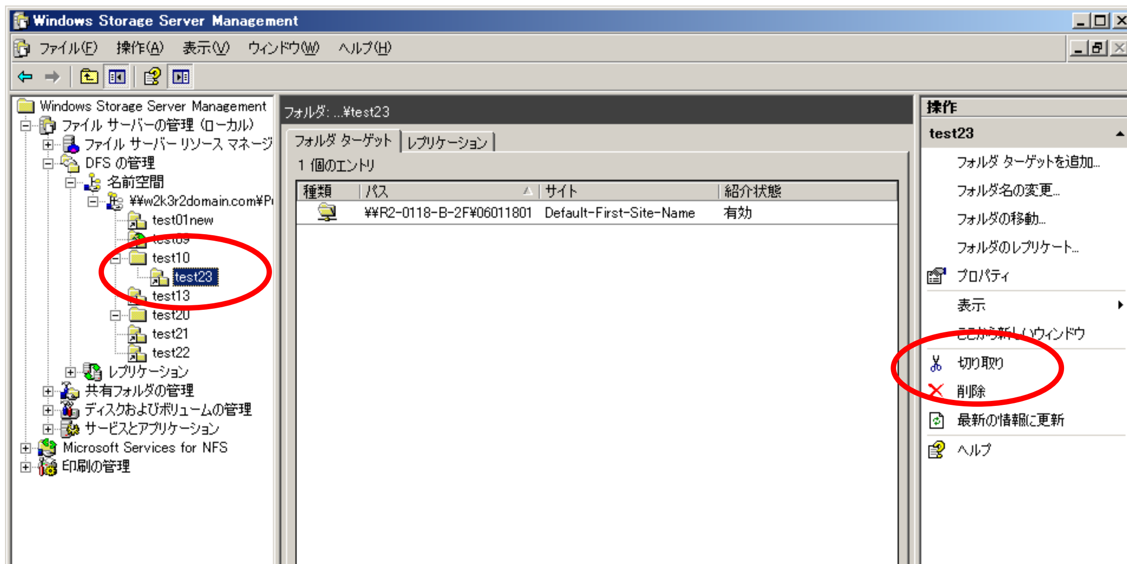


3. コンソールツリー、名前空間[タブ]に表示されている、フォルダ名が変更されたことを確認します。

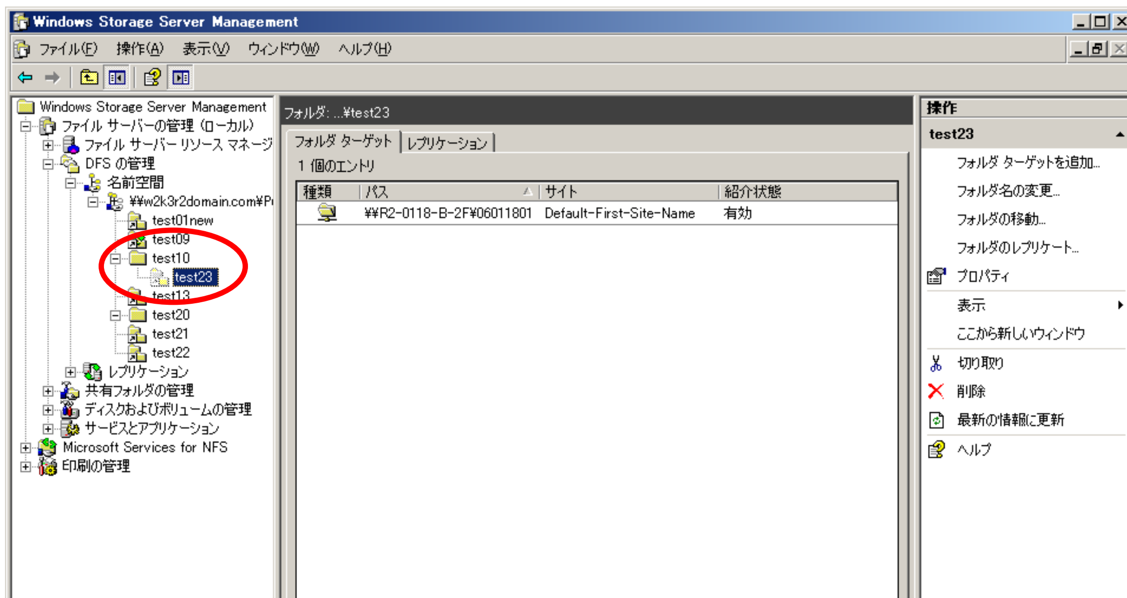


3.5.1.6　フォルダの切り取り・貼り付け

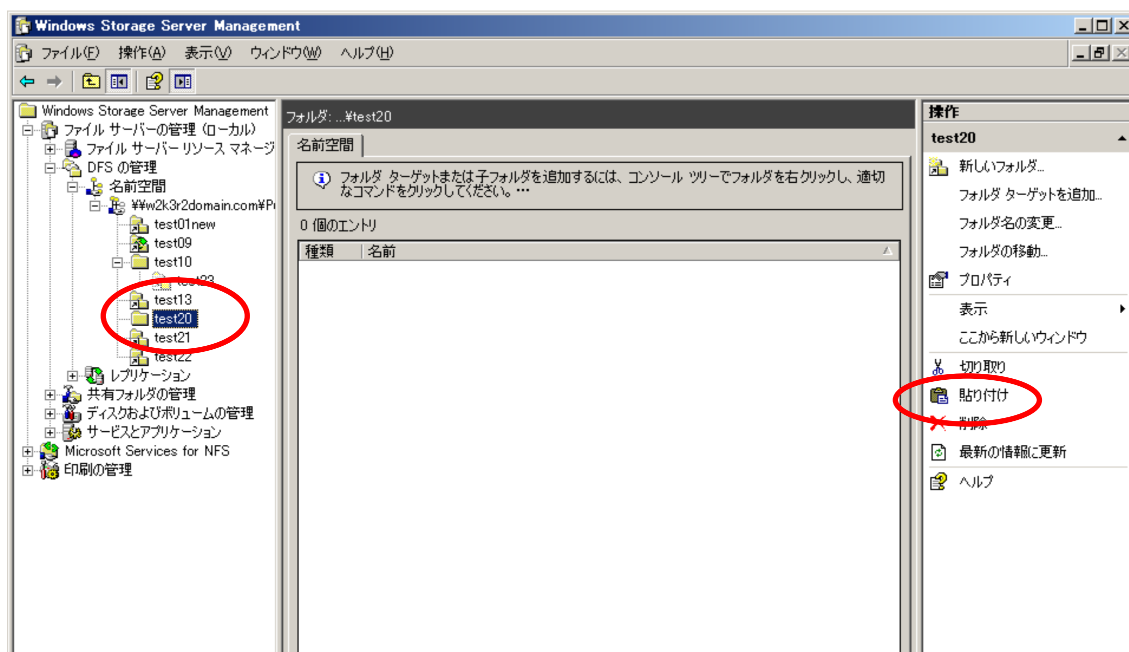
1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、切り取るフォルダターゲットを選択します。
   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[切り取り]をクリックします。また名前空間を選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[切り取り]を選択することもできます。



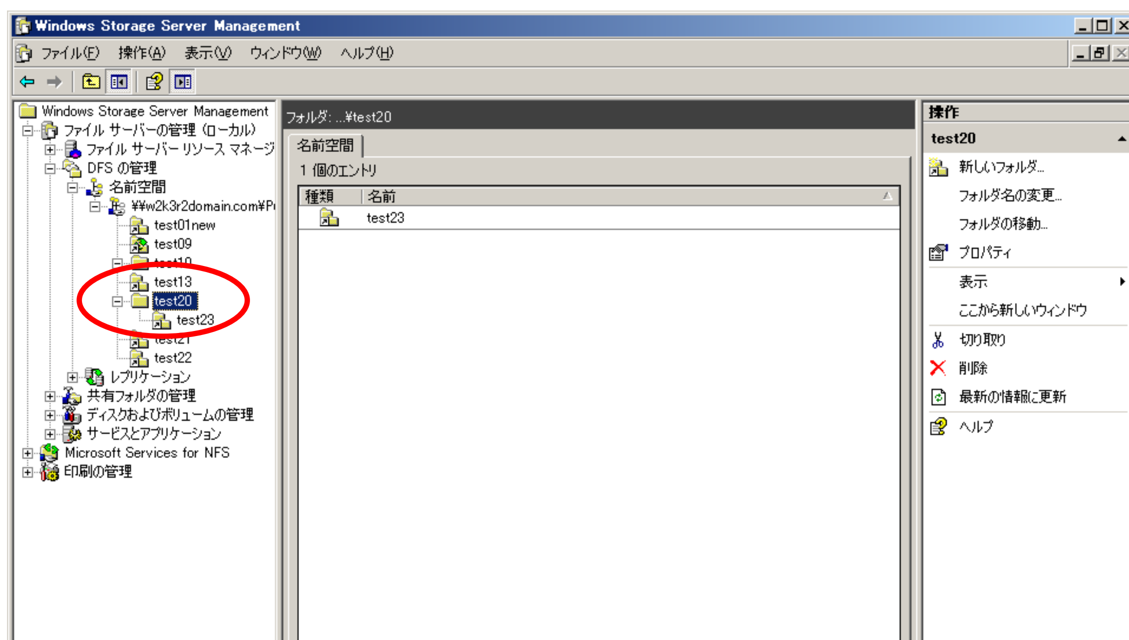
2. 対象となるフォルダが薄い表示になります。



3. 貼り付け先のフォルダを選択すると、画面右側操作ウィンドウに[貼り付け]が表示されます。[貼り付け]をクリックすると、名前空間のフォルダにフォルダターゲットが貼り付けられます。



4. 指定したフォルダにフォルダターゲットが貼り付けられたことを確認します。

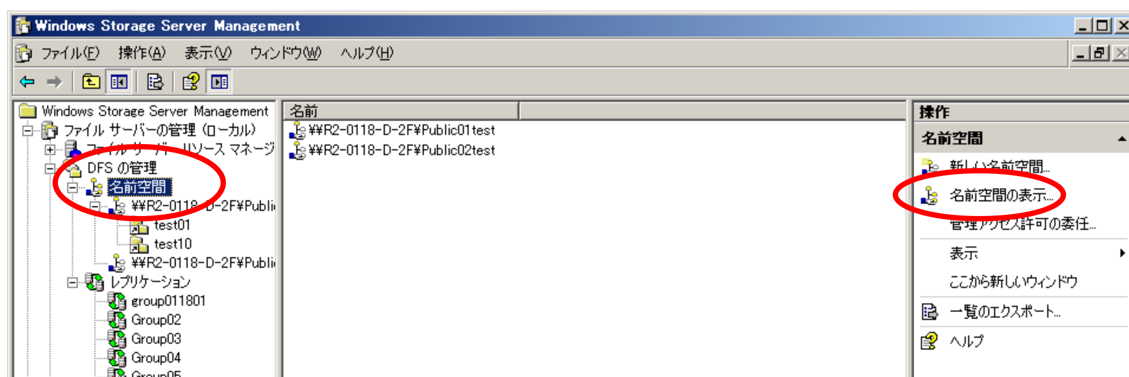


3.5.1.7　名前空間を表示する

1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、[名前空間]をクリックします。

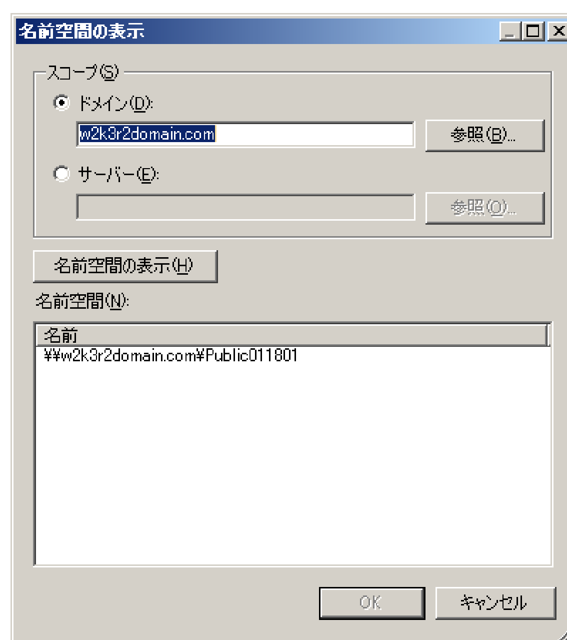
   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[名前空間の表示]をクリックします。

   また[名前空間]を選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[名前空間の表示]を選択することもできます。

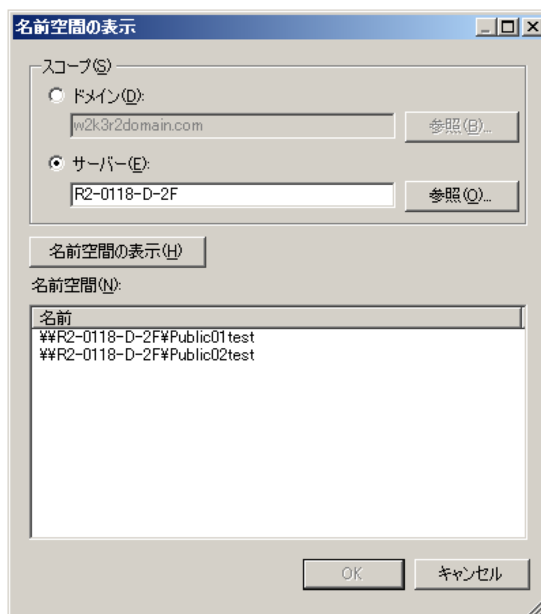


2. 「名前空間の表示」ウィンドウが表示されます。ドメインに参加していない場合、この時点でエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージウィンドウを閉じて、手順 3 へ進んでください。

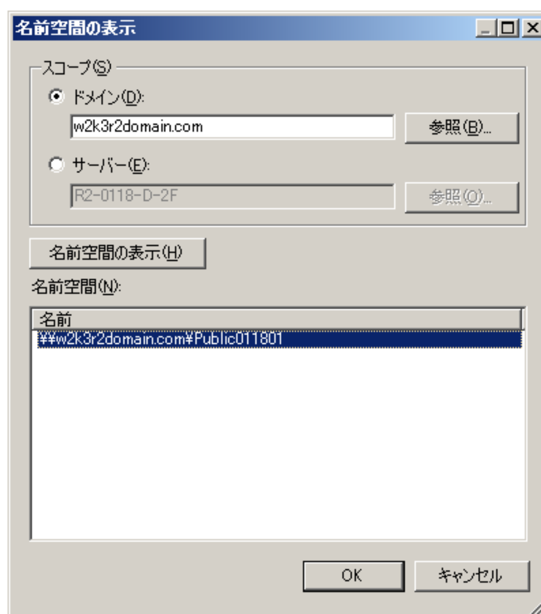
   [スコープ]欄の[ドメイン]の項目に現在参加しているドメイン名が表示されます。他のドメインの名前空間を表示するには、[ドメイン]の項目に直接ドメイン名を入力するか、[参照]クリックして、他のドメインを表示し、選択します。



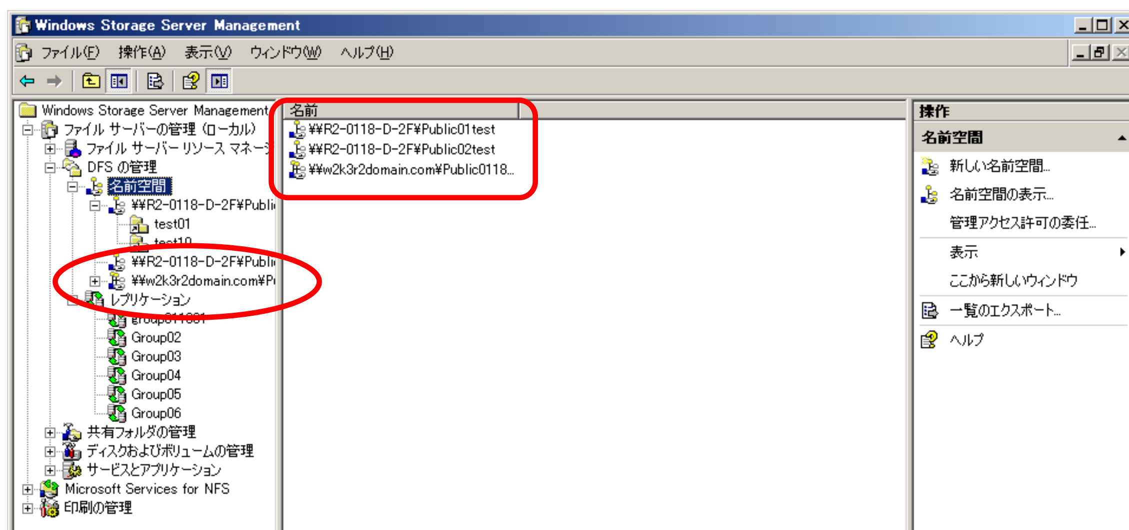
3. [サーバー]を選択すると、サーバー内の名前空間が表示されます。他のサーバーの名前空間を表示するには、[サーバー]の項目に直接サーバー名を入力するか、[参照]をクリックして、他のサーバーを表示し、選択します。



4. ドメインやサーバーを入力した後、[名前空間の表示]をクリックし、名前空間を表示します。
[名前空間の表示]をクリックすると、設定済みの名前空間が表示されます。設定済みの名前空間が表示されない場合は、[名前空間の表示]をクリックし、最新の情報に更新します。
[名前空間]の一覧に表示された名前空間から、表示する名前空間を選択し、[OK]をクリックします。

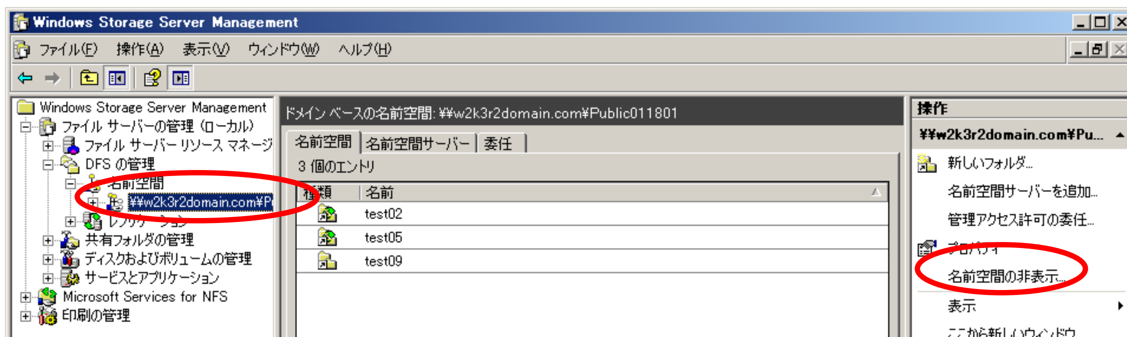


5. 画面左側コンソールツリーに名前空間が追加表示されたことを確認します。

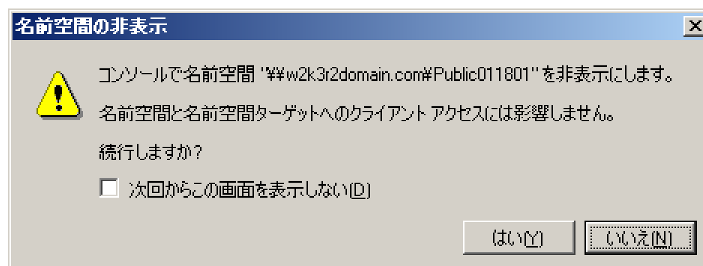


3.5.1.8　名前空間を非表示にする

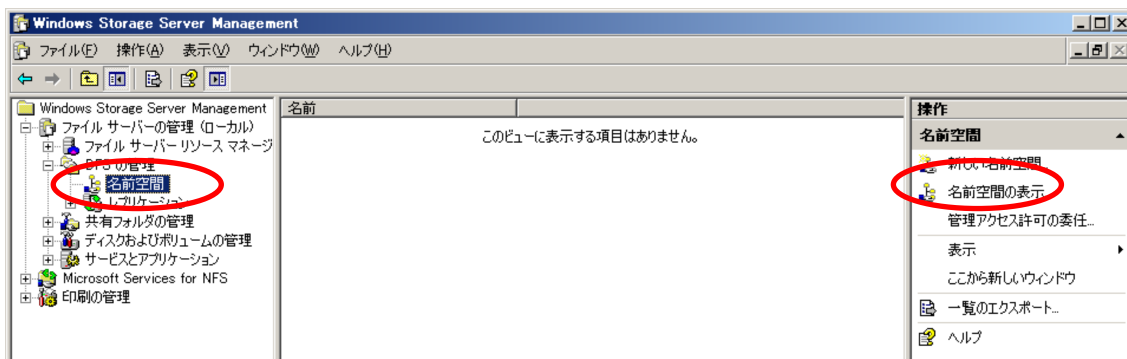
1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、非表示にする名前空間を選択します。
   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[名前空間の非表示]をクリックします。また名前空間を選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[名前空間の非表示]を選択することもできます。



2. 「名前空間の非表示」ウィンドウが表示されます。[はい]をクリックすると、名前空間が非表示になります。



3. コンソールツリーの名前空間をクリックし、名前空間が非表示になったことを確認します。非表示となった名前空間を表示させるには、「3.5.1.7 名前空間を表示する」を参照して再度表示してください。

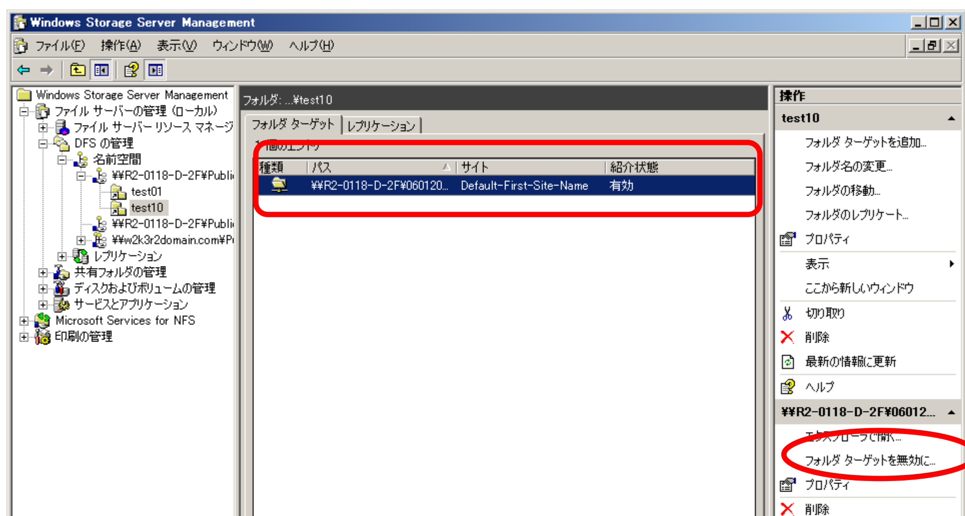


3.5.1.9　フォルダターゲットを無効にする

1. [フォルダターゲット]タブの画面で表示されている、エントリの中から、無効にするエントリ(フォルダターゲット)を選択します。

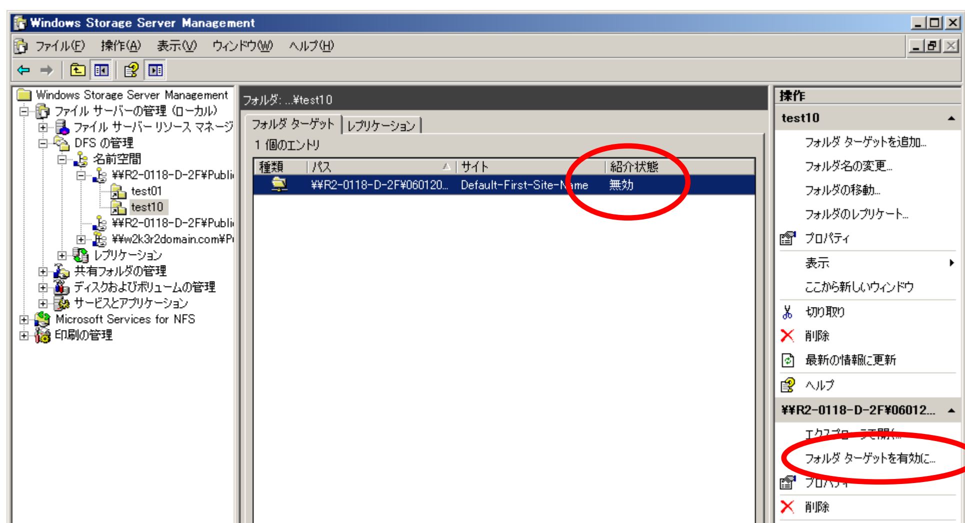
   画面右側操作ウィンドウに[フォルダターゲットを無効にする]が表示されますので、[フォルダターゲットを無効にする]をクリックします。

   また、無効にするエントリ(フォルダターゲット)を選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[フォルダターゲットを無効にする]を選択することもできます。



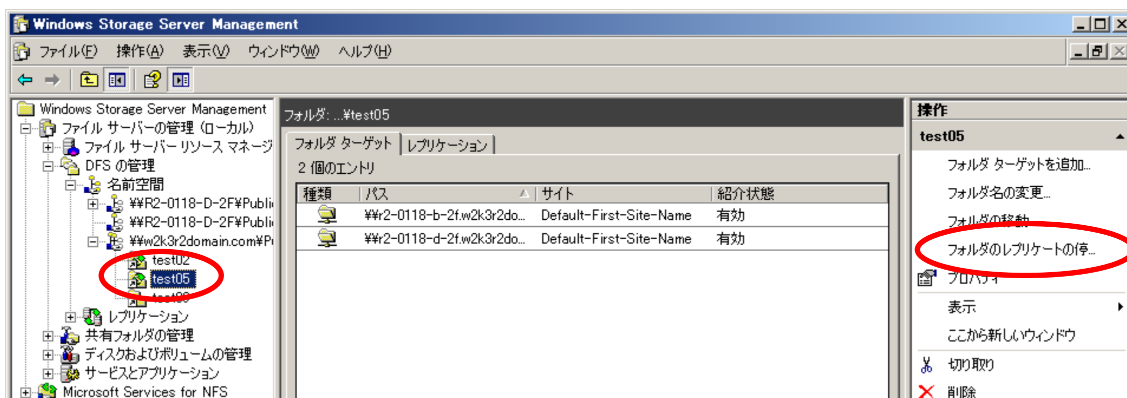
2. エントリの紹介状態の表示が「無効」になります。

   無効になったフォルダターゲットを有効にするには、[フォルダターゲット]タブの画面で表示されている、無効になったフォルダターゲットを選択し、画面右側操作ウィンドウの[フォルダターゲットを有効にする]をクリックします。エントリの紹介状態の表示が「有効」になったことを確認してください。



3.5.1.10 フォルダのレプリケートを停止する

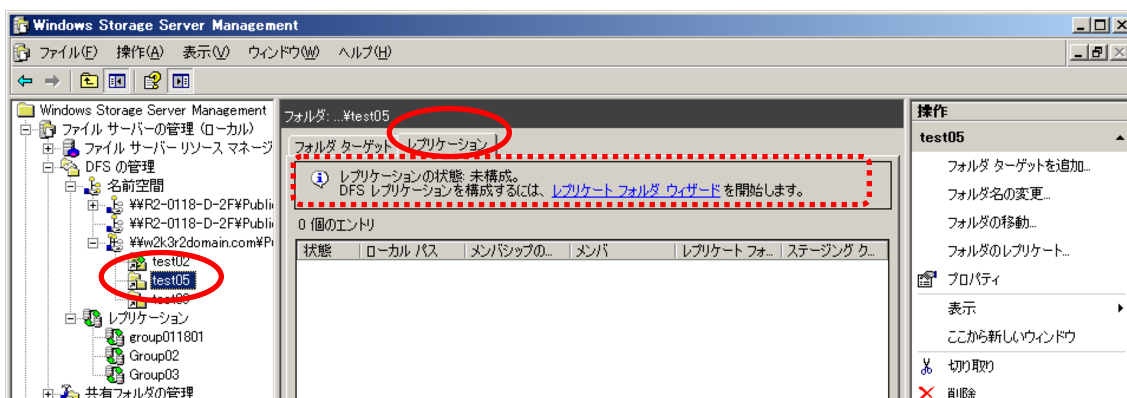
1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、レプリケートを停止するフォルダを選択します。画面右側操作ウィンドウに[フォルダのレプリケートの停止]が表示されますので、[フォルダのレプリケートの停止]をクリックします。
また、レプリケートを停止するフォルダを選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[フォルダのレプリケートの停止]を選択することもできます。



2. 警告画面が表示されますので、[はい]をクリックします。



3. フォルダのアイコンの形状が変わり、フォルダのレプリケートが停止したことを確認してください。



3.5.1.11 最新の情報に更新する

1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、名前空間を選択します。
2. 画面右側操作ウィンドウに[最新の情報に更新]が表示されます。ので、[最新の情報に更新]をクリックします。
3. 画面表示が最新の状態に更新されます。



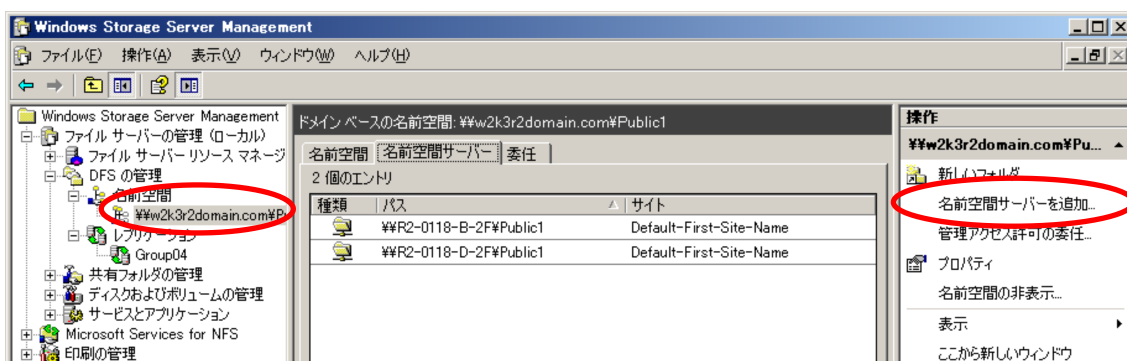
3.5.1.12 名前空間サーバーを追加する

名前空間サーバーをドメインベースの名前空間に追加する場合にこの操作を行います。スタンドアロンの名前空間ではこの操作はできません。

1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、サーバーを追加するドメインの名前空間を選択します。

   画面右側操作ウィンドウに[名前空間サーバーを追加]が表示されますので、[名前空間サーバーを追加]をクリックします。

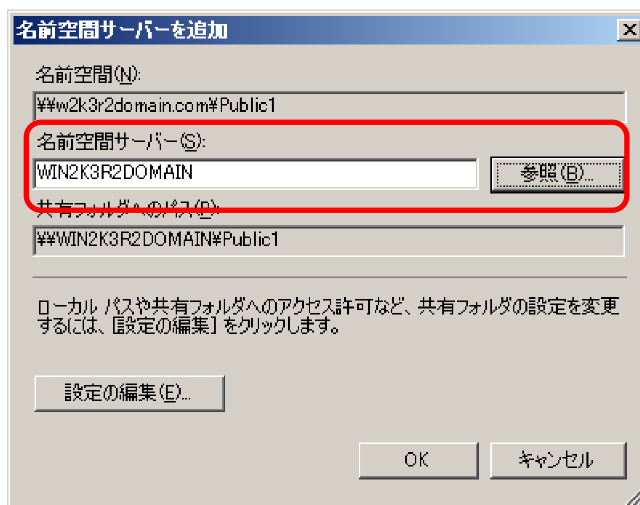
   また、サーバーを追加する名前空間を選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[名前空間サーバーを追加]を選択することもできます。



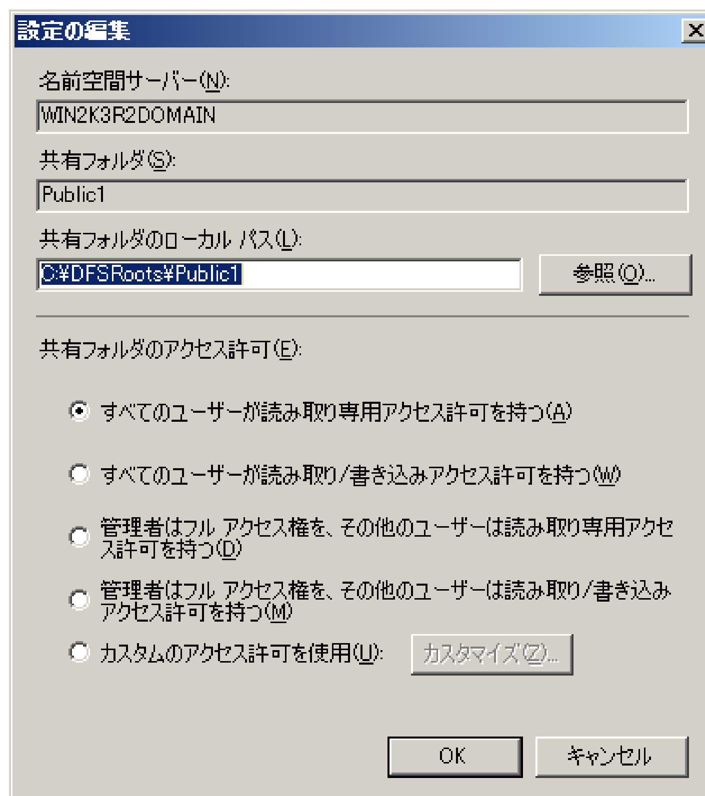
2. 「名前空間サーバーを追加」ウィンドウが表示されます。[名前空間サーバー]に追加するサーバー名を入力します。

   サーバー名が分からない場合は、[参照]をクリックし、検索を行い選択して入力することもできます。

   [名前空間サーバー]に追加するサーバー名を入力後、[OK]をクリックします。

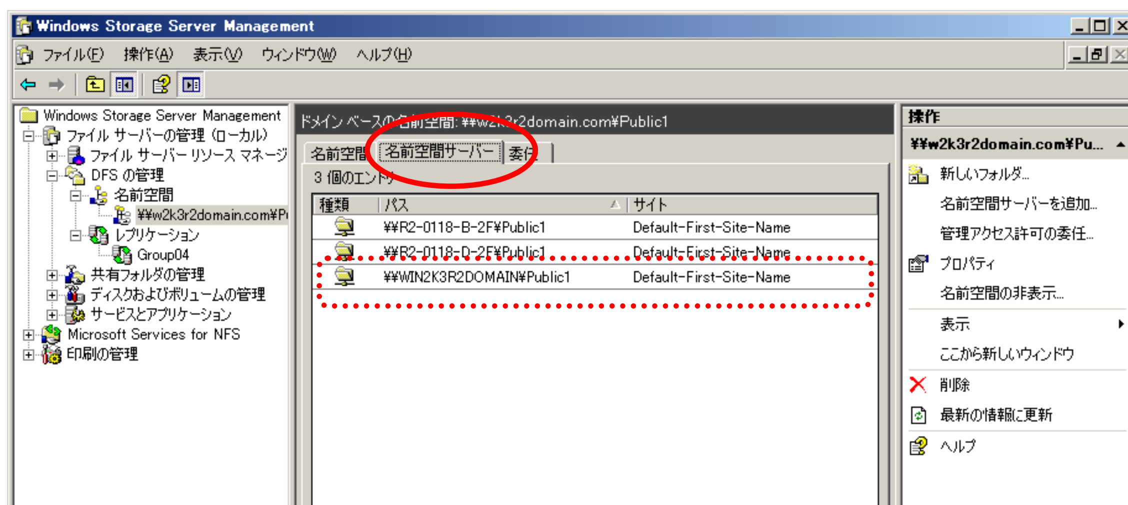


3. [設定の編集]をクリックすると、ローカルパスや共有フォルダへのアクセス許可など、共有フォルダの設定を変更することができます。



4. 進行状況のウィンドウが表示されることがあります。エラーとなった場合は、[詳細]をクリックし、詳細情報を確認し、設定を見直してください。

5. [名前空間サーバー]タブにエントリが追加されたことを確認します。

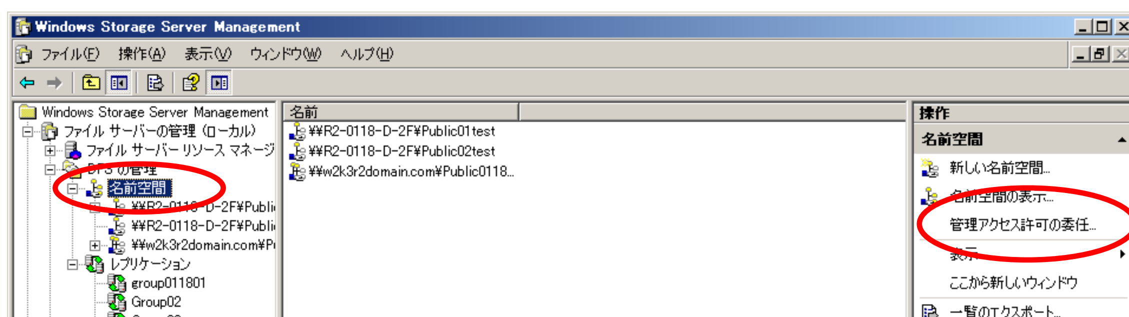


3.5.1.13 管理アクセス許可の委任

ここでは、基本的な名前空間のタスクを実行する機能を委任するための手順を示しています。詳細に関しては、ヘルプを参照してください。

- ドメインベースの名前空間を作成することができるグループ・ユーザーの委任
  1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、[名前空間]を選択します。
  2. 画面右側操作ウィンドウに[管理アクセス許可の委任]が表示されますので、[管理アクセス許可の委任]をクリックします。

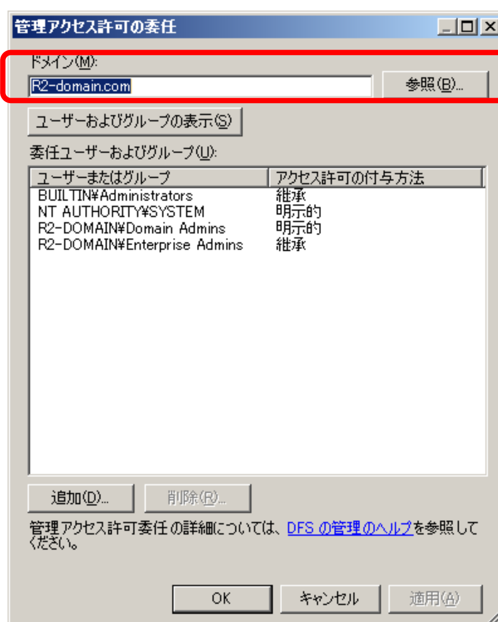
     また、名前空間を選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[管理アクセス許可の委任]を選択することもできます。



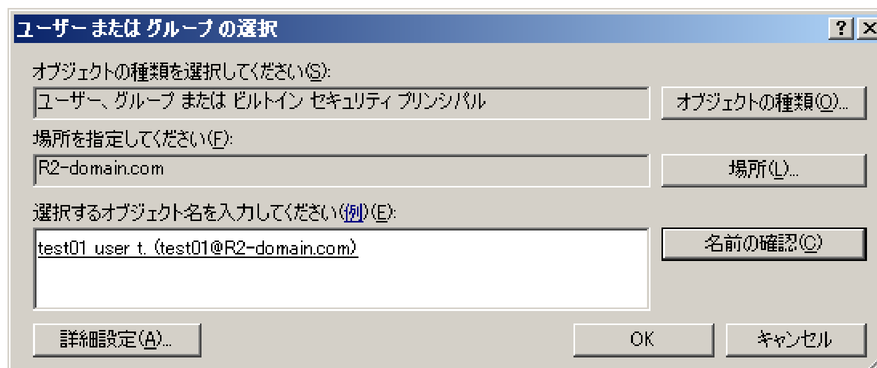
  3. 「管理アクセス許可の委任」画面が表示されます。

     ドメインを確認します。[参照]をクリックし、選択することもできます。

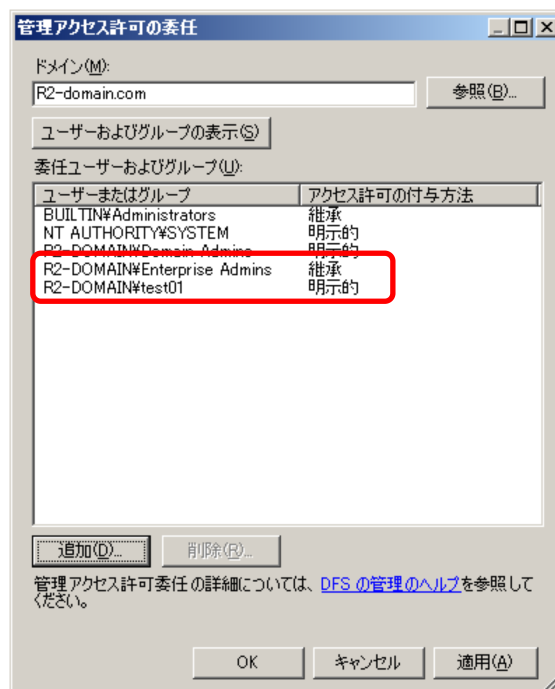
     委任ユーザーおよびグループの表示内容を確認します。[ユーザーおよびグループの表示]をクリックすると、最新の情報に更新されます。



4. [追加]をクリックすると、「ユーザーまたはグループの選択」画面が表示されます。
   [選択するオブジェクト名を入力してください]には、ユーザーまたはグループ名を入力します。
   [名前の確認]をクリックします。下線が入り、フルネーム等表示されますので、[OK]をクリックします。



5. 「管理アクセス許可の委任」画面に戻り、ユーザーまたはグループ名が追加されたことを確認します。
   追加したユーザーまたはグループを削除するには、ユーザーまたはグループ名を選択し、[削除]をクリックします。
   ユーザーまたはグループの追加・削除が完了したら、[OK]をクリックします。

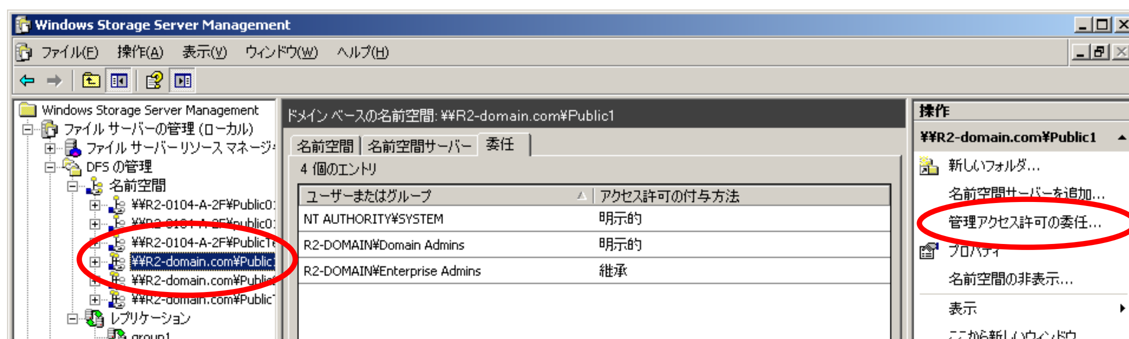


・ 名前空間の管理、名前空間サーバーをドメインベースの名前空間に追加することができるグループ・ユーザーの委任

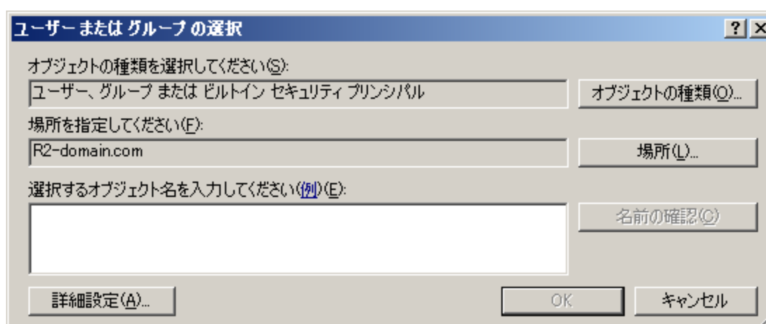
1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、管理アクセス許可の委任を行う名前空間のパスを選択します。

   画面右側操作ウィンドウに[管理アクセス許可の委任]が表示されますので、[管理アクセス許可の委任]をクリックします。

   また、名前空間のパスを選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[管理アクセス許可の委任]を選択することもできます。

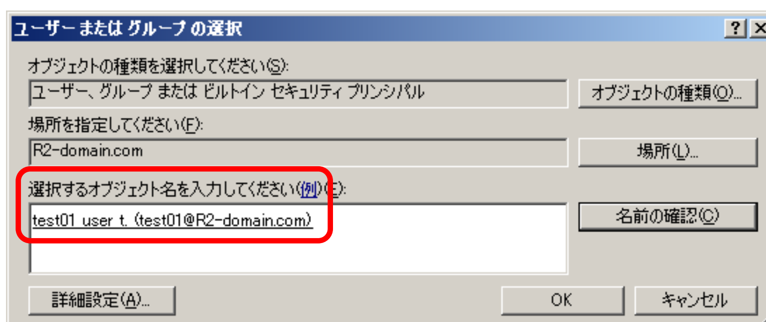


2. 「ユーザーまたはグループの選択」画面が表示されます。

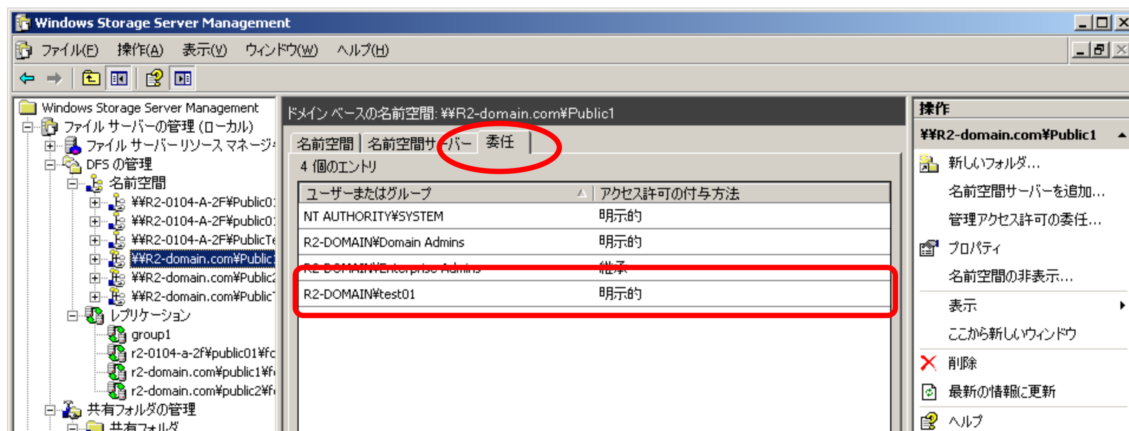


3. [選択するオブジェクト名を入力してください]にユーザーまたはグループ名を入力します。

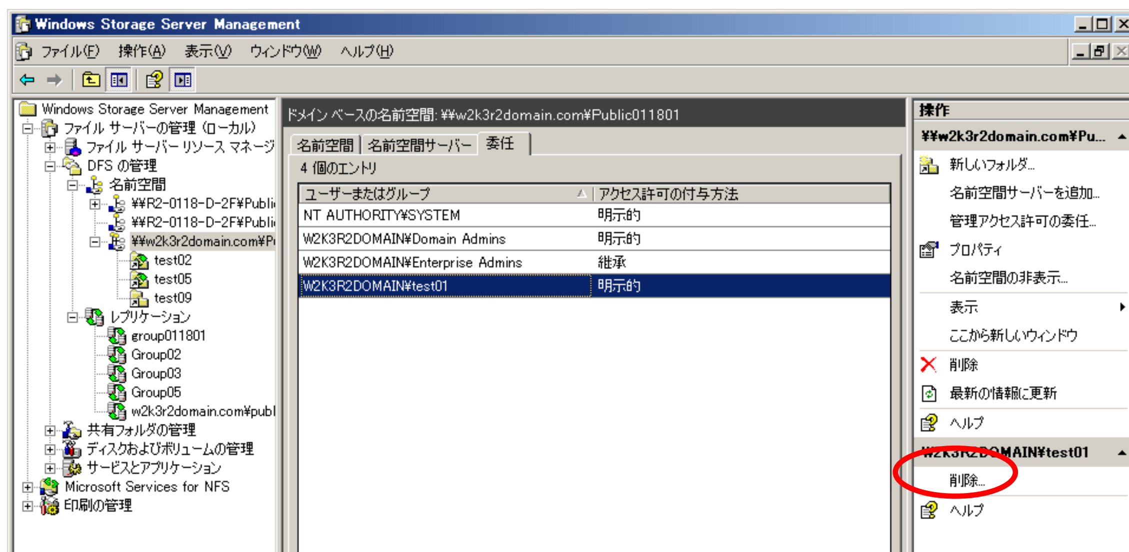
4. [名前の確認]をクリックします。下線が入り、フルネーム等表示されますので、[OK]をクリックします。



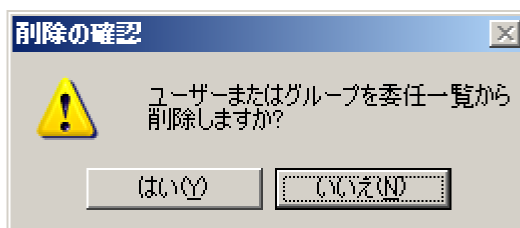
5. [委任]タブにユーザーまたはグループ名が追加されたことを確認します。



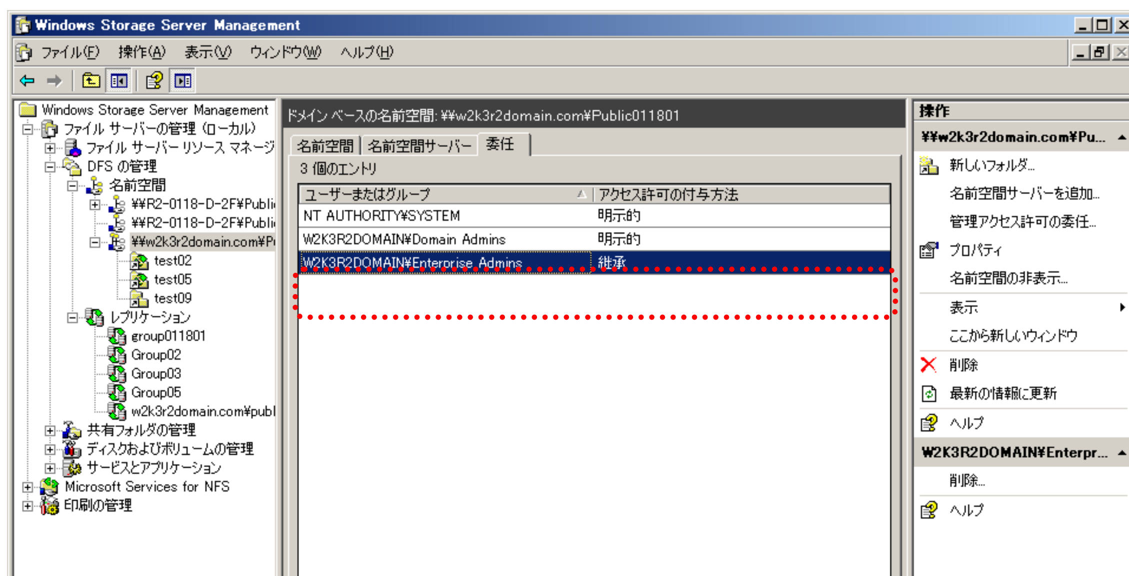
6. 追加したユーザーまたはグループ名を削除するには、画面左側コンソールツリーに表示されている、管理アクセス許可の委任を行う名前空間のパスを選択します。
7. [委任]タブに表示されているユーザーまたはグループ名を選択します。
8. 画面右側操作ウィンドウ下段の[削除]を選択するか、右クリックし、ショートカットメニューより[削除]を選択します。



9. 「削除の確認」ウィンドウが表示されます。[はい]をクリックすると削除されます。



10. [委任]タブからユーザーまたはグループ名が削除されたことを確認します。

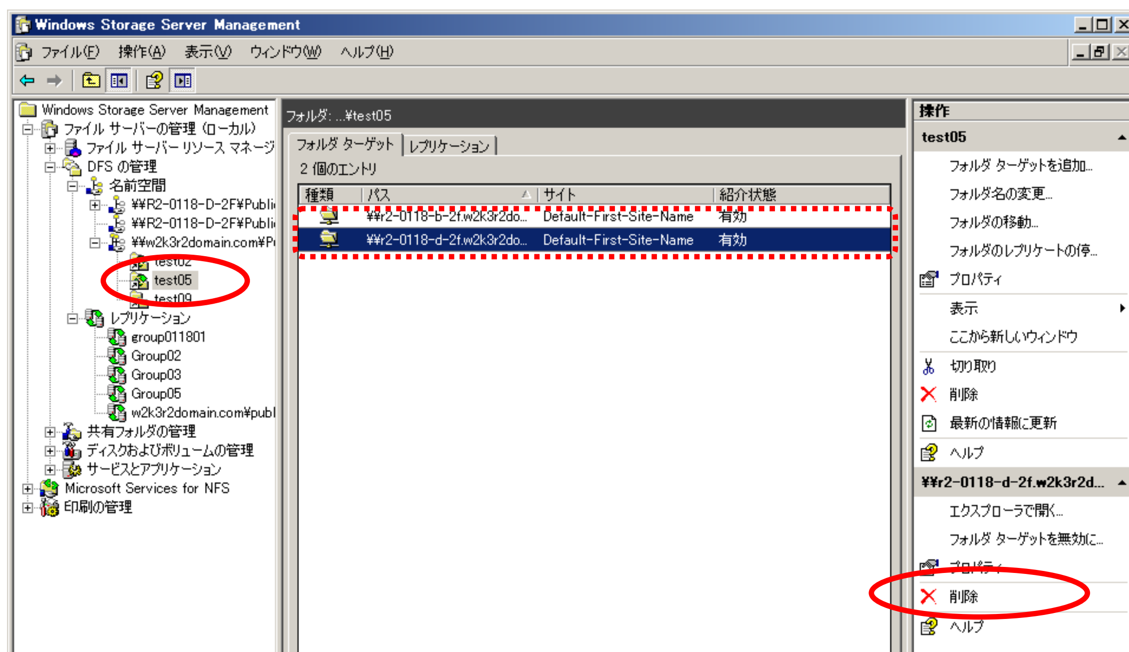


3.5.1.14 フォルダターゲットの削除

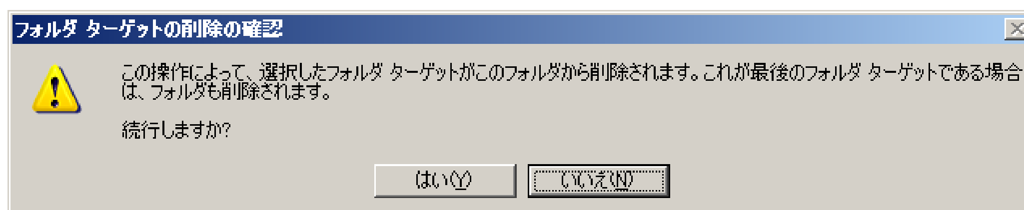


レプリケーションの有無により、表示・操作が異なります。

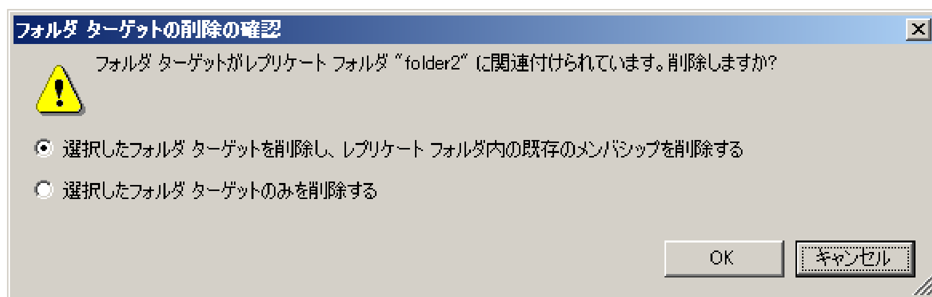
1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、フォルダを選択後、[フォルダターゲット]タブに表示されている、エントリ(フォルダターゲット)を選択し、操作ウィンドウ下段に各種操作項目が表示されますので、[削除]をクリックします。またエントリ(フォルダターゲット)を選択後右クリックし、ショートカットメニューから[削除]を選択することもできます。



2. レプリケーション無しの場合は、「フォルダターゲットの削除の確認」ウィンドウが表示されます。[はい]をクリックすることにより、フォルダターゲットが削除されます。



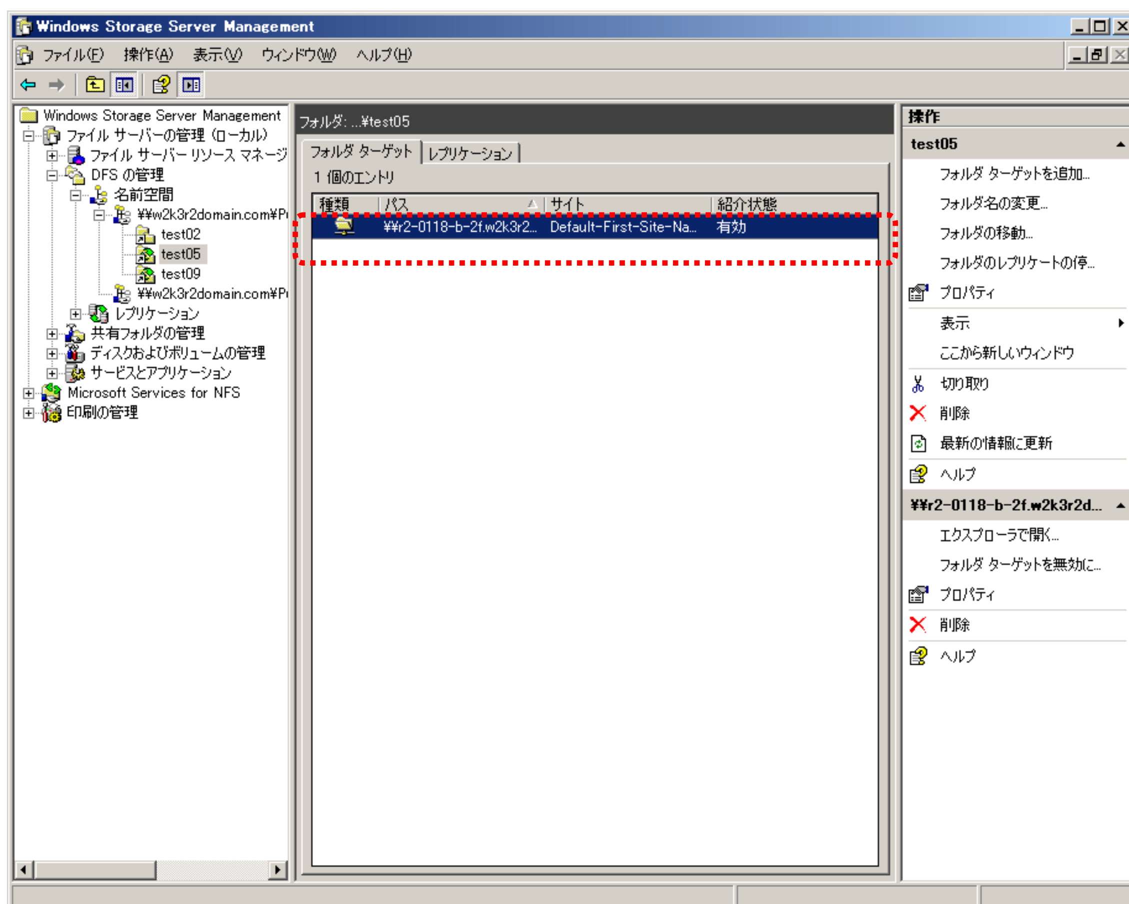
3. レプリケーションありの場合は､｢フォルダターゲットの削除の確認｣ウィンドウが表示されます。



- [選択したフォルダターゲットを削除し、レプリケートフォルダ内の既存のメンバシップを削除する]
- [選択したフォルダターゲットのみを削除する]

のいずれかを選択するようになっています。状況に応じ選択し、[OK]をクリックします。

4. フォルダターゲットタブからエントリ(フォルダターゲット)が削除されたことを確認します。

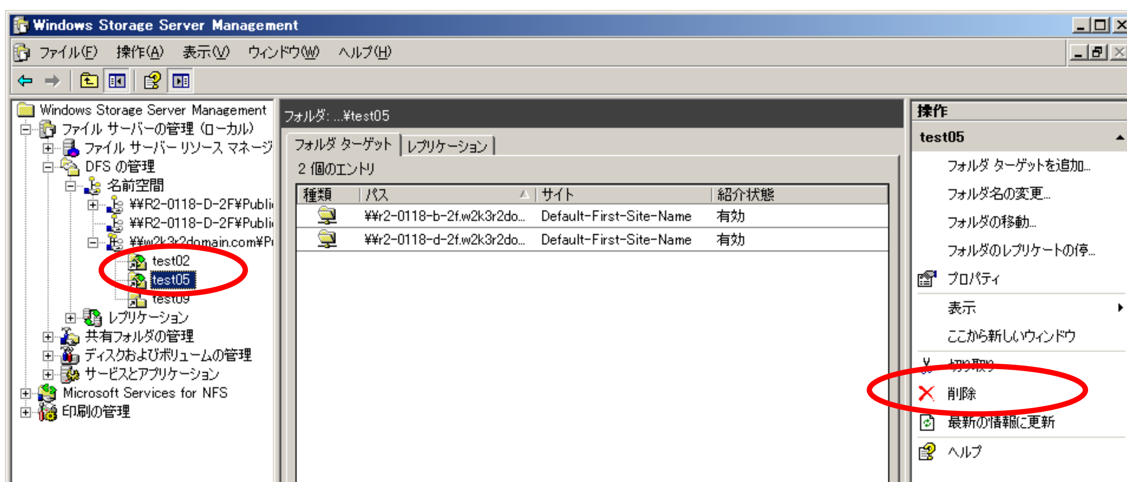


3.5.1.15 フォルダの削除

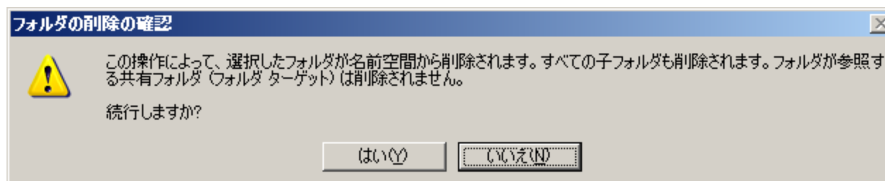


レプリケーションの有無により、表示・操作が異なります。

1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、削除するフォルダを選択します。画面右側操作ウィンドウ上段に各種操作項目が表示されますので、[削除]をクリックします。またフォルダを選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[削除]を選択することもできます。

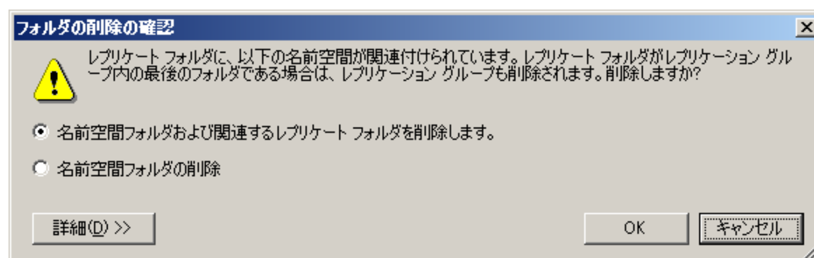


2. レプリケーション無しの場合は、「フォルダの削除の確認」ウィンドウが表示されます。[はい]をクリックすることにより、フォルダが削除されます。

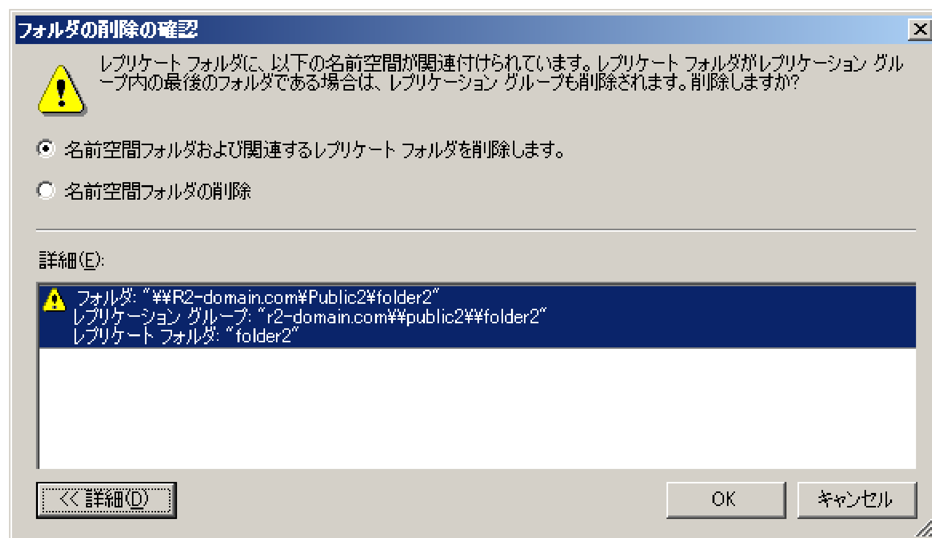


3. レプリケーションありの場合は、「フォルダの削除の確認」ウィンドウに、
   - [名前空間フォルダおよび関連するレプリケートフォルダを削除します。]
   - [名前空間フォルダの削除]

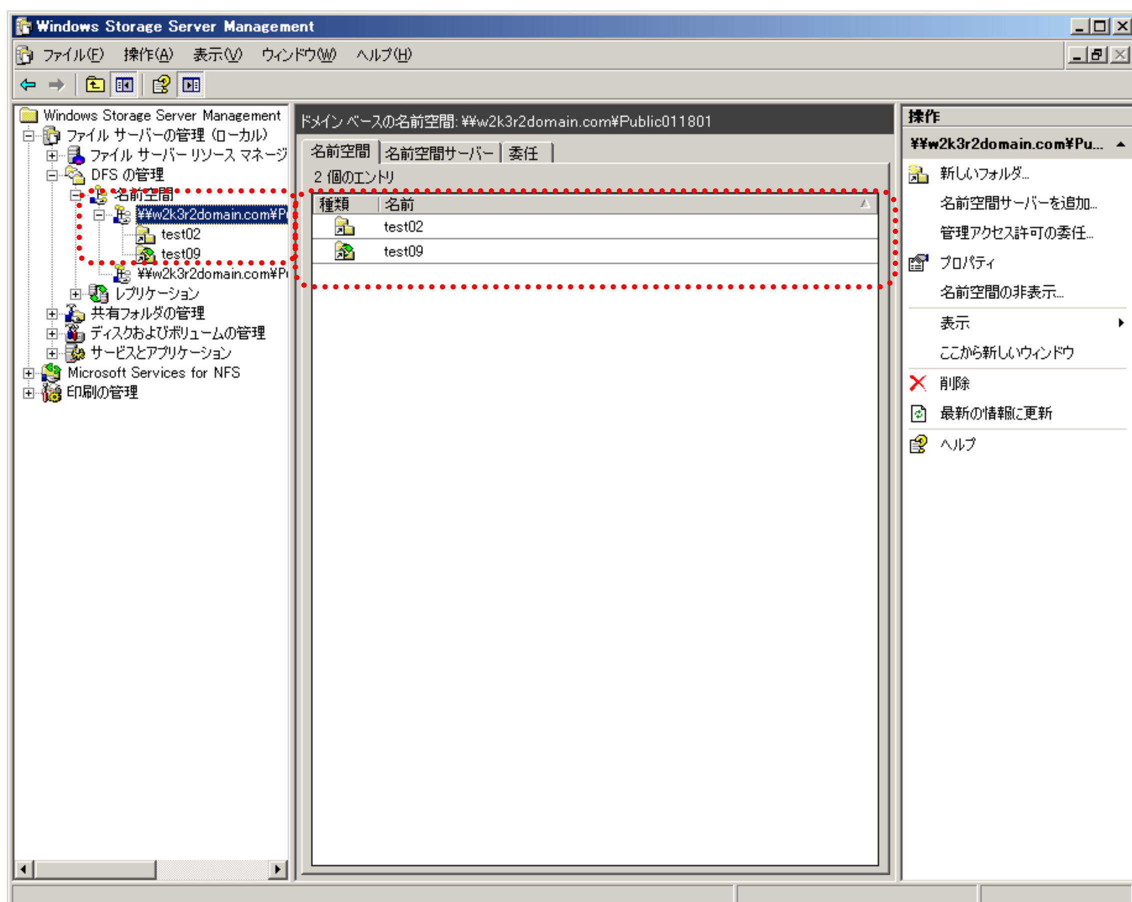
   のいずれかを選択するようになっています。状況に応じ選択し、[OK]をクリックします。



[詳細]をクリックすると、レプリケーションに関する情報が表示されます。



4. コンソールツリーや[名前空間]タブからフォルダが削除されたことを確認してください。



3.5.1.16 名前空間の削除

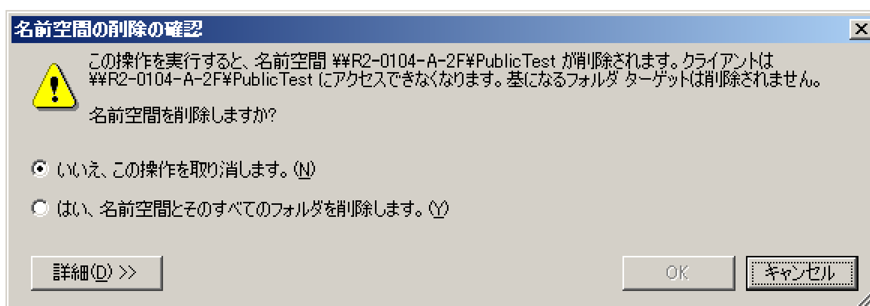


レプリケーションの有無により、表示・操作が異なります。

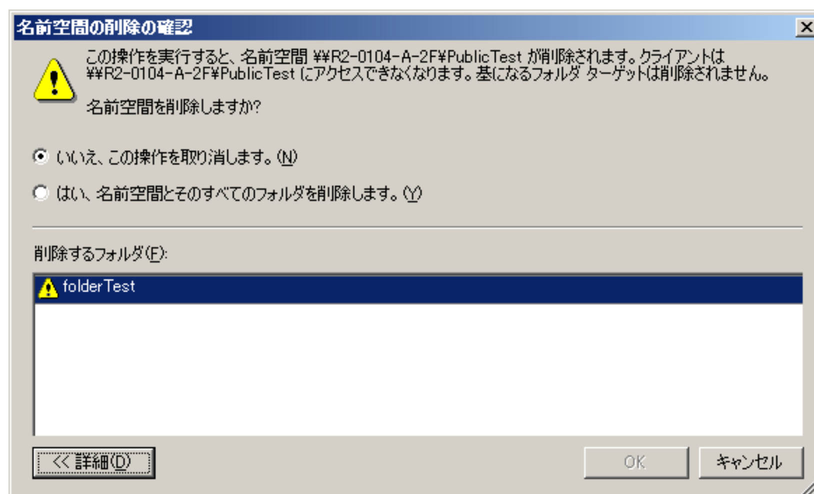
1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、削除する名前空間を選択します。画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[削除]をクリックします。また名前空間を選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[削除]を選択することもできます。



2. レプリケーション無しの場合は、「名前空間の削除の確認」ウィンドウが表示されます。[はい、名前空間とそのすべてのフォルダ]を選択し、[OK]をクリックして削除します。
   削除を行わない場合は、[いいえ、この操作を取り消します。] をクリックし、中断します。

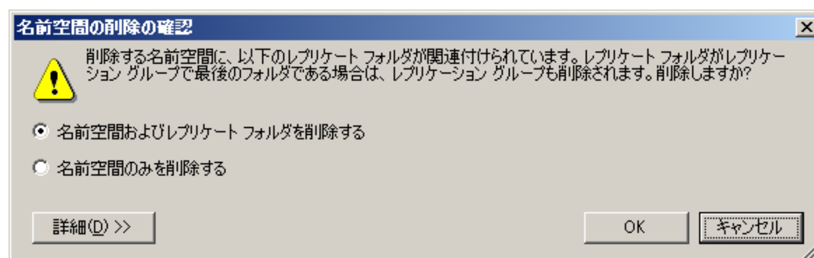


[詳細]をクリックすると、削除するフォルダ名が表示されます。

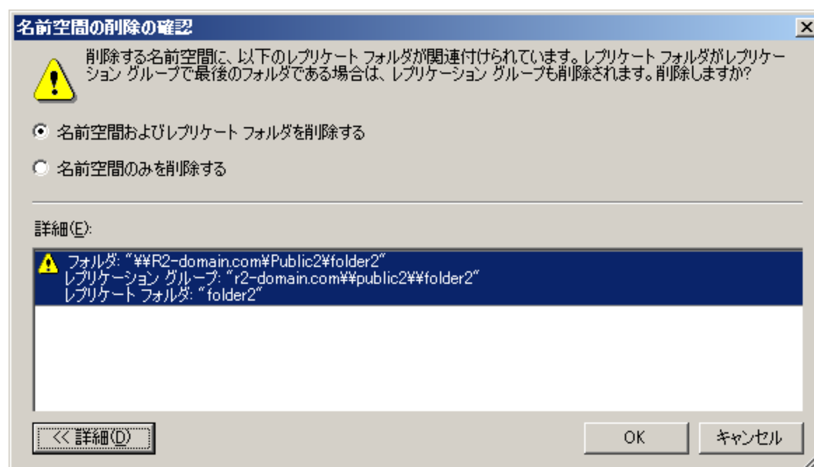


3. レプリケーションありの場合は、「名前空間の削除の確認」ウィンドウが表示され、
   - [名前空間およびレプリケートフォルダを削除する]
   - [名前空間のみ削除する]

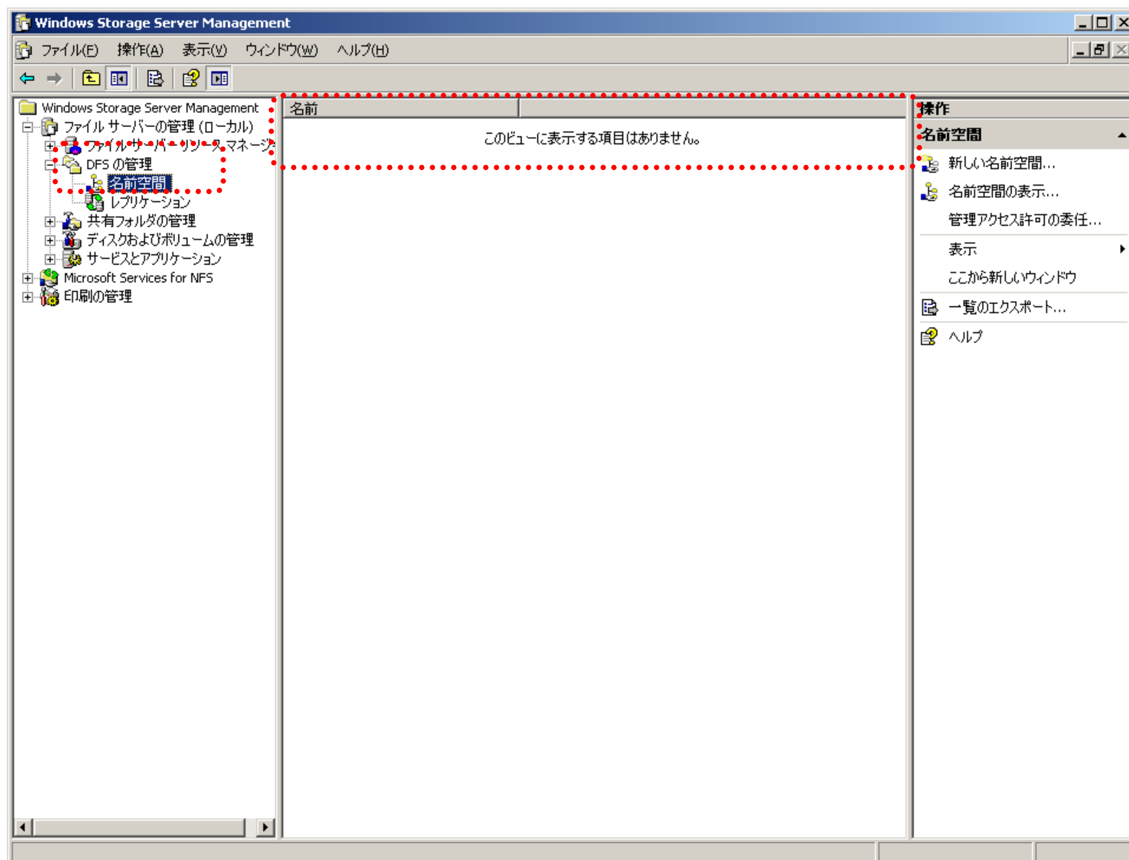
   のいずれかを選択するようになっています。状況に応じ選択し、[OK]をクリックします。



[詳細]をクリックすると、レプリケーションに関する情報が表示されます。



4. コンソールツリーから名前空間が削除されたことを確認します。



3.5.2 レプリケーション

 ワークグループでは、設定できません。必ずドメインに参加した状態で操作してください。

【注意】ドメインコントローラが Windows Server 2003 R2 以前の OS の場合、DFS レプリケーションを設定する前に、ドメインコントローラの Active Directory スキーマを更新する必要があります。Windows Server 2003 R2 インストール CD をお持ちの場合は、スキーマ操作マスター上で「adprep.exe /forestprep」を実行してください。Adprep.exe コマンドラインツールは、Windows Server 2003 R2 インストール CD の 2 枚目の Cmpnents¥R2¥Adprep フォルダにあります。Windows Server 2003 R2 インストール CD をお持ちでない場合は、Windows Server 2003 R2 ベースの iStorage NS 内にファイルが格納されていますので、以下の手順にて、スキーマのアップグレードを行ってください。

1. 本装置の以下のパス配下に Adprep フォルダがあることを確認します。見つからない場合は「Adprep」で検索を行ってください。

   C:¥WINDOWS¥CONPONENTS¥R2

2. この Adprep フォルダをドメインコントローラの任意の場所にコピーします。

3. ドメインコントローラでコマンドプロンプトを起動させた後、DIR コマンドで Adprep フォルダへ移り、以下のコマンドを実行してください。再起動は必要ありません。

   adprep.exe /forestprep

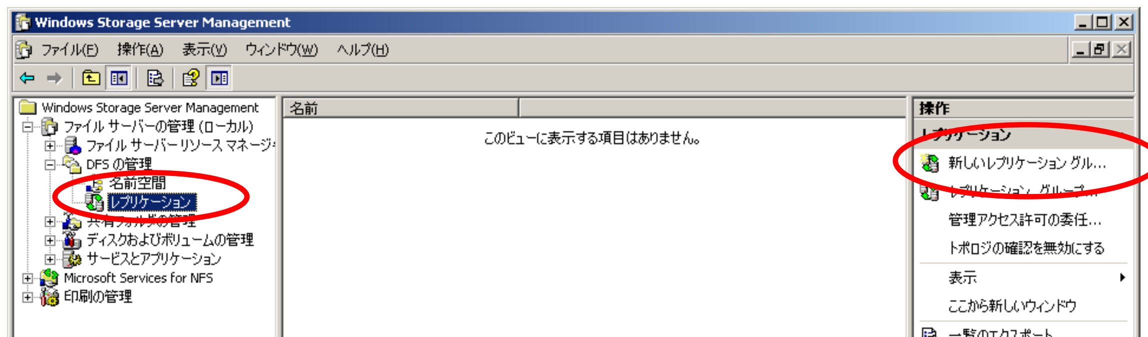
4. 実行後数分置いた後で、レプリケーションを設定してください。

※上記設定後、レプリケーション設定時にスキーマ関連のエラーが表示される場合は、ドメインコントローラ、レプリケーションを行うメンバサーバの順に再起動を行い、数分置いた後で、再度レプリケーションを設定してください。

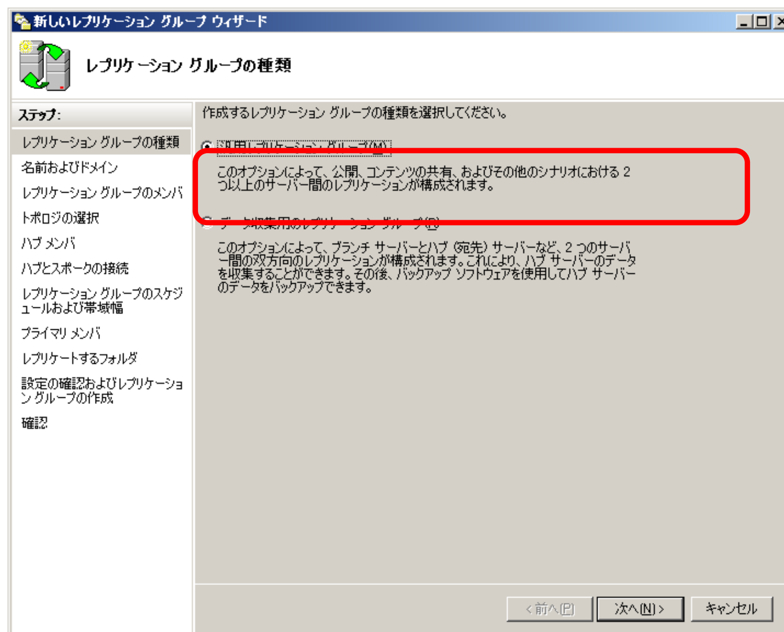
3.5.2.1 レプリケーショングループの新規作成(汎用)

1. 画面左側コンソールツリーの[レプリケーション]をクリックします。

   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[新しいレプリケーショングループ]をクリックします。また[レプリケーション]を選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[新しいレプリケーショングループ]を選択することもできます。



2. 「新しいレプリケーショングループウィザード」画面が起動します。作成するレプリケーショングループの種類を選択し[次へ]をクリックします。



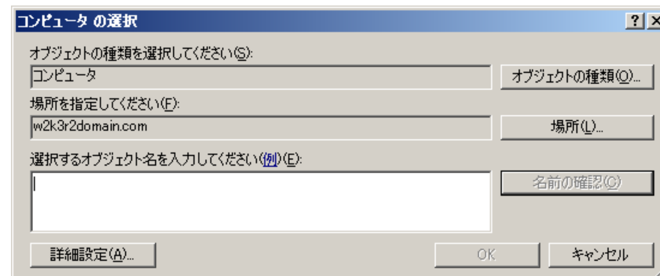
3. 「名前およびドメイン」の画面に切り替わります。[レプリケーショングループの名前]、[レプリケーショングループのオプションの説明]、[ドメイン]を入力します。[ドメイン]には、現在参加しているドメイン名が表示されます。[参照]をクリックしてドメインを検索して入力することもできます。入力が完了したら、[次へ]をクリックします。

新しいレプリケーション グループ ウィザード
名前およびドメイン
ステップ:
レプリケーション グループの種類
名前およびドメイン
レプリケーション グループのメンバ
トポロジの選択
ハブ メンバ
ハブとスポークの接続
レプリケーション グループのスケジュールおよび帯域幅
プライマリ メンバ
レプリケートするフォルダ
設定の確認およびレプリケーション グループの作成
確認
レプリケーション グループの名前およびドメインを入力してください。レプリケーション グループの名前は、レプリケーション グループをホストするドメインで一意である必要があります。
レプリケーション グループの名前(A):
group1
レプリケーション グループのオプションの説明(D):
ドメイン(O):
R2-domain.com
参照(R)...
< 前へ(P) 次へ(N) > キャンセル

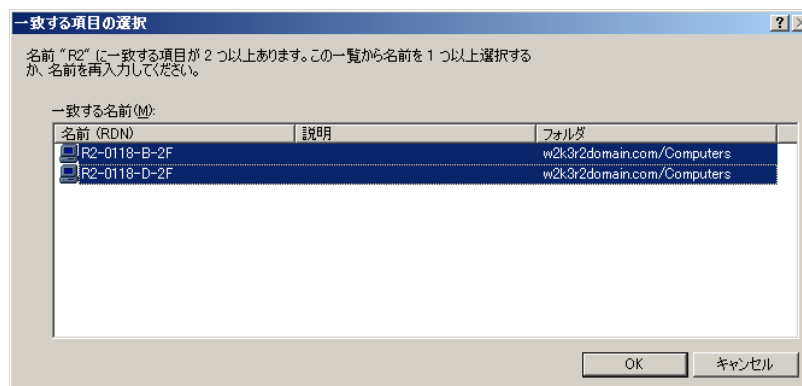
4. 「レプリケーショングループのメンバ」画面に切り替わります。[追加]をクリックし、レプリケーショングループのメンバとなる 2 つ以上のサーバーを選択します。

新しいレプリケーション グループ ウィザード
レプリケーション グループのメンバ
ステップ:
レプリケーション グループの種類
名前およびドメイン
レプリケーション グループのメンバ
トポロジの選択
ハブ メンバ
ハブとスポークの接続
レプリケーション グループのスケジュールおよび帯域幅
プライマリ メンバ
レプリケートするフォルダ
設定の確認およびレプリケーション グループの作成
確認
[追加] をクリックし、レプリケーション グループのメンバとなる 2 つ以上のサーバーを選択してください。
メンバ(M):
サーバー ドメイン
追加(A)... 削除(R)
< 前へ(P) 次へ(N) > キャンセル

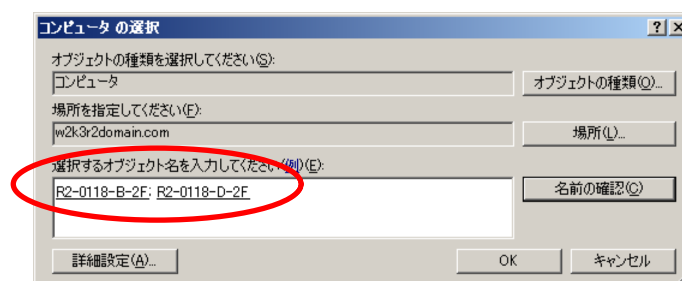
[追加]をクリックすると、「コンピュータの選択」ウィンドウが表示されます。コンピュータ名を入力し、[名前の確認]をクリックします。



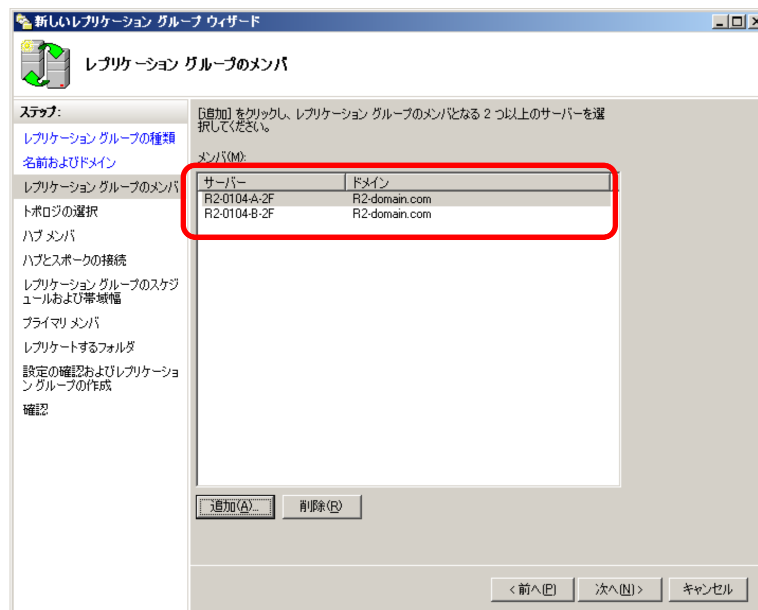
同じ文字を含むコンピュータが複数存在する場合、「一致する項目の選択」ウィンドウが表示されますので、追加するコンピュータ名を選択し、[OK]をクリックします。



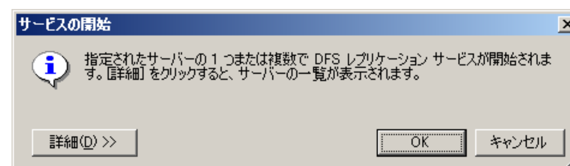
{OK]をクリックすると、「コンピュータの選択」ウィンドウに戻ります。選択したコンピュータ名が表示されていることを確認してください。[OK]をクリックします。



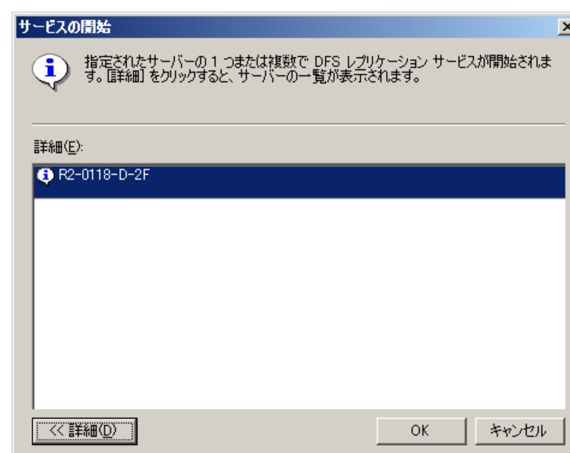
5. 「レプリケーショングループのメンバ」画面に戻ります。サーバーが 2 台以上追加されたことを確認し、[次へ]をクリックします。間違ってサーバーを選択した場合は、サーバーを選択し、[削除]をクリックして削除してください。



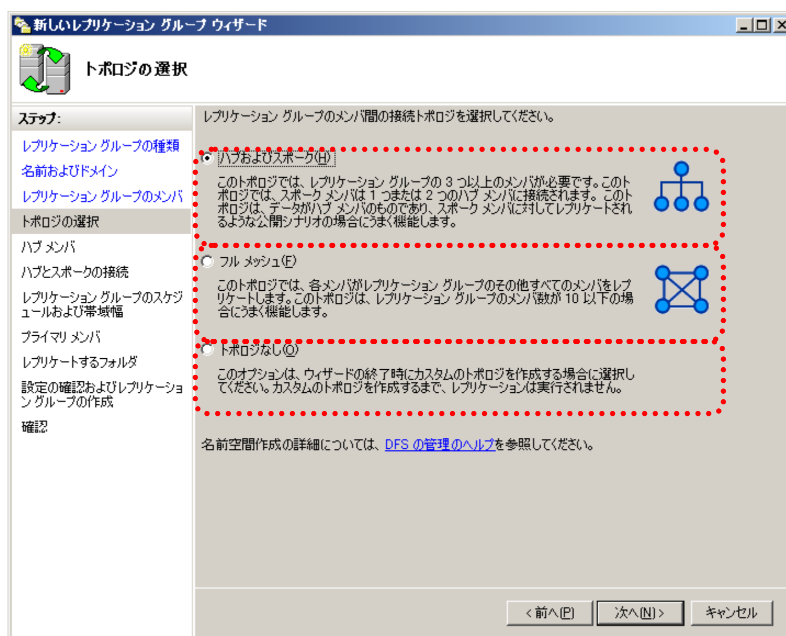
「サービスの開始」ウィンドウが表示されることがあります。このウィンドウはインストール直後の初回作成時などに表示されます。[OK]をクリックし、サービスを開始します。



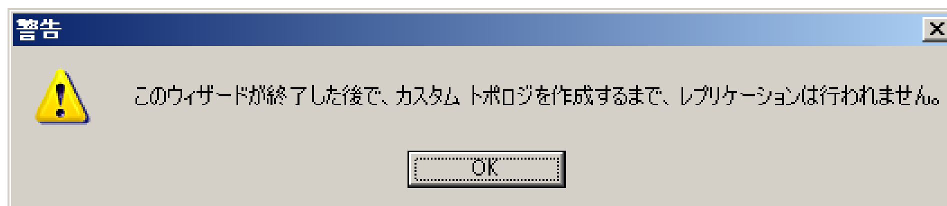
[詳細]をクリックすると、サービスを開始するサーバー名が表示されます。



6. 「トポロジの選択」画面に切り替わります。選択可能な中からトポロジを選択します。[ハブおよびスポーク]は、サーバーが 3 台以上から選択できるようになります。トポロジを選択し[次へ]をクリックします。
   - [ハブアンドスポーク]を選択した場合、手順 6「ハブメンバ」画面に進んでください。
   - [フルメッシュ]を選択した場合、手順 8「レプリケーショングループのスケジュールおよび帯域幅」画面に進んでください。
   - [トポロジなし] を選択した場合、手順 9「プライマリメンバ」画面に進んでください。

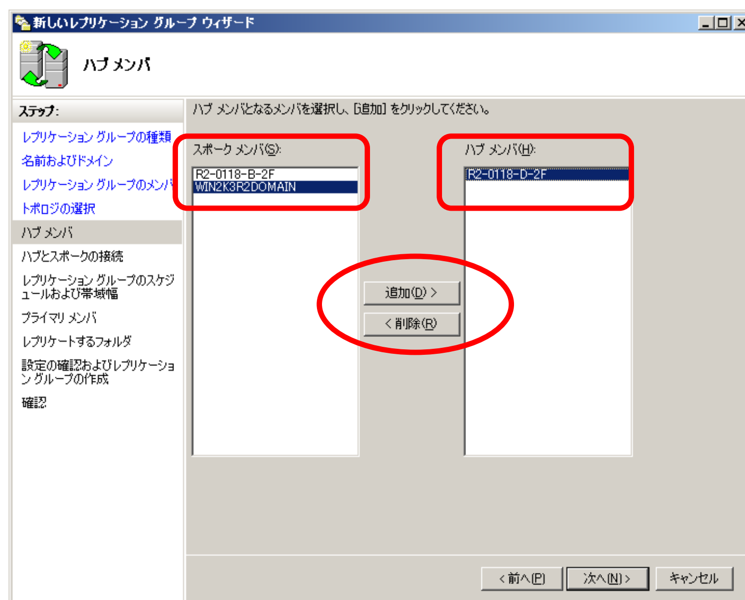


[トポロジなし]を選択した場合、「警告」ウィンドウが表示されます。[OK]をクリックした後、「プライマリメンバ」画面に進んでください。



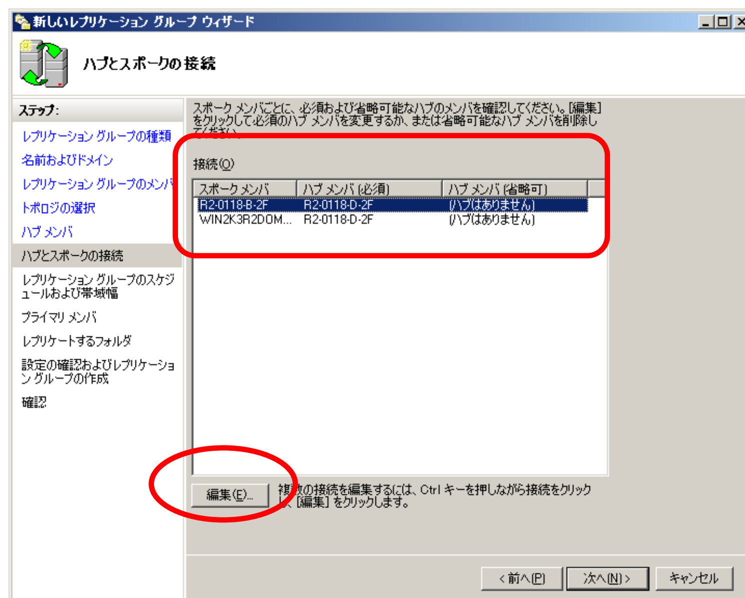
7. 「ハブメンバ」画面に切り替わります。

[スポークメンバ]欄より、ハブメンバにするサーバーを選択し、[追加 >]をクリックします。サーバー名が[ハブメンバ]欄に追加されます。[< 削除]をクリックすると、[スポークメンバ]欄に戻ります。ハブメンバを設定したら、[次へ]をクリックします。



8. 「ハブとスポークの接続」画面に切り替わります。

ハブのメンバを確認してください。ハブメンバの変更または省略可能なハブメンバを削除する場合は、[編集]をクリックします。

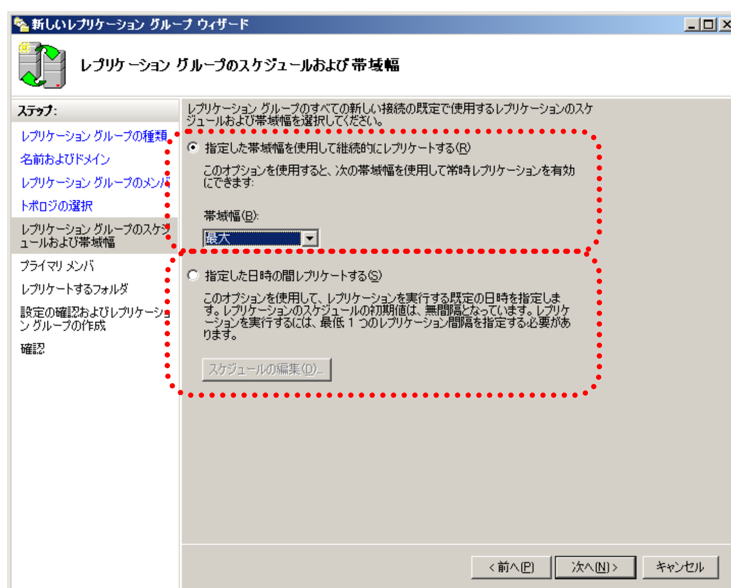


[編集]をクリックすると、「スポーク"サーバー名"を編集」ウィンドウが表示されます。[必須のハブ]、[省略可能なハブ]をプルダウンメニューから選びます。[OK]をクリックします。

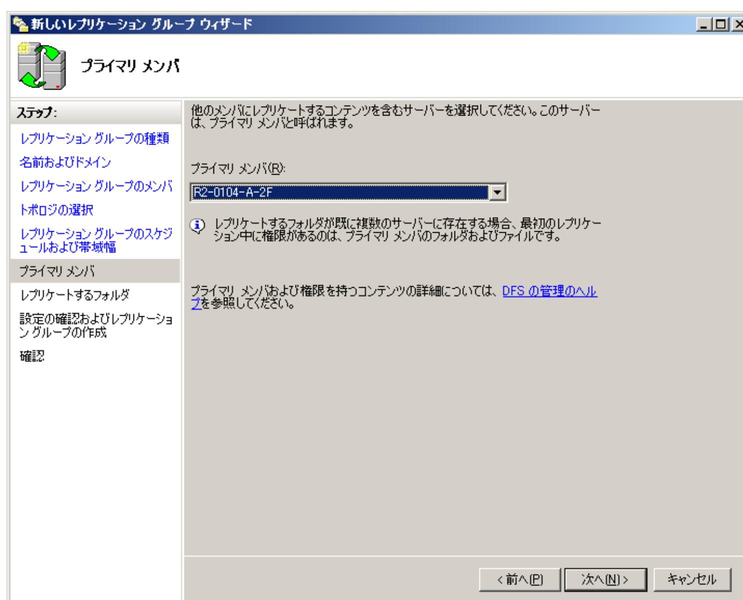
「ハブとスポークの接続」画面に戻ります。設定情報を確認し、[次へ]をクリックします。

9. 「レプリケーショングループのスケジュールおよび帯域幅」画面に切り替わります。レプリケーショングループのすべての新しい接続の設定で使用するレプリケーションのスケジュールおよび帯域幅を選択してください。帯域幅はプルダウンメニューより選択します。状況に応じた帯域幅を選択してください。[スケジュールの編集]をクリックすると、「スケジュールの編集」画面が表示されます。スケジュールの設定は、「3.5.2.11 レプリケーションスケジュール」手順 2 以降を参照してください。

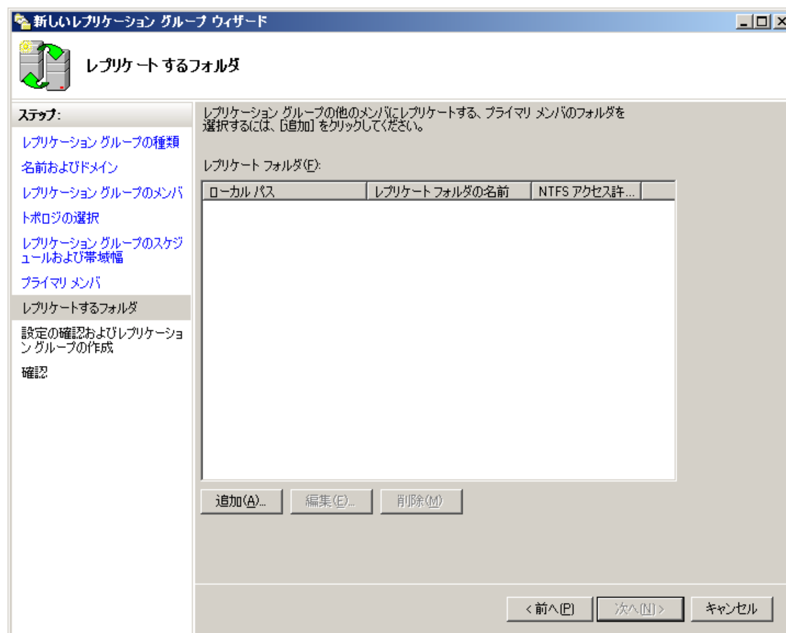
   選択・設定が完了したら、[次へ]をクリックします。



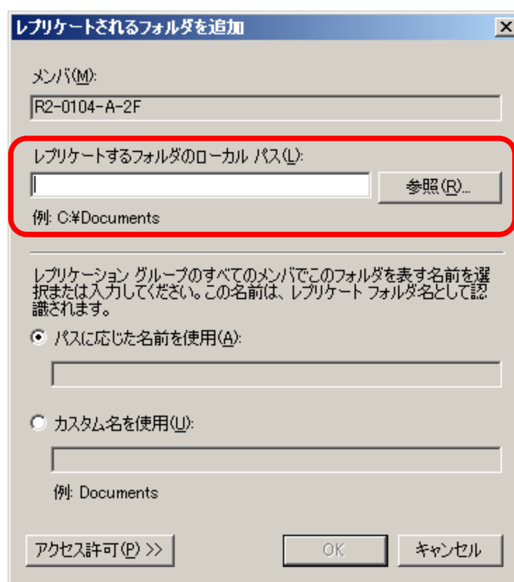
10. 「プライマリメンバ」画面に切り替わります。プルダウンメニューからプライマリメンバにするサーバーを選び、[次へ]をクリックします。



11. 「レプリケートするフォルダ」画面に切り替わります。[追加]をクリックして、フォルダを選択します。

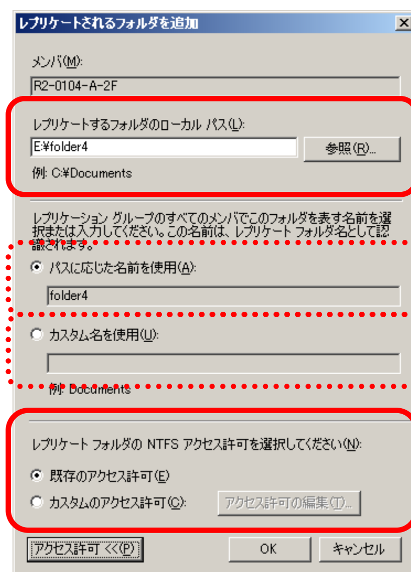


12. 「レプリケートされるフォルダを追加」ウィンドウが表示されます。[レプリケートするフォルダのローカルパス]を入力します。[参照]をクリックし、選択して入力することもできます。

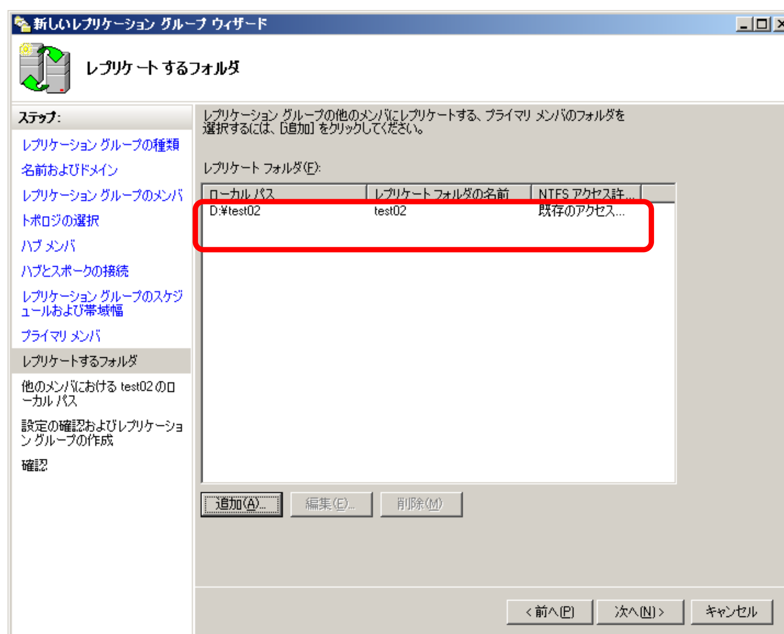


レプリケーショングループのすべてのメンバでこのフォルダを表す名前を選択または入力します。また、レプリケートフォルダの NTFS アクセス許可を選択してください。

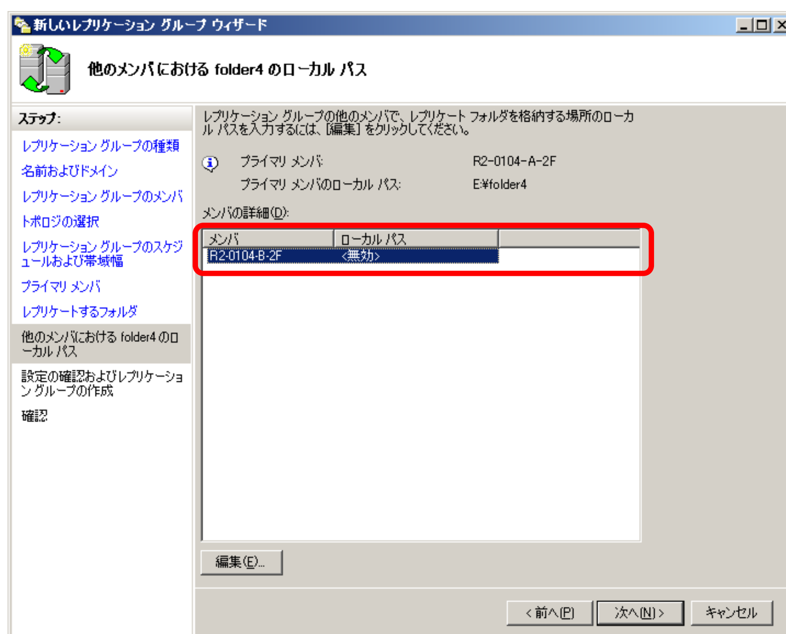
[カスタムのアクセス許可]を選択すると、[アクセス許可の編集]が有効になります。[アクセス許可の編集]をクリックしてアクセス許可を編集してください。設定が完了したら、[OK]をクリックしてください。



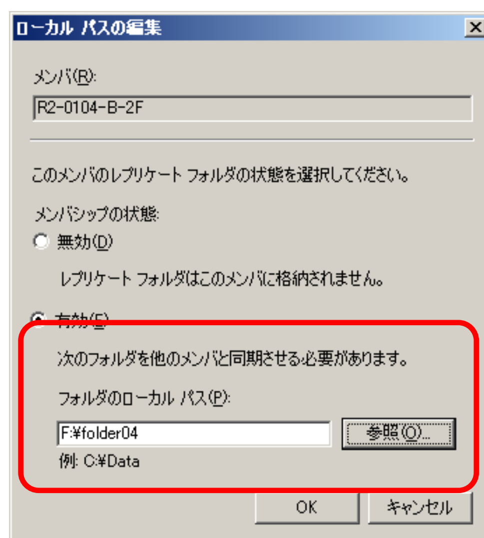
13. 「レプリケートするフォルダ」画面に戻ります。[レプリケートフォルダ]に設定した内容が表示されていることを確認します。続けて[追加]をクリックしてフォルダを追加することもできます。[次へ]をクリックします。



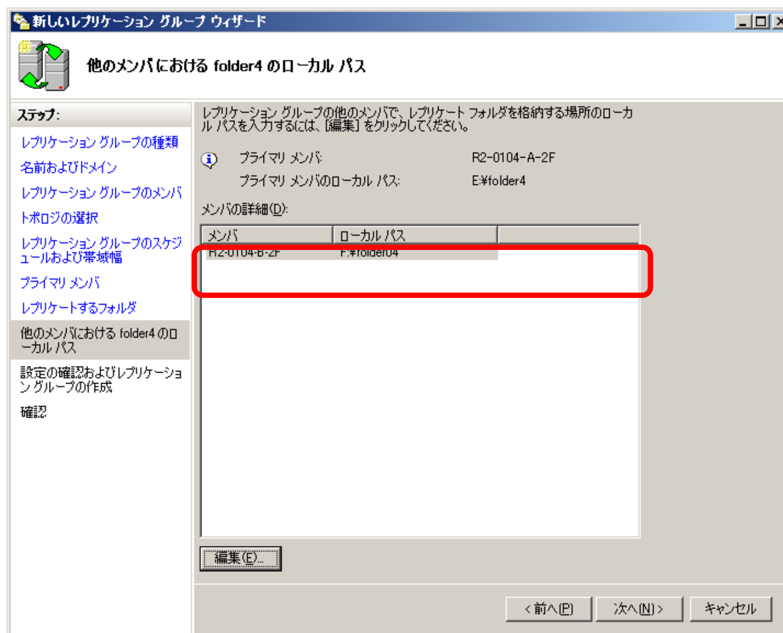
14. 「他のメンバによる"共有名"のローカルパス」画面に切り替わります。メンバの詳細にメンバになっているサーバー名が表示されていることを確認し[編集]をクリックします。



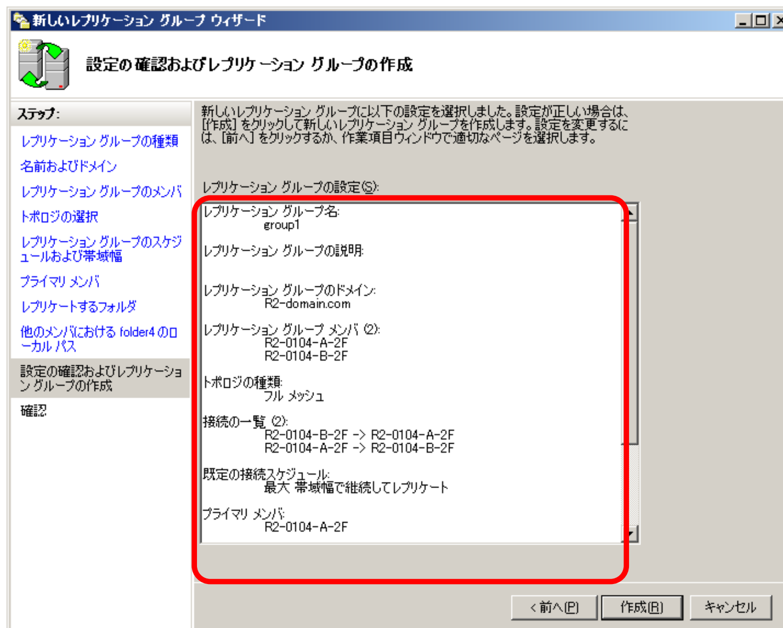
15. 「ローカルパスの編集」ウィンドウが表示されます。[メンバシップの状態]の[有効]を選択し、[フォルダのローカルパス]を入力します。[参照]をクリックして選択して入力することもできます。設定が完了したら、[OK]をクリックします。



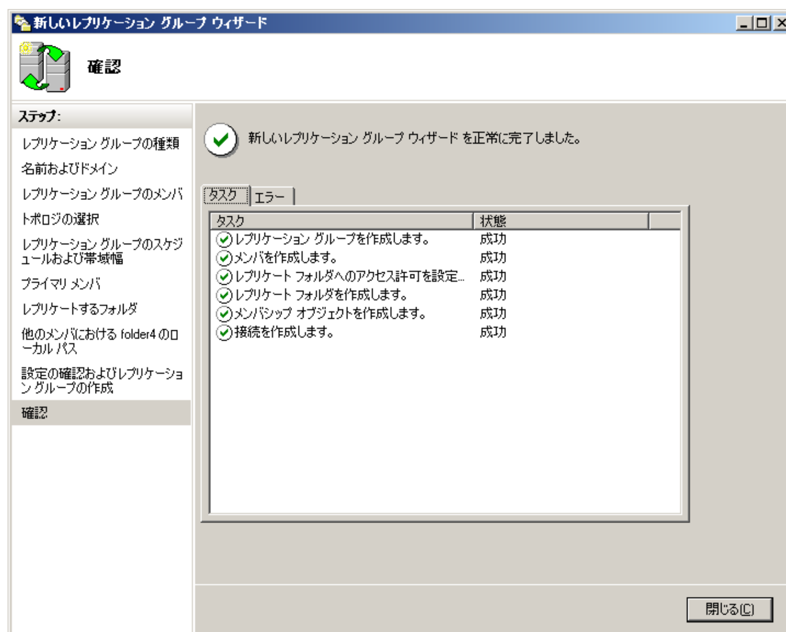
16. 「他のメンバによる"共有名"のローカルパス」画面に戻り、[メンバの詳細]にローカルパスが表示されていることを確認します。ローカルパスが正しければ[次へ]をクリックします。



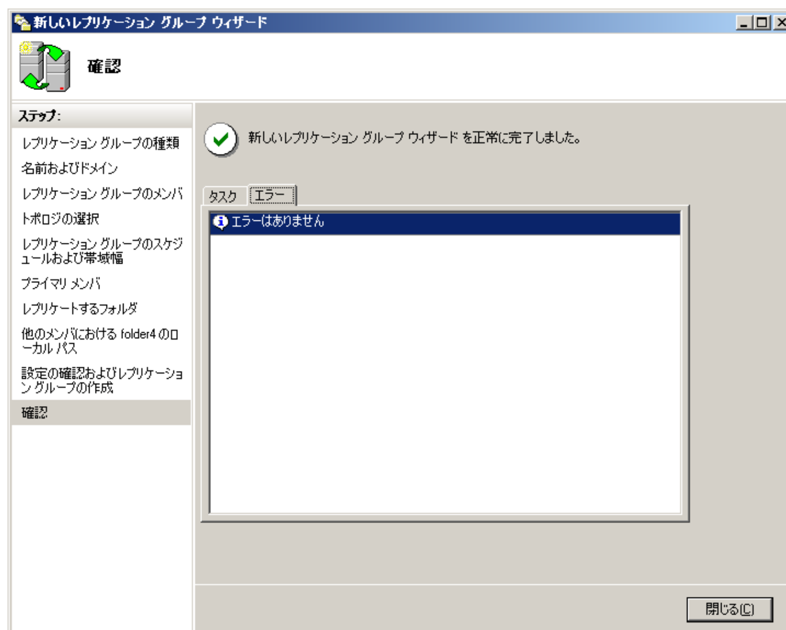
17. 「設定の確認およびレプリケーショングループの作成」画面に切り替わります。設定内容を確認してください。設定内容が正しい場合は、[作成]をクリックします。設定を変更する場合は、[前へ]をクリックして、画面を戻して設定を行ってください。



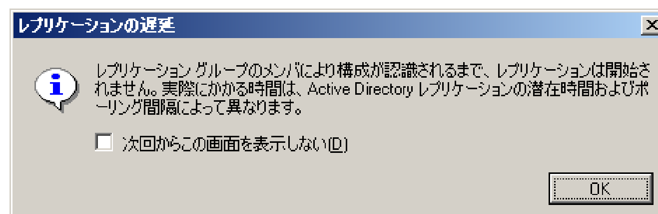
18. [作成]ボタンをクリックすると、「確認」画面に切り替わり、レプリケーショングループが作成されます。正常に作成されると、[タスク]タブの画面の項目にチェックマークが表示されます。[エラー]タブの画面には、「エラーはありません」と表示されます。



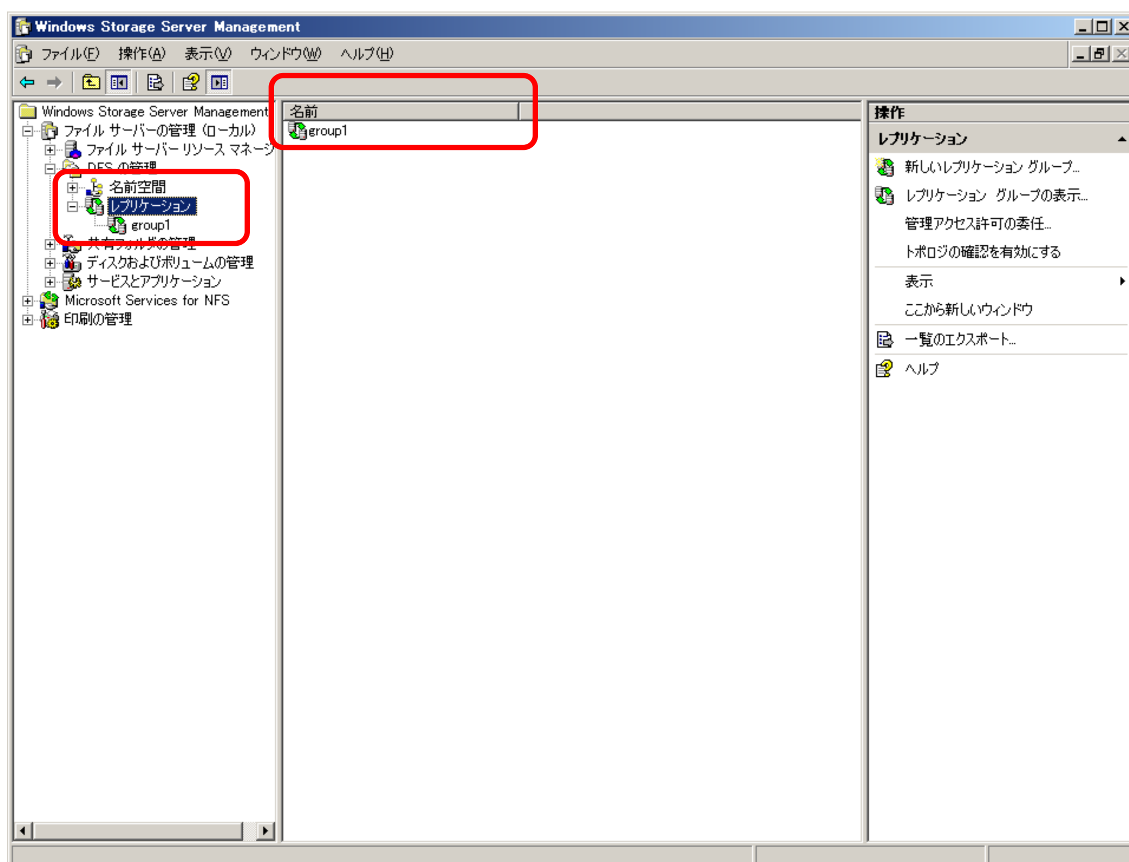
[エラー]タブの画面には、レプリケーショングループの作成がエラーになった場合、詳細なエラー内容が表示されます。内容を確認の上、設定を見直し、再度作成してください。



19. 「確認」画面の[閉じる]をクリックすると、「レプリケーションの遅延」ウィンドウが表示されます。[OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。このウィンドウを表示させないようにするには、[次回からこの画面を表示しない]をチェックしてください。



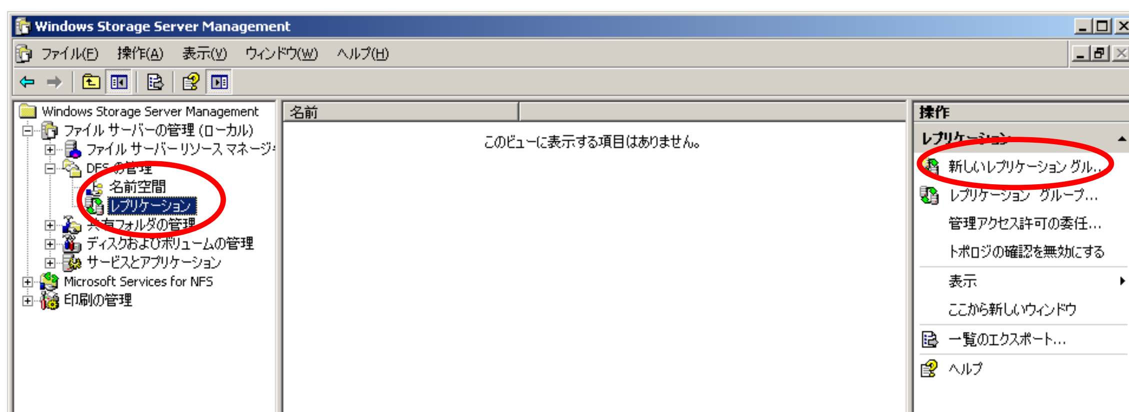
20. レプリケーショングループが表示されていることを確認してください。



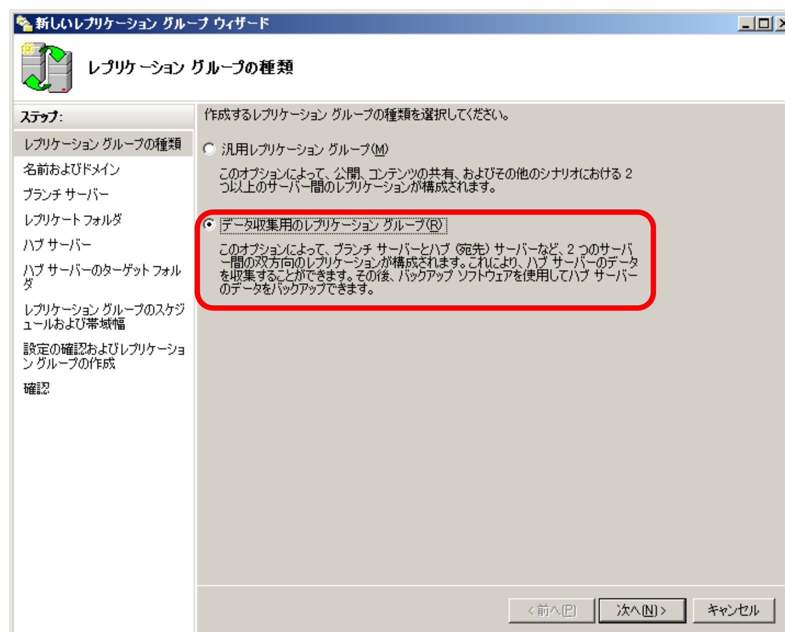
3.5.2.2 レプリケーショングループの新規作成(データ収集用)

1. 画面左側コンソールツリーの[レプリケーション]をクリックします。

   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[新しいレプリケーショングループ]をクリックします。また[レプリケーション]を選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[新しいレプリケーショングループ]を選択することもできます。



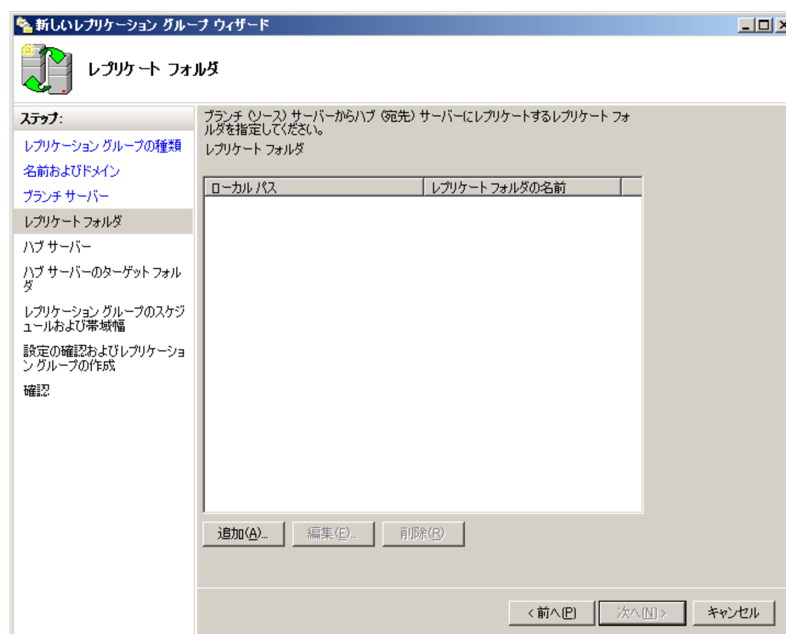
2. 「新しいレプリケーショングループウィザード」が起動します。レプリケーショングループの種類で[データ収集用レプリケーショングループ]を選択し、[次へ]をクリックします。



3. 「名前およびドメイン」の画面に切り替わります。[レプリケーショングループの名前][レプリケーショングループのオプションの説明][ドメイン]を入力します。[ドメイン]には、現在参加しているドメイン名が表示されます。[参照]ボタンをクリックしてドメインを検索して入力することもできます。入力が完了したら、[次へ]をクリックします。

4. 「ブランチサーバー」画面に切り替わります。[名前]にブランチサーバーの名前を入力します。[参照]をクリックしてサーバーを選択して入力することもできます。入力後[次へ]をクリックします。

5. 「レプリケートフォルダ」画面に切り替わります。[追加]をクリックして、フォルダを選択します。



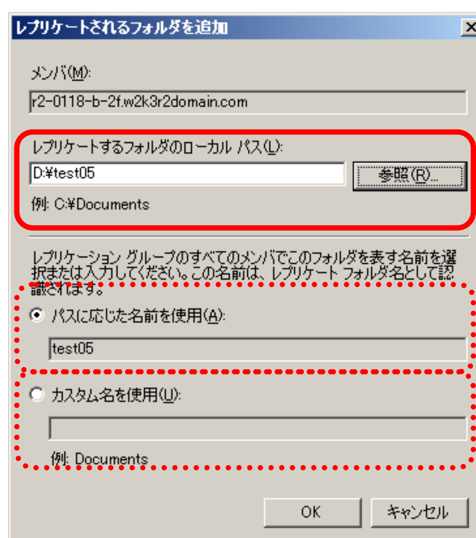
6. 「レプリケートされるフォルダを追加」ウィンドウが表示されます。[レプリケートするフォルダのローカルパス]を入力します。[参照]をクリックし、選択することもできます。

レプリケーショングループのすべてのメンバでこのフォルダを表す名前を選択または入力します。

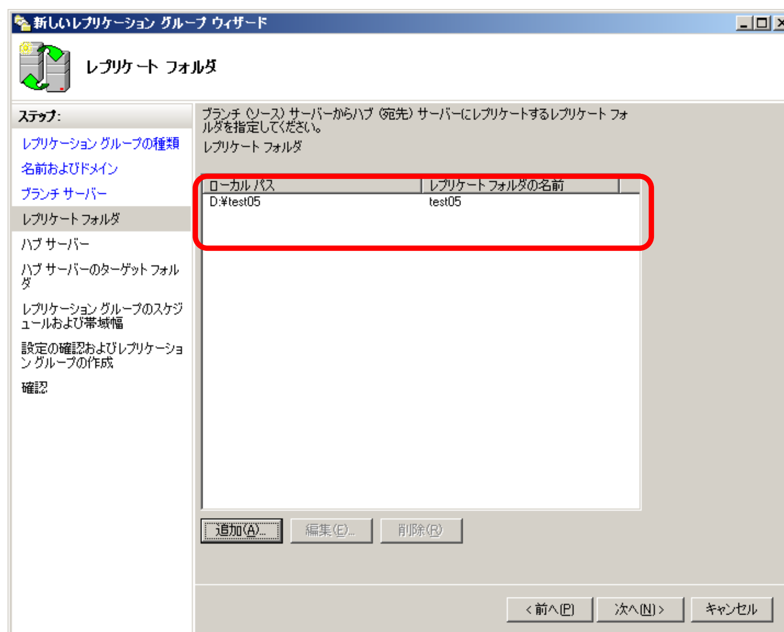
・ [パスに応じた名前を使用]
・ [カスタム名を使用]

のいずれかを選択します。

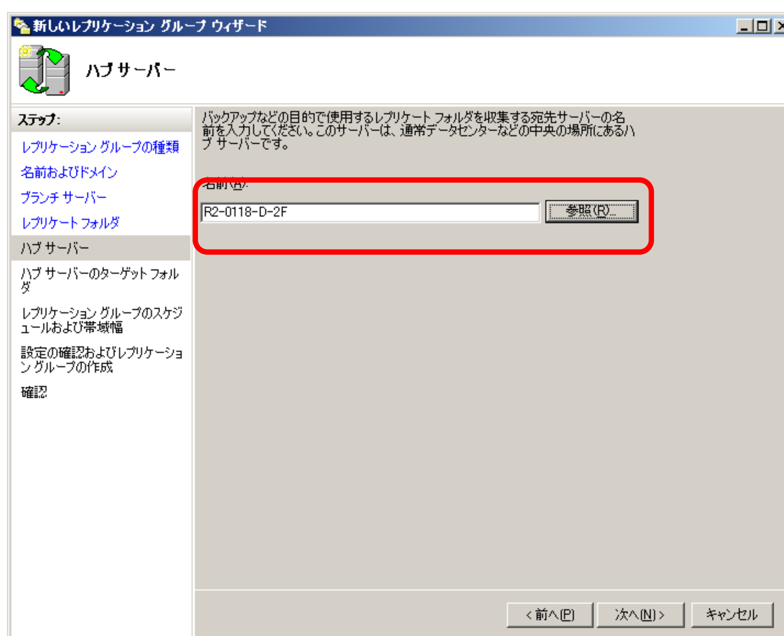
選択・設定が完了したら、 [OK]をクリックします。



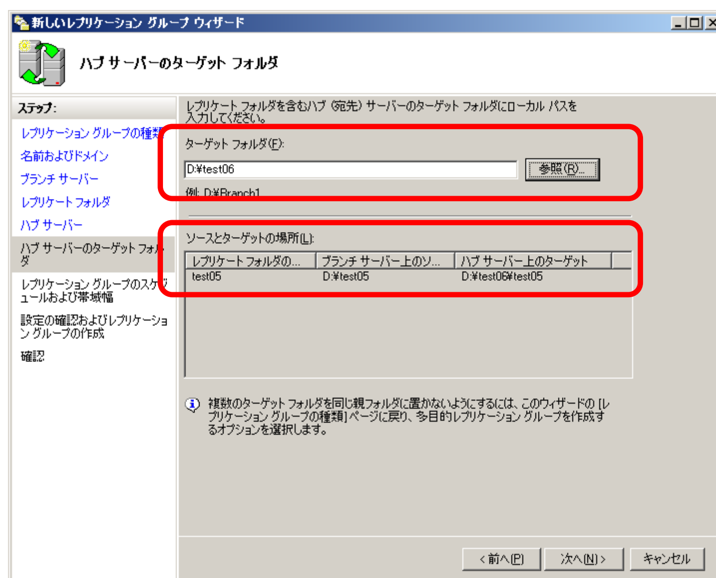
7. 「レプリケートフォルダ」画面に戻ります。[レプリケートフォルダ]に設定した内容が表示されていることを確認します。続けて[追加]をクリックしてフォルダを追加することもできます。
[次へ]をクリックします。



8. 「ハブサーバー」画面に切り替わります。[名前]にレプリケートフォルダを収集する宛先サーバーの名前を入力します。[参照]をクリックし検索して入力することもできます。入力が完了したら、[次へ]をクリックします。

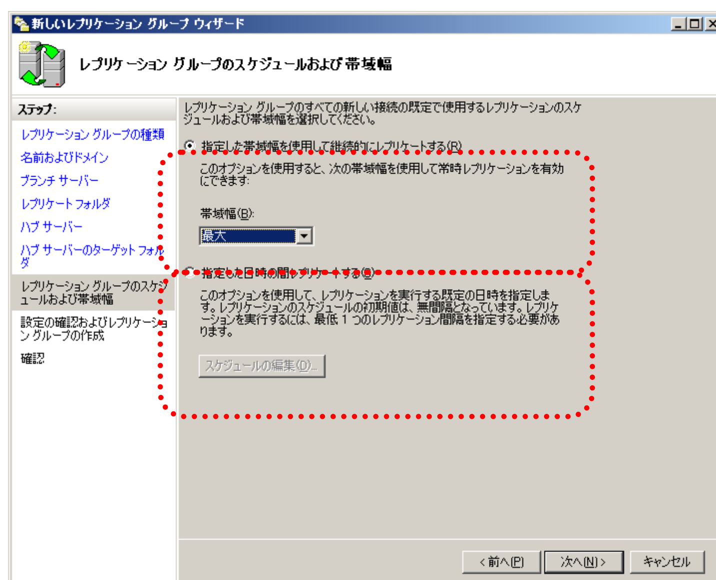


9. 「ハブサーバーのターゲットフォルダ」画面に切り替わります。[ターゲットフォルダ]にローカルパスを入力してください。[参照]をクリックし、選択することもできます。[次へ]をクリックします。

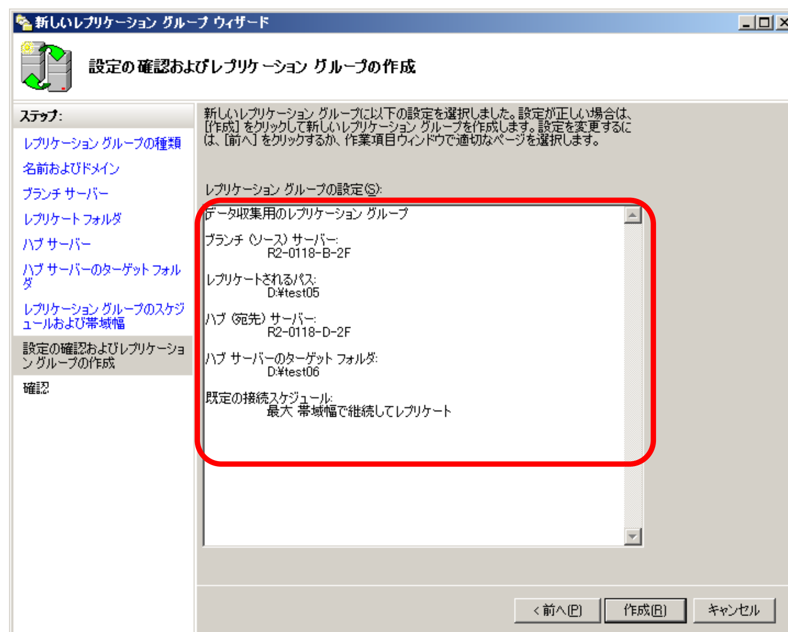


10. 「レプリケーショングループのスケジュールおよび帯域幅」画面に切り替わります。レプリケーショングループのすべての新しい接続の設定で使用するレプリケーションのスケジュールおよび帯域幅を選択してください。帯域幅はプルダウンメニューより選択します。状況に応じた帯域幅を選択してください。[スケジュールの編集]をクリックすると、「スケジュールの編集」画面が表示されます。スケジュールの設定は、[「3.5.2.11 レプリケーションスケジュール」](#)手順 2 以降を参照してください。

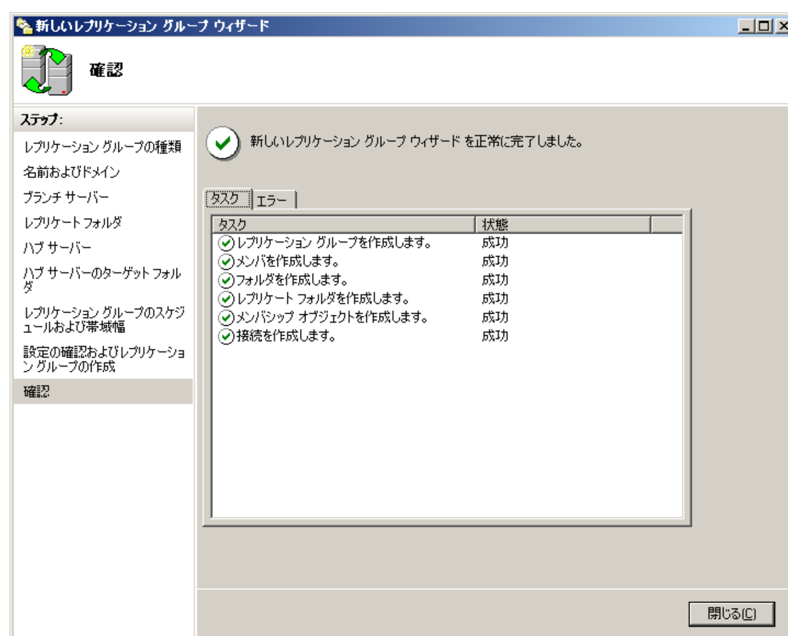
選択・設定が完了したら、[次へ]をクリックします。



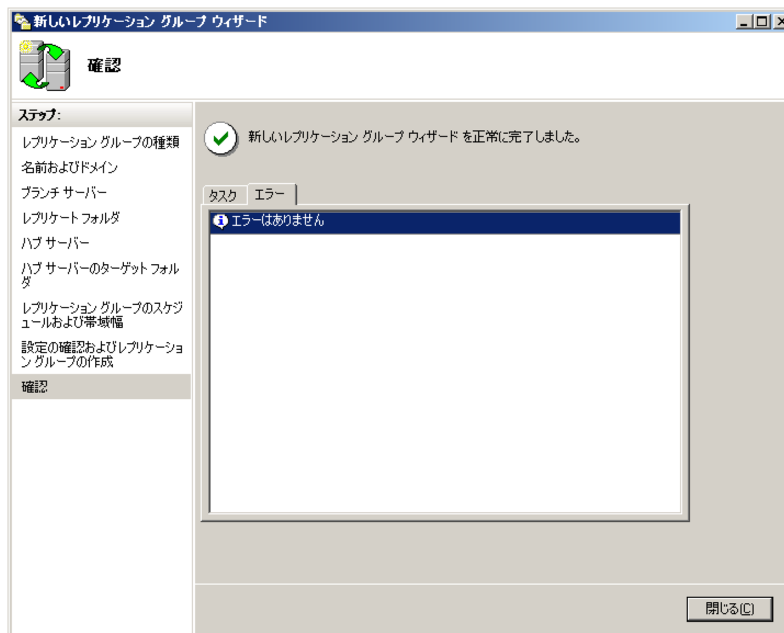
11. 「設定の確認およびレプリケーショングループの作成」画面に切り替わります。設定内容を確認してください。設定内容が正しい場合は、[作成]をクリックします。設定を変更する場合は、[前へ]をクリックして、画面を戻して設定を行ってください。



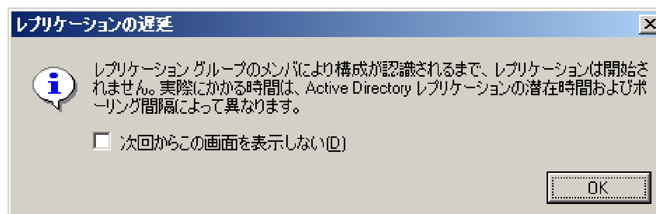
12. [作成]ボタンをクリックすると、「確認」画面に切り替わり、レプリケーショングループが作成されます。正常に作成されると、[タスク]タブの画面の項目にチェックマークが表示されます。[エラー]タブの画面には、「エラーはありません」と表示されます。



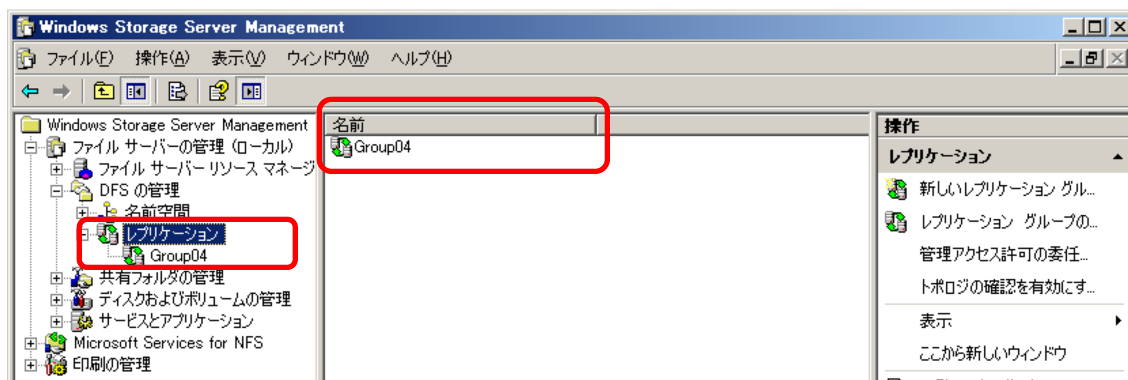
[エラー]タブの画面には、レプリケーショングループの作成がエラーになった場合、詳細なエラー内容が表示されます。内容を確認の上、設定を見直し、再度作成してください。



13. 「確認」画面の[閉じる]をクリックすると、「レプリケーションの遅延」ウィンドウが表示されます。[OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。このウィンドウを表示させないようにするには、[次回からこの画面を表示しない]をチェックしてください。

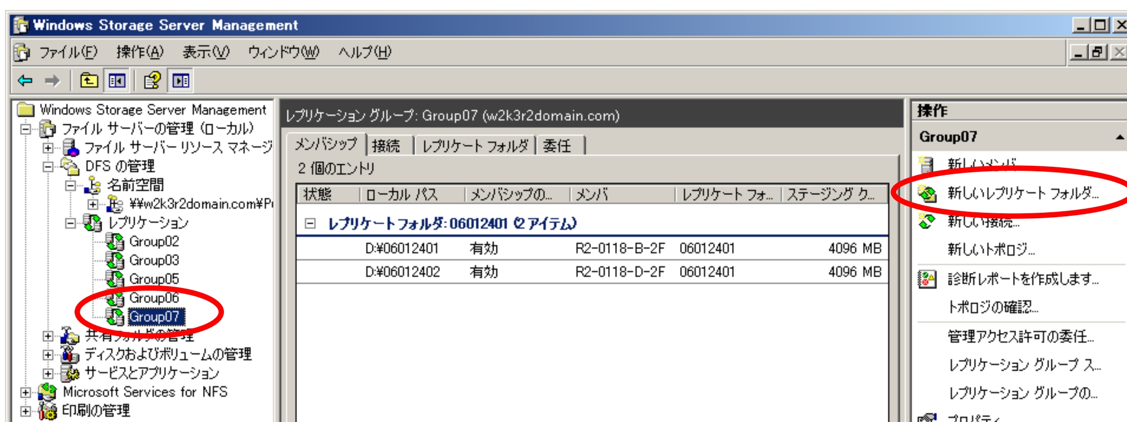


14. コンソールツリーにレプリケーショングループが追加されたことを確認します。

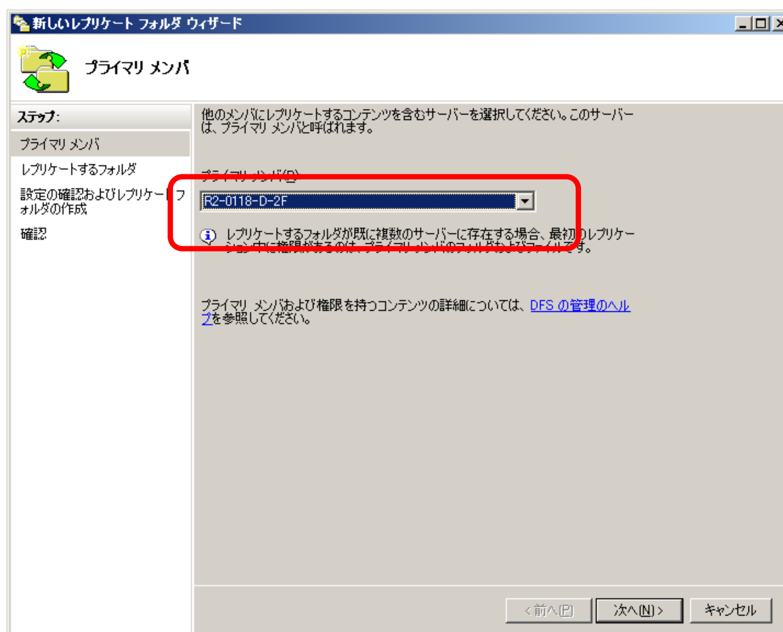


3.5.2.3 レプリケートフォルダの新規作成

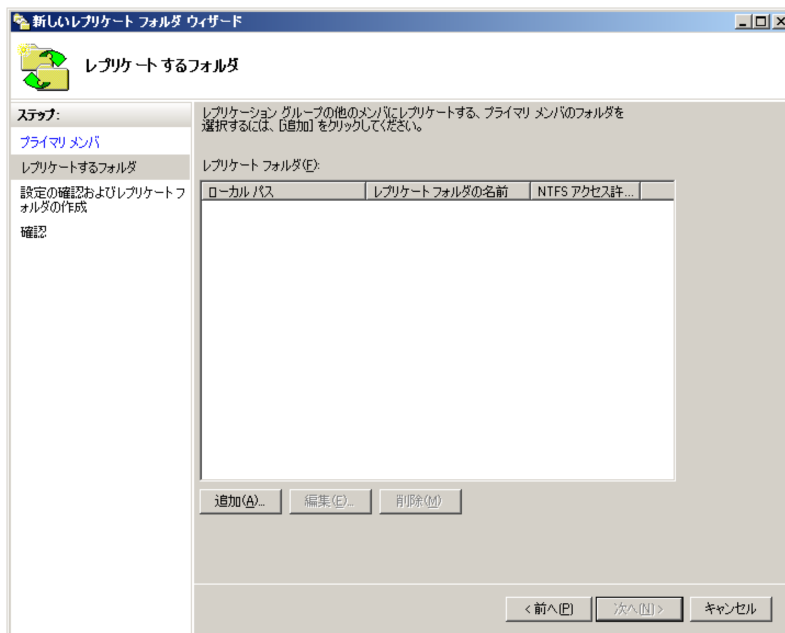
1. 画面左側コンソールツリーのフォルダを追加するレプリケーショングループをクリックします。画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[新しいレプリケートフォルダ]をクリックします。またレプリケーショングループを選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[新しいレプリケートフォルダ]を選択することもできます。



2. 「新しいレプリケートフォルダウィザード」が起動します。[プライマリメンバ]のプルダウンメニューより、プライマリメンバを選択し[次へ]をクリックします。

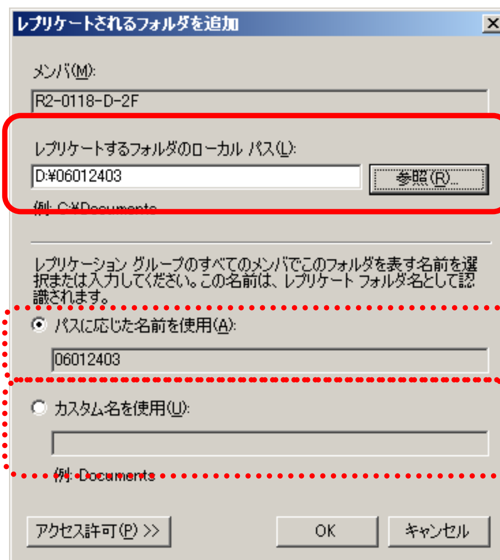


3. 「レプリケートするフォルダ」画面に切り替わります。[追加]をクリックして、プライマリメンバのフォルダを選択します。



4. 「レプリケートされるフォルダを追加」ウィンドウが表示されます。[レプリケートするフォルダのローカルパス]を入力します。[参照]をクリックし、選択することもできます。
レプリケーショングループのすべてのメンバでこのフォルダを表す名前を選択または入力します。
   - [パスに応じた名前を使用]
   - [カスタム名を使用]

   のいずれかを選択します。



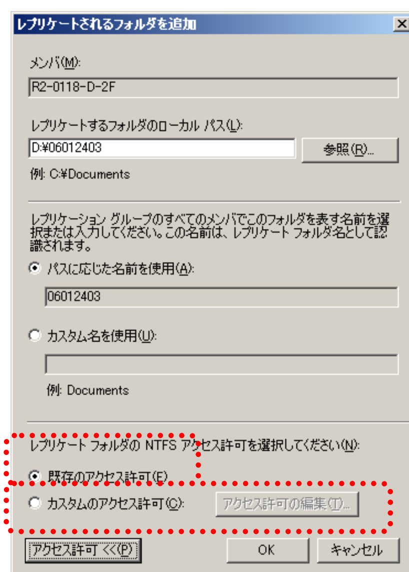
[アクセス許可]をクリックすると、レプリケートフォルダの NTFS アクセス許可を選択することができます。

・ [既存のアクセス許可]

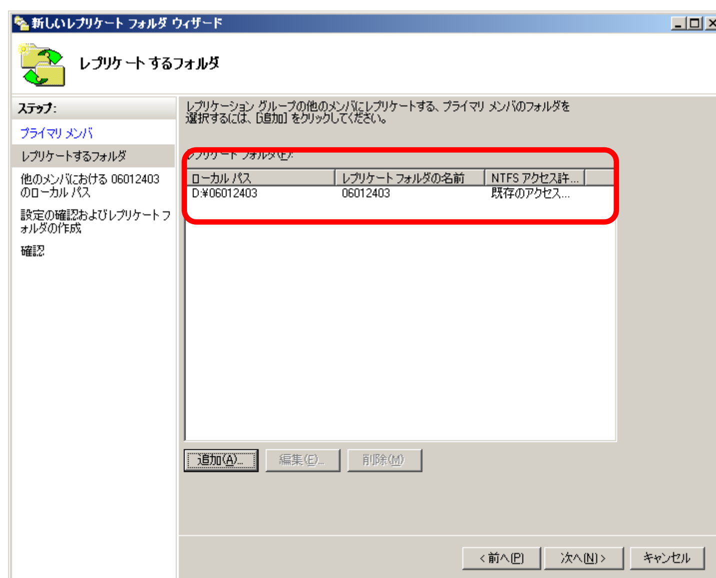
・ [カスタムのアクセス許可]

のいずれかを選択してください。

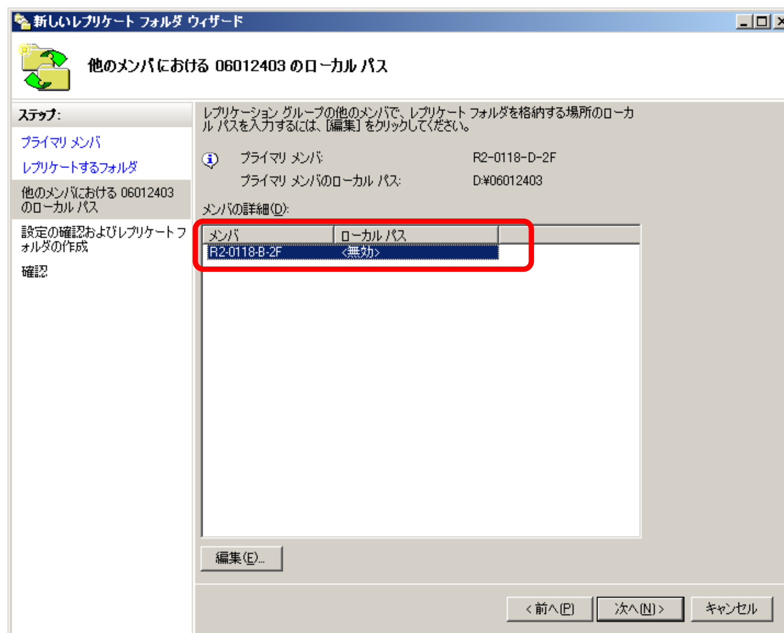
[カスタムのアクセス許可]を選択すると、[アクセス許可の編集]が有効になります。クリックしてアクセス許可を編集してください。設定が完了したら、[OK]をクリックしてください。



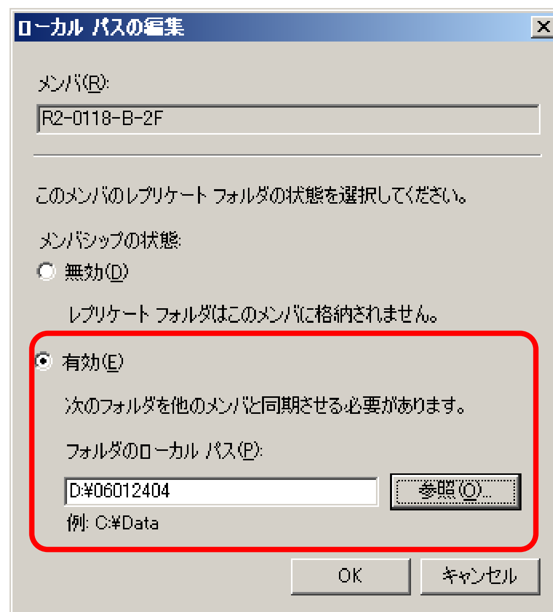
5. 「レプリケートするフォルダ」画面に戻ります。[レプリケートフォルダ]に設定した内容が表示されていることを確認します。続けて[追加]をクリックしてフォルダを追加することもできます。[次へ]をクリックします。



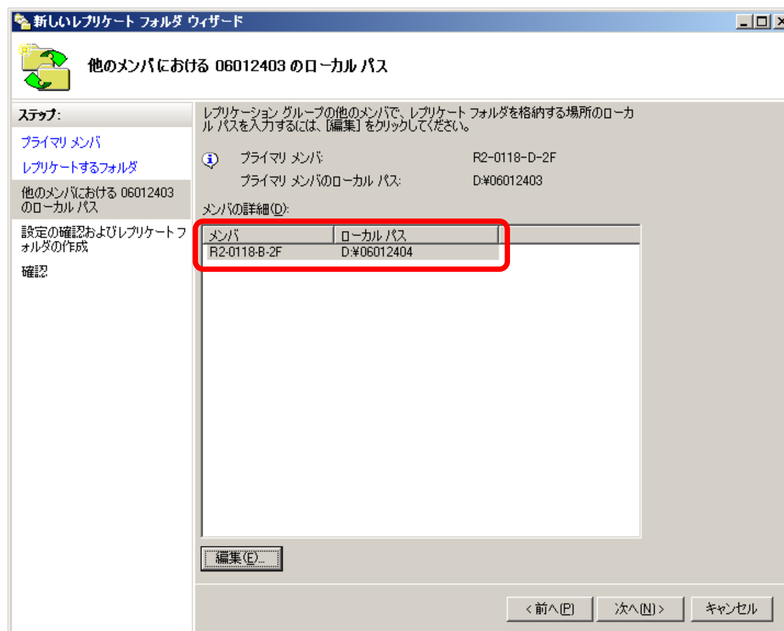
6. 「他のメンバによる"共有名"のローカルパス」画面に切り替わります。メンバの詳細にメンバになっているサーバー名が表示されていることを確認し[編集]をクリックします。



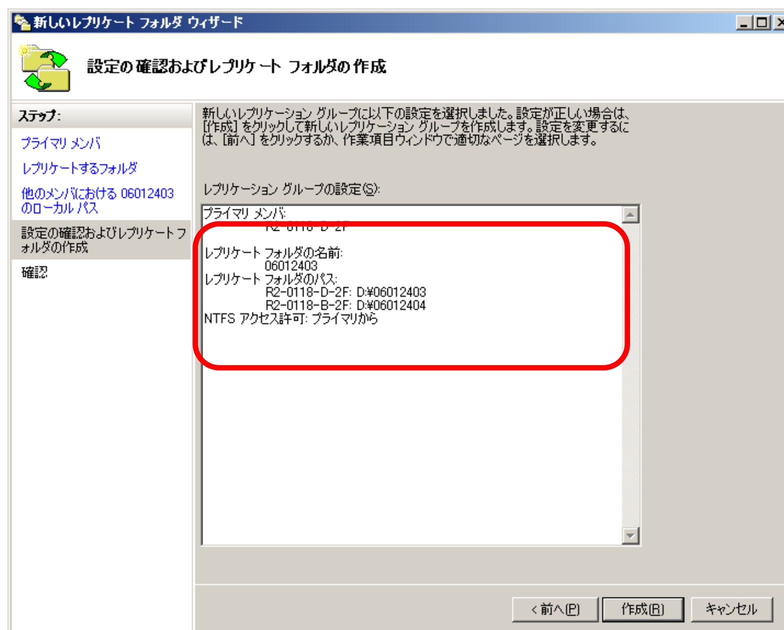
7. 「ローカルパスの編集」ウィンドウが表示されます。[メンバシップの状態]の[有効]を選択し、[フォルダのローカルパス]を入力します。[参照]をクリックして選択して入力することもできます。設定が完了したら、[OK]をクリックします。



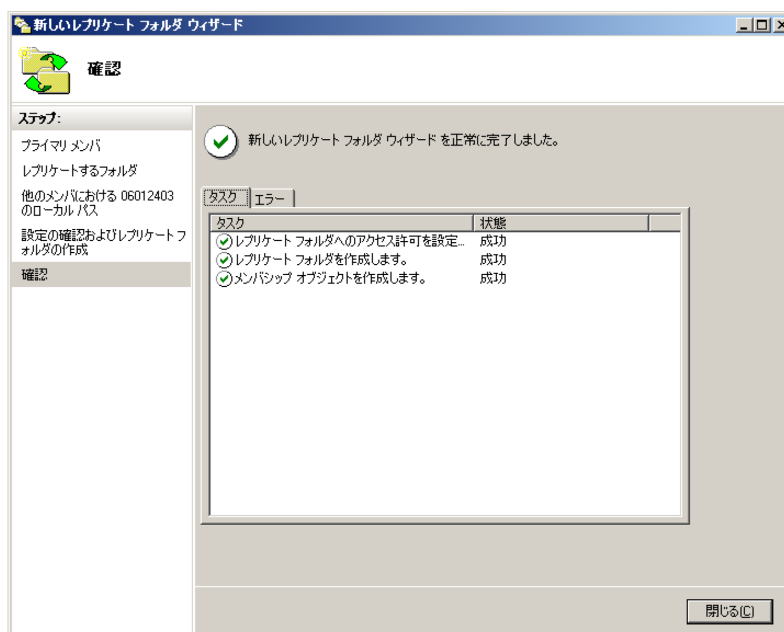
8. 「他のメンバによる"共有名"のローカルパス」画面に戻り、[メンバの詳細]にローカルパスが表示されていることを確認します。ローカルパスが正しければ[次へ]をクリックします。



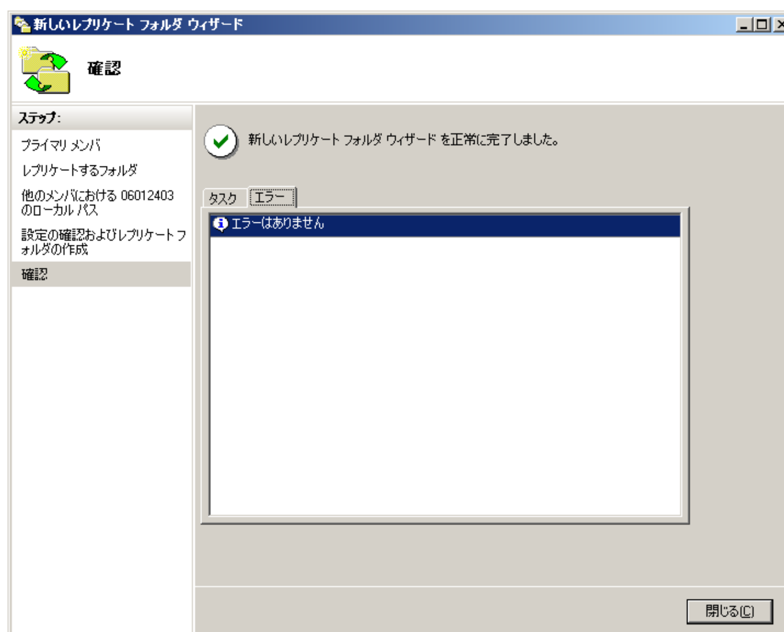
9. 「設定の確認およびレプリケートフォルダの作成」画面に切り替わります。設定内容を確認してください。設定内容が正しい場合は、[作成]をクリックします。設定を変更する場合は、[前へ]をクリックして、画面を戻して設定を行ってください。



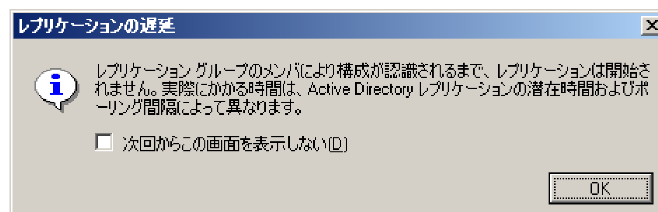
10. [作成]ボタンをクリックすると、「確認」画面に切り替わり、レプリケーショングループが作成されます。正常に作成されると、[タスク]タブの画面の項目にチェックマークが表示されます。[エラー]タブの画面には、「エラーはありません」と表示されます。



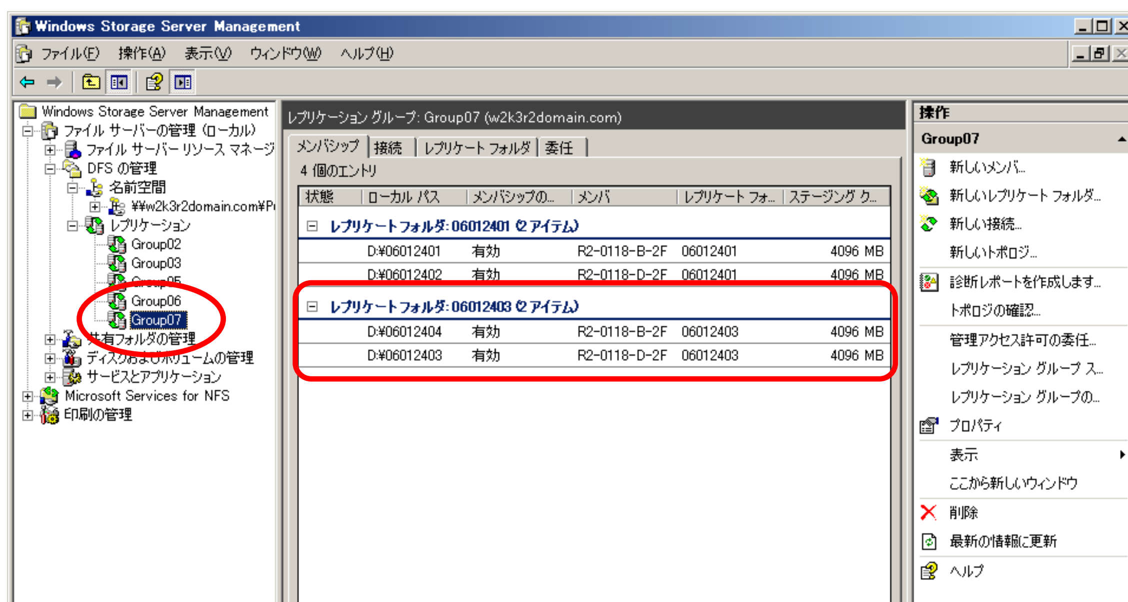
[エラー]タブの画面には、レプリケーショングループの作成がエラーになった場合、詳細なエラー内容が表示されます。内容を確認の上、設定を見直し、再度作成してください。



11. 「確認」画面の[閉じる]をクリックすると、「レプリケーションの遅延」ウィンドウが表示されます。[OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。このウィンドウを表示させないようにするには、[次回からこの画面を表示しない]をチェックしてください。

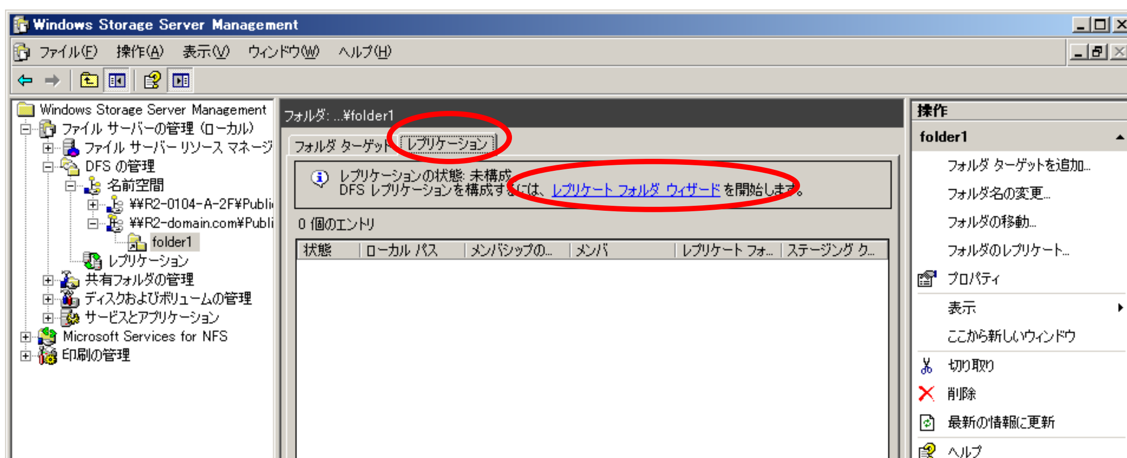


12. [メンバシップ]タブに、レプリケートフォルダが追加されたことを確認します。

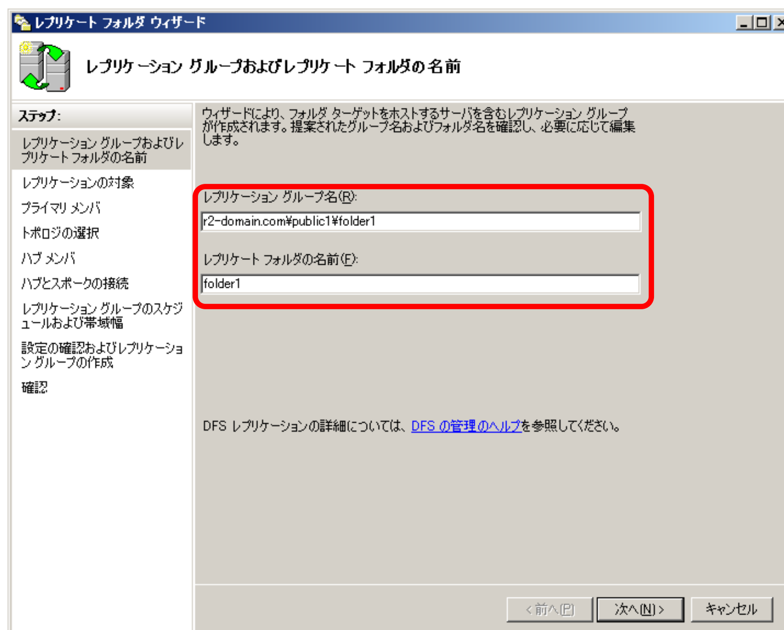


3.5.2.4　フォルダターゲットの追加からの作成

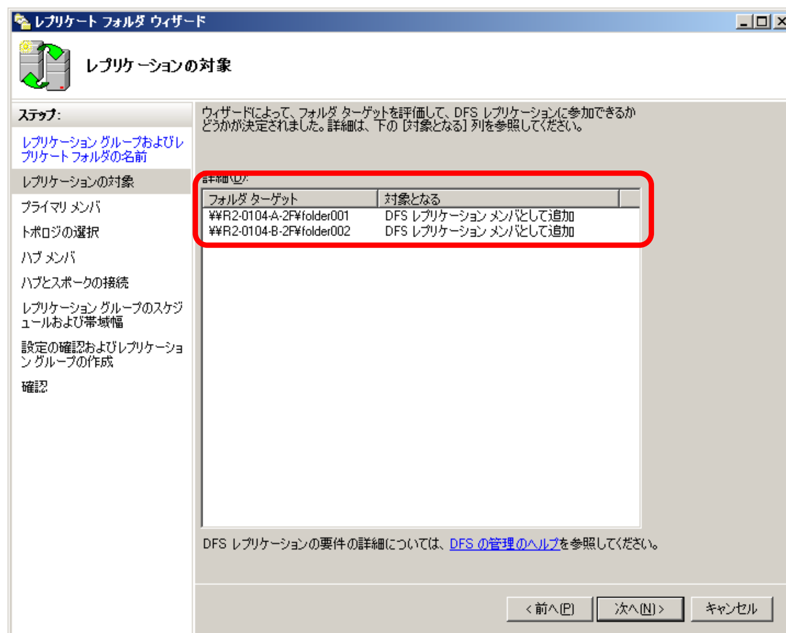
1. 3.5.1.3「フォルダターゲットを追加する」を行った後や、名前空間のフォルダターゲットを選択し、[レプリケーション]タブの[レプリケートフォルダウィザード]をクリックすると、レプリケーショングループ作成のウイザードが起動します。



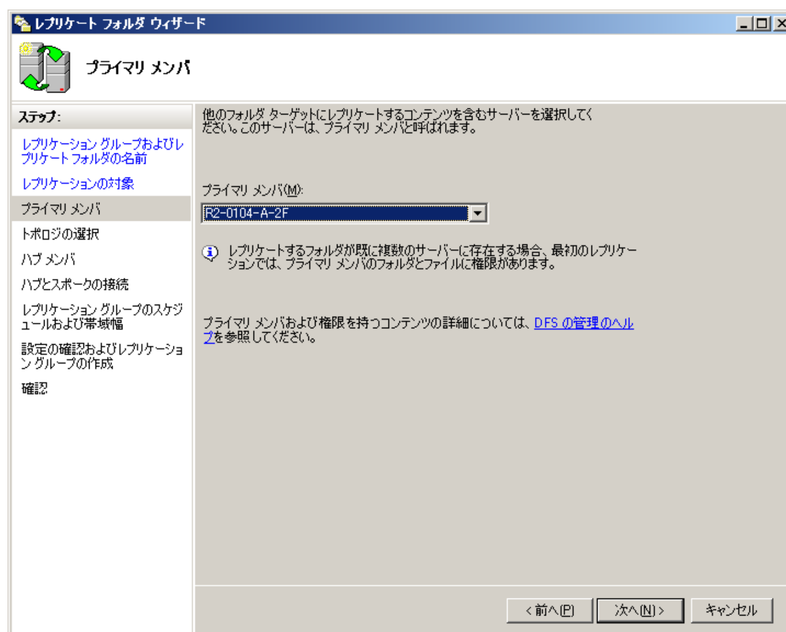
2. 「レプリケートフォルダウィザード」が起動します。[レプリケーショングループ名]、[レプリケートフォルダの名前]が既に入力された状態で表示されます。表示内容が間違いないか確認してください。間違いなければ[次へ]をクリックします。



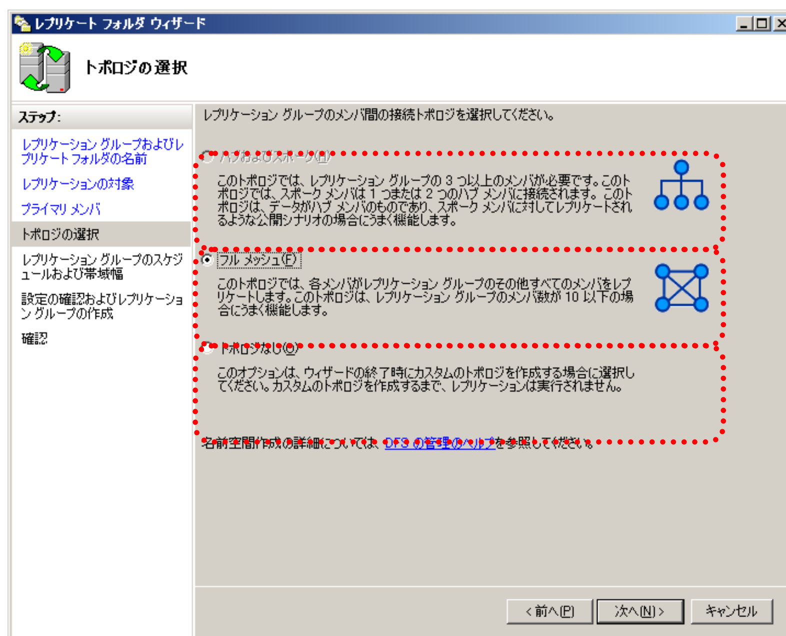
3. 「レプリケーションの対象」画面に切り替わります。[詳細]欄にフォルダターゲットなどが一覧表示されます。表示内容が間違いないか確認してください。間違いなければ[次へ]をクリックします。



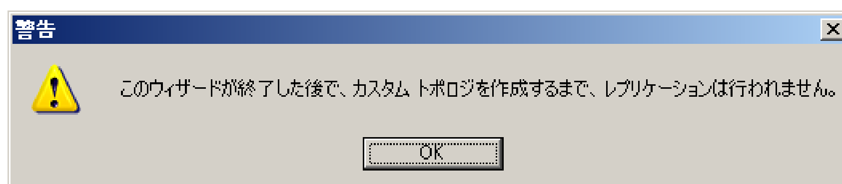
4. 「プライマリメンバ」画面に切り替わります。[プライマリメンバ]をプルダウンメニューから選択し、[次へ]をクリックします。



5. 「トポロジの選択」画面に切り替わります。選択可能な中からトポロジを選択します。[ハブおよびスポーク]は、サーバーが 3 台以上から選択できるようになります。トポロジを選択し[次へ]をクリックします。
   - [ハブアンドスポーク]を選択した場合、手順 6「ハブメンバ」画面に進んでください。
   - [フルメッシュ]を選択した場合、手順 9「レプリケーショングループのスケジュールおよび帯域幅」画面に進んでください。
   - [トポロジなし]を選択した場合、手順 10「設定の確認およびレプリケーショングループの作成」画面に進んでください。

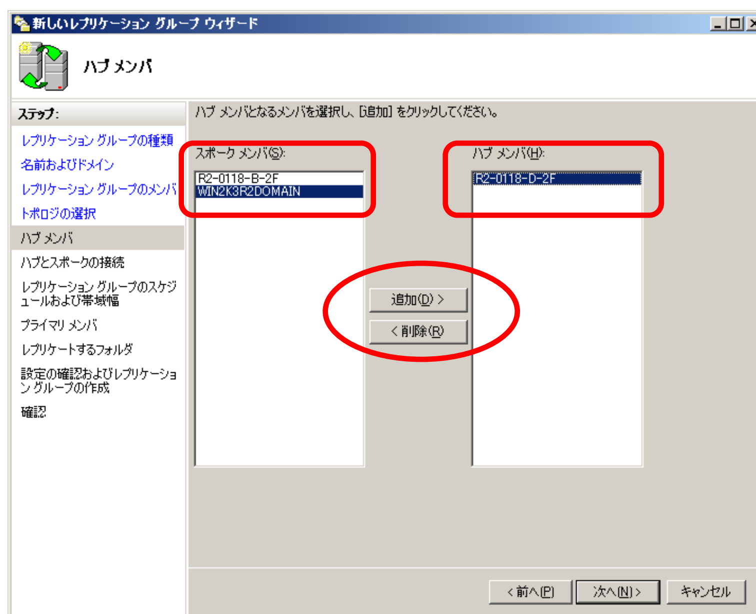


[トポロジなし]を選択した場合、「警告」ウィンドウが表示されます。[OK]をクリックした後、「設定の確認およびレプリケーショングループの作成」画面に進んでください。



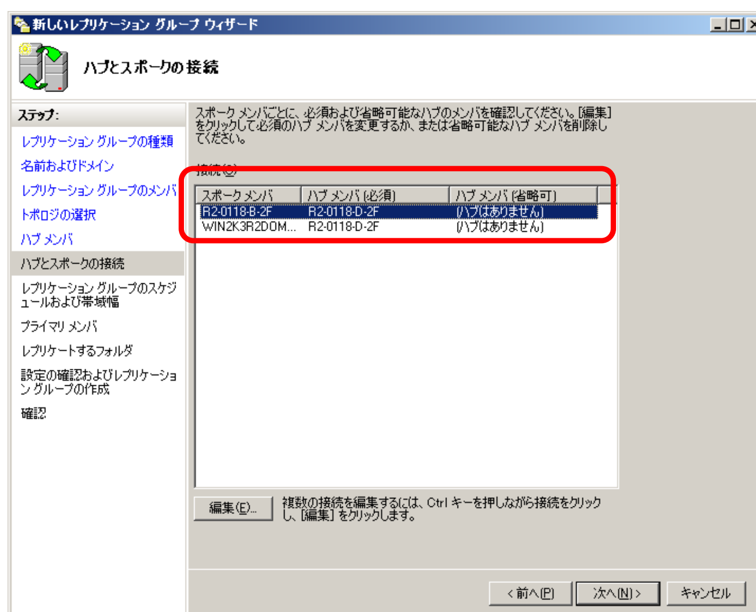
6. 「ハブメンバ」画面に切り替わります。(ハブ&スポーク選択時)

   [スポークメンバ]欄より、ハブメンバにするサーバーを選択し、[追加 >]をクリックします。[ハブメンバ]欄に追加されます。[< 削除]をクリックすると、[スポークメンバ]欄に戻ります。ハブメンバを設定したら、[次へ]をクリックします。

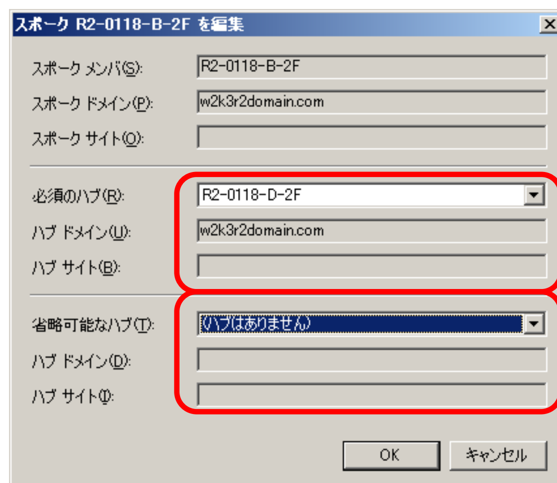


7. 「ハブとスポークの接続」画面に切り替わります。

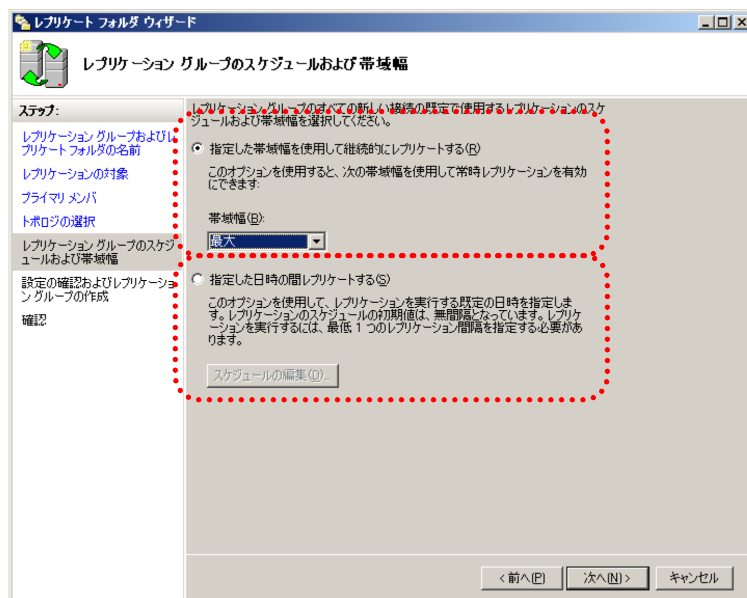
   ハブのメンバを確認してください。ハブメンバの変更または省略可能なハブメンバを削除する場合は、[編集]をクリックします。



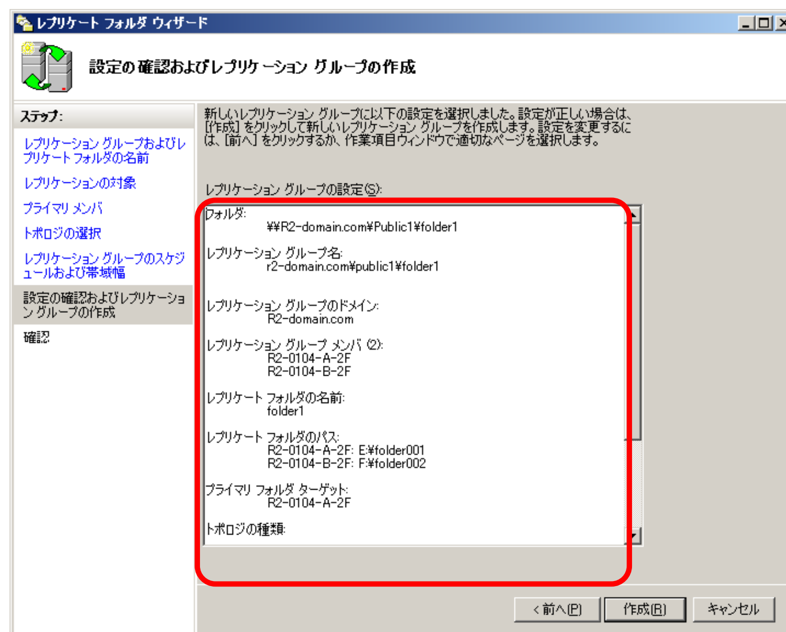
8. [編集]をクリックすると、「スポーク"サーバー名"を編集」ウィンドウが表示されます。[必須のハブ]、[省略可能なハブ]をプルダウンメニューから選びます。[OK]をクリックします。
   「ハブとスポークの接続」画面に戻ります。設定情報を確認し、[次へ]をクリックします。



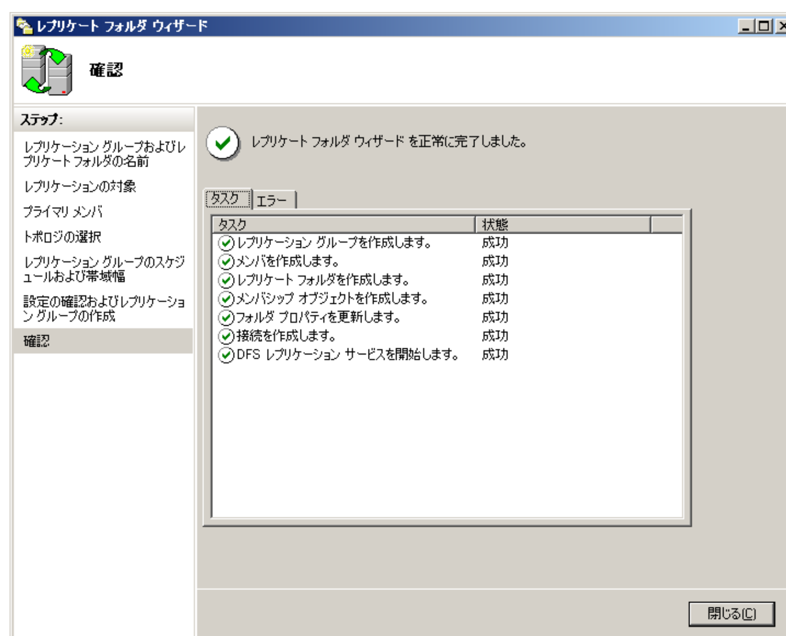
9. 「レプリケーショングループのスケジュールおよび帯域幅」画面に切り替わります。レプリケーショングループのすべての新しい接続の設定で使用するレプリケーションのスケジュールおよび帯域幅を選択してください。帯域幅はプルダウンメニューより選択します。状況に応じた帯域幅を選択してください。[スケジュールの編集]をクリックすると、「スケジュールの編集」画面が表示されます。スケジュールの設定は、「3.5.2.11 レプリケーションスケジュール」手順 2 以降を参照してください。
   選択・設定が完了したら、[次へ]をクリックします。



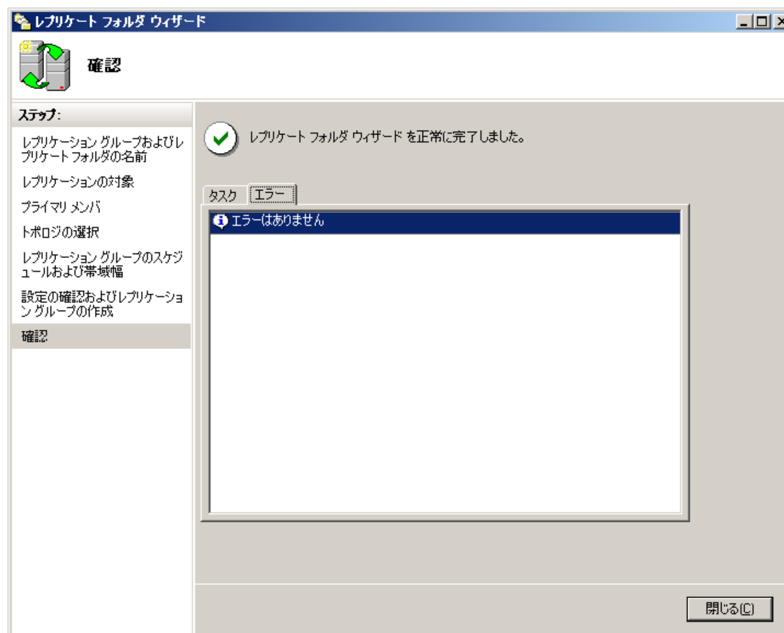
10. 「設定の確認およびレプリケーショングループの作成」画面に切り替わります。設定内容を確認してください。設定内容が正しい場合は、[作成]をクリックします。設定を変更する場合は、[前へ]をクリックして、画面を戻して設定を行ってください。



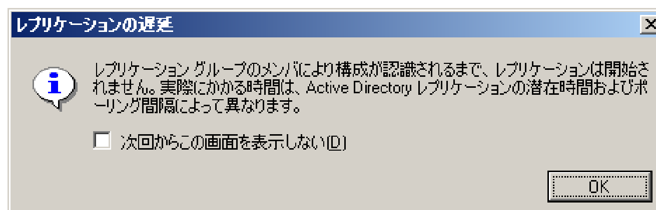
11. [作成]ボタンをクリックすると、「確認」画面に切り替わり、レプリケーショングループが作成されます。正常に作成されると、[タスク]タブの画面の項目にチェックマークが表示されます。[エラー]タブの画面には、「エラーはありません」と表示されます。



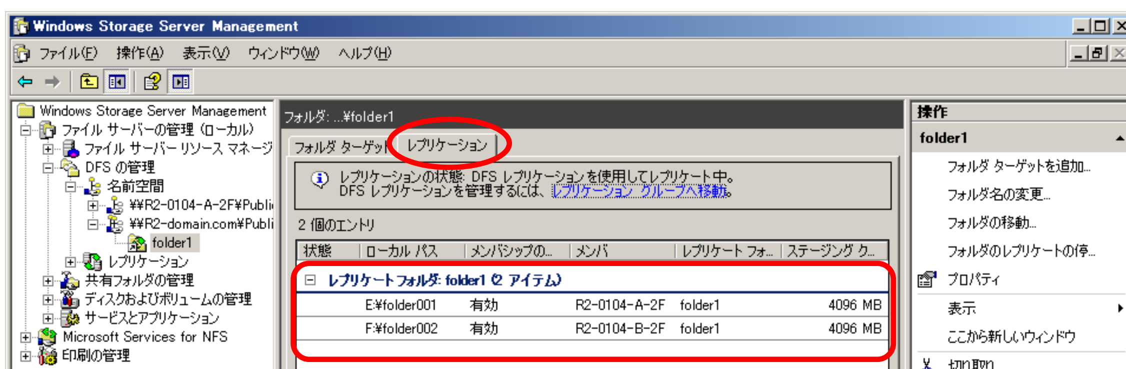
[エラー]タブの画面には、レプリケーショングループの作成がエラーになった場合、詳細なエラー内容が表示されます。内容を確認の上、設定を見直し、再度作成してください。



12. 「確認」画面の[閉じる]をクリックすると、「レプリケーションの遅延」ウィンドウが表示されます。[OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。このウィンドウを表示させないようにするには、[次回からこの画面を表示しない]をチェックしてください。

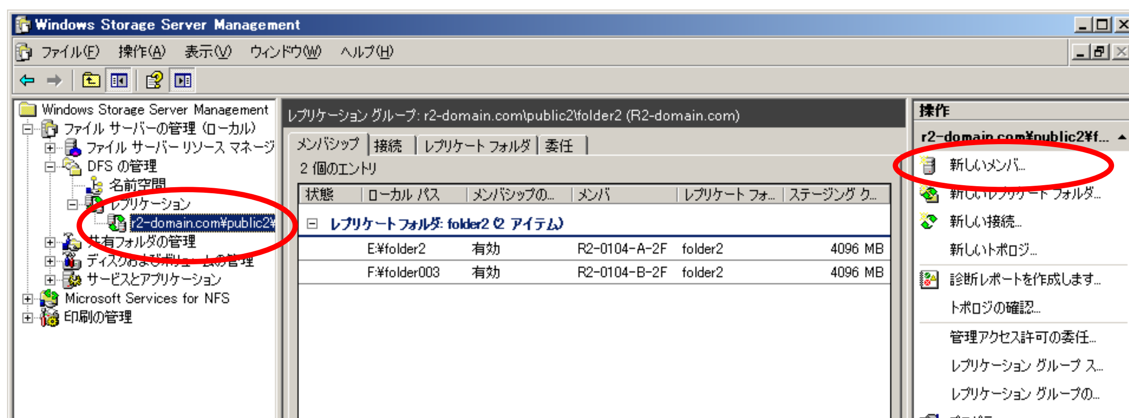


13. [レプリケーション]タブに、エントリ(レプリケートフォルダ)が表示されていることを確認してください。

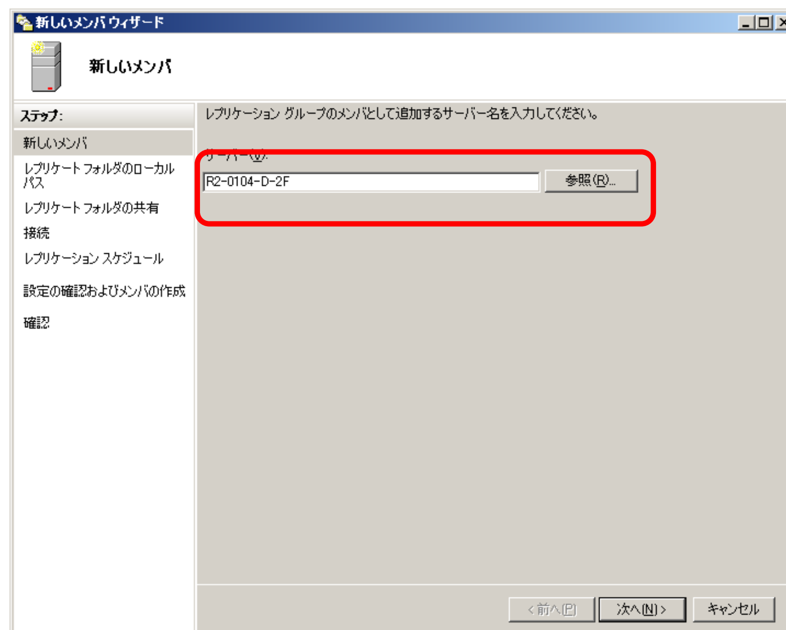


3.5.2.5 新しいメンバを追加する

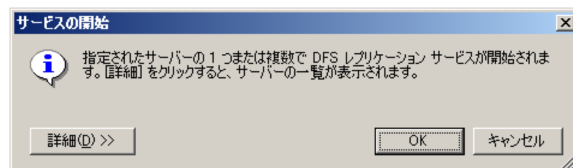
1. 画面左側コンソールツリーのメンバを追加するレプリケーショングループをクリックします。
   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[新しいメンバ]をクリックします。またレプリケーショングループを選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[新しいメンバ]を選択することもできます。



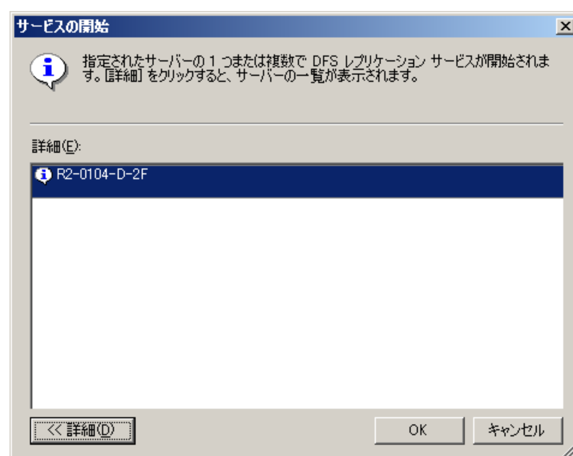
2. 「新しいメンバウィザード」が起動します。[サーバー]にレプリケーショングループのメンバとして追加するサーバー名を入力します。[参照]をクリックして選択して入力することもできます。入力が完了したら、[次へ]をクリックします。



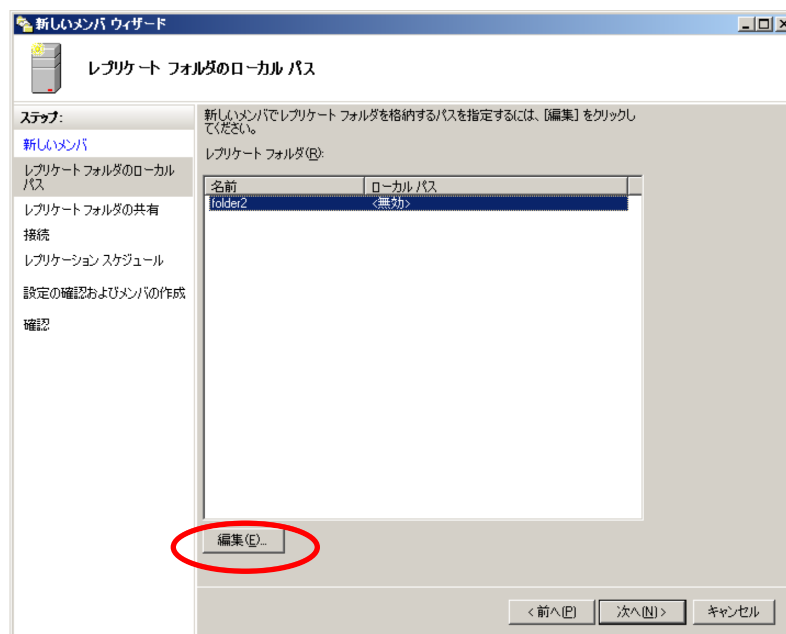
「サービスの開始」ウィンドウが表示されることがあります。[OK]をクリックして、DFS レプリケーションサービスを開始してください。



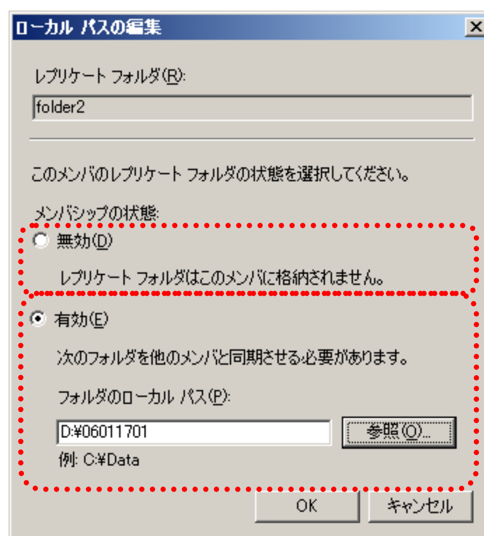
[詳細]をクリックすると、サーバーの一覧が表示されます。



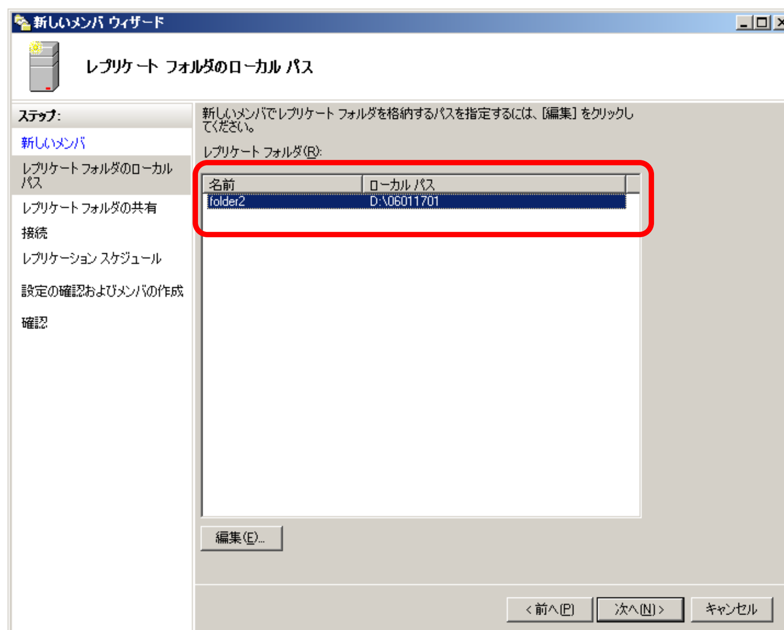
3. 「レプリケートフォルダのローカルパス」画面に切り替わります。[編集]をクリックして、レプリケートフォルダを格納するパスを指定します。



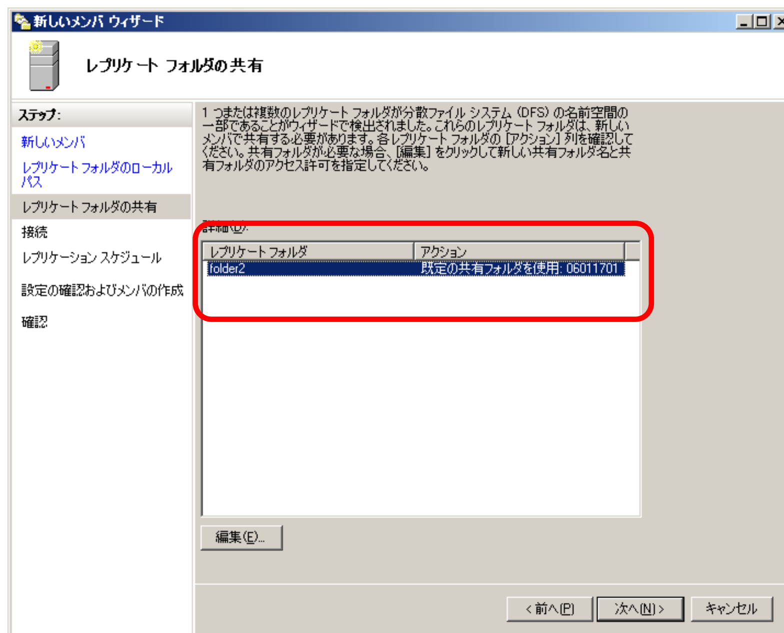
[編集]をクリックすると、「ローカルパスの編集」ウィンドウが表示されます。メンバシップの状態を[有効]にする場合は、[有効]をクリックし、[フォルダのローカルパス]を入力します。[参照]をクリックして、フォルダを選択または新規作成することもできます。[フォルダのローカルパス]の入力が終わったら、[OK]をクリックします。メンバシップの状態を[無効]のままにする場合は、そのまま[OK]をクリックします。



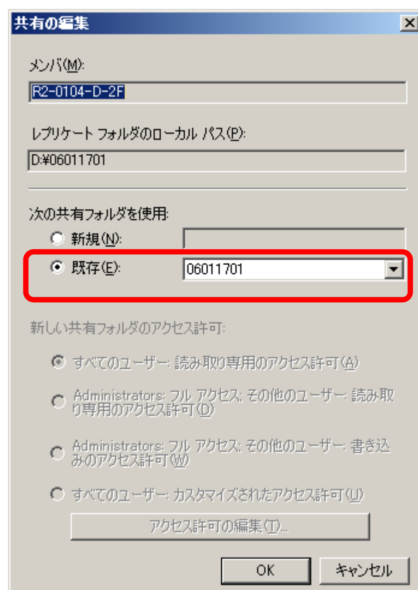
4. 「レプリケートフォルダのローカルパス」画面に戻ります。[ローカルパス]列の表示を確認してください。[次へ]をクリックします。

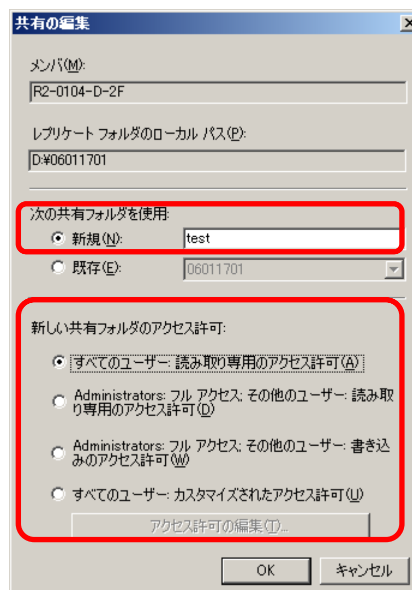


5.　「レプリケートフォルダの共有」画面に切り替わります。共有フォルダが必要な場合[編集]をクリックします。このままで良い場合は、手順 7 へ進みます。

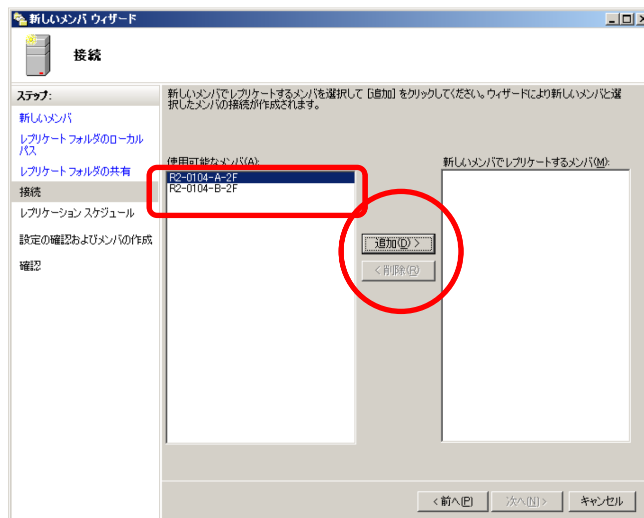


6.　「共有の編集」ウィンドウが表示されます。設定内容を確認し、特に編集することが無い場合は、[OK]をクリックします。[次の共有フォルダを使用:]の[新規]を選択すると、共有名・アクセス許可を設定することができます。





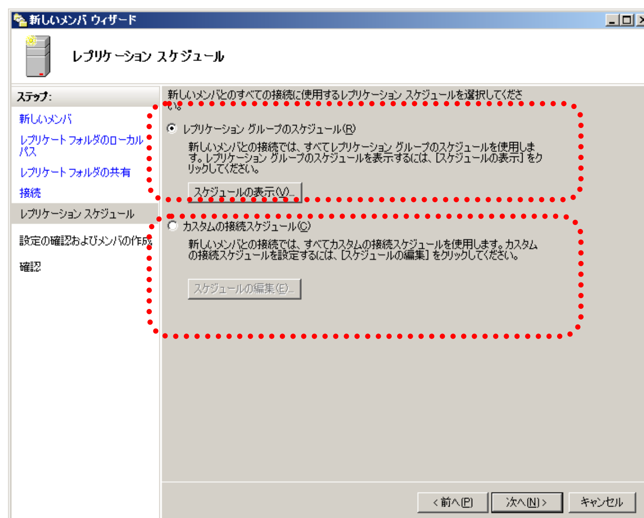
7. 「接続」画面に切り替わります。新しいメンバでレプリケートするメンバを選択して[追加]をクリックします。画面右側に移動して表示されます。メンバの追加が完了したら、[次へ]をクリックします。



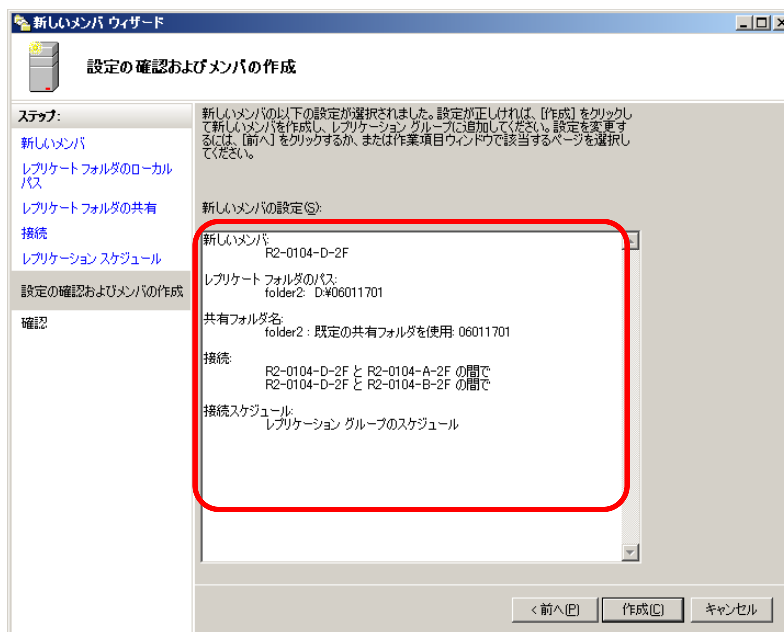
8. 「レプリケーションスケジュール」画面に切り替わります。スケジュールを選択します。
   - [レプリケーショングループのスケジュール]
   - [カスタムの接続スケジュール]

   のいずれかを選択してください。

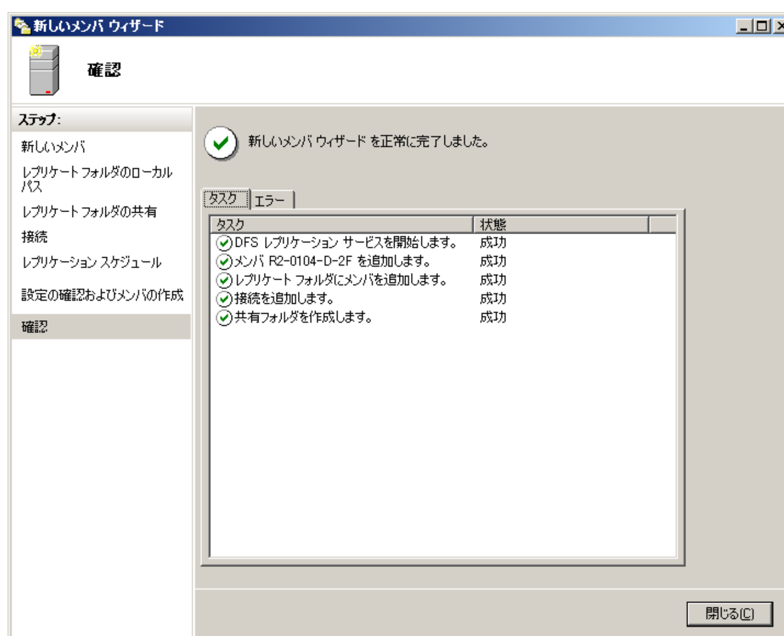
   [レプリケーショングループのスケジュール]を選択すると、[スケジュールの表示]が有効になります。[スケジュールの表示]をクリックして、スケジュールを表示して設定内容を確認してください。[カスタムの接続スケジュール]を選択すると、[スケジュールの編集]が有効になります。[スケジュールの編集]をクリックして、スケジュールを設定してください。スケジュールの設定は、「3.5.2.11 レプリケーションスケジュール」手順 2 以降を参照してください。



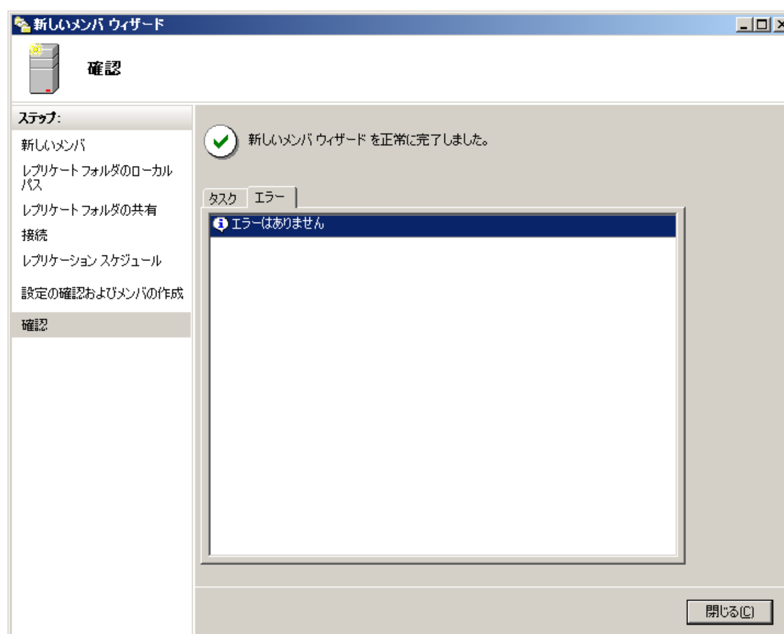
9. 「設定の確認およびメンバの作成」画面に切り替わります。設定内容を確認してください。設定内容が正しい場合は、[作成]をクリックします。設定を変更する場合は、[前へ]をクリックして、画面を戻して設定を行ってください。



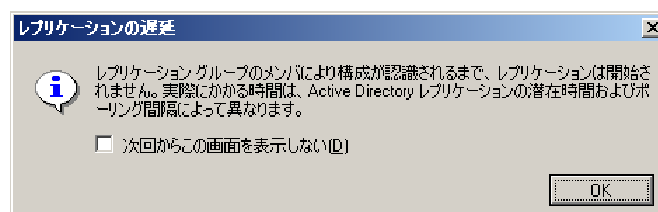
10. [作成]ボタンをクリックすると、「確認」画面に切り替わり、レプリケーショングループが作成されます。正常に作成されると、[タスク]タブの画面の項目にチェックマークが表示されます。[エラー]タブの画面には、「エラーはありません」と表示されます。



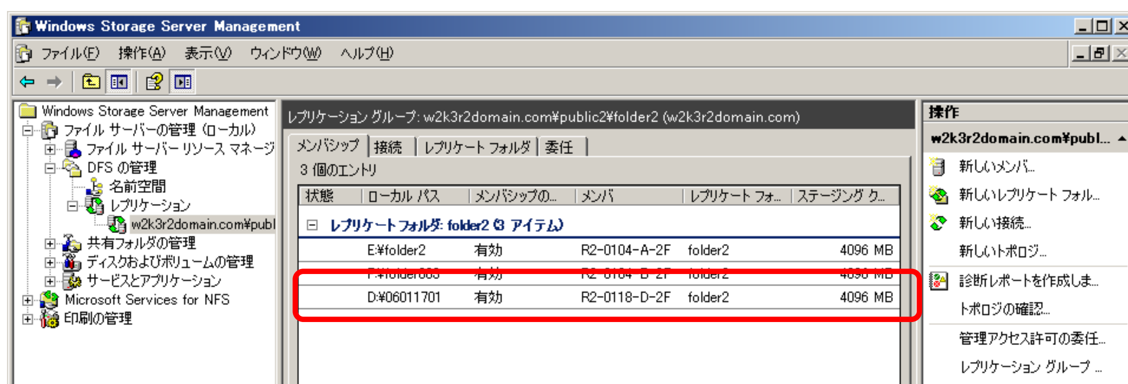
[エラー]タブの画面には、新しいメンバの作成がエラーになった場合、詳細なエラー内容が表示されます。内容を確認の上、設定を見直し、再度作成してください。



11. 「確認」画面の[閉じる]をクリックすると、「レプリケーションの遅延」ウィンドウが表示されます。[OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。このウィンドウを表示させないようにするには、[次回からこの画面を表示しない]をチェックしてください。



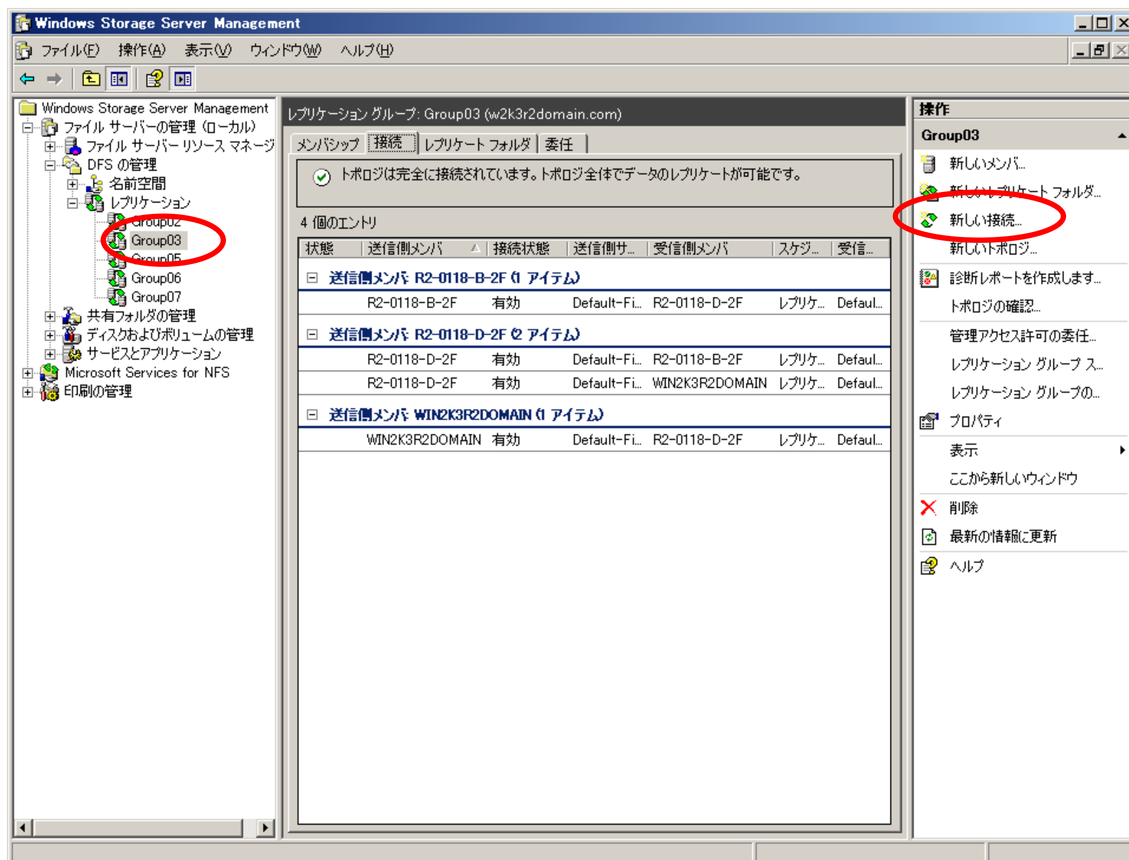
12. [メンバシップ]タブにエントリ(メンバ)が追加されたことを確認してください。



3.5.2.6 新しい接続を追加する

1. 画面左側コンソールツリーのレプリケーショングループをクリックします。

   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[新しい接続]をクリックします。またレプリケーショングループを選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[新しい接続]を選択することもできます。



2.　「新しい接続」ウィンドウが表示されます。[送信メンバ]・[受信メンバ]をプルダウンメニューより選択します。

この接続のスケジュールを

・ [レプリケーショングループのスケジュール]

・ [カスタム接続スケジュール]

から選択します。

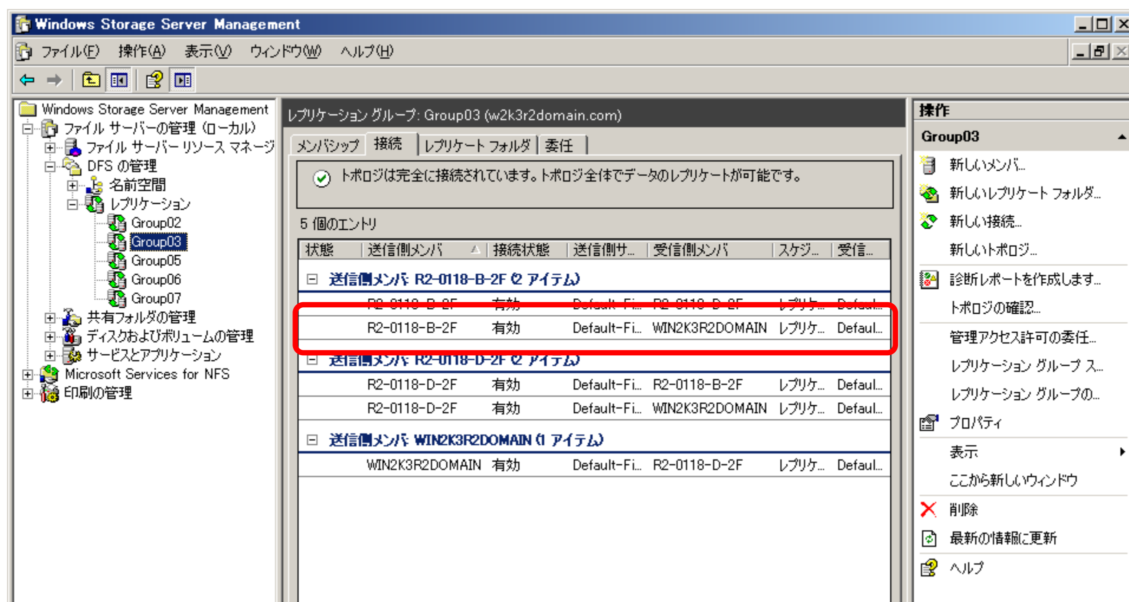
レプリケーショングループのスケジュールと同じにする場合は、[レプリケーショングループのスケジュール]を選択し、[スケジュールの表示]をクリックし、スケジュールを確認してください。

レプリケーショングループのスケジュールと別にする場合は、[カスタム接続スケジュール]をクリックし、[スケジュールの編集]をクリックし、「3.5.2.11 レプリケーションスケジュール」手順 2 以降を参照してスケジュールを設定してください。

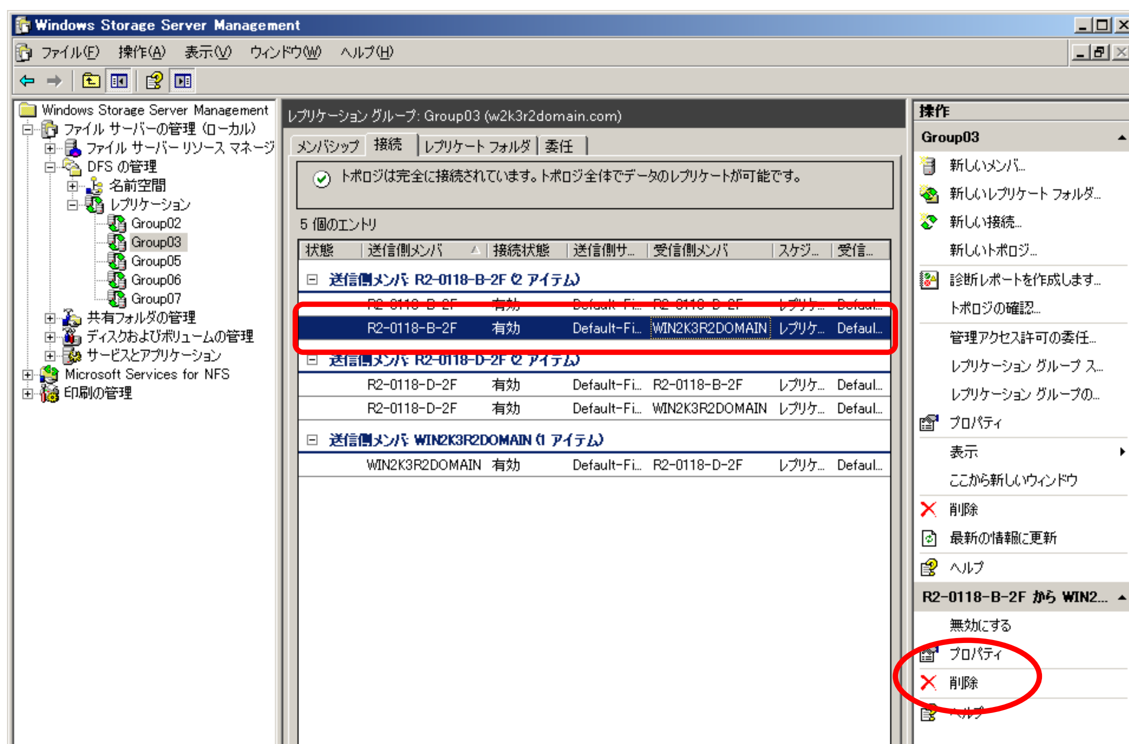
逆方向にもう一つ接続を作成する場合は、[逆方向にもう一つの接続を作成する]をチェックします。

設定が終わったら、[OK]をクリックします。

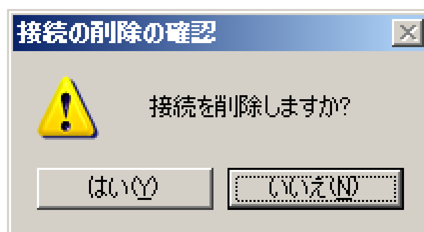
3. [接続]タブに、設定した接続が表示されていることを確認します。



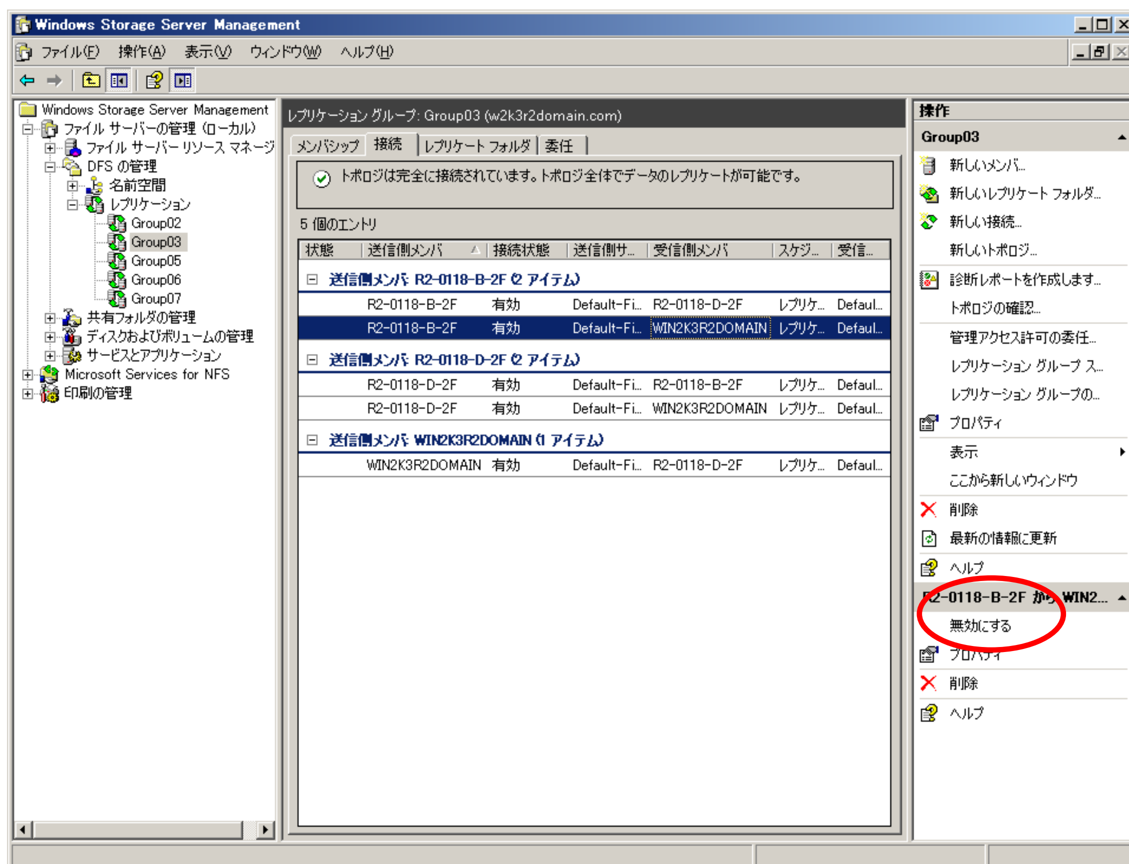
4. 接続を削除するには、[接続]タブに表示されている接続を選択し、操作ウィンドウ下段の[削除]をクリックします。



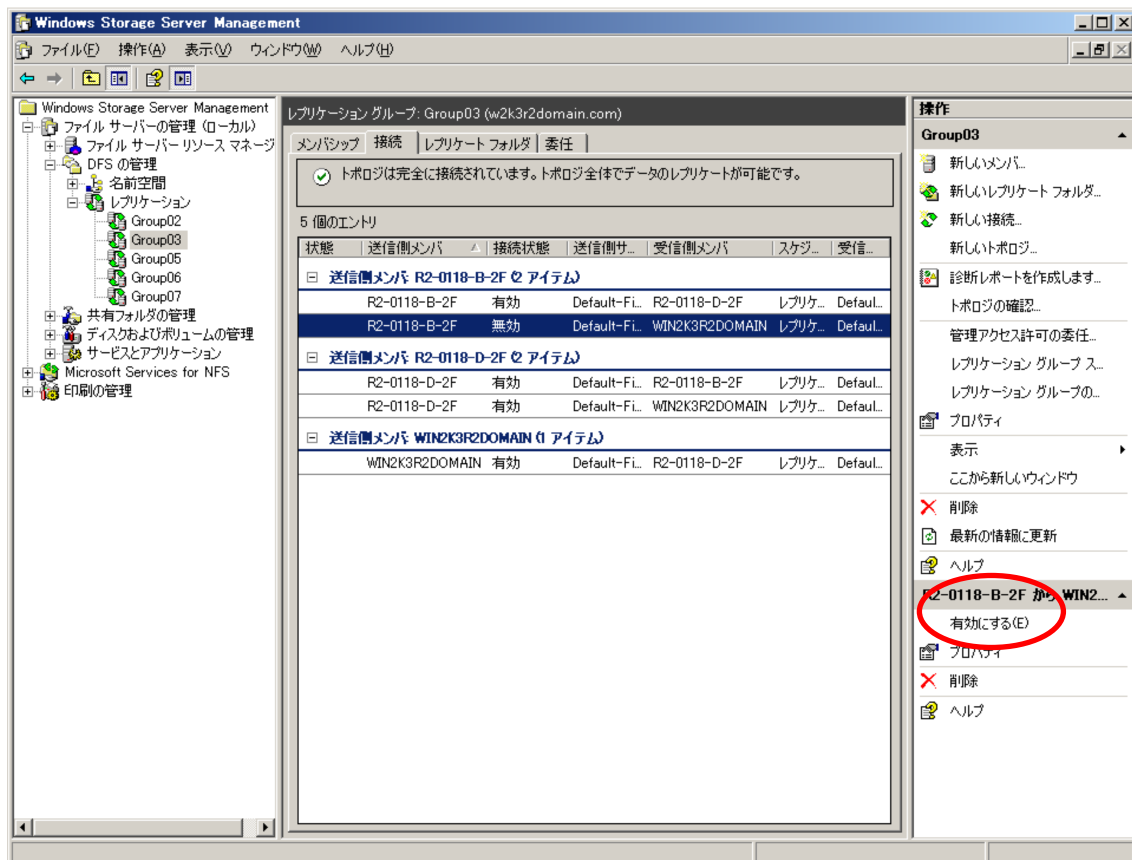
5. 接続の削除の確認ウィンドウが表示されますので、[はい]をクリックします。



6. 接続を無効にするには、[接続]タブに表示されている接続を選択し、操作ウィンドウ下段の[無効にする]をクリックします。[接続]タブの[接続状態]の表示が「無効」になります。



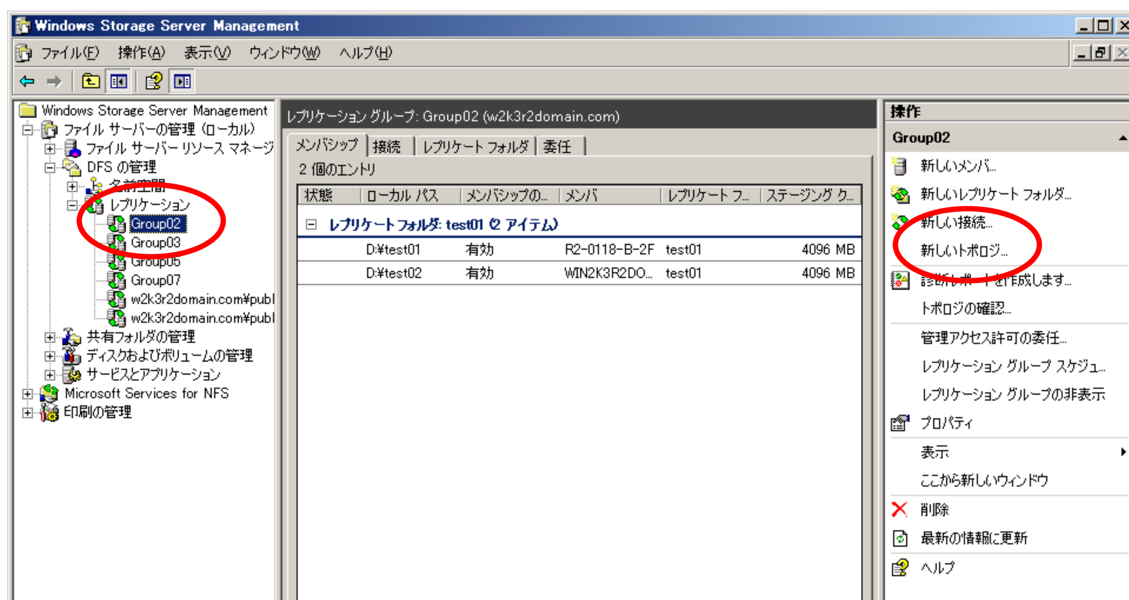
7. 無効にした接続を再度有効にするには、操作ウィンドウ下段の[有効にする]をクリックします。



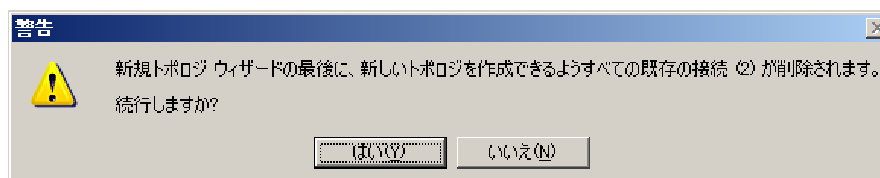
3.5.2.7　新しいトポロジを作成する

この操作は、レプリケーショングループを作成する際に、[トポロジなし]で設定されている場合か、レプリケーショングループの接続を見直す場合に行います。

1. 画面左側コンソールツリーのレプリケーショングループをクリックします。
   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[新しいトポロジ]をクリックします。
   またレプリケーショングループをクリックしたあと、右クリックし、ショートカットメニューから[新しいトポロジ]を選択することもできます。



2. 警告メッセージが表示されます。既存の接続を削除しない場合は、[いいえ]をクリックし、作業を終了してください。続行する場合は、[はい]をクリックします。
   レプリケーショングループを「トポロジなし」で作成している場合は、この警告メッセージは表示されません。

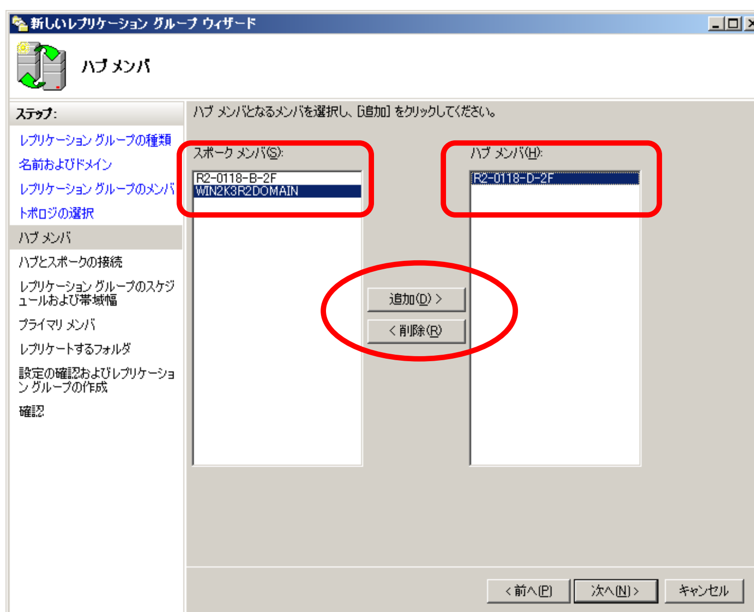


3. 「新しいトポロジウィザード」が起動します。トポロジを選択します。メンバサーバーが 3 台以上で[ハブおよびスポーク]選択可能になります。トポロジを選択後[次へ]をクリックします。
   - [ハブアンドスポーク]を選択した場合、手順 5「ハブメンバ」画面に進んでください。
   - [フルメッシュ]を選択した場合、手順 8「レプリケーショングループのスケジュールおよび帯域幅」画面に進んでください。

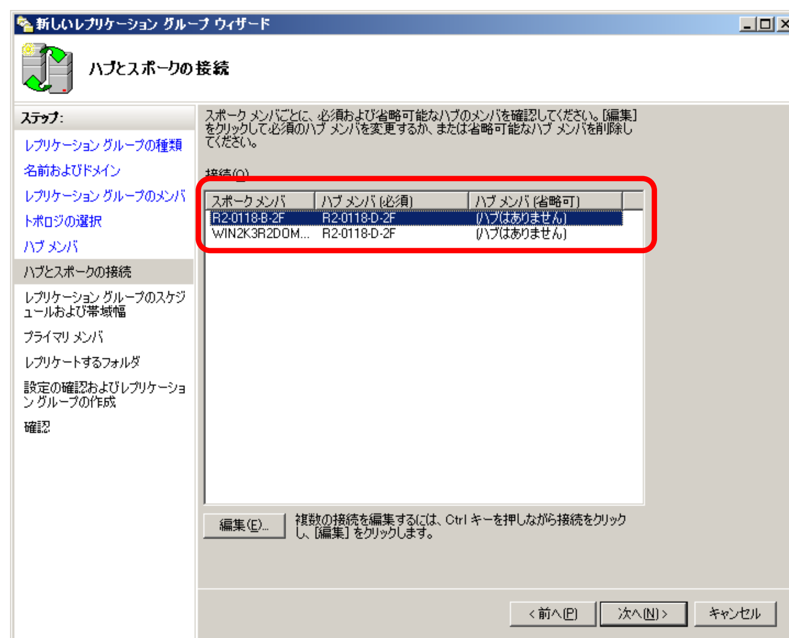


4. 「ハブメンバ」画面に切り替わります。

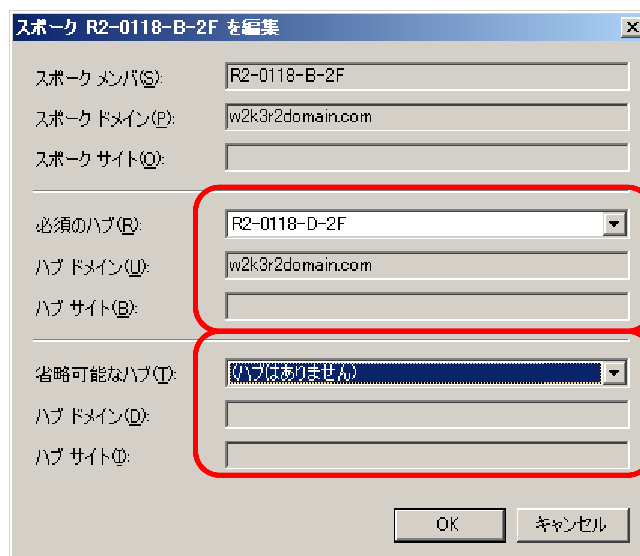
   [スポークメンバ]欄より、ハブメンバにするサーバーを選択し、[追加 >]をクリックします。[ハブメンバ]欄に追加されます。[< 削除]をクリックすると、[スポークメンバ]欄に戻ります。ハブメンバを設定したら、[次へ]をクリックします。



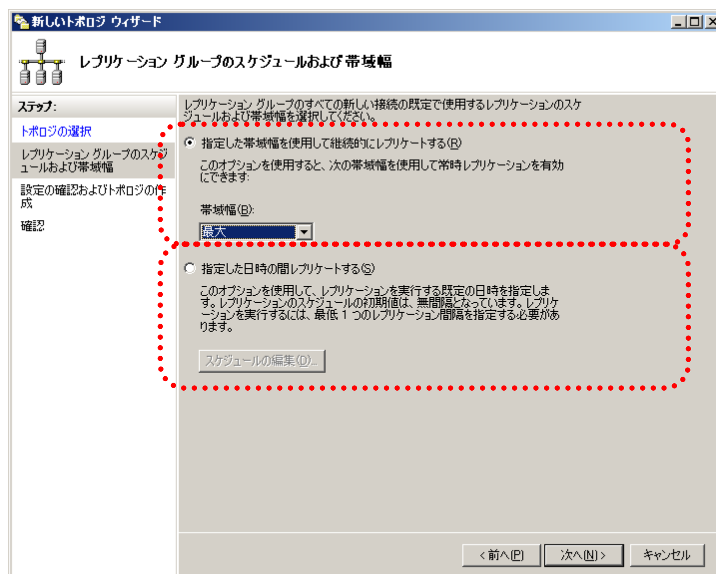
5. 「ハブとスポークの接続」画面に切り替わります。
   ハブのメンバを確認してください。ハブメンバの変更または省略可能なハブメンバを削除する場合は、[編集]をクリックします。



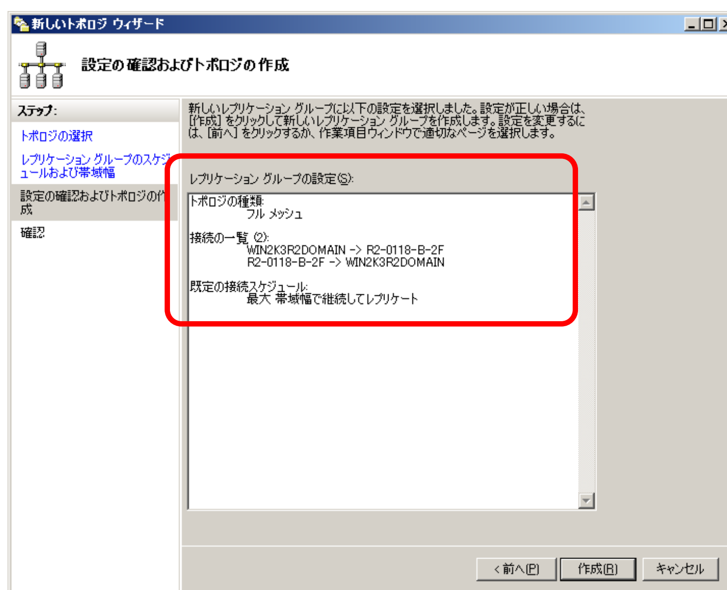
6. [編集]をクリックすると、「スポーク"サーバー名"を編集」ウィンドウが表示されます。[必須のハブ]、[省略可能なハブ]をプルダウンメニューから選びます。[OK]をクリックします。
   「ハブとスポークの接続」画面に戻ります。設定情報を確認し、[次へ]をクリックします。



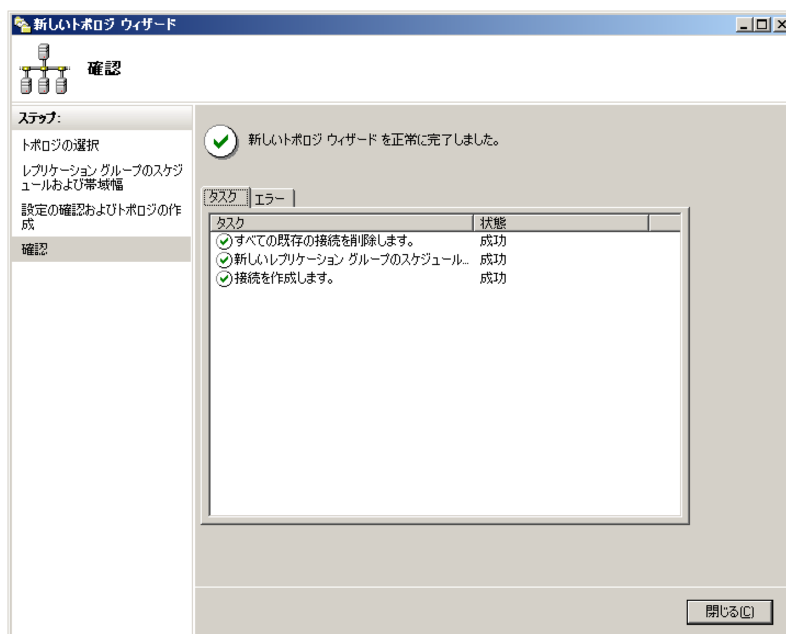
7. 「レプリケーショングループのスケジュールおよび帯域幅」画面に切り替わります。レプリケーションのスケジュールと帯域幅を選択します。
[指定した帯域幅を使用して継続的にレプリケートする]を選択する場合は、[帯域幅]はプルダウンメニューから選択します。[指定した日時の間レプリケートする]を選択する場合は、[スケジュールの編集]をクリックして、スケジュールを設定してください。スケジュールの設定は、「3.5.2.11 レプリケーションスケジュール」手順 2 以降を参照してください。



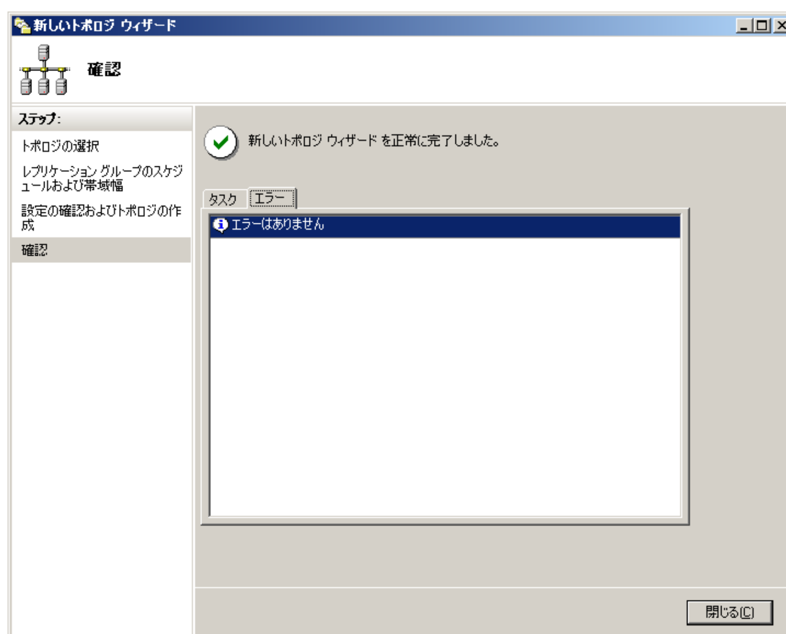
8. 「設定の確認およびトポロジの作成」画面に切り替わります。設定内容を確認してください。設定内容が正しい場合は、[作成]をクリックします。設定を変更する場合は、[前へ]をクリックして、画面を戻して設定を行ってください。



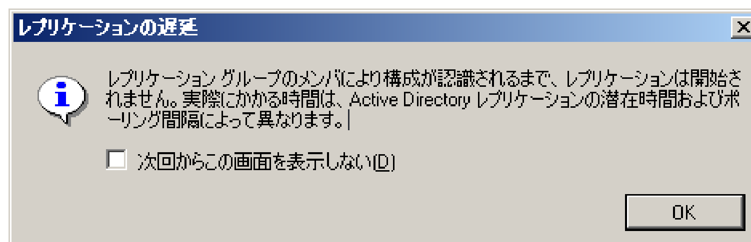
9. [作成]ボタンをクリックすると、「確認」画面に切り替わり、レプリケートフォルダが作成されます。正常に作成されると、[タスク]タブの画面の項目にチェックマークが表示されます。[エラー]タブの画面には、「エラーはありません」と表示されます。



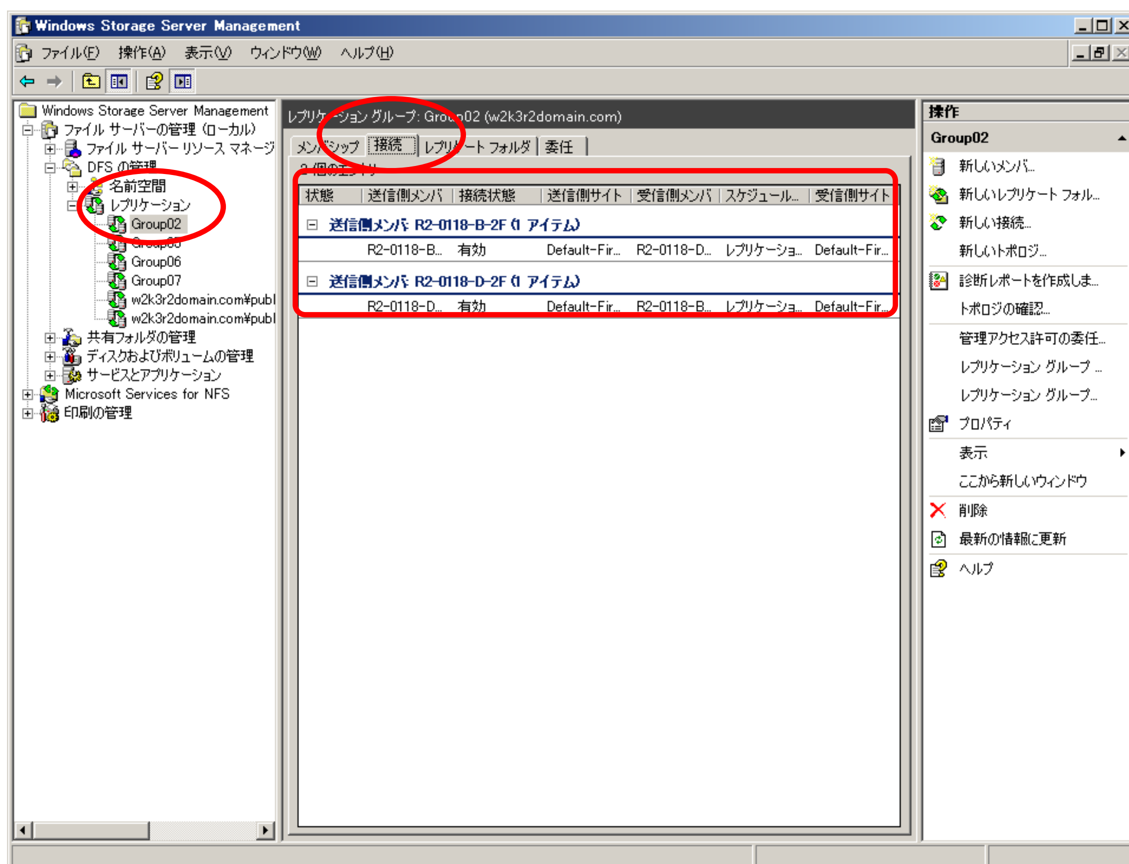
[エラー]タブの画面には、トポロジの作成がエラーになった場合、詳細なエラー内容が表示されます。内容を確認の上、設定を見直し、再度作成してください。



10. 「確認」画面の[閉じる]をクリックして、「新しいトポロジウィザード」画面を閉じます。「レプリケーションの遅延」ウィンドウが表示されますので[OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。このウィンドウを表示させないようにするには、[次回からこの画面を表示しない]をチェックしてください。



11. [接続]タブの表示内容を確認してください。

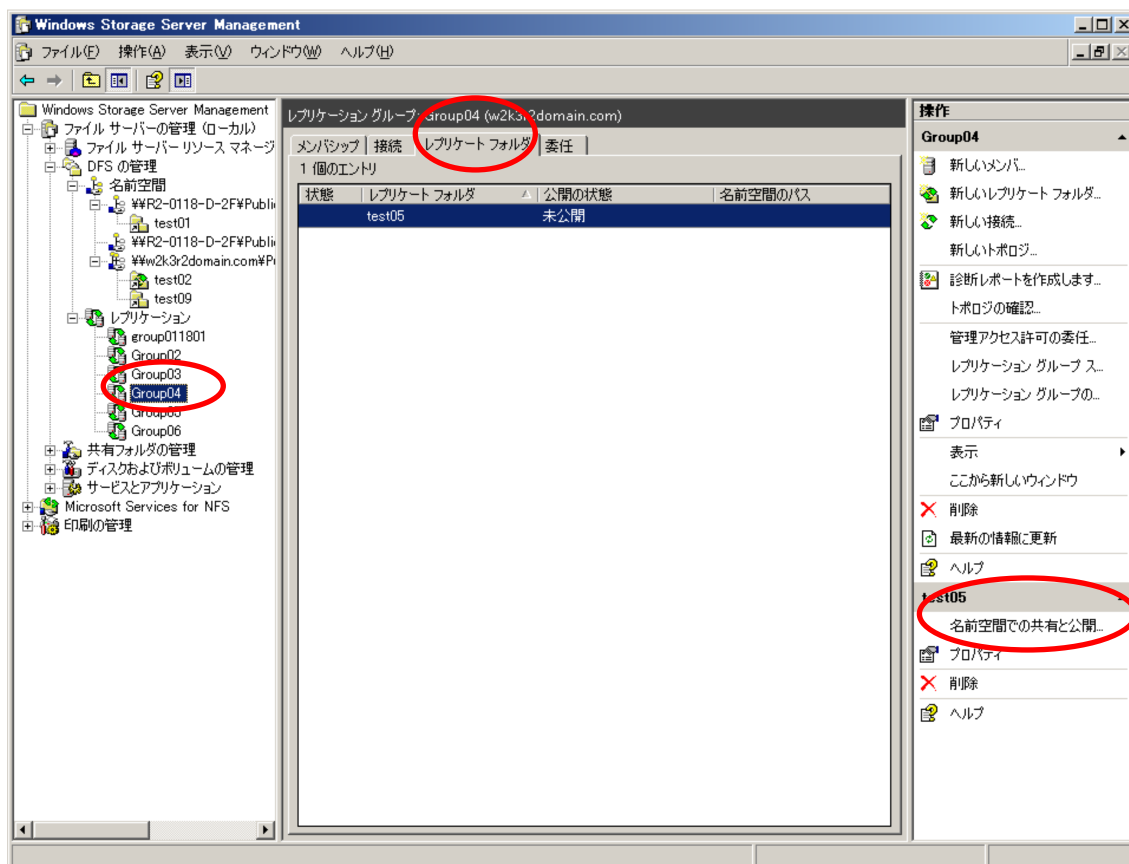


3.5.2.8　名前空間での共有と公開

未公開のレプリケーショングループを共有する場合や、名前空間に公開する際に、この操作を行います。

1. 画面左側コンソールツリーの共有を公開するレプリケーショングループをクリックします。[レプリケートフォルダ]タブをクリックし、[公開の状態]が「未公開」となっているエントリを選択します。

   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[名前空間での共有と公開]をクリックします。またレプリケーショングループを選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[名前空間での共有と公開]を選択することもできます。

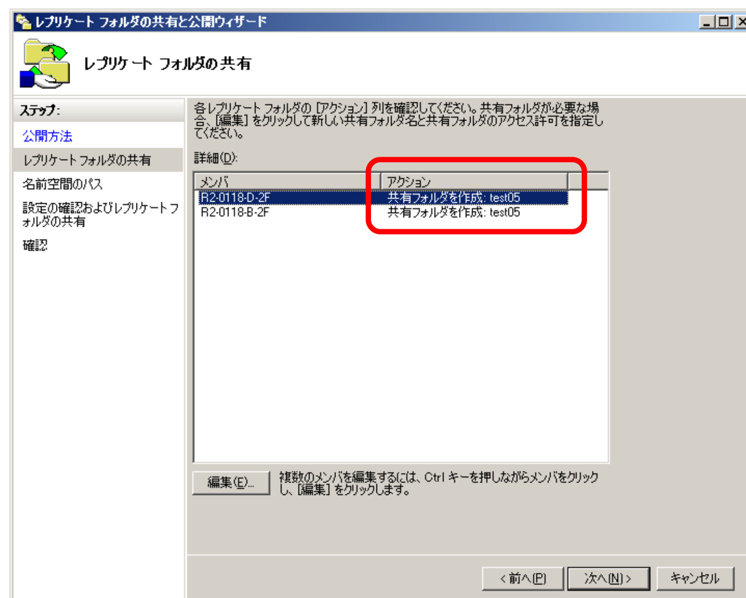


2. 「レプリケートフォルダの共有と公開ウィザード」が起動します。レプリケートフォルダの公開方法を選択します。
   - [レプリケートフォルダを名前空間で共有および公開する]
   - [レプリケートフォルダを共有する]

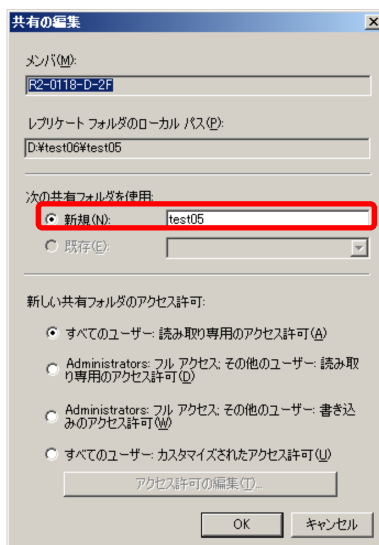
   のいずれかを選択し[次へ]をクリックします。



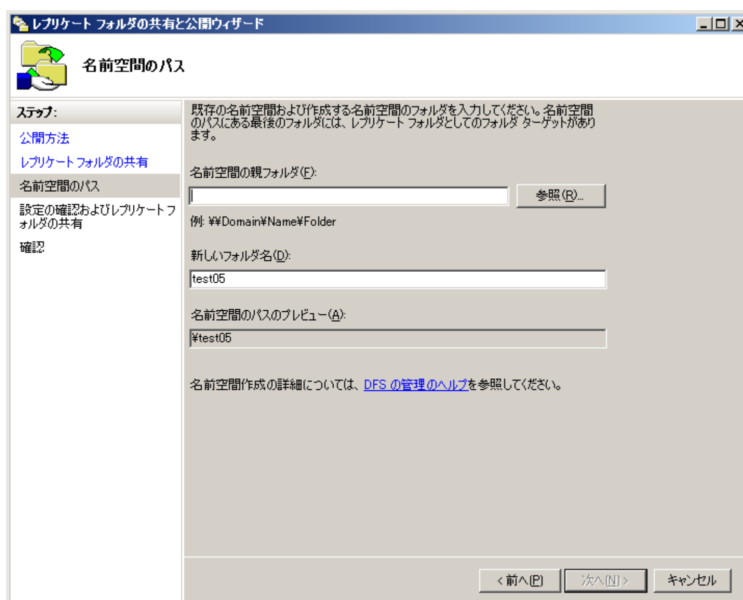
3. 「レプリケートフォルダの共有」画面に切り替わります。[詳細]欄の[アクション]列を確認してください。共有フォルダが必要な場合、[編集]をクリックして新しい共有フォルダ名と共有フォルダのアクセス許可を指定します。



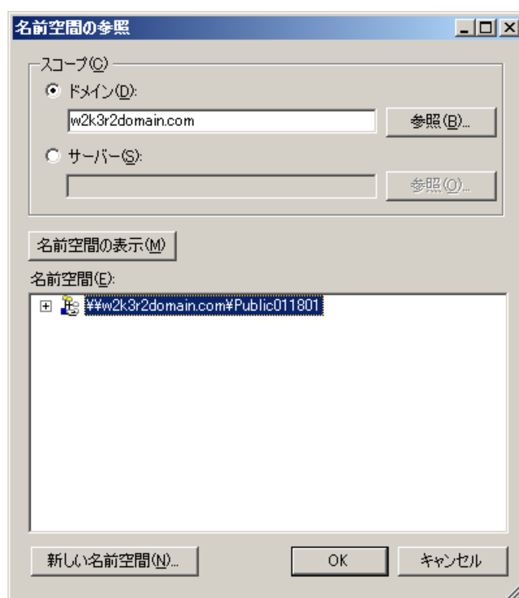
4. [編集]をクリックすると、「共有の編集」ウィンドウが表示されます。[次の共有フォルダを使用]の欄は[新規]が選択されていますので、共有フォルダ名を入力します。
[新しい共有フォルダのアクセス許可]は必要に応じて選択します。アクセス許可をカスタマイズするには、[すべてのユーザー: カスタマイズされたアクセス許可]を選択し、[アクセス許可の編集]をクリックします。「共有のアクセス許可」ウィンドウが表示されますので、アクセス許可を編集してください。編集が終了したら[OK]をクリックします。



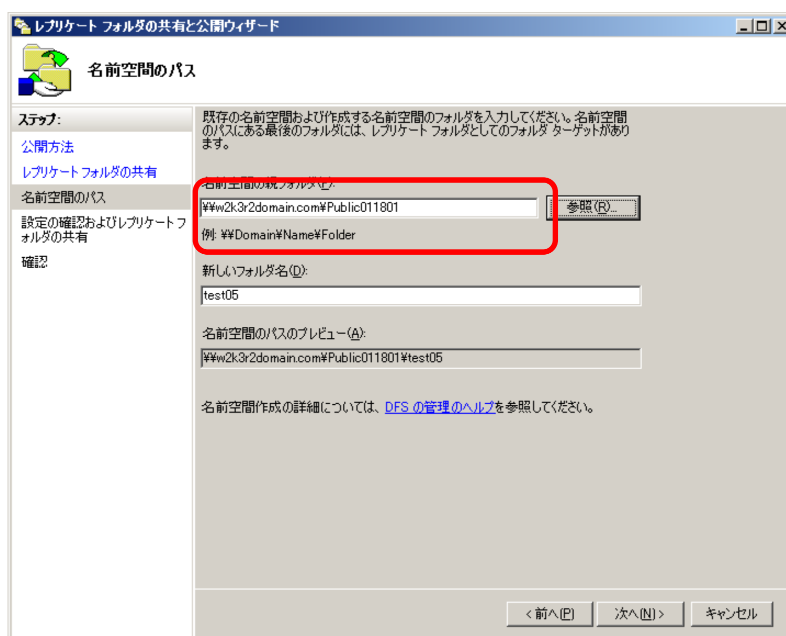
5. 「名前空間のパス」画面に切り替わります。
※この画面は、「公開方法」で[レプリケートフォルダを名前空間で共有および公開する]を選択した場合に表示されます。[レプリケートフォルダを共有する]を選択した場合は、手順 8「設定の確認およびレプリケートフォルダの作成」画面に切り替わります。



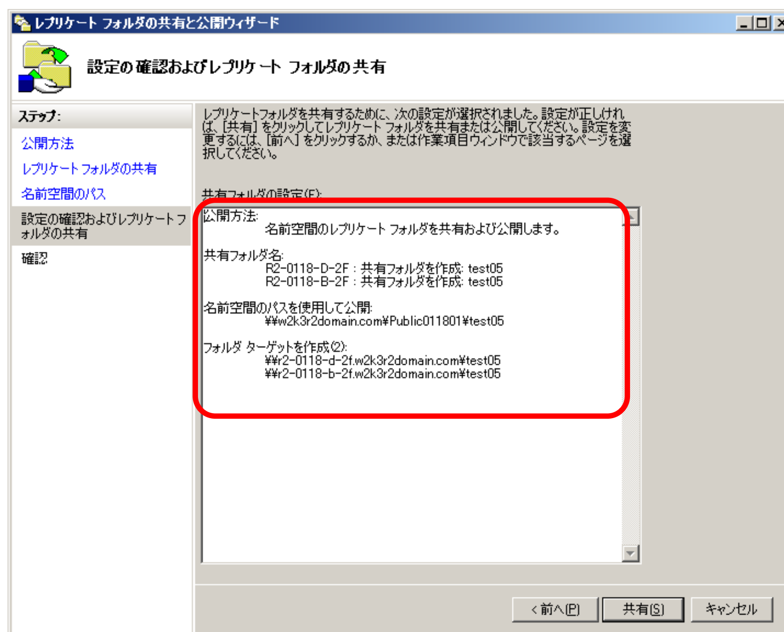
6. [名前空間の親フォルダ]に既存の名前空間および作成する名前空間のフォルダを入力してください。[参照]をクリックして、「名前空間の参照」ウィンドウを表示して、選択して入力することもできます。[新しい名前空間]をクリックして、新たに名前空間を作成して、設定することもできます。設定が終わったら[OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。



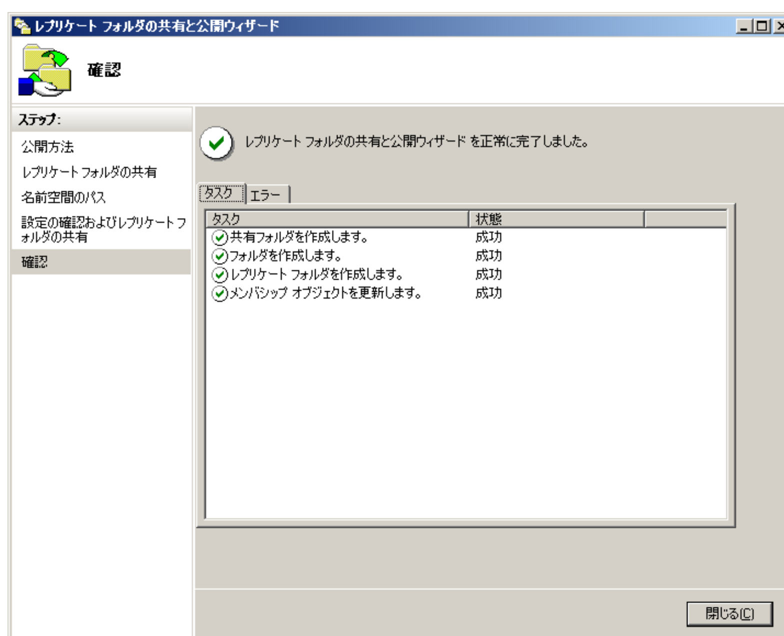
7. 「名前空間のパス」画面に戻ります。[名前空間の親フォルダ]の表示内容を確認してください。[OK]をクリックします。



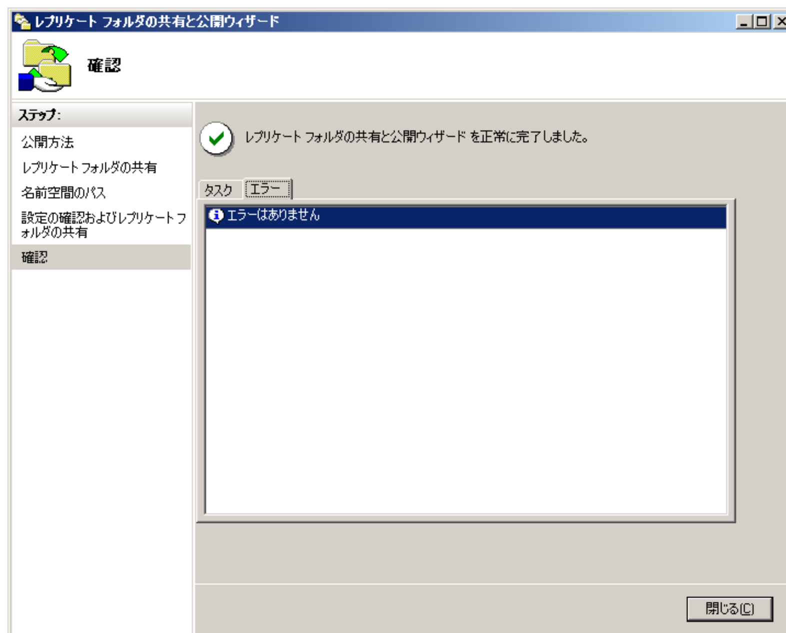
8. 「設定の確認およびレプリケートフォルダの作成」画面に切り替わります。設定内容を確認してください。設定内容が正しい場合は、[共有]をクリックします。設定を変更する場合は、[前へ]をクリックして、画面を戻して設定を行ってください。



9. [共有]ボタンをクリックすると、「確認」画面に切り替わり、レプリケートフォルダが作成されます。正常に作成されると、[タスク]タブの画面の項目にチェックマークが表示されます。[エラー]タブの画面には、「エラーはありません」と表示されます。

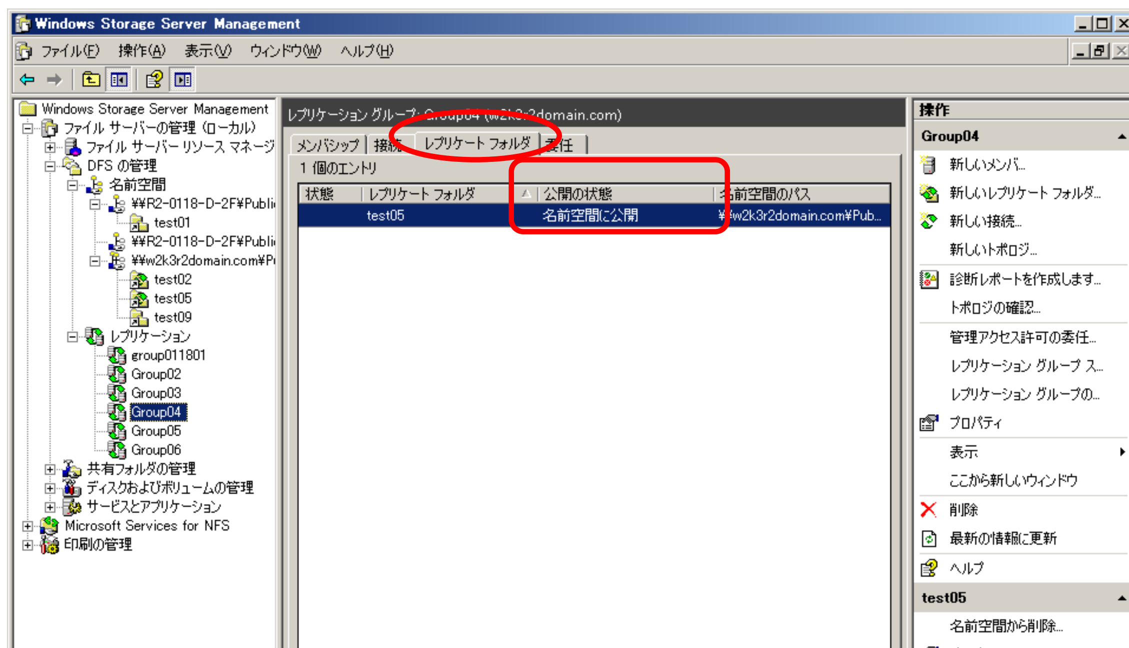


[エラー]タブの画面には、レプリケートフォルダの作成がエラーになった場合、詳細なエラー内容が表示されます。内容を確認の上、設定を見直し、再度作成してください。



10. 「確認」画面の[閉じる]をクリックして、「レプリケートフォルダの共有と公開ウィザード」画面を閉じます。

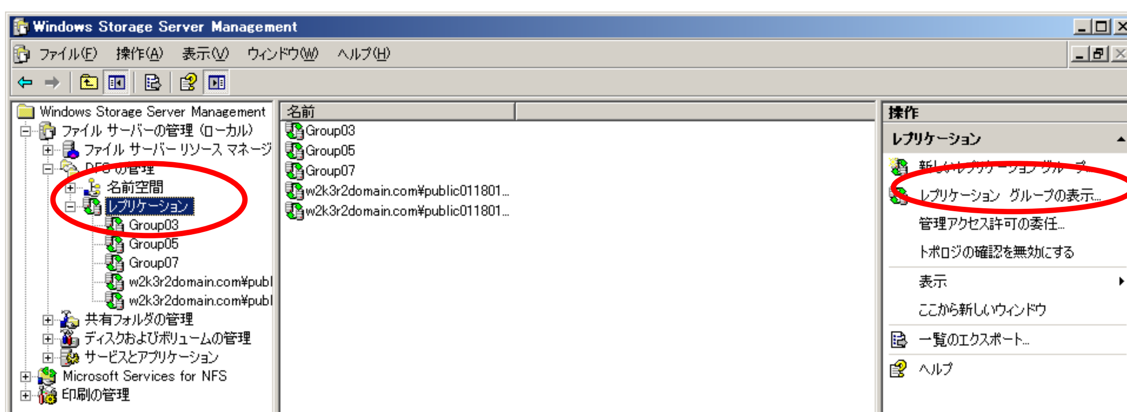
[レプリケートフォルダ]タブの「公開の状態」が[名前空間に公開]と表示されていることを確認します。(名前空間に公開した場合のみ表示されます。共有の場合は表示が変わりません。)



3.5.2.9　レプリケーショングループを表示する

1. 画面左側コンソールツリーの[レプリケーション]をクリックします。

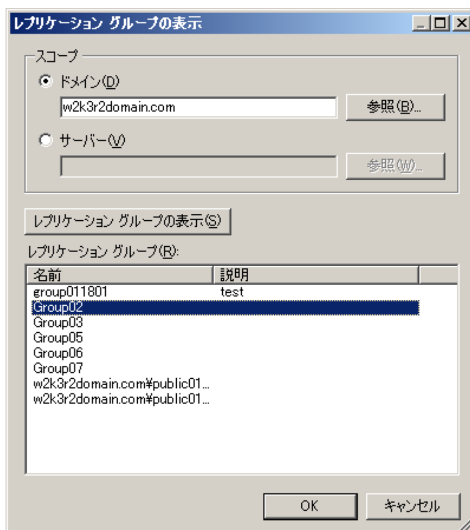
   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[レプリケーショングループの表示]をクリックします。また[レプリケーション]をクリックしたあと、右クリックし、ショートカットメニューから[レプリケーショングループの表示]を選択することもできます。



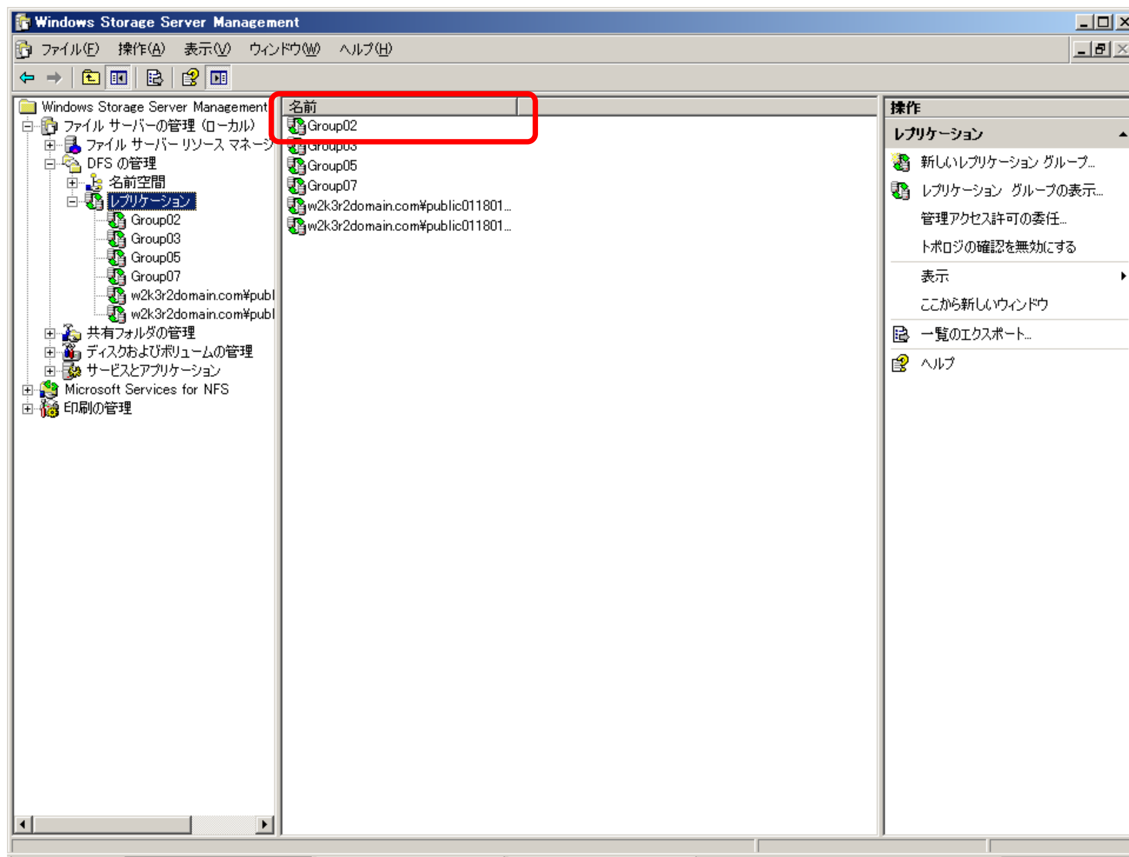
2. 「レプリケーショングループの表示」ウィンドウが表示されます。[スコープ]欄の[ドメイン]に現在参加しているドメイン名が表示されます。また、[レプリケーショングループ]欄に存在するグループが一覧表示されます。

   表示するグループを選択し、[OK]をクリックします。[参照]をクリックして、ドメインを選択することもできます。

   [スコープ]の[サーバー]を選択し、サーバー名を入力し、[レプリケーショングループの表示]をクリックすると、メンバとなっているレプリケーショングループが表示されます。[参照]をクリックして、サーバーを選択することもできます。

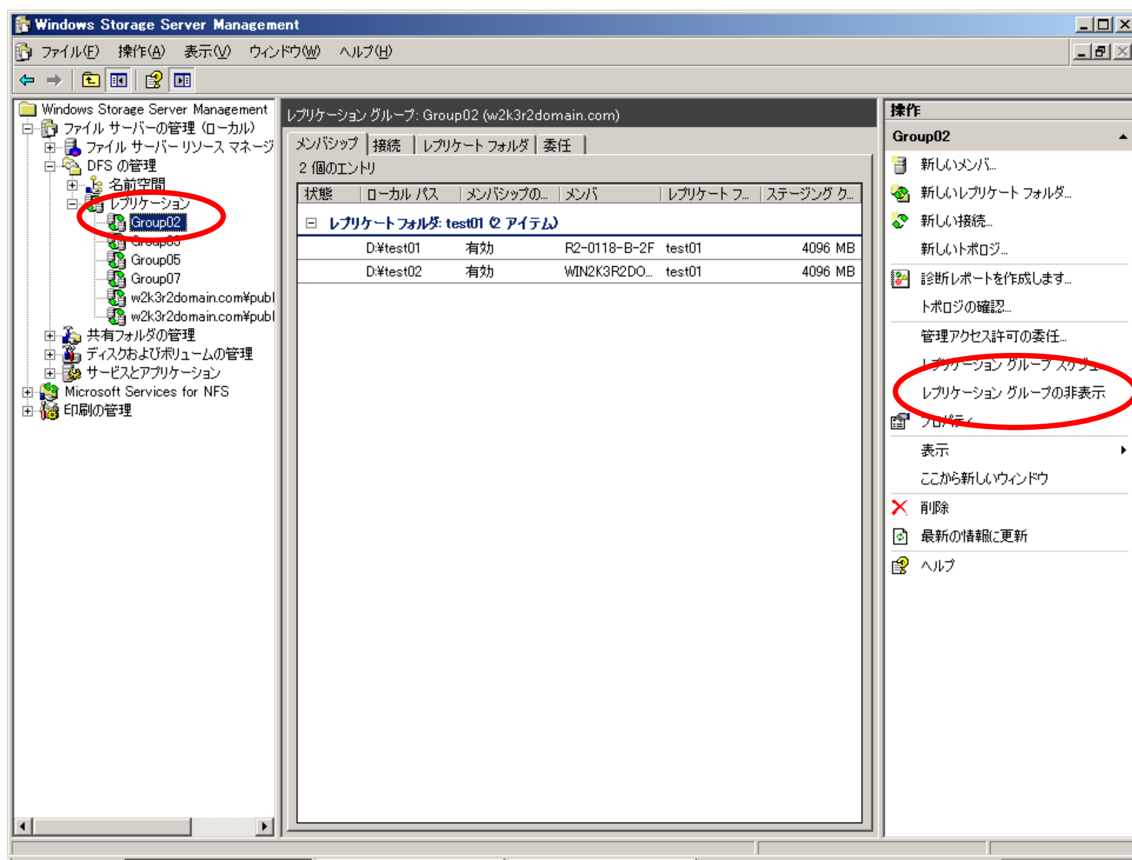


3. [OK]をクリックした後、コンソールツリーに選択したグループが表示されていることを確認してください。

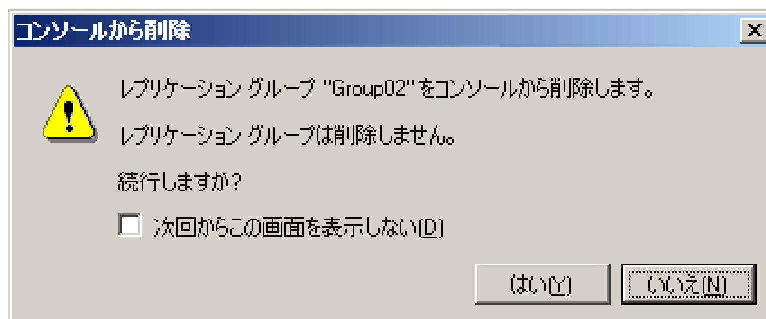


3.5.2.10　レプリケーショングループを非表示にする

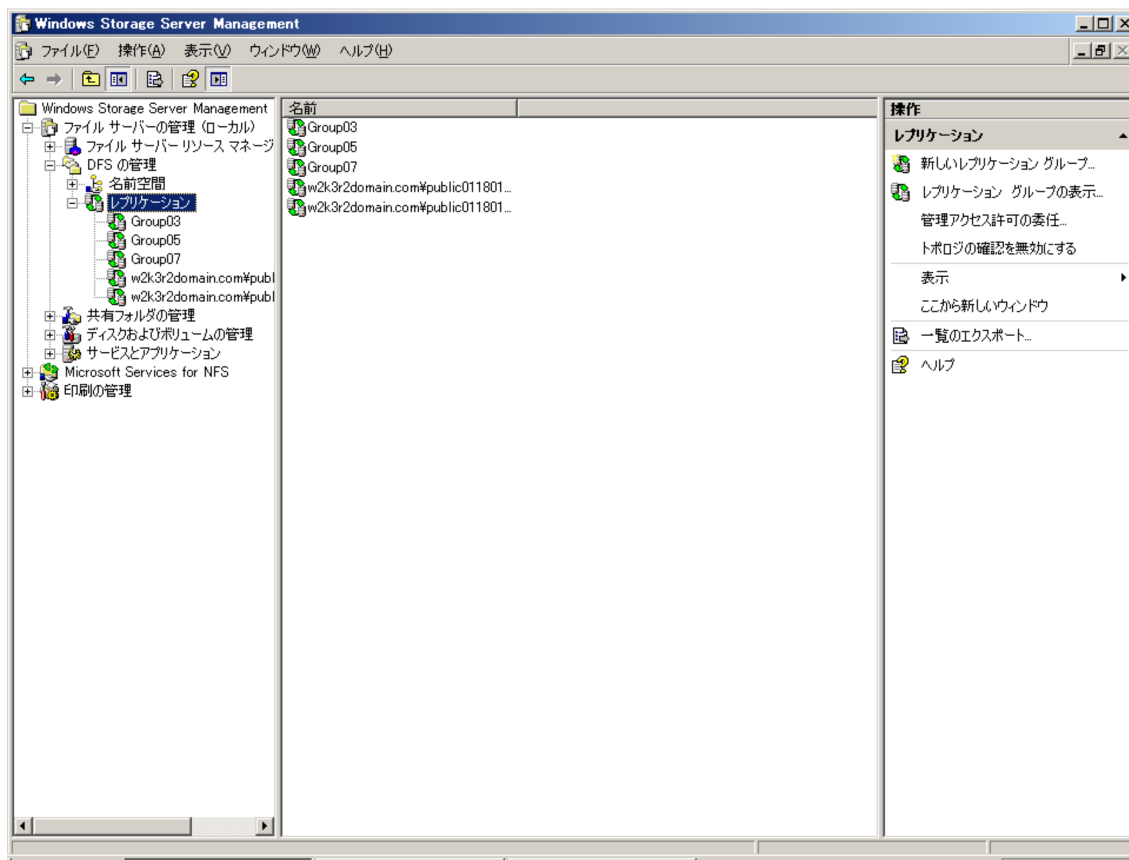
1. 画面左側コンソールツリーの非表示にするレプリケーショングループをクリックします。
   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[レプリケーショングループの非表示]をクリックします。またレプリケーショングループをクリックしたあと、右クリックし、ショートカットメニューから[レプリケーショングループの非表示]を選択することもできます。



2. 「コンソールから削除」ウィンドウが表示されます。そのまま非表示にする場合は、[はい]をクリックします。非表示にしない場合は[いいえ]をクリックします。

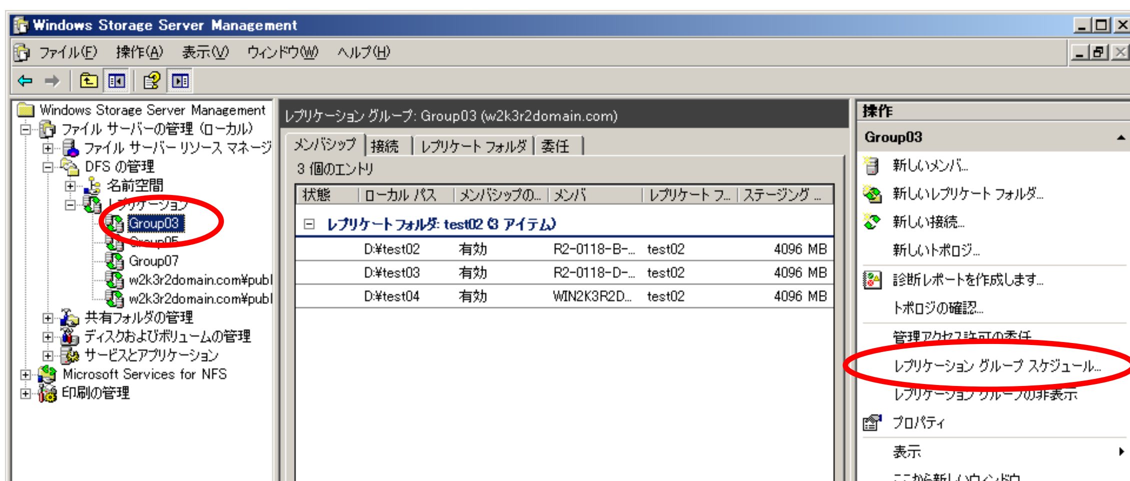


3. 選択したレプリケーショングループが非表示になったことを確認してください。一度非表示にしたレプリケーショングループを再度表示するには、「3.5.2.9 レプリケーショングループを表示する」を参照してください。

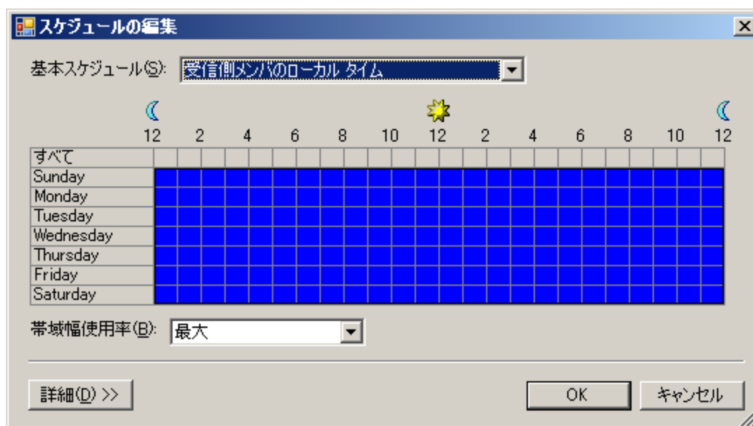


3.5.2.11 レプリケーションスケジュール

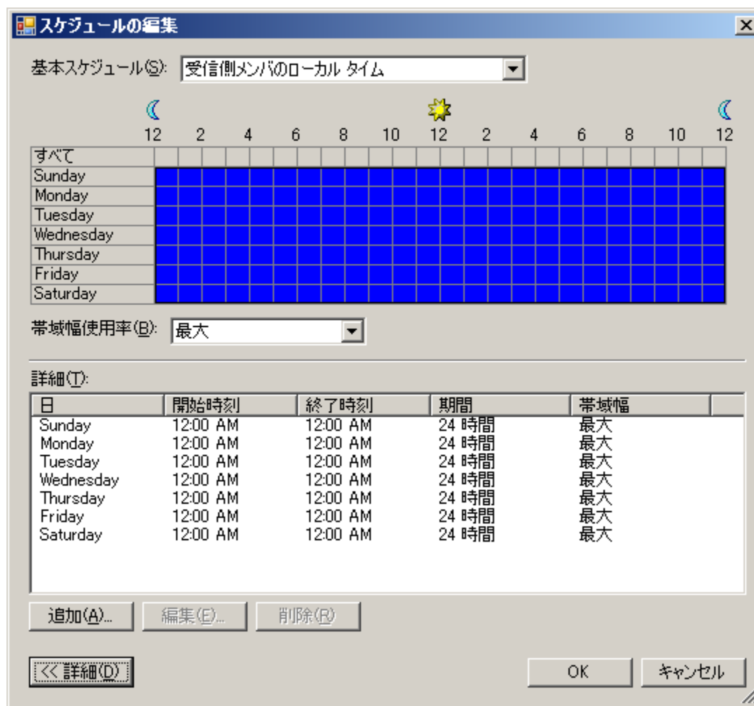
1. 画面左側コンソールツリーのスケジュールを編集するレプリケーショングループをクリックします。
   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[レプリケーショングループスケジュールの編集]をクリックします。またレプリケーショングループをクリックしたあと、右クリックし、ショートカットメニューから[レプリケーショングループスケジュールの編集]を選択することもできます。



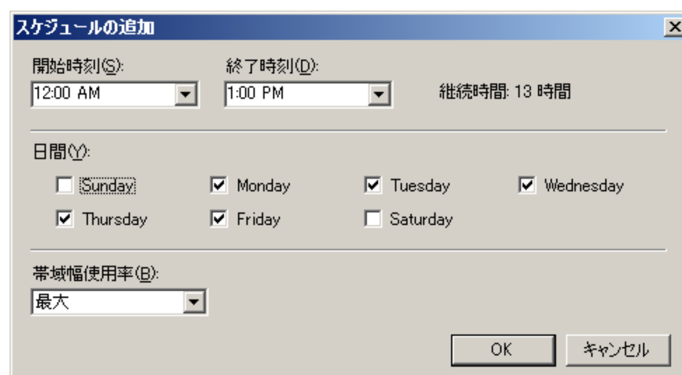
2. 「スケジュールの編集」ウィンドウが表示されます。現在のスケジュールの設定状況が表示されます。[基本スケジュール]のプルダウンメニューから基本スケジュールを選択します。曜日と時間が表示されているます目を選択するか、ドラッグして範囲指定します。[帯域幅使用率]のプルダウンメニューから回線状況に応じた帯域幅を選択するか、[レプリケーションなし]を選択します。指定範囲でのスケジュールが設定されます。



3. [詳細]をクリックすると、スケジュールの詳細が、一覧表示されます。設定内容を確認してください。



- [追加]をクリックすると、「スケジュールの追加」ウィンドウが表示され、スケジュールの詳細が表示されます。[開始時刻]・[終了時刻]・[日間]・[帯域幅使用率]を設定し、[OK]をクリックします。
  時刻は、15 分刻みで設定できます。



- 一覧表示されているスケジュールを選択し、[編集]をクリックすると、「スケジュールの編集」ウィンドウが表示され、設定済みのスケジュールの詳細が表示されます。スケジュールの詳細内容を変更することができます。

- 一覧表示されているスケジュールを選択し、[削除]をクリックすると、スケジュールを削除することができます。

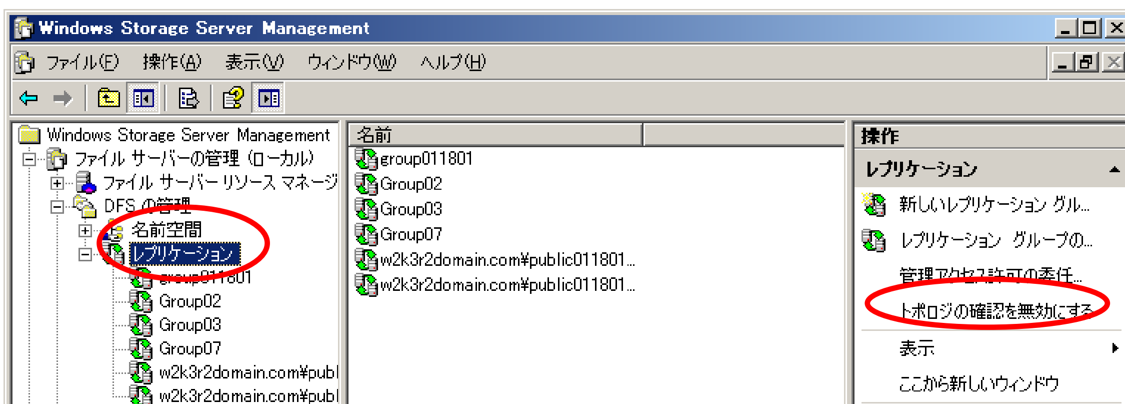
4. 設定が終わったら、[OK]をクリックし、ウィンドウを閉じます。「スケジュールの編集」ウィンドウに戻り、設定内容を確認します。

5. [OK]をクリックして、「スケジュールの編集」画面を閉じます。

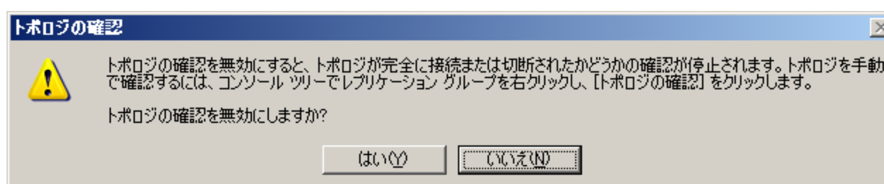
3.5.2.12 トポロジ確認を無効にする

1. 画面左側コンソールツリーの[レプリケーション]をクリックします。

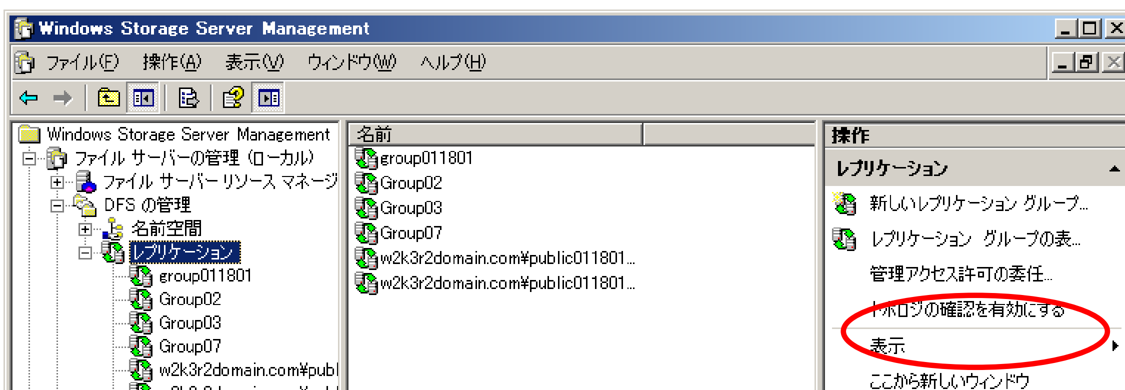
   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[トポロジ確認を無効にする]をクリックします。また[レプリケーション]をクリックしたあと、右クリックし、ショートカットメニューから[トポロジ確認を無効にする]を選択することもできます。



2. 「トポロジの確認」ウィンドウが表示されます。トポロジ確認を無効にするには[はい]をクリックします。トポロジ確認を無効にしない場合は[いいえ]をクリックします。



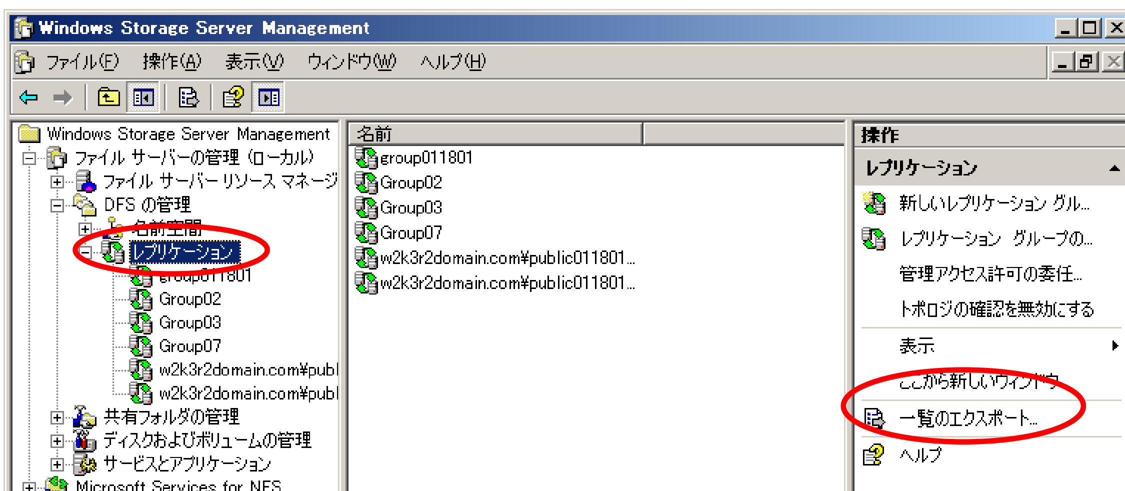
3. トポロジ確認を無効にした後、再度有効にする場合には、画面右側操作ウィンドウの[トポロジ確認を有効にする]をクリックします。また[レプリケーション]をクリックしたあと、右クリックし、ショートカットメニューから[トポロジ確認を有効にする]を選択することもできます。



3.5.2.13 一覧のエクスポート

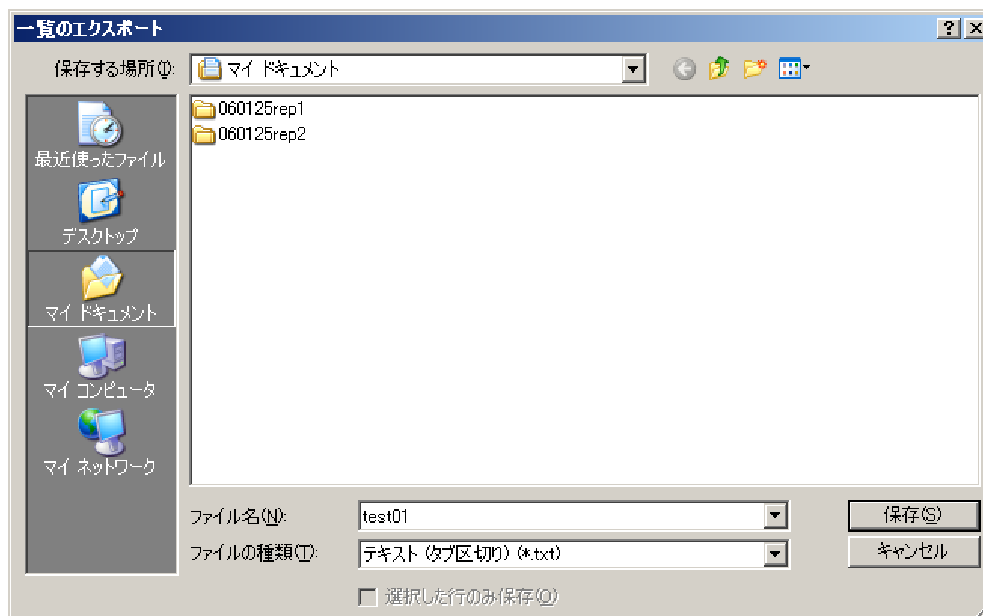
1. 画面左側コンソールツリーの[レプリケーション]をクリックします。

   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[一覧のエクスポート]をクリックします。またレプリケーショングループをクリックしたあと、右クリックし、ショートカットメニューから[一覧のエクスポート]を選択することもできます。



2. 「一覧のエクスポート」画面が表示されます。保存先とファイル名、保存形式を指定し、[OK]をクリックします。指定保存先にテキストファイルが保存されたことを確認します。

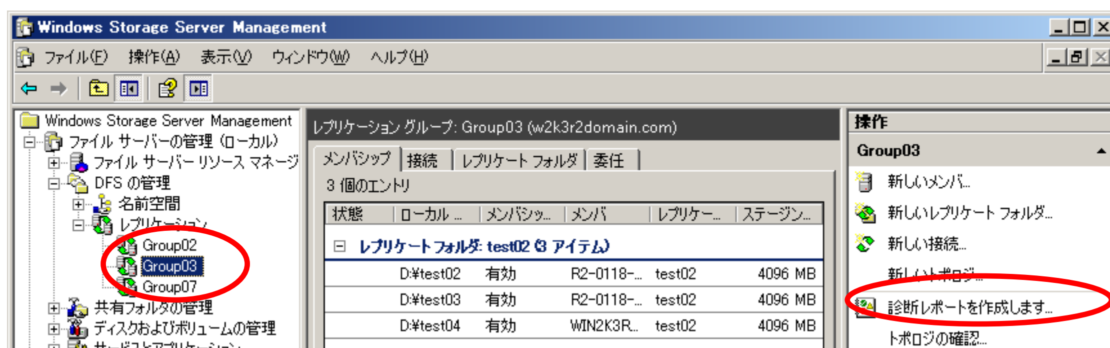
   テキスト形式でのみ保存できます。



3.5.2.14 診断レポートの作成

1. 画面左側コンソールツリーの診断レポートを作成するレプリケーショングループをクリックします。

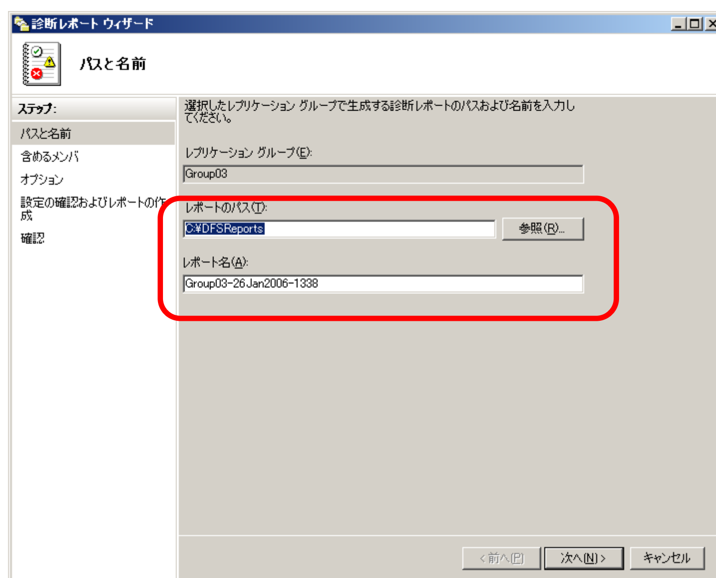
   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[診断レポートを作成します]をクリックします。またレプリケーショングループをクリックしたあと、右クリックし、ショートカットメニューから[診断レポートを作成します]を選択することもできます。



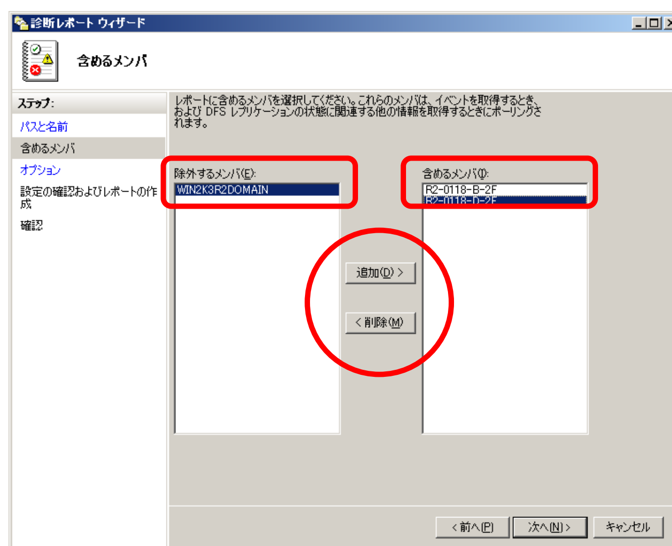
2. 「診断レポートウィザード」画面が起動します。[レポートのパス]にデフォルトで"C:¥DFSReports"が設定されます。診断レポートで出力されたデータが設定された場所に保存されます。保存先を変える場合は、[レポートのパス]に直接パスを入力するか、[参照]をクリックします。

   「フォルダの参照」ウィンドウが表示されますので、フォルダを選択します。

   [レポート名]にデフォルトで名称が表示されます。名称を変更する場合には、[レポート名]を変更します。設定内容を確認したら、[次へ]をクリックします。



3.　「含めるメンバ」画面に切り替わります。[含めるメンバ]にメンバサーバー名が表示されます。除外するメンバがある場合は、メンバサーバー名を選択し、[<削除]をクリックします。除外するメンバを含めるメンバに戻す場合は、除外するメンバを選択し、[追加>]をクリックします。[次へ]をクリックします。



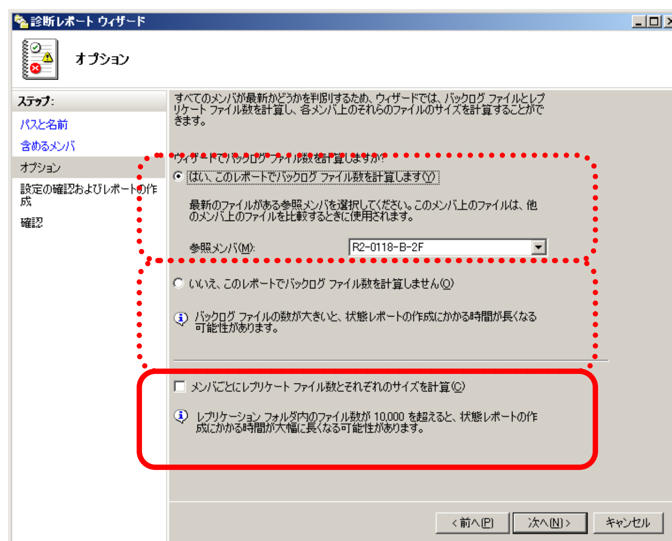
4.　「オプション」画面に切り替わります。[ウィザードでバックログファイル数を計算しますか?]では、

・　はい、このレポートでバックログファイル数を計算します

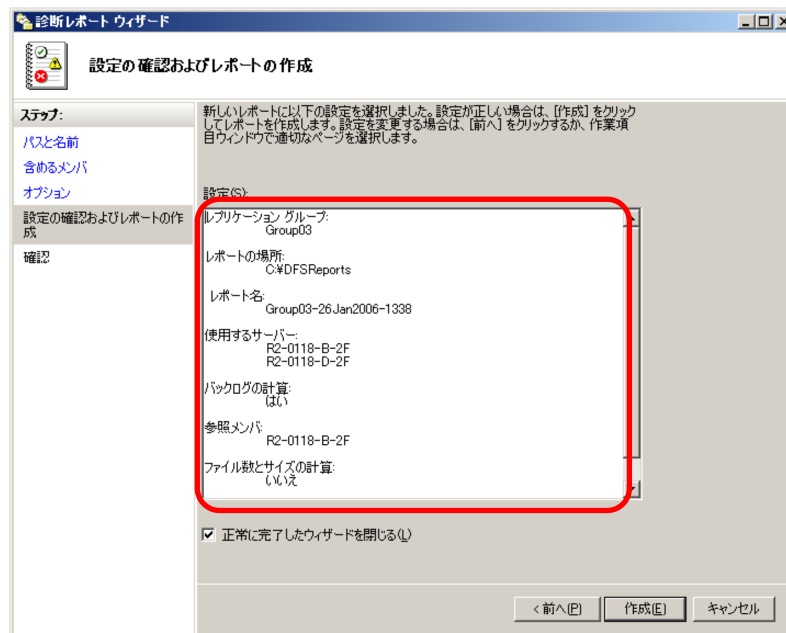
・　いいえ、このレポートでバックログファイル数を計算しません

のいずれかを選択してください。

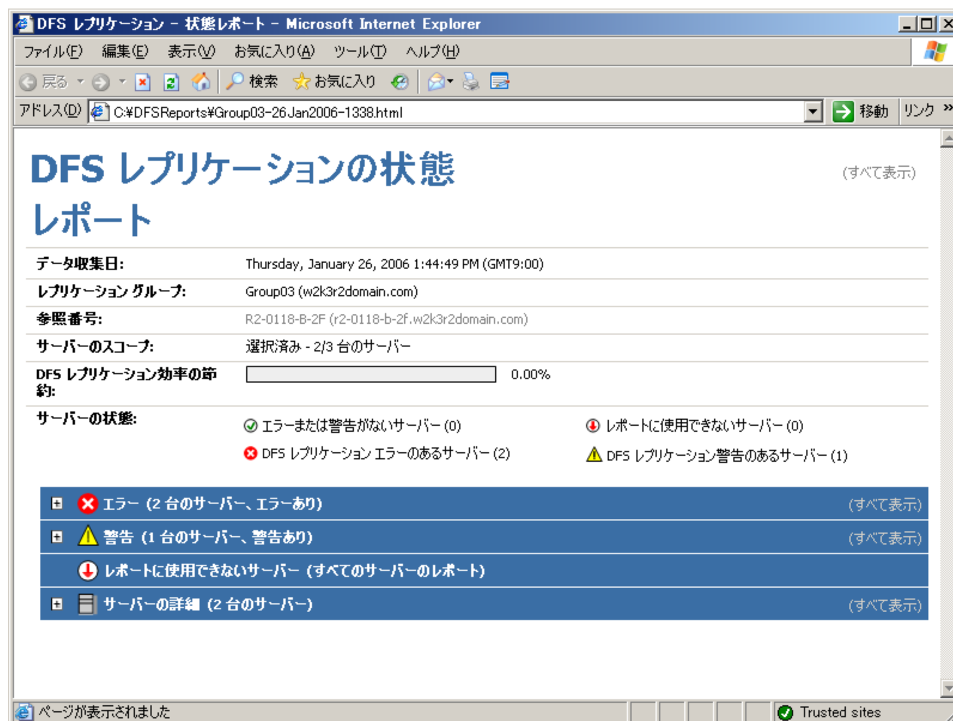
[メンバシップごとにレプリケートファイル数とそれぞれのサイズを計算]は必要に応じてチェックを入れます。[次へ]をクリックします。



5. 「設定の確認およびレポートの作成」画面に切り替わります。設定内容を確認し、[作成]をクリックします。



6. 「DFS レプリケーションの状態」レポートが表示されます。表示内容を確認してください。



 診断レポートがエラーになった場合、「確認」画面に切り替わります。[タスク]タブの画面の項目に「×」マークが表示されます。[エラー]タブの画面には、詳細なエラー内容が表示されます。内容を確認の上、設定を見直し、再度作成してください。

手順 5 で[正常に完了したウィザードを閉じる]のチェックを外すと、診断レポートが正常に作成された場合でも、「確認」画面が表示されます。。

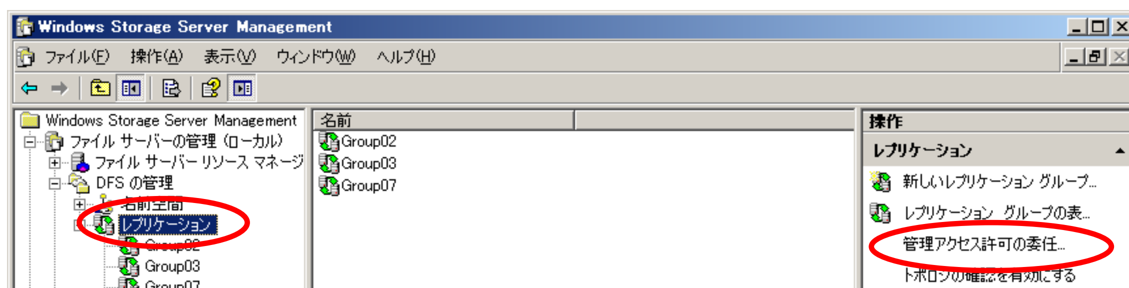
3.5.2.15 管理アクセス許可の委任

ここでは、基本的な DFS レプリケーションのタスクを実行する機能を委任するための手順を示しています。詳細に関しては、ヘルプを参照してください。

・ レプリケーショングループを作成する、フォルダターゲットを持つフォルダで DFS レプリケーションを有効にすることができるグループ・ユーザーの委任

1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、[レプリケーション]を選択します。
2. 画面右側操作ウィンドウに[管理アクセス許可の委任]が表示されますので、[管理アクセス許可の委任]をクリックします。

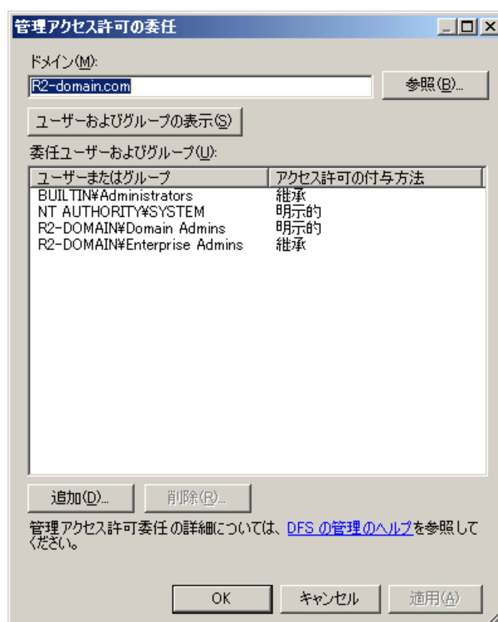
   また、[レプリケーション]を選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[管理アクセス許可の委任]を選択することもできます。



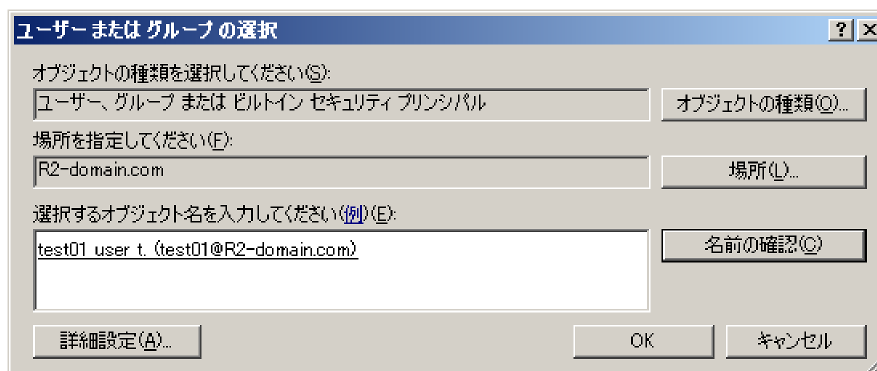
3. 「管理アクセス許可の委任」画面が表示されます。

   ドメインを確認します。[参照]をクリックし、選択することもできます。

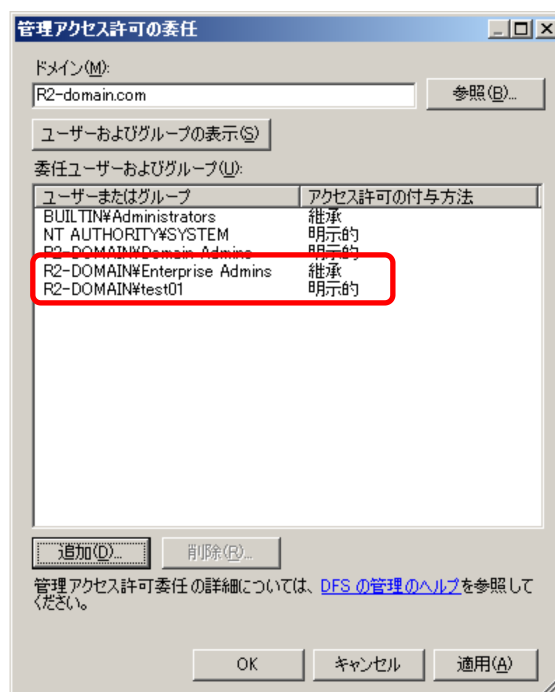
   委任ユーザーおよびグループの表示内容を確認します。[ユーザーおよびグループの表示]をクリックすると、最新の情報に更新されます。



4. [追加]をクリックすると、「ユーザーまたはグループの選択」画面が表示されます。
   [選択するオブジェクト名を入力してください]にユーザーまたはグループ名を入力します。
   [名前の確認]をクリックします。下線が入り、フルネーム等表示されますので、[OK]をクリックします。



5. 「管理アクセス許可の委任」画面に戻り、ユーザーまたはグループ名が追加されたことを確認します。
   追加したユーザーまたはグループを削除するには、ユーザーまたはグループ名を選択し、[削除]をクリックします。
   ユーザーまたはグループの追加・削除が完了したら、[OK]をクリックします。

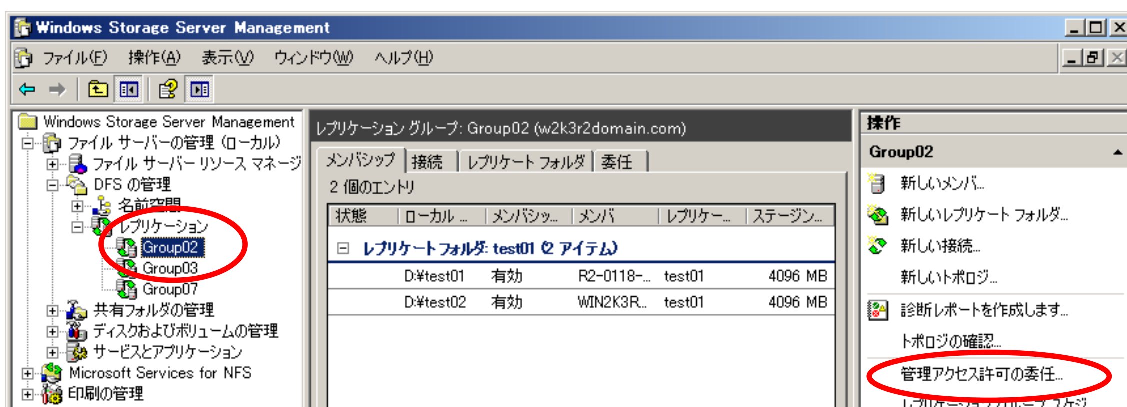


・ レプリケーショングループを管理することができるグループ・ユーザーの委任

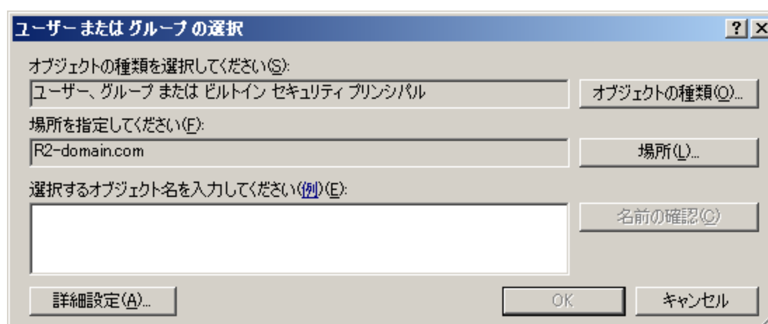
1. 画面左側コンソールツリーに表示されている、管理アクセス許可の委任を行うレプリケーショングループを選択します。

   画面右側操作ウィンドウに[管理アクセス許可の委任]が表示されますので、[管理アクセス許可の委任]をクリックします。

   また、レプリケーショングループを選択したあと、右クリックし、ショートカットメニューから[管理アクセス許可の委任]を選択することもできます。

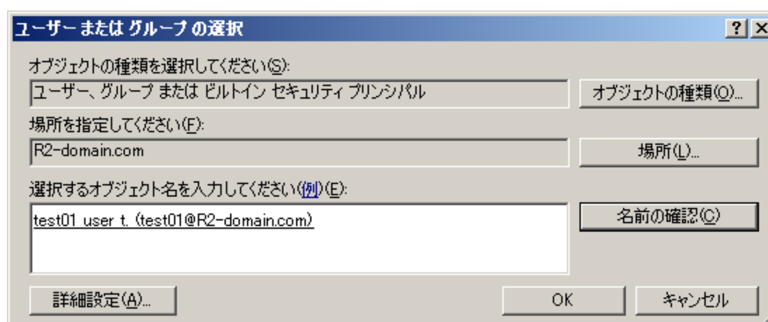


2. 「ユーザーまたはグループの選択」画面が表示されます。

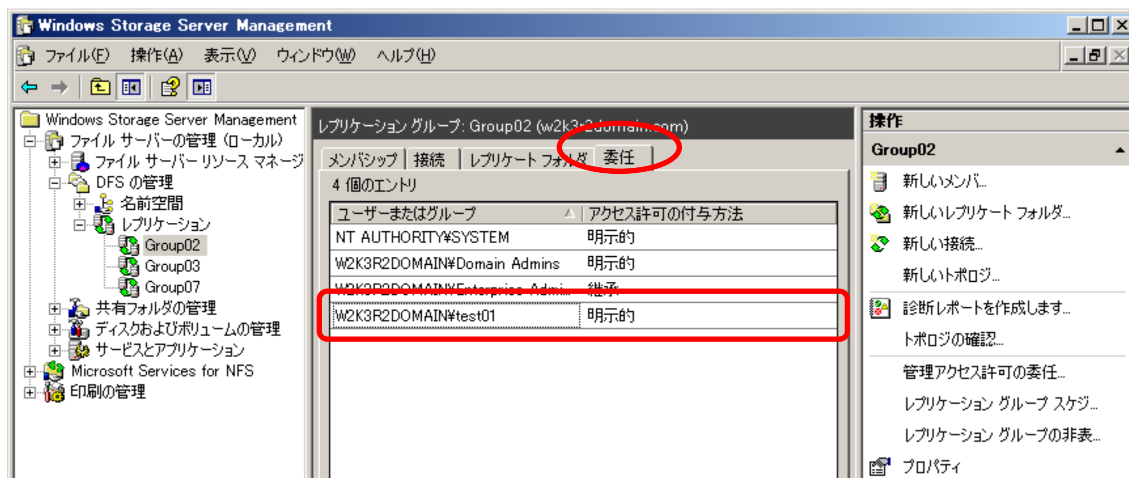


3. [選択するオブジェクト名を入力してください]にユーザーまたはグループ名を入力します。

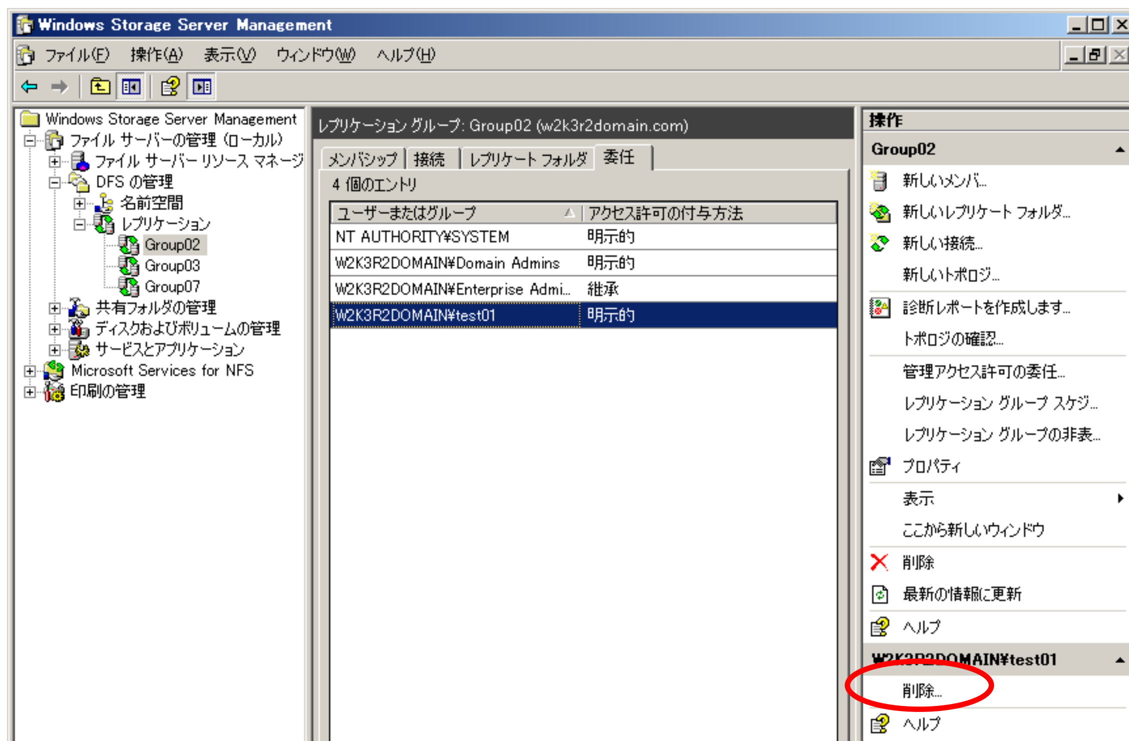
4. [名前の確認]をクリックします。下線が入り、フルネーム等表示されますので、[OK]をクリックします。



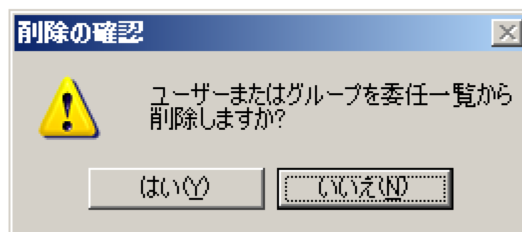
5. [委任]タブにユーザーまたはグループ名が追加されたことを確認します。



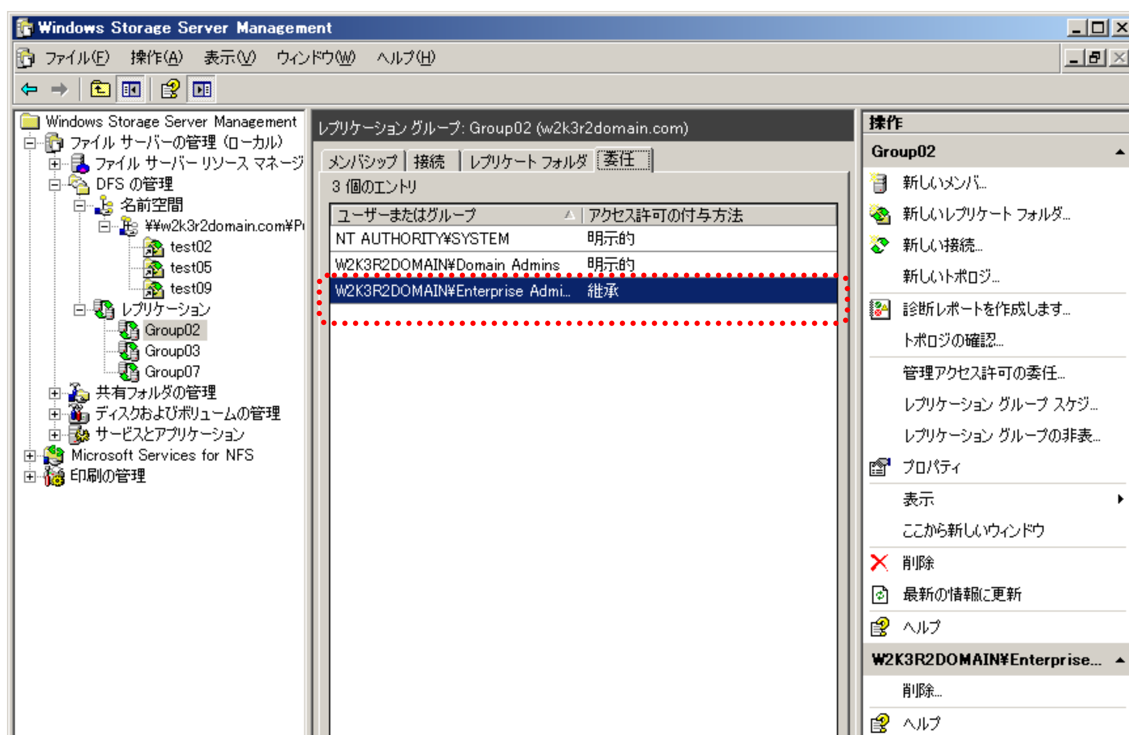
6. 追加したユーザーまたはグループ名を削除するには、画面左側コンソールツリーに表示されている、管理アクセス許可の委任を行うレプリケーショングループを選択します。
7. [委任]タブに表示されているユーザーまたはグループ名を選択します。
8. 画面右側操作ウィンドウ下段の[削除]を選択するか、右クリックし、ショートカットメニューより[削除]を選択します。



9. 「削除の確認」ウィンドウが表示されます。[はい]をクリックすると削除されます。



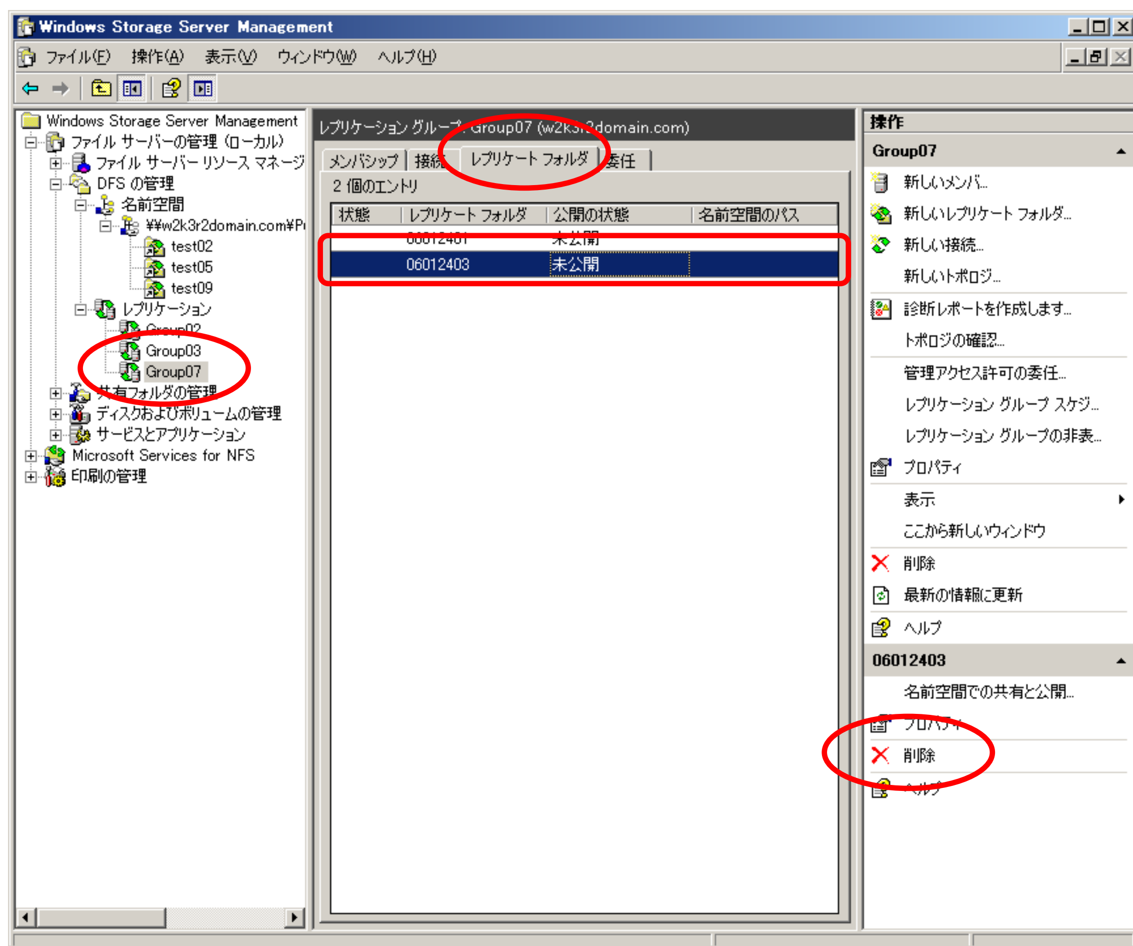
10. [委任]タブからユーザーまたはグループ名が削除されたことを確認します。



3.5.2.16 レプリケートフォルダの削除

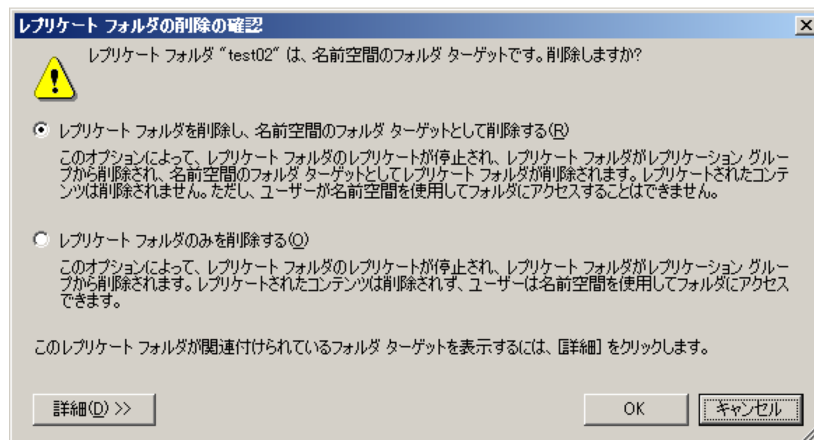
 名前空間に公開されている場合と、公開されていない場合では、画面表示が異なります。

1. 画面左側コンソールツリーの削除するレプリケーショングループをクリックします。
   [レプリケートフォルダ]タブをクリックして、エントリ(レプリケートフォルダ)を表示します。
   削除するエントリ(レプリケートフォルダ)を選択すると、操作ウィンドウ下段に削除]が表示されます。削除するエントリ(レプリケートフォルダ)を選択し、右クリックし、ショートカットメニューから[削除]を選択することもできます。

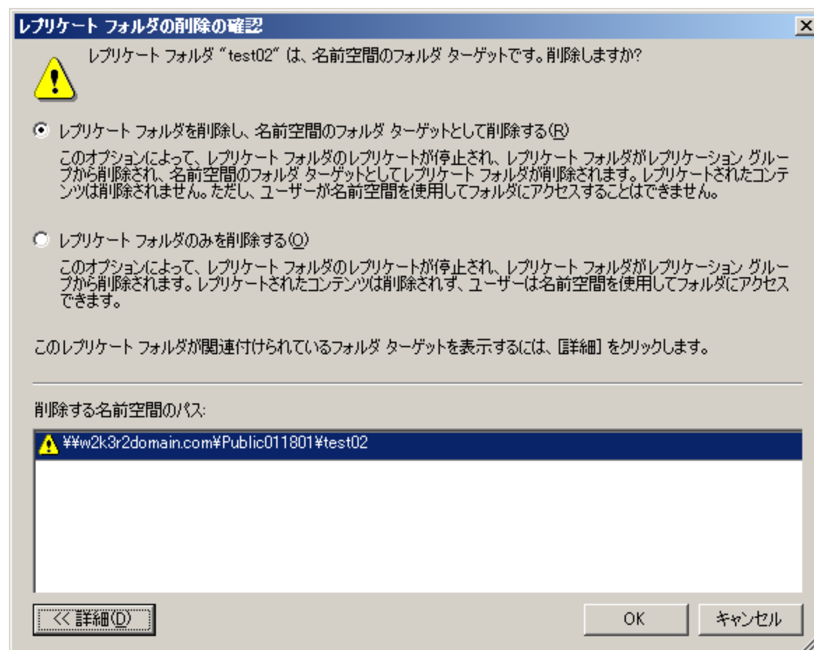


2. 名前空間に公開されている場合は、[削除]をクリックすると、「レプリケートフォルダの削除の確認」ウィンドウが表示されます。
   - [レプリケートフォルダを削除し、名前空間かのフォルダターゲットとして削除する]
   - [レプリケートフォルダのみを削除]

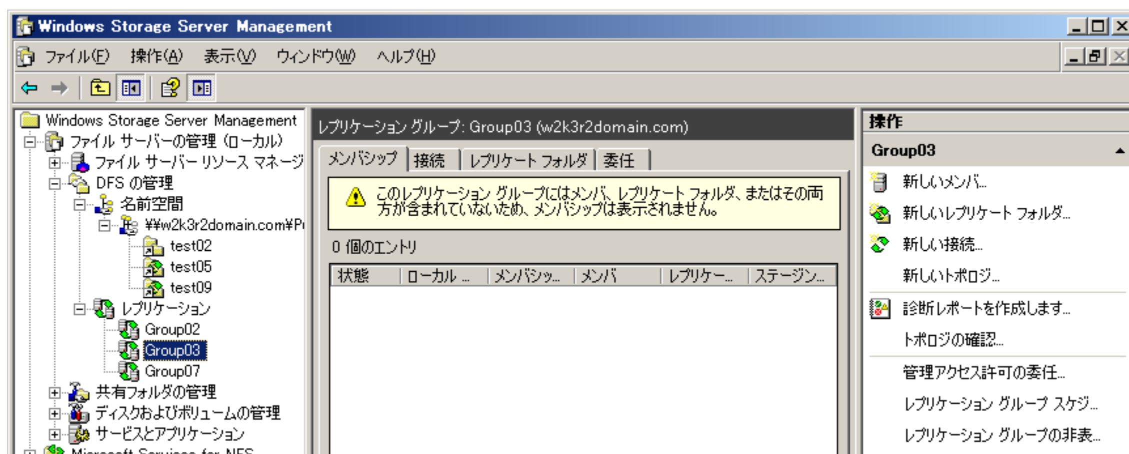
   のいずれかを選択し、[OK]をクリックします。



[詳細]をクリックすると、メンバ上の名前空間のパスとフォルダターゲットが表示されます。



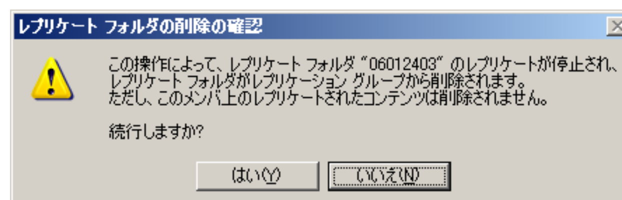
3. レプリケートフォルダが削除されたことを確認します。



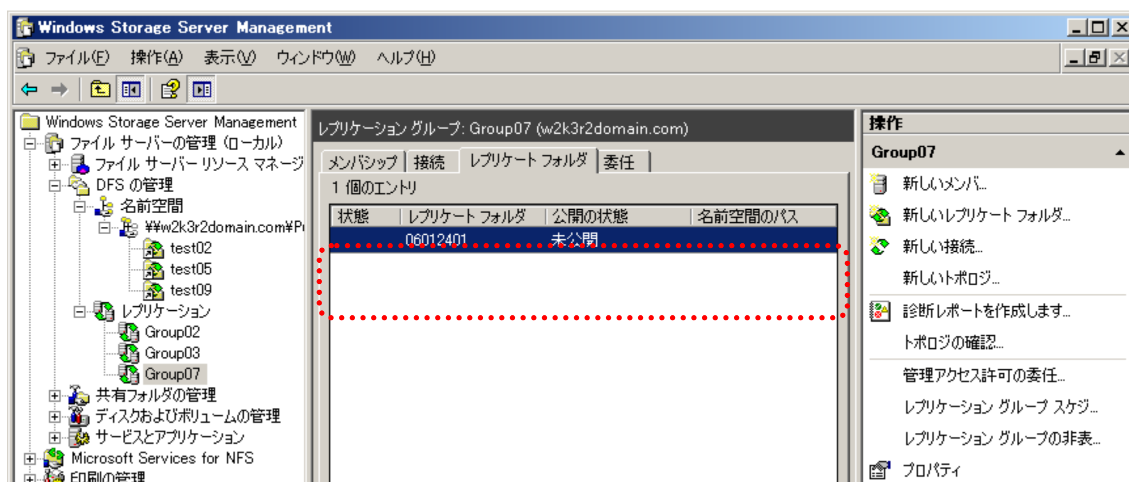
4. 名前空間に公開されていない場合は、[メンバの削除]をクリックすると、「メンバの削除の確認」ウィンドウが表示されます。

削除を中断する場合は、[いいえ]をクリックします。

削除する場合は、[はい]をクリックします。



5. レプリケートフォルダが削除されたことを確認します。

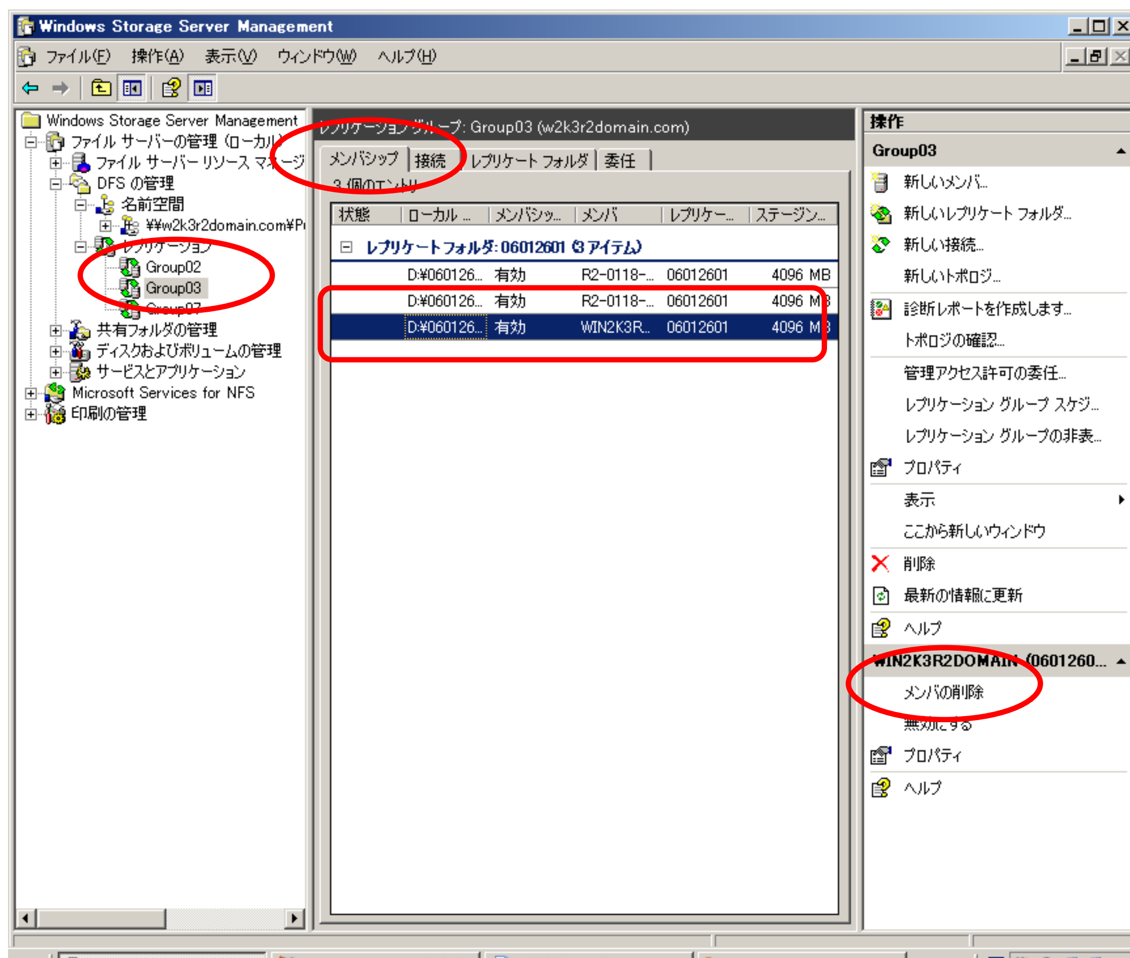


3.5.2.17　メンバの削除



名前空間に公開されている場合と、公開されていない場合では、画面表示が異なります。

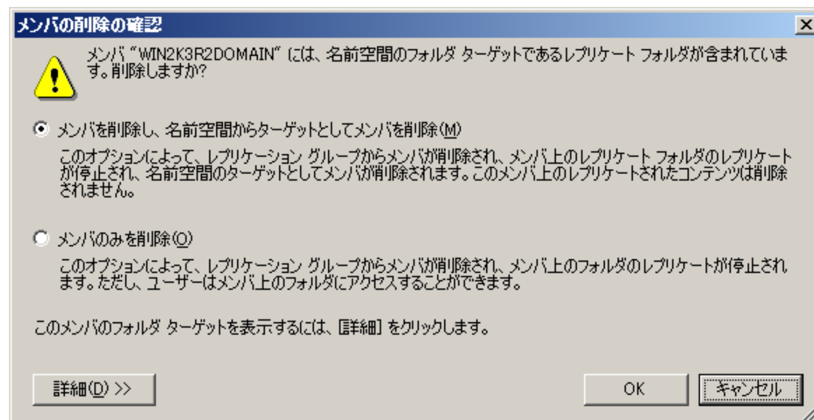
1. 画面左側コンソールツリーのレプリケーショングループをクリックします。
   メンバシップタブをクリックして、エントリ(レプリケートフォルダ)を表示します。
   削除するエントリ(レプリケートフォルダ)を選択すると、操作ウィンドウに[メンバの削除]が表示されます。削除するエントリ(レプリケートフォルダ)を選択し、右クリックし、ショートカットメニューから[メンバの削除]を選択することもできます。



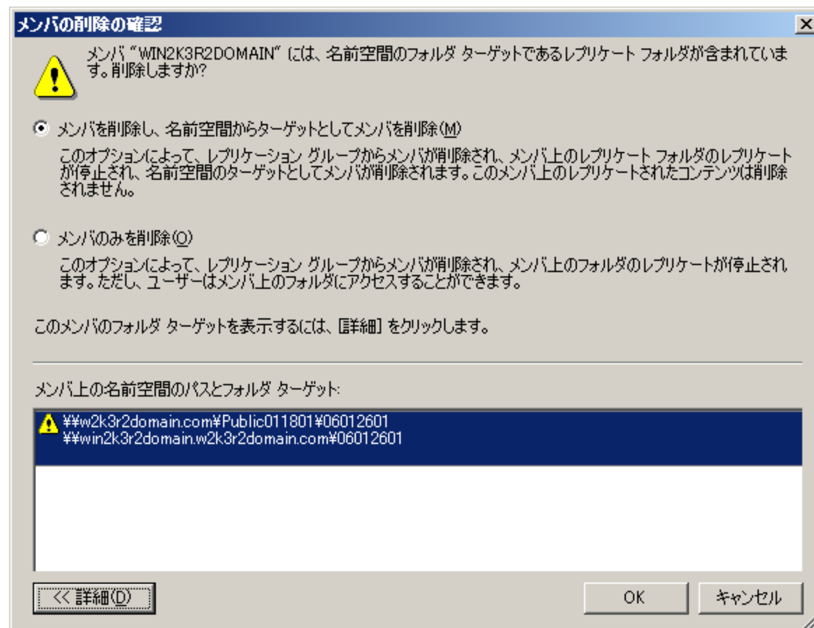
2. 名前空間に公開されている場合は、[メンバの削除]をクリックすると、「メンバの削除の確認」ウィンドウが表示されます。

   - [メンバを削除し、名前空間からターゲットとしてメンバを削除]
   - [メンバのみを削除]

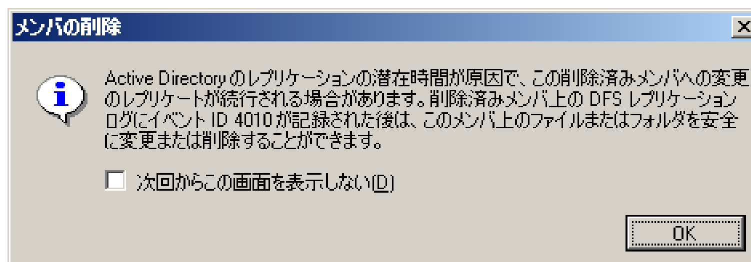
   のいずれかを選択し、[OK]をクリックします。



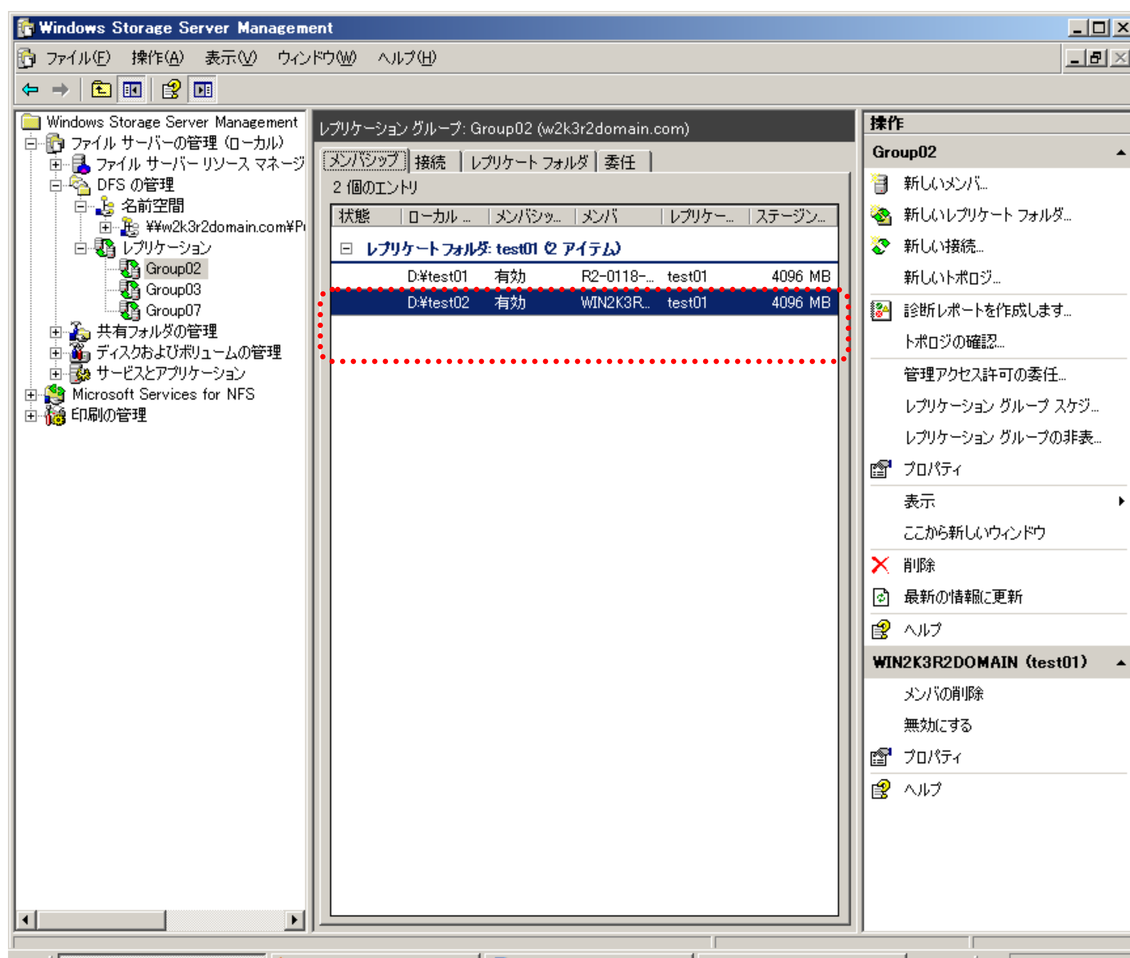
[詳細]をクリックすると、メンバ上の名前空間のパスとフォルダターゲットが表示されます。



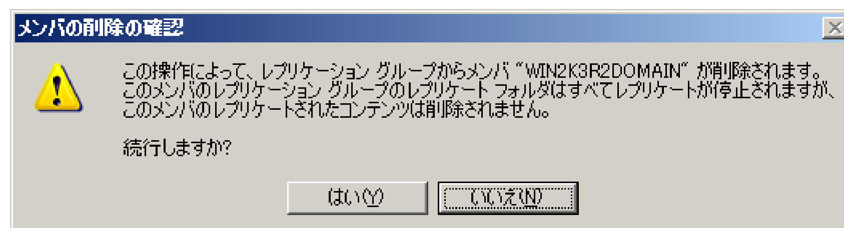
3. [OK]をクリックすると、「メンバの削除」ウィンドウが表示されます。表示内容を確認し、[OK]をクリックします。



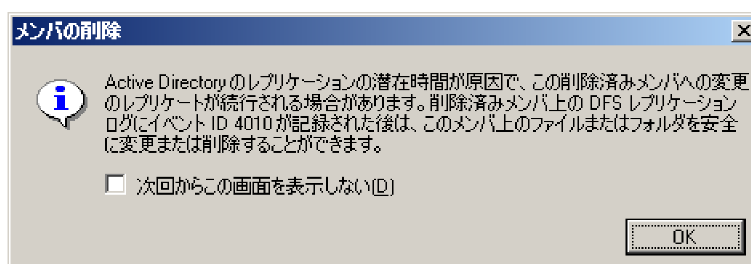
4. メンバが削除されたことを確認します。



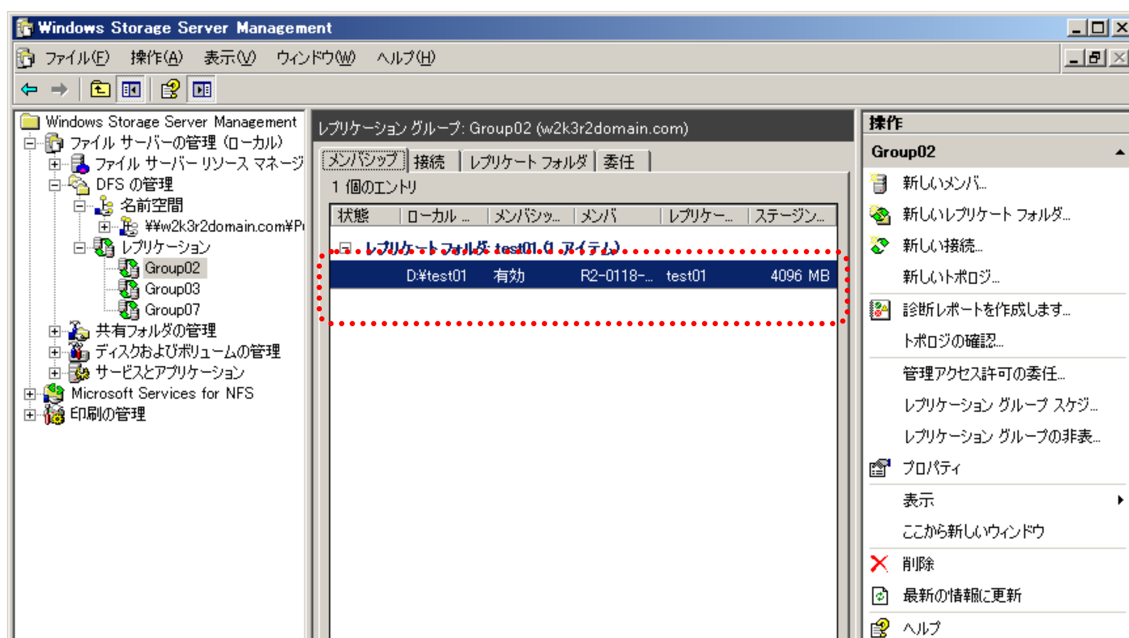
5. 名前空間に公開されていない場合は、[メンバの削除]をクリックすると、「メンバの削除の確認」ウィンドウが表示されます。
   - 削除を中断する場合は、[いいえ]をクリックします。
   - 削除する場合は、[はい]をクリックします。



6. [はい]をクリックすると、「メンバの削除」ウィンドウが表示されます。表示内容を確認し、[OK]をクリックします。



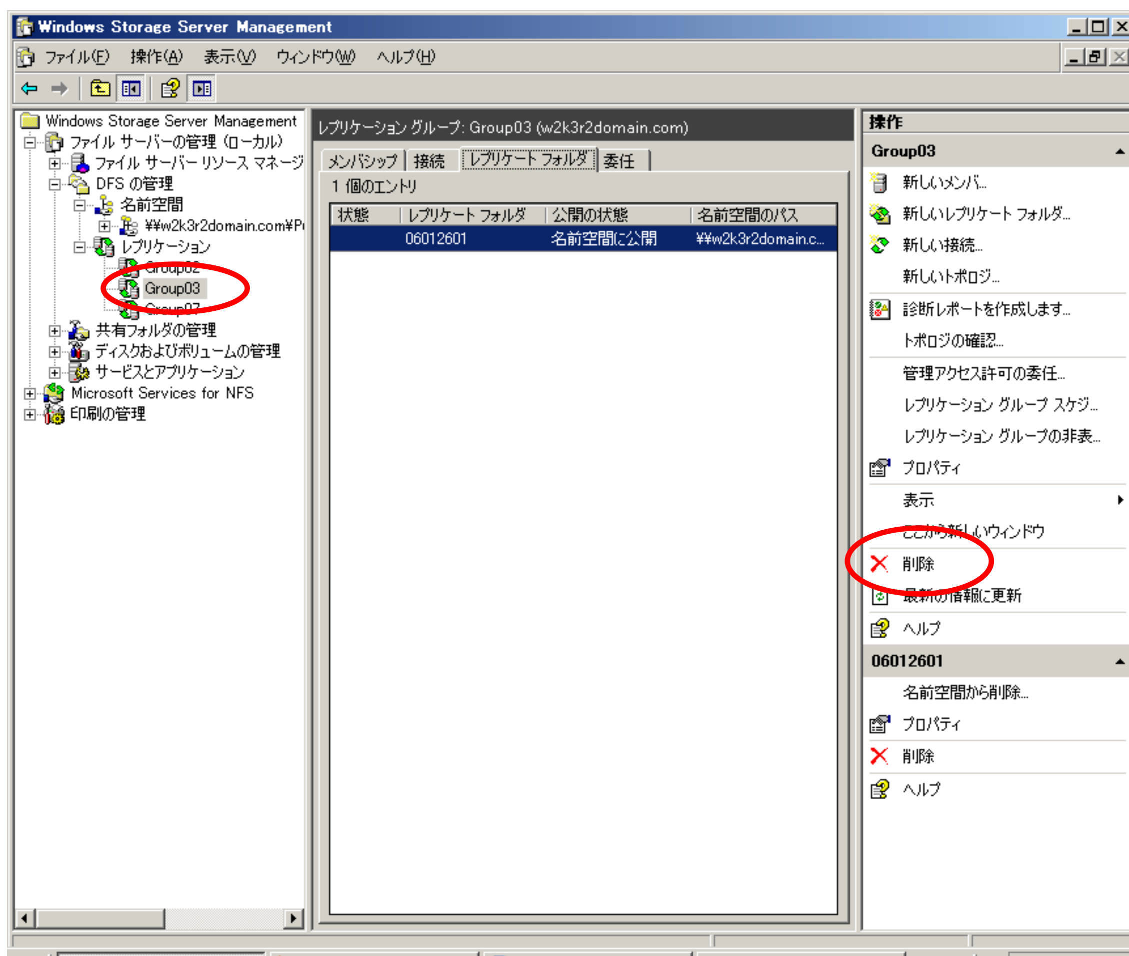
7. メンバが削除されたことを確認します。



3.5.2.18 レプリケーショングループの削除

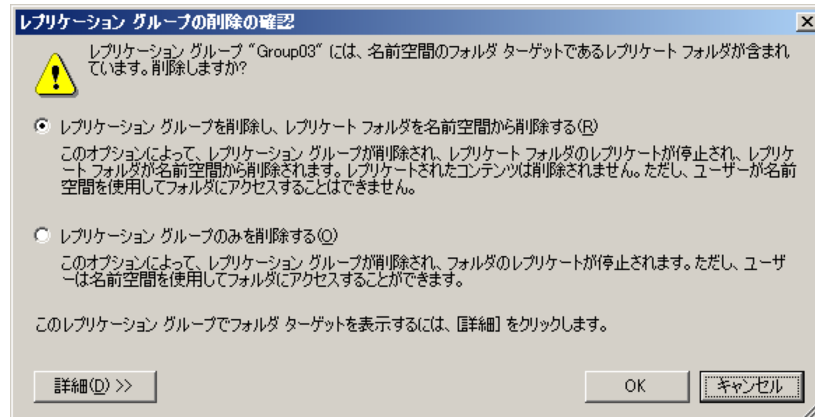
 名前空間に公開されている場合と、公開されていない場合では、画面表示が異なります。

1. 画面左側コンソールツリーの削除するレプリケーショングループをクリックします。
   画面右側操作ウィンドウに各種操作項目が表示されますので、[削除]をクリックします。またレプリケーショングループをクリックしたあと、右クリックし、ショートカットメニューから[削除]を選択することもできます。

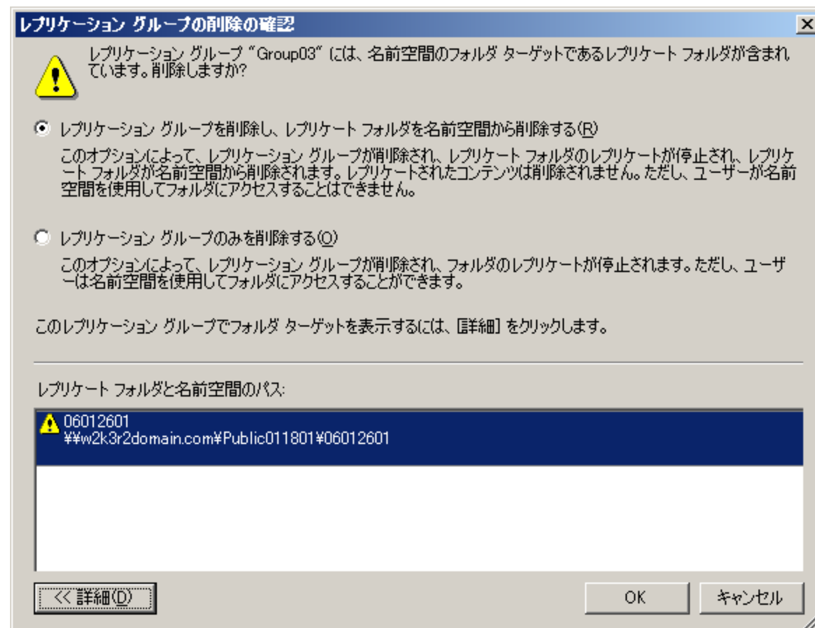


2. 名前空間に公開されている場合、[削除]をクリックすると、「レプリケーショングループの削除の確認」ウィンドウが表示されます。
   - [レプリケーショングループを削除し、レプリケートフォルダを名前空間から削除する]
   - [レプリケーショングループのみを削除する]

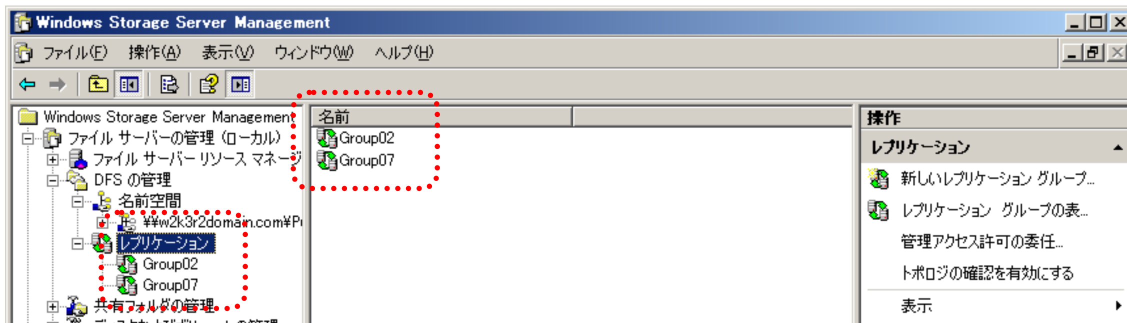
   のいずれかを選択し、[OK]をクリックします。



[詳細]をクリックすると、レプリケートフォルダと名前空間のパスが表示されます。



3. レプリケーショングループが削除されたことを確認してください。

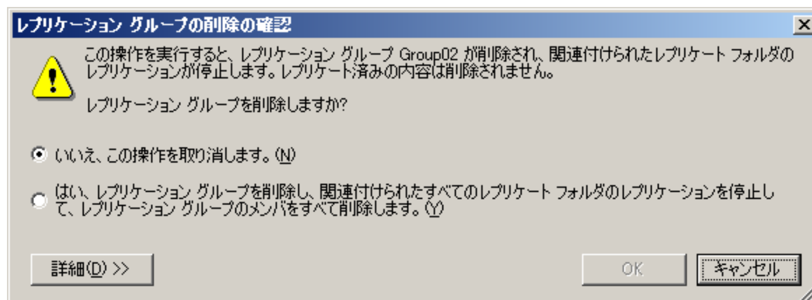


4. 名前空間が公開されていない場合、[削除]をクリックすると、「レプリケーショングループの削除の確認」ウィンドウが表示されます。

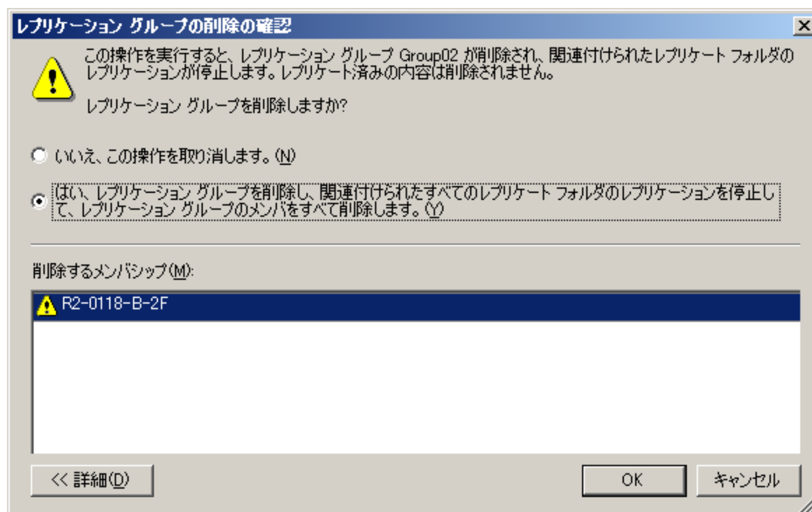
   削除を中断する場合は、[いいえ、この操作を取り消します。] をクリックします。

   削除する場合は、[はい、レプリケーショングループを削除し、関連付けられたすべてのレプリケートフォルダのレプリケーションを停止して、レプリケーショングループのメンバをすべて削除します。] をクリックします。

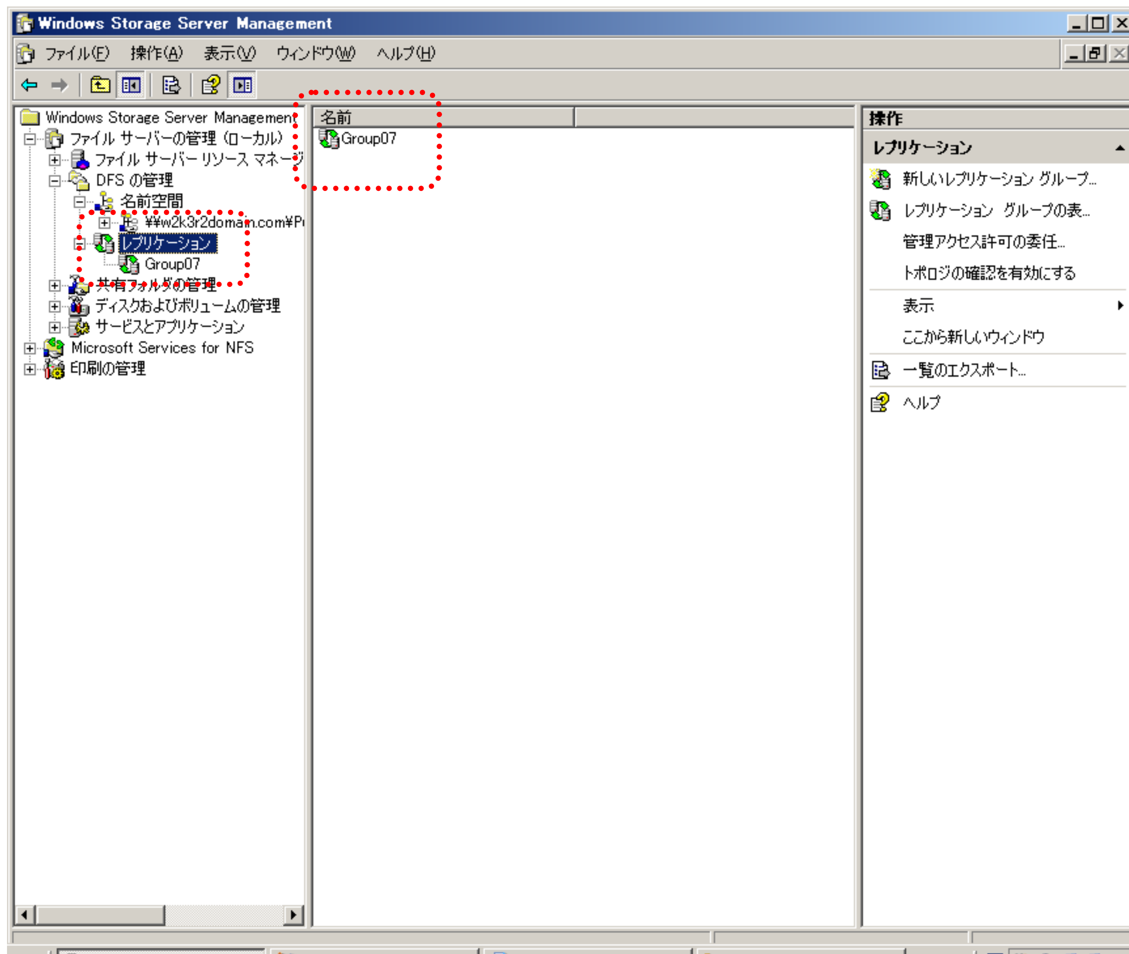
   選択が終わったら、[OK]をクリックします。



5. [詳細]をクリックすると、削除するメンバシップが表示されます。



6.　レプリケーショングループが削除されたことを確認してください。



3.6　ディスクスペースを有効活用する

Single Instance Storage (SIS)は検出された同一ボリューム内の同一ファイルの物理的なコピーを 1 つだけ保持することでサーバのディスク領域を節約します。

本章では SIS の導入・管理について説明します。
SIS の操作は、コマンドプロンプトから SISADMIN.EXE にて行います。

 本機能は、iStorage NS460 / NS470 / NS480 のみで使用可能です。

 SISを有効にすることで、OSの機能やアプリケーションに影響が出る場合があります。SISをご利用になる場合は、他のソフトウェアとの複合的な動作確認を充分に行った上で、使用してください。

3.6.1　SISの概要

SIS ドライバに含まれている SIS groveler はサーバー上に重複したファイルを検出すると、元のファイルを SIS common store にコピーし、ファイルが元あった場所にはリンクファイル(リパースポイント)を残します。このリンクを SIS リンクといいます。SIS リンクには、元のファイルの現在の場所、サイズ、属性などの情報が格納されています。サーバーに重複ファイルが含まれる場合、これらの重複ファイルは SIS common store にコピーされるため使用されるディスク領域は少なくなります。

SIS リンクされているファイルを変更したり内容を置き換えたりした場合、SIS リンクは削除されて SIS common store 内のバッキングファイルのコピーに変更を加えたものと置き換えられます。

 SIS common store は SIS を有効にしたボリュームのルートに作成される、システムのみがアクセスできる隠しフォルダです。

そのほかに SIS リンクには以下のような性質があります。

- SIS リンクの対象は 32KB 以上のファイルとなります。
- SIS リンクされたファイルは[右クリック]-[プロパティ]-[全般]でディスク上のサイズが 4KB と表示されます。
- SIS common store 内のバッキングファイルはそのファイルに対する SIS リンクの最後の１つが削除されるのと同時に削除されます。

3.6.2 SISの導入

SIS を使用するためには、ボリュームごとに SIS を有効にする必要があります。

SIS を有効にすると、ボリュームの直下に SIS common store フォルダが作成されて、重複ファイルに対しては自動的に SIS リンクが行われます。

なお、SIS を導入するためには対象ボリュームが NTFS ファイル システムであること、システムボリューム以外のボリュームであることが必要となります。



SIS が同時に管理できるボリュームは 6 つに制限されています。

SIS を有効にする手順を以下に記述します。

1. クライアントから iStorage NS サーバーへリモートデスクトップにてログオンします。
2. [スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ]からコマンドプロンプトを起動します。
3. “sisadmin /i <ボリューム名>”と入力して enter キーを押下します。

```
Command Prompt

G:¥>sisadmin /i G:
SIS はボリューム 'G:' 上で初期化されています。
新しい SIS ボリュームのファイル重複のスキャンを開始するため groveler サービスを
再開しています。

G:¥>
```

3.6.3 SISの管理

導入時と同様にSISADMIN.EXEを使用してSISの管理を行うことができます。SISに関する情報の表示、groveler を有効/無効の設定、フォアグラウンドモード/バックグラウンドモードの切替えの方法を記述します。

3.6.4 SISに関する情報の表示

SIS について以下のような情報を表示させることができます。

- SIS がインストールされているボリューム
- SIS が制御しているファイルの一覧
- ボリューム上の SIS 使用量についての情報(節約したディスク容量も含む)

手順は以下の通りです。

1) SIS がインストールされているボリューム

1. クライアントから iStorage NS サーバーへリモートデスクトップにてログオンします。
2. [スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ]からコマンドプロンプトを起動します。
3. “sisadmin”と入力して enter キーを押下します。

Command Prompt

```
G:¥>sisadmin

有効なコマンド:
    /? /h              使用状況の情報を表示します
    /i <ボリューム>    SIS をインストールします (ボリュームを指定する必要があり
ます)
    /f <ボリューム>    groveler をフォアグラウンド モードに設定します
    /b <ボリューム>    groveler をバックグラウンド モードに設定します
    /r <ボリューム>    フル スキャンを開始します
    /e                 groveler サービスを有効にして開始します
    /d                 groveler サービスを停止して無効にします
    /v <ボリューム>    ボリュームを分析して全体の SIS の使用状況の情報を収集しま
す
    /l <ボリューム>    SIS によって制御されたファイルを一覧表示します
    /s <ファイル>      SIS ファイルの情報を表示します

ここで:
    <ボリューム>       "e: f: g: q:" の形式のボリュームの一覧です。
                       ボリュームを指定しない場合、操作は SIS が
                       有効になっているすべてのボリュームで実行されます。

    <ファイル>         スペースで区切られたファイルの一覧です。

SIS はボリューム 'D:¥' 上で有効です。
SIS はボリューム 'E:¥' 上で有効です。
SIS はボリューム 'F:¥' 上で有効です。
SIS はボリューム 'G:¥' 上で有効です。

G:¥>
```

2) SIS が制御しているファイルの一覧

1. クライアントから iStorage NS サーバーへリモートデスクトップにてログオンします。
2. [スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ]からコマンドプロンプトを起動します。
3. “sisadmin /l <ボリューム名>”と入力して enter キーを押下します。

Command Prompt

```
G:¥>sisadmin /l G:
ボリューム 'G:' 上の SIS によって制御されたファイルを一覧表示しています。
443B5A0F-830C-11DA-A2A6-0011095AE69E.sis <- G:¥test folder¥utest1.txt
443B5A0F-830C-11DA-A2A6-0011095AE69E.sis <- G:¥test folder¥utest21.txt
443B5A0F-830C-11DA-A2A6-0011095AE69E.sis <- G:¥test folder¥xxx¥utest11.txt
443B5A0F-830C-11DA-A2A6-0011095AE69E.sis <- G:¥test folder¥xxx¥utest31.txt
4 個の SIS によって制御されたファイルがボリューム 'G:' 上に見つかりました。


G:¥>
```

3) ボリューム上の SIS 使用量についての情報(節約したディスク容量も含む)

1. クライアントから iStorage NS サーバーへリモートデスクトップにてログオンします。
2. [スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ]からコマンドプロンプトを起動します。
3. “sisadmin /v <ボリューム名>”と入力して enter キーを押下します。

```
Command Prompt

C:¥Documents and Settings¥Administrator>sisadmin /v G:
ボリューム 'G:' を分析しています。
SIS Common Store ディレクトリを分析しています...
SIS Common Store ディレクトリを分析しています... 3 が処理済みです。完了しました
。
SIS 共通ストアのファイル一覧を並べ替えています...
SIS 共通ストアのファイル一覧を並べ替えています... 完了しました。
再解析ポイントを分析しています...
再解析ポイントを分析しています... 16 が処理済みです。0 は解析されませんでした。
完了しました。
データを分析しています...
データを分析しています... 完了しました。
=== NS430-R2A-STD 上のボリューム 'G:¥' の分析 ===
共通ストア ファイル:            3
リンク ファイル:                16
アクセスできないリンク ファイル: 0
節約されたスペース:             218572 KB


C:¥Documents and Settings¥Administrator>_
```

3.6.5 すべてのボリュームでgrovelerを有効/無効にする

SIS を有効にすると、同時に groveler も有効になります。

groveler は NTFS 上にある同一のファイルを検索、結合しますので、groveler を無効にすることで新しい SIS リンクが作成されなくなります。

ただし、groveler を無効にしてもすでに作成された SIS リンクは削除されません。

必要に応じて有効/無効の切替えを行ってください。

手順は以下の通りです。

1) すべてのボリュームで groveler を有効にする

1. クライアントから iStorage NS サーバーへリモートデスクトップにてログオンします。
2. [スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ]からコマンドプロンプトを起動します。
3. “sisadmin /e <ボリューム名>”と入力して enter キーを押下します。

Command Prompt

```
G:¥>sisadmin /e
groveler サービスを有効にして開始しています。

G:¥>_
```

2) すべてのボリュームで groveler を無効にする

1. クライアントから iStorage NS サーバーへリモートデスクトップにてログオンします。
2. [スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ]からコマンドプロンプトを起動します。
3. “sisadmin /d <ボリューム名>”と入力して enter キーを押下します。

Command Prompt

```
G:¥>sisadmin /d G:
groveler サービスを停止して無効にしています。

G:¥>
```

3.6.6 フォアグラウンドモード/バックグラウンドモードの切替え

システムの負荷が高くないときに groveler を動作させるモードを「バックグラウンドモード」

groveler を最大のパフォーマンスで動作させるモードを「フォアグラウンドモード」といいます。

groveler が「フォアグラウンドモード」で処理を完了すると、「バックグラウンドモード」で通常の処理を再開します。

必要に応じてモードの切替えを行ってください。

手順は以下の通りです。

1) フォアグラウンドモードに設定する

1. クライアントから iStorage NS サーバーへリモートデスクトップにてログオンします。
2. [スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ]からコマンドプロンプトを起動します。
3. "sisadmin /f <ボリューム名>"と入力して enter キーを押下します。

Command Prompt

```
G:¥>sisadmin /f G:
ボリューム 'G:' 上の groveler サービスをフォアグラウンド モードに設定しています
。

G:¥>
```

2) バックグラウンドモードに設定する

1. クライアントから iStorage NS サーバーへリモートデスクトップにてログオンします。
2. [スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ]からコマンドプロンプトを起動します。
3. “sisadmin /b <ボリューム名>”と入力して enter キーを押下します。

Command Prompt

```
G:¥>sisadmin /b G:
ボリューム 'G:' 上の groveler サービスをバックグラウンド モードに設定しています
。

G:¥>_
```

3.6.7 他機能との連携

SIS を有効にすることで、以下の機能に影響が出る場合があります。

1). ディレクトリ クォータ

SIS と同時に使用することは出来ません。

2). ディスククォータ

SIS と同時に使用することは出来ません。



上記項目以外の機能・ソフトウェアでも、何らかの影響が出る可能性があります。
SIS をご利用になる場合は、他のソフトウェアとの複合的な動作確認を充分に行った上で、使用してください。